

革命の教科書

江川剛史

革命（かくめい、英語: Revolution、レボリューション）とは、

権力体制や組織構造の抜本的な社会変革が、比較的短期間に行われること。
対義語は保守、改良、反革命など。

「レボリューション」の語源は「回転する」の意味を持つラテン語の「*revolutio*」で、ニコラウス・コペルニクスの科学革命で使用され、後に政治的変革に使用されるようになった。また漢語の「革命」の語源は、天命が改まるとの意味で、王朝交代に使用された。革命は人類の歴史上、さまざまな方法や期間、動機となった思想によって発生した。その分野には、文化、経済、社会体制、政治体制などがある（農業革命、産業革命、フランス革命、ロシア革命など）。また、何が革命で何が革命でないかの定義は、学者の間で議論が続いている。

[語源]

西洋

1543年にニコラウス・コペルニクスは地動説の論文「天球の回転について」を出版した。その題名で使用された「回転」(Revolution)は天文用語であったが、後に政治体制の突然の変革に使用された。この用語の政治的な最初の使用は、1688年のイギリスでのジェームズ2世からウィリアム3世への体制変革で、名誉革命と呼ばれた。このため欧米の革命という言葉は、近世から近代への移行期以後の政治的な変革に使われる。前近代の政変は、どれほど大きな体制の変革があっても通常は革命とは呼ばれない。

漢語

漢語の「革命」の語源は、天命が改まるという意味である（「命（天命）を革（あらた）める」）。古代中国では易姓革命など東洋での王朝交代一般を指す言葉であった。中国における代表的な易姓革命は殷（商）から周への王朝交代で、殷周革命と呼ばれる。東洋においては革命と王朝交代はほぼ同一の概念であったが、西洋においては革命が起きなくても王朝が交代することもあり、革命と王朝交代は同一の概念ではない。そのため、西洋では「反革命」と表現されるものも東洋では「革命」とされることもある。

[概要]

一般に革命という概念は、正当性を備えている既存の政治秩序を変更させる政治的活動と関連しており、歴史的には1688年の名誉革命や1789年のフランス革命などの市民革命を挙げることができる。近代以後の政治理論においては革命の概念は、古い政治秩序の破壊と新しい政治秩序の構築をもたらす動的かつ抜本的な変革を意味している。

市民革命（ブルジョワ革命）とは、封建的な国家体制を破壊して、近代的市民社会をめざす革命を指す。革命の主体は通常は有産市民階級つまりブルジョワジーであるためブルジョワ革命とも呼ばれる。市民革命（ブルジョワ革命）は、一度で完了するとは限らない。市民革命後に反動が起きて、その後再度の市民革命に至る場合が少なくない。数え方にもよるが、イギリス、フランス、スウェーデンなどは2回、トルコは3回、スペインは4回の市民革命が発生している。古典的な市民革命が一応完了しても、政治的経済的課題は残存する事がある。例えば地主制が強力で小作農の貧困がひどいとか、労働者階級の貧困がひどいとか、絶対王政が倒れても別の独裁政権や全体主義政権になったとかである。社会主義革命、イスラム革命、反共産主義革命、現代の革命、その他の革命（ファシズム化な

ど)は、古典的な市民革命がやり残した課題の処理という側面はある。

小林良彰は、資本主義的な国民経済の担い手のための政治体制の確立という観点からは、欧米の植民地だった諸国の独立を、先進国の市民革命（ブルジョワ革命）と同等の意義を持つものとしている。実際に植民地の独立を革命と呼ぶ例は多い。確かにハイチやインドなどの独立では、国内の奴隷制や身分制が制度上は廃止されて近代国家が建設されている。これらはオランダやアメリカの独立と同様に古典的な市民革命の一種と見てもいい。しかしブラジル独立やメキシコ帝国のように、国家は独立しても社会体制は旧宗主国の絶対君主制と同じという例もあった。これらの国は独立後に市民革命が発生している。またカナダやオーストラリアなどは独立前に近代化は達成していたので、独立自体が市民革命に相当する訳ではない。

社会主義革命の理論家であったマルクスとエンゲルスによると、革命とは歴史の中で繰り返された社会変革であり、旧来の経済システムの破壊を意味する。それは経済体制において抑圧している階級と抑圧されている階級の間で生じる階級闘争の反映であり、革命は経済社会が発展する歴史の中で繰り返し現れる事象であるとされる。マルクス主義理論においては、市民革命とは、絶対王政（封建領主の支配の最終形態とされる）をブルジョワジー（有産市民階級）が打倒するものであり、社会主義革命とは、ブルジョワジー（ここではほぼ資本家階級）の支配をプロレタリアート（労働者階級）が打倒するものである。マルクス主義の革命理論においてレーニンには二つの重要な目標を革命に与えている。一つは階級社会を崩壊させること、もう一つは指導的な革命政党を確立することである。1917年10月に発生したロシアの十月革命（実態はクーデター）は、マルクス主義の革命理論（のレーニンの解釈）に基づいて実行されたものである。中国における毛沢東の革命思想は、農民を革命の主体としているので、正統的なマルクス主義理論からは社会主義革命の理論とは言えないが、指導した政党が共産党で、毛沢東時代は社会主義国家の建設を目指していたので、共産主義革命の潮流に位置づけることができる。

マルクス主義理論によって成立した社会主義国家は、短期間で崩壊した国を除いて、全て全体主義国家となった。実際に成立するのは階級のない社会などではなく、共産主義政党の高級官僚（ノーメンクラトゥーラ）の支配だった。経済まで国家が支配しているため、国家権力は資本主義の独裁国家より遥かに強力だった。しかし社会主義経済は、先進国に追いつく過程ではそれなりに効率的だったが、その後は資本主義経済に比べて経済発展する力が無く、20世紀後半には資本主義国との間に大きな経済力の格差が生じ、西側諸国との対立関係（冷戦）を戦う能力がなくなった。マルクス主義の教義では資本主義経済は行き詰る（利潤率の傾向的低下の法則など）筈だったが、経済的に行き詰ったのは社会主義の方だった。ソ連など社会主義国の多くは、1989年から1991年にかけて反共産主義革命が起きて崩壊した。中国など政治的に崩壊しなかった国もあるが、多くは経済システムは資本主義化しており、共産主義政党の一党独裁制だけが維持された。実態は資本主義の全体主義国家になっている。現在でも社会主義経済を維持している国は北朝鮮やキューバくらいである。

現代の革命理論では、古典的な革命理論にはなかった着眼点が導入されることになる。これは第二次世界大戦後に非西欧地域において発生した事例を考慮に入れながら、新しい枠組みで革命を捉える必要が出てきたからである。現代の革命では、多くの場合は経済システムとしての資本主義は既に成立しており、革命後に経済政策や社会政策の改革が行われる場合は多いが、資本主義自体の打倒は目指さず、独裁、専制、全体主義の政権（まとめて権威主義とも呼ぶ）を倒して政治的民主化を達成して終結する場合が多い。但し反共産

主義革命は、現代の革命の一種と考えられるものの、政治的な民主化だけでなく、経済システムも社会主義から資本主義に転換する。現代の革命の担い手は特定の社会階級とかではなく、現代の意味における市民、つまり自立した自我を持つ個人ということになる。現代の革命は、古典的な意味の市民革命や、マルクス主義が意味する社会主義革命とは異なった革命である。新しい理論では、革命の本質が社会変革ではなく政治変革にあり、また歴史的な必然ではなく特定の政治的な環境による成果であると認識されている。このような理論はデイヴィッド・イーストンの政治システムの概念の影響を受けており、政治への入力と出力から政治現象を理解しようとしている。この概念を踏まえながらチャルマーズ・ジョンソンは政治システムの多元的な機能不全から革命が勃発すると主張し、社会的諸条件の変化の圧力に耐えることができなくなった時に表面化すると論じた。またテッド・ガーは人々が期待する受益と人々の実際の受益に格差がもたらされることで相対的な剥奪が生じることを指摘し、そのことが革命の原因となることを考察した。さらにシーダ・スコチポルは革命という事態を社会構造から説明しており、それは大規模な戦争や軍事的侵攻によってもたらされる国内の政治体制の無効化の結果であることを指摘している。

また現代の革命でも、イスラム圏では、イスラム教の宗教思想に基づく革命が起きる場合がある。発生する条件は非イスラム地域の現代の革命と同様と思われるが、革命後に民主化するとは言えず、世俗的な権威主義政権から、宗教イデオロギーによる全体主義国家（アフガニスタンのターリバーン政権）や半全体主義国家（制限の大きな選挙はある）（イラン）への移行となる。マルクス主義のイデオロギーによって成立した国家が全て全体主義化したのと類似している。但しイスラム教の教義は自由な商取引を前提としているので、資本主義経済を廃止するという発想は生じない。このためイスラム革命では経済システムは変更されない。

現代において絶対王政の国というのはごく少数（サウジアラビア、スワジランド、ブルネイなど）しか残ってないので、古典的な市民革命の発生が殆どなくなるのは当然である。植民地も少なくなったし、多くは近代化は完了しているので、独立が市民革命に相当する地域も少ない。本物の社会主義国も北朝鮮とキューバしか残ってないので、反共産主義革命が起きそうな国も少ない。しかし権威主義国家はいまだに数多い。ソ連崩壊以前なら、資本主義の権威主義国家では社会主義革命を目指す勢力が大きくなっていただろうが、マルクス主義は凋落して、議会民主制（経済は資本主義）が目指すべき唯一の近代社会のモデルとなった。それが現代の革命が、民主化を実現する政治革命ばかりになった理由である。例外はイスラム圏で、議会民主制を目指す動きもそれなりに強いが、イスラム原理主義が強大な勢力となっている。サウジアラビアは市民革命ではなくイスラム革命が発生する可能性が高い。なおスワジランドは古典的な市民革命が起きるだろう。最後のブルジョワ革命がどこになるかは興味深い。しかしイスラム原理主義運動は、イデオロギーに基いて全体主義国家の建設を目指すという点で、前世紀のマルクス主義運動の焼き直しである。とするとイスラム全体主義国家も、いつかは反共産主義革命に相当する革命が起きて、最終的に民主化すると思われる。しかしソビエト体制が70年も続いた事を考えると、イスラム国家の民主化はかなり先かもしれない。現代の革命は、政治的な民主化革命がどこまで多くの国で起きるかが問題である。しかし全世界の民主化が21世紀中に完了するかは何とも言えない。

なお、軍隊など政府・支配階級内の勢力が起こす非合法的な手段による政権奪取・限定的な体制変更についてはクーデターと呼ぶ。ただし1952年にエジプトでクーデターによって王政を廃止したムハンマド・ナギーブ政権、1961年に韓国でクーデターを起こして権力を奪取した朴正熙政権、1968年にイラクでクーデターで権力を握ったバアス党政権、1969年のクーデターで成立したリビアのカッザーフィー政権など、実際はクーデターで政権を掌

握したにもかかわらず、前の政権を全否定する意味でクーデターによる政権掌握を「革命」と呼んだ場合も多い。クーデターの多くは支配者の首が挿げ替えられるだけで、社会体制や経済体制は変更されない事が多い。しかし政変自体はクーデターでも、結果として社会体制または政治体制の大きな変革をもたらした例も少なからずある。代表的な市民革命とされる名誉革命も、実際は民衆の蜂起などないクーデター的な政変だったし、ロシアの十月革命は社会主義革命の本家と言えるが、左翼が衰退してからクーデター説が強まってきた。

また革命でもクーデターでもないが、革命を先取りした上からの改革はかなり多い。上からの改革は中途半端になりがちなため失敗する事が多いが、大きな変革となった例も幾つかある。上からの改革が失敗すると、その後本当の革命を誘発する場合がある。帝政ロシアのストルイピン改革の挫折はロシア革命を誘発し、ソ連末期のミハイル・ゴルバチョフによるペレストロイカはソ連崩壊を誘発したと言える。イラク戦争で外からイラクを民主化した事は、中東諸国のイスラム革命を促進した可能性がある。

反革命とは、革命前に利益を得ていた勢力が旧体制への復帰を求める運動である。但し実際には革命後の権力者や支配集団が、自らに敵対する潮流の全てに反革命のレッテルを貼って弾圧する場合も多かった。市民革命では、名誉革命のジャコバイト（ジェームズ2世の支持勢力）、フランス革命の王党派が代表的な反革命勢力である。社会主義革命では、マルクス主義に反対する勢力が全て反革命とされたばかりか、共産主義政党内の権力闘争に敗れただけの勢力も反革命呼ばわりされた。ソ連においては、スターリンとの権力闘争に敗れたトロツキー派は反革命とされたが、実際はトロツキーはスターリンよりは急進主義的だった。ハンガリー動乱（英:Hungarian Revolution）のように当時は反革命として否定されていても、後に革命であったと再評価される例もある。これは反共産主義革命でマルクス主義が決定的に衰退したためである。また保守の側からの革命を保守革命と呼ぶ事もある。

イタリアのファシスト党やドイツのナチスによる権力奪取は、市民革命や社会主義革命に対する反革命運動とは異なった性格がある。大衆的な基盤があり、権力奪取の時に大衆を動員し、権力奪取後の政策は、農民や労働者を含む大衆への利益配分に熱心だったりした。社会体制としても、ナチスドイツの場合には国家の経済活動への関与が強力で、社会主義経済にかなり近かった。（イタリアは国有企業の増大はあったが統制経済はやってない。）右翼全体主義政党の権力奪取の一部は、社会主義革命に類似した状況が発生している。この種の権力奪取は、単純な反革命ではなく革命の一種と考える事も出来る。

[讖緯説における革命概念]

また未来予言の方法として発展した讖緯説においては、革命は緯書（予言書）に予め記載されており、特に辛酉の年には必ず革命が発生して政治・社会の変革を伴うと唱えられた。これに対して有徳の君主は緯書の定めた通りに行動することによって易姓革命などを未然に回避出来ると考えられた。その一環として辛酉、後には甲子の年にも改元が行われて君主が率先して政治・社会の変革の意志を明らかにすることが行われた（「辛酉革命」・「甲子革命」）。日本書紀で初代天皇である神武天皇の即位年が紀元前660年となっているのは辛酉革命説に基いている。神武天皇が実在していたとしても、記紀神話などに描かれた天皇の事績は近畿地方だけの征服であり、日本の統一といった大事件ではない。

[日本における革命]

中国大陸は易姓革命も含めて多くの革命を経験しており、また朝鮮半島やベトナムでも易姓革命や近代以後の革命は起こっているが、それらに比して日本では、有史以来革命が起こったことがないとされている。政権の交代はしばしば発生したが、天皇家が名目上の最高の支配者であり続け、実質的な最高権力者でも天皇の臣下（大臣や大連、摂政や関白や太政大臣、征夷大將軍や執権や管領や老中、内閣総理大臣など）という形式を崩さなかったからである。江戸時代の山崎闇斎（『泰山集』）や水戸学の藤田東湖（『弘道館記述義』）のように、日本は天照大神以来の万世一系の皇統を持つ唯一無二の国家であるとして、易姓革命を否定して国粹主義を高揚させる逆説的な論理で用いられることもあった。ただしクーデターや内戦の類とされるものは多数起きており、その中には他国の革命に相当するほどの劇的な政治体制の変化が起きたこともある（大化の改新、承久の乱、天下布武など）。

吉田松陰の思想を背景として起こった明治維新は保守革命ともいわれ、あるいはまた西欧でいうクーデターとは異なる独自の意味として「維新」を考える学説もある（藤田省三、松本健一ら）。またマルクス主義の立場からは、日本共産党などは明治維新を絶対主義の成立とするが、スターリン主義の影響を受けてない潮流はブルジョワ革命とすることが多く、日本資本主義論争などに繋がった。

なお明治維新の英訳語は「王政復古」という意味で「Meiji Restoration」である。北一輝らの民族主義ないし国家社会主義的革命理論では、天皇および国体を真正のものへと変革（革命）することが目指された。三島由紀夫も陽明学の影響のもとに、保守革命を企画した。

[主な革命一覧]

政治

- ・市民革命（ブルジョワ革命）（結果的に資産階級が利益を得た革命）
- ・オランダ独立戦争（1568年 - 1648年） - 最初の市民革命とも言われる。独立宣言は1581年とされている。独立の事実上の確定は1596年のグリニッジ条約。スペインの独立承認は1648年のミュンスター条約。
- ・清教徒革命（1642年 - 1649年、イギリス）
- ・名誉革命（1688年、イギリス）
- ・自由の時代（1730年 - 1771年、スウェーデン） - 議会によって統治法が制定。スウェーデン最初の立憲君主制時代。後半は国力が弱体化し絶対王政が復活。
- ・アメリカ独立戦争（アメリカ革命）（1775年 - 1783年）
- ・フランス革命（1789年 - 1794年）
- 5月3日憲法（1791年、ポーランド） - ポーランド・リトアニア共和国時代にスタニスワフ2世国王による憲法制定。現代の基準から見ても先進的だった。
- ・1809年革命（1809年、スウェーデン） - 軍人、貴族のクーデターでグスタフ4世国王を追放。再び立憲君主制に。
- ・五月革命（1810年、アルゼンチン） - 1816年に独立宣言。
- ・スペイン独立戦争（1808年 - 1814年）
- ・スペイン立憲革命（リエゴ革命）（1820年 - 1823年） - 1812年憲法が復活するも、王政復古したフランスの侵攻で終わる。
- ・1820年自由主義革命（1820年 - 1829年、ポルトガル）
- ・メキシコ帝国崩壊（1823） - 独立の翌1822年にメキシコ帝国となるも同年末から反乱が

拡大し1823年に崩壊、連邦共和制に。

・ニューサウスウェールズ法（1823年、オーストラリア） - イギリスの法律。植民地オーストラリアで本国並みの権利を求める運動が高まり、各植民地ごとに立法、行政、司法機関が設置された。独立は1901年。

・フランス7月革命（1830年）

・ポルトガル内戦（1828年 - 1834年） - 立憲君主派と絶対王政派の内戦。1834年に立憲君主派の勝利。

・第一次カルリスタ戦争（1833年 - 1839年、スペイン） - 立憲君主派が勝利して自由主義的改革が行われるが、イサベル2世女王は反動的だった。

護憲党のクーデター（1842年、セルビア） - オスマントルコ内のセルビア公国のクーデター。独立は1878年。

・アイスランド独立運動（1843年頃から） - 世界最古の議会がある。ヨン・シグルズソンを指導者とする独立運動が起きる。1843年に議会（アルシング）復活。1864年に外国貿易完全自由化、1874年に自治法成立。1918年に独立。

・分離同盟戦争（1847年）とスイス連邦の成立（1848年） - 自由主義諸州とカトリック諸州の内戦。現在のスイスの原型が出来る。西ヨーロッパの1848年革命の発端となった。

・1848年革命（諸国民の春）（1848年 - 1849年） - 西ヨーロッパ中心に市民革命が連続して発生。フランス以外は古典的な市民革命。

・ドイツ・オーストリア3月革命 - ドイツはプロイセンが中心。オーストリアは本国以外にも波及。

・ハンガリー革命 - 1848年3月15日に発生。独立を求めたが1849年に鎮圧された。

・ヴェネト共和国（1848年、イタリア） - 1848年3月に成立。1849年にオーストリアに降伏。

・ポーランド暴動(1848年)（英語版）

・第一回汎スラヴ会議（チェコ人中心） - 1848年6月に開催。影響力はなかった。

・ルクセンブルクの制憲議会（英語版）

・ワラキア革命とモルダヴィア革命（英語版）（ルーマニア）

・ローマ共和国（1849年、イタリア） - 1849年にフランスに降伏。

・自治領カナダの成立（1867年） - 独立は1931年。

・スペイン名誉革命（スペイン語版）（1868年）とスペイン第一共和政（1873年 - 1874

年） - ・1868年にプリム将軍のクーデター。1870年に新憲法制定されるもプリム将軍暗殺。1873年に共和制。1874年にカンポス将軍のクーデターで王政復古。

・イタリア統一（1859年 - 1870年）

・ドイツ統一（1864年 - 1871年）

・明治維新（1867年 - 1872年、日本）

・トンガの立憲制改革（1875年） - 太平洋の国で珍しく現地人の統治を守った。しかし王政への不満は高まり、2005年にトンガ動乱が発生。

・ミドハト憲法（1876年 - 1878年、トルコ） - オスマントルコ帝国で近代化改革のタンジマートの失敗後、大宰相ミドハト・パシャが公布。露土戦争の敗北後に停止。

・ウラービー革命（1879年 - 1882年、エジプト）

・共和制革命（1889年、ブラジル）

・1903年のクーデター（1903年、セルビア） - ペータル1世が即位。自由主義的な憲法が制定。

・ロシア第一革命（1905年）

- ・イラン立憲革命（1906年 - 1911年）
- ・青年トルコ人革命（1908年 - 1909年、トルコ） - オスマントルコ帝国末期に青年トルコ人のクーデター政権が憲政を復活させたが帝国の崩壊は止まらなかった。青年トルコ人運動からトルコ革命の指導者が登場する。
- ・1910年10月5日革命（1910年、ポルトガル）
- ・辛亥革命（1911年、中国）
- ・ロシア革命の二月革命（ユリウス暦1917年2月） - 二月革命の時点では古典的な市民革命。
- ・トルコ革命（1922年 - 1923年）
- ・スペイン第二共和政（1931年 - 1939年） - 無血革命で共和制に。1936年に人民戦線政府。同年フランコ将軍がクーデターを起こす。スペイン内戦となり1939年にフランコの勝利。
- ・立憲革命（1932年、タイ） - 政変自体はクーデターだが結果として近代化が進んだ。
- ・7月14日革命（1958年、イラク） - クーデターによるハーシム王政の打倒。アメリカの中東支配に打撃を与えた。
- ・立憲君主制の導入（1959年 - 1960年、ネパール） - マヘンドラ国王が立憲君主制を導入したが、初の総選挙で就任したコイララ首相の急激な封建的制度改革への反動で翌年国王がクーデター。絶対王制に回帰。
- ・イエメン革命（1962年） - 汎アラブ主義によるクーデターで（北）イエメン（当時は南イエメンの独立前）の王制廃止。
- ・ザンジバル革命（1964年） - クーデターで王制廃止。同年タンガニーカと合併してタンザニアに。
- ・ジャナ・アンドラン（人々の運動）（1990年、ネパール） - 民主化運動によって、立憲君主制の下で議会民主制の復活。
- ・立憲君主制の導入（2002年、バーレーン）
- ・立憲君主制の導入（2008年、ブータン） - ジグミ・ケサル・ナムゲル・ワンチュク国王による憲法制定で立憲君主制に。
- ・2月17日革命（2011年、リビア） - 2月17日はデモが大規模化した日。政権崩壊は8月。アラブの春の1つ。カッザーフィー政権は政体を直接民主制のジャマーヒリーヤ（人民共同体といった意味）と称したが、実態は憲法も議会も内閣もないカッザーフィーの私物国家。以前は絶対王政だから、カッザーフィー政権を絶対王政の延長と考えれば、2月17日革命が古典的な市民革命に相当する事になる。その後内戦状態になりつつある。

市民革命的な植民地独立（資本主義経済の確立を伴う。その後破綻国家になったかは問わない）

- ・ハイチ革命（1791年 - 1804年） - フランス革命の影響を受けたルーヴェルチュールらが、ナポレオンの侵攻を打ち破り、奴隷制度を廃止し、世界初の黒人による共和国ハイチを建国した。
- ・パラグアイ独立（1811年）
- ・メキシコ独立革命（1810年 - 1821年） - 市民革命として始まり1813年に独立宣言するが1815年に敗北。その後宗主国スペインの革命に反発する保守派が主導権を握って1821年に独立。独立はむしろ市民革命に対する反動。
- ・スウェーデン＝ノルウェー連合王国の成立（1814年） - ノルウェーが独立宣言、憲法制定、スウェーデンとの戦争を経て、スウェーデンと同君連合を形成。ノルウェーは1905年に独立。
- ・チリ独立（1818年）

- ・コロンビア独立戦争（1810年 - 1819年、コロンビア） - その後大コロンビアの形成後、各国に分裂。
- ・ベネズエラ独立戦争（英語版）（1810年 - 1821年） - 1911年にベネズエラ第一共和国（英語版）成立するも崩壊。1821年に独立が確定。
- ・ウルグアイ独立戦争（1811年 - 1828年） - 1811年独立戦争開始。1815年独立宣言。ラテンアメリカ最初の農地改革が行われる。1820年にポルトガル＝ブラジル連合王国軍に敗北。アルゼンチン・ブラジル戦争の結果1828年に独立。
- ・ドミニカ独立（1821年） - 1822年にハイチに占領される。1845年ハイチから独立。1861年スペインに再併合。1865年再々独立。
- ・ギリシャ独立（1821年 - 1833年）
- ・中米連邦成立（1823年、グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカなど） - 1923年のメキシコ帝国崩壊で中米地域は中米連邦となる。自由主義政策が進められたが、保守派の反乱があり1838年から1841年までに各国に分裂。
- ・ボリビア独立（1825年） - 国名はラテンアメリカ独立の英雄ボリバルにちなむ。
- ・ベルギー独立革命（1830年） - 完全な独立は1839年。
- ・リベリア独立（1847年）
- ・ニュージーランド自治領成立（1852年） - 独立は1947年。
- ・オーストリア＝ハンガリー帝国の成立（1867年、オーストリア、ハンガリー） - ハンガリーがオーストリアから独立し、対等の立場で連合の帝国となる。他の民族の不満は解消されなかった。
- ・モンテネグロ公国独立（1876年、モンテネグロ） - 1852年に世俗国家化。1860年からオスマントルコからの独立戦争。
- ・ルーマニア独立（1866年 - 1878年） - 1866年に新憲法起草。1877年に独立宣言、翌年独立。
- ・フィリピン独立革命（1896年、1898年）
- ・キューバ独立（1902年） - 米西戦争でアメリカが介入してスペインからは独立。事実上はアメリカの保護国。
- ・ブルガリア独立（1909年）
- ・南アフリカ連邦の成立（1910年） - 独立は1931年。人種差別法は残った。
- ・モンゴル独立（1911年 - 1915年） - 辛亥革命によってモンゴル人の民族運動が激化。1911年に独立宣言。1915年に自治権を認められる。
- ・チベット独立時代（1912年 - 1950年） - 辛亥革命により独立宣言。独立か自治か曖昧な状態が続く。1950年に中国軍が侵攻。1951年に中国に併合。
- ・アラブ反乱（1916年 - 1918年、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、パレスチナ、アラビアなど） - オスマントルコ帝国からのアラブ人独立と統一アラブ国家の樹立を目指す運動。トルコからは離脱したが、イギリス領内の王国やフランス領になった。
- ・チェコスロバキア独立（1918年）
- ・ポーランド第二共和国（1918年） - 第一次世界大戦でドイツ、オーストリアが敗北、ロシアで革命が起きたため独立を回復。
- ・セルビア人・クロアチア人・スロベニア人王国の成立（1918年、ユーゴスラビア） - 汎スラヴ主義に基づき、既に独立国だったセルビアとモンテネグロに加えて、オーストリア＝ハンガリー帝国領だったクロアチアやスロベニアなどが加わって成立。1929年に国王独裁となってユーゴスラビアに改名。セルビア人主導だったため他の民族の不満は強かった。
- ・フィンランド独立（1917年 - 1919年）

- ・エジプト革命(1919年)(エジプト独立) (1919年 - 1923年) - ワフド党による独立運動。1922年に独立。1923年に憲法起草。
- ・アイルランド独立(1922年)
- ・サウジアラビア独立(1932年) - 建国は1902年。イギリスからの独立が1932年。
- ・東トルキスタン独立運動(三区革命) (1933年 - 1934年、1944年 - 1949年、中国の新疆ウイグル自治区) - 2つの東トルキスタンの領域は重ならない。中国では東トルキスタン共和国という名は忌避され、第二次東トルキスタン共和国が三区革命と呼ばれる。
- ・レバノン独立(1941年)
- ・シリア独立(1946年)
- ・ヨルダン独立(1946年)
- ・フィリピン独立(1946年)
- ・インド・パキスタン分離独立(1947年)
- ・ビルマ独立(1948年、ミャンマー)
- ・イスラエル建国(1948年)
- ・南ベトナム独立(1949年) - 実質はフランスの傀儡国家。
- ・インドネシア独立戦争(1945年 - 1949年) とインドネシア共和国の成立(1950年)
- ・ラオス、カンボジア独立(1953年)
- ・スーダン、モロッコ、チュニジア独立(1956年)
- ・ガーナ独立(1957年) - 1956年自治政府成立。1957年にブラックアフリカで最初に独立。
- ・マラヤ連邦独立(1957年、マレーシア) - 1963年にマレーシアになる。
- ・ギニア独立(1958年)
- ・アフリカの年(1960年、カメルーン、セネガル、トーゴ、マダガスカル、コンゴ民主共和国、ソマリア、ベナン、ニジェール、ブルキナファソ、コートジボワール、チャド、中央アフリカ共和国、コンゴ共和国、ガボン、マリ、ナイジェリア、モーリタニア) - フランス植民地を中心にアフリカで多くの国が独立。
- ・シエラレオネ独立(1961年)
- ・タンガニーカ独立(1961年) - 1964年にザンジバルと合併してタンザニアになる。
- ・アルジェリア独立戦争(1954年 - 1962年)
- ・ウガンダ独立(1963年)
- ・ケニア独立(1963年)
- ・マラウイ独立とザンビア独立(1964年)
- ・シンガポール独立(1965年)
- ・ボツワナ独立(1966年)
- ・フィジー独立(1970年)
- ・ポルトガル領アフリカの独立(1974年 - 1975年)、ギニアビサウ(1974年)、モザンビーク(1975年)、アンゴラ(1975年) - ギニアビサウ独立戦争は本国ポルトガルのカーネーション革命の発生に影響を与えた。
- ・パプアニューギニア独立(1975年) - 自治政府議会の選挙は1964年。
- ・グリーンランド自治政府成立(1979年、グリーンランド)
- ・ジンバブエ独立(1980年) - 1965年に白人植民地政府がローデシアとして一方的に独立を宣言。1980年に選挙で黒人政権が成立して正式に独立。国内的には人種差別撤廃の市民革命。
- ・ニューカレドニア独立運動(1985年 -)
- ・ミクロネシア、マーシャル諸島独立(1986年)

- ・ナミビア独立戦争（1966年 - 1990年）
- ・エリトリア独立戦争（1961年 - 1991年）
- ・パラオ独立（1994年）
- ・東ティモール独立（2002年）
- ・南スーダン独立（2011年）

社会階級とはあまり関係のない現代の意味における「市民」による革命

・フランス2月革命（1848年） - 1848年革命（諸国民の春）の1つ。フランスでは以前のブルジョワジー主体の市民革命から労働者主体の革命になった。他は古典的な市民革命。

- ・メキシコ革命（1911年 - 1920年）
- ・ボリビア革命（1952年）
- ・エジプト革命（1952年） - ムハンマド・ナギーブ、ガマル・アブドゥン=ナーセルの自由将校団による王制打倒のクーデター。
- ・4・19学生革命（1960年、韓国）
- ・五月革命（1968年、フランス） - 世界（先進国中心だが）の学生運動が盛り上がる発端になった。ドゴール大統領は選挙に勝ったが、地方自治制度改革案の国民投票に敗れて辞任。

ペルー革命（1968年 - 1975年） - クーデターを起こしたベラスコ将軍による「革命的国民主義」政権の急進的改革の時代。

- ・学生革命（1973年、タイ） - 先進国への留学生が学生運動の影響を受けて帰国。学生運動から軍事政権が崩壊。1976年のクーデターで終わる。
- ・カーネーション革命（1974年、ポルトガル） - 実態は軍事クーデターであるが、クーデター勢力によって民主化が進んだ数少ない例であるため、革命と言われる。

・メタポリテフシ（1974年、ギリシャ） - ギリシャ軍事政権がキプロス紛争に敗れて政権投げ出し。

・スペインの民主化（1975年 - 1978年） - 民主化運動の高まりはあったが、カルロス国王による上からの改革。

- ・ピープル・パワー革命（1986年、フィリピン）
- ・韓国の民主化（1987年）
- ・8888民主化運動（1988年 - 1990年、ビルマ - ミャンマー） - 1988年8月8日のゼネスト・デモが民主化運動の象徴となった。1990年の総選挙で国民民主連盟が勝利するも、軍事政権は選挙結果を無視して居座った。
- ・ザンビアの民主化（1991年）
- ・ケニアの民主化（1991年）
- ・暗黒の5月事件（1992年 - タイ） - スチンダー首相退陣。
- ・カンボジアの民主選挙（1993年） - 国際連合カンボジア暫定統治機構（UNTAC）の統治下で1993年に民主選挙。

・アパルトヘイト撤廃（1991年 - 1994年、南アフリカ） - 1994年に全人種参加の選挙。

- ・モザンビークの民主化（1989年 - 1994年）
- ・台湾の民主化（1990年頃 - 1997年頃） - 李登輝総統の民主化政策と国民の民主化運動によって徐々に民主化を達成した。1996年に初の総統直接選挙。

- ・スハルト政権崩壊（1998年、インドネシア）
- ・ブルドーザー革命（2000年、ユーゴスラビア、セルビア） - デモによりユーゴスラビア（新ユーゴ、第三のユーゴスラビア）のミロシェヴィッチ大統領が退陣。実質的にはセル

ビアの民主化。

- ・バラ革命 (2003年、グルジア)
- ・杉の革命 (2005年、レバノン)
- ・オレンジ革命 (2005年、ウクライナ) を始めとする色の革命
- ・チューリップ革命 (2005年、キルギス)
- ・ロクタントラ・アンドラン (国王のいない民主主義の運動) (2006年、ネパール) - ネパール王族殺害事件でギャネンドラ国王の独裁となるが、民主化運動が高まり議会復活。2008年に王制廃止。共和制に移行。
- ・ミャンマーの民主化 (2007年 - 2011年) - 軍出身のテイン・セイン首相 (その後大統領) による上からの民主化改革。2010年に総選挙。
- ・アラブの春 (2011年 -) - 中東で連続して民主化革命が発生。しかし反動クーデター、内戦、イスラム革命運動などの混乱に陥った国も多い。
- ・ジャスミン革命 (2011年、チュニジア) - アラブの春の発端。2014年1月に中東で最も自由主義的な新憲法を採択。
- ・エジプト革命 (2011年) - 選挙でイスラム原理主義組織ムスリム同胞団系のムルシー政権が成立。2013年7月に軍の反動クーデター。市民革命に続きイスラム革命という二段階革命は阻止。
- ・2010年-2011年アルジェリア騒乱 - 多少民主化が進んだ。
- ・オマーンの民主化拡大 (2011年) - 諮問会議への立法権付与などが行われた。

- ・2011年バーレーン騒乱 (2011年) - 国民の多数を占めるシーア派による反政府運動。サウジアラビアなどの軍事介入もあり沈静化。限定的な民主化改革はなされた。
- ・モロッコの民主化拡大 (2011年) - 議会の権限拡大。11月の選挙で穏健イスラム政党の政権が成立。
- ・2011年イエメン騒乱 (サーレハ大統領退陣) (2011年、イエメン)
- ・マイダン革命 (2014年、ウクライナ) - ヤヌコービッチ政権のロシア接近をきっかけに親欧米派の武装蜂起で政権崩壊。ロシアはクリミア併合やウクライナ東部侵攻を行った。

共産主義革命、社会主義革命 (インフラストラクチャーなどの国有化まで進めた革命)

- ・パリ・コミューン (1871年)
- ・ロシア革命の十月革命 (ボリシェヴィキのクーデター) (ユリウス暦1917年10月) - 二月革命の直後に二段階革命として実行された。
- ・ドイツ革命 (1918年 - 1919年)
- ・ハンガリー評議会共和国 (1919年)
- ・モンゴルの共産化 (1920年) - ロシア革命に乗じて中国が外モンゴル支配の回復を目指したのに対し、モンゴル人民革命党がソ連に援助を要請。ソ連の軍事力で人民政府を樹立。ソ連の最初の衛星国となった。
- ・アルバニア革命 (1944年) - ユーゴスラビアと同じく独力のゲリラ戦で全土を掌握。但しユーゴの援助と地理的有利さがあればこそだった。ユーゴと同じく容易にソ連と決別 (1961年) したが、ユーゴとは犬猿の仲だったので、ユーゴと逆の極左政策を採用。社会主義の崩壊ではユーゴと同じくソ連・東欧とほぼ同時に崩壊。
- ・ユーゴスラビア革命 (1941年 - 1945年) - ソ連の軍事力によらず独力のゲリラ戦争で全土を掌握。そのためソ連との決別 (1948年) が容易だった。自主管理社会主義という半資本主義経済を採用。しかし社会主義の崩壊ではソ連・東欧とほぼ同時に崩壊した。
- ・ベトナム八月革命 (1945年、北ベトナム) - ベトミンが蜂起して阮朝を倒した。植民地

支配に復帰したフランスとのインドシナ戦争に勝利して北ベトナムの社会主義化は確定。その後アメリカとベトナム戦争で南ベトナムの支配権を争う。

・チェコスロバキア・クーデター（1948年） - チェコスロバキア共産党によるクーデター。共産党側の呼称は「勝利の二月」。西側諸国に大きな衝撃を与え、冷戦の開始を決定的にした。

北朝鮮の共産主義国家成立（1945年 - 1948年、北朝鮮） - ソ連が衛星国として自国と同じ体制を作ったが、金日成が建国前にゲリラをしていた事もあり革命と称している。

国共内戦（1945年 - 1949年、中国）

・ガイアナの人民進歩党（英語版）（PPP）政権（1953年、1961年 - 1964年） - イギリス植民地のガイアナの自治政府選挙で共産主義政党が勝利。1回目はイギリスの軍事介入、2回目は暴動などを経て退陣。1966年の独立後はPPP穏健派の分派人民国民会議（英語版）（PNC）政権が非マルクス主義の社会主義政策。

・キューバ革命（1959年）

・ビルマ式社会主義（1962年 - 1988年、ミャンマー） - 1962年のクーデターで成立したが実態は軍部独裁。仏教社会主義と称し、仏教とマルクス主義を混合したイデオロギーを唱えた。農業以外の産業の国有化は行われた。

・9月30日事件（1965年、インドネシア） - 共産党がクーデターを起こしたが陸軍が反撃して鎮圧された。華僑系を中心に数十万人～数百万人が虐殺された。東南アジアの共産主義運動に大きな打撃。

・文化大革命（1966年 - 1979年、中国） - 共産党内の権力闘争である。資本主義化（マルクス主義用語で修正主義）の志向がある党主流派（劉少奇、鄧小平ら）に対して、社会主義の維持と権力復帰を求める毛沢東が第二革命を仕掛けた。

・チリ革命（1970年 - 1973年） - 平和革命であり、史上初の民主的な選挙によって成立した社会主義政権だったが、チリ・クーデターによって終焉した。

・エチオピア革命（1973年 - 1977年） - （古典的）市民革命として始まったが、急進派の武力行使でメンギスツ政権が成立した。

・ポル・ポト政権の成立（1975年、カンボジア） - 北ベトナムの南ベトナム侵攻を背景に、カンボジア共産党（クメール・ルージュ）が権力掌握。原始共産制社会を理想とする極端な共産主義政策を実行。犠牲者は百数十万人とされる。1979年にベトナムが侵攻して政権崩壊。ベトナムの傀儡のヘン・サムリン政権となる。

・ベトナム統一（1975年 - 1976年、ベトナム） - 北ベトナムがベトナム戦争に勝利して1973年にアメリカ軍が南ベトナムから撤退。1975年に北ベトナム正規軍が侵攻して南ベトナムを占領。解放戦線を含めて南ベトナムの自主性は一切認めず翌年併合。

・静かな革命（1975年、ラオス） - 北ベトナムの南ベトナム占領を背景に、共産主義政党パテート・ラーオがなし崩しのクーデターで一党独裁を確立。

・グレナダの人民革命政府（1979年 - 1983年） - 1979年3月13日、ニュー・ジュエル運動によるクーデターで独裁政権が崩壊、人民革命政府を樹立。人気はあったが政治は独裁だった。政権内強硬派のクーデターを機にアメリカが軍事介入して崩壊。

・四月革命（1978年、アフガニスタン） - 人民民主党によるクーデター。ムジャーヒディーン（イスラム義勇兵）の蜂起が起き情勢が不安定化。イスラム原理主義の波及を恐れるソ連が軍事介入。社会主義崩壊期にソ連は撤退、ターリバーン政権の出現を招く。

・ニカラグア革命（1979年） - 社会主義革命というよりはブルジョワジーも巻き込んだソモサ王朝への反独裁闘争の側面が強く、マルクス主義ではなく、サンディノー主義に基づ

いた革命だった。

- ・スリナムのクーデター（1980年） - 軍事政権が社会主義化を推進。

イスラム革命

- ・イラン革命（1979年） - イスラム共和制を樹立。
- ・スーダンのイスラム化（1989年 - 1999年） - イスラム原理主義組織民族イスラーム戦線（NIF）と協力したクーデターでバシール政権が成立。イスラム化政策を実行。一時ウサーマ・ビン・ラーディンを保護。しかし1999年にNIFと決裂した。
- ・アルジェリア内戦（1991年 - 2002年） - 選挙でイスラム原理主義政党イスラム救国戦線（英語版）（FIS）政権が成立するところだったが軍部がクーデターで阻止。10年以上に及ぶ内戦となった。
- ・ターリバーン政権（1996年 - 2001年、アフガニスタン） - ほぼ全土を掌握したが承認国はごく少数だった。共産政権最後の大統領ナジブッラーを、性器を切断して引きずり回し死体を吊るした。アルカーイダと結んでバーミヤン大仏爆破事件を起こし、アメリカ同時多発テロ事件に関わる。事件後のアフガニスタン戦争で崩壊。
- ・イスラム法廷連合のモガディシュ制圧（2006年、ソマリア南部） - 2006年5月、ソマリアでイスラム原理主義勢力イスラム法廷連合（その後イスラム法廷会議）が首都モガディシュを含む南部一帯を制圧。アメリカの意を受けたエチオピアの軍事介入で2006年12月に首都から撤退。
- ・ハマース政権の成立（2006年、パレスチナ）とガザ制圧（2007年、ガザ） - パレスチナ自治政府の選挙でイスラム原理主義組織ハマースが政権を獲得。翌年の自治政府分裂で、ガザ地区はハマースの支配下で事実上イスラム国家に。
- ・シリア内戦（2011年から） - アラブの春の1つの民主化運動として始まったが、アル＝ヌスラ戦線などアルカーイダ系武装勢力の活動でイスラム革命の様相を呈す。ロシアやイランの援助を受けたアサド政権の反撃と、欧米諸国の不作為があって押さえ込まれつつある。国土の一部はイラクとシャームのイスラーム国が建国したイスラム国の領土化している。
- ・マリ北部紛争（2012年 - 2013年） - 北部の民族主義勢力がマリ北部を占拠、アザワド独立を宣言。直後にアンサール・アッ＝ディーンなどイスラム原理主義勢力が乗っ取った。世界遺産トンブクトゥ歴史地区のイスラーム指導者の聖廟を、偶像崇拜の禁止を理由に破壊した2013年1月にフランスの軍事介入で退却。
- ・イスラム国の建国（2014年、イラクとシリア） - アルカーイダから破門された超過激派「イラクとシャームのイスラーム国」（ISISまたはISIL）がシリアからイラクに侵攻。イラクのスニ派地域の大部分を占拠。イラクとシリアの占拠地域を合わせて、イスラム国の建国と指導者バグダーディーのカリフ就任を宣言。

反共産主義革命（現代の意味における「市民」による革命の一種とは言える）

- ・ポズナン暴動（1956年、ポーランド） - 暴動から統一労働者党（共産党）内の政権交代に発展し、限定的な自由化が行われた。ハンガリー動乱に影響した。
- ・ハンガリー動乱（1956年革命）（1956年） - ソ連が軍事介入で打倒。革命の時点では国民の多くは独裁を倒そうとしただけで、社会主義を倒そうとは思ってなかった。
- ・プラハの春（1968年、チェコスロバキア） - 共産党内改革派による自由化。ソ連が軍事介入で打倒。
- ・連帯運動（1980年以降、ポーランド） - 1980年に自主管理労働組合「連帯」結成。統一労働者党の支配が揺らぐ。ヤルゼルスキ首相（後に大統領）は民主化の意思はあったが、

ソ連の軍事介入の危機が迫り1981年に戒厳令布告。1982年中に沈静化。しかし連帯は存続し東欧革命で政権獲得。

- ・六四天安門事件（1989年、中国） - 東欧革命よりわずかに早く民主化運動が発生したが武力鎮圧された。
- ・東欧革命（1989年）
- ・連帯による円卓会議（1989年、ポーランド）
- ・ハンガリー民主化運動（1989年）
- ・ビロード革命（1989年、チェコスロバキア）
- ・ブルガリアの民主化（1989年 - 1990年）
- ・ベルリンの壁崩壊（1989年、東ドイツ）
- ・1989年ルーマニア革命（1989年）
- ・モンゴル民主化運動（1989年 - 1990年）
- ・ユーゴスラビアの民主化と解体（1989年 - 2008年）
- ・アルバニアの民主化（1990年）
- ・ソ連崩壊（1991年、ソ連 - ロシア）

その他の革命

- ・ファシストのローマ進軍（1922年、イタリア） - 社会主義運動に対抗する反革命運動だが、大衆的な基盤があり、他国の右翼全体主義運動にも大きな影響を与えた。
- ・五月革命（1926年、ポーランド） - ピウスツキによるクーデターだが革命と称した。ローマ進軍を研究して起こしたとされる。
- ・ナチ党の権力掌握（1933年 - 1934年、ドイツ）ナチズムの文脈においては「国家社会主義革命」（ドイツ語: Nationalsozialismus Revolution）と呼ばれる。突撃隊のエルンスト・レームらはさらに第二革命を唱え、結果的に粛清された。
- ・白色革命（1963年から、イラン） - パフラヴィー2世国王による近代化改革の自称。社会を混乱させイラン革命の遠因となった。
- ・ボリバル革命（1999年 - 2013年、ベネズエラ） - チャベス政権による左翼風大衆主義政治の自称。
- ・八月革命説(1945年8月、日本) - ポツダム宣言受諾を、主権の所在が天皇から国民に移るとする法的な革命であるとする学説。

ルネサンス（仏: Renaissance）は

「再生」「復活」を意味するフランス語であり、一義的には、古典古代（ギリシア、ローマ）の文化を復興しようとする文化運動であり、14世紀にイタリアで始まり、やがて西欧各国に広まった（文化運動としてのルネサンス）。また、これらの時代（14世紀 - 16世紀）を指すこともある（時代区分としてのルネサンス）。

日本では長らく文芸復興と訳されており、ルネサンスの時代を「復興期」と呼ぶこともあったが、（文芸のみでなく広義に使われるため）現在では余り使われない。ルネッサンスとも表記され、通俗的に「復興」「再生」を指す言葉として用いられている場合、例えばコスメティック・ルネッサンス、あるいはカルロス・ゴーン著『ルネッサンス』などは、ルネッサンスと表記されることが多い。現在の歴史学、美術史等ではルネサンスという表記が一般的である。

[「ルネサンス」という語]

ルネサンス Renaissance という語は「再生」(re- 再び+naissance 誕生)を意味するフランス語で、19世紀のフランスの歴史家ミシュレが『フランス史』第7巻(1855年)に‘Renaissance’という標題を付け、初めて学問的に使用した。続くスイスのヤーコプ・ブルクハルトによる『イタリア・ルネサンスの文化』Die Kultur der Renaissance in Italien(1860年)によって、決定的に認知されるようになった概念である。

ルネサンスに相当する言葉はすでに16世紀から用いられており、ジョルジョ・ヴァザーリの『画家・彫刻家・建築家列伝』に現れた rinascita(再生)の語に直接的な起源があると思われるが、「再生」という意識そのものは、はやくも14世紀のダンテやペトラルカの著作に見られる。

ところで、論者によってルネサンスの定義は、しばしば大きく異なる。文化運動を指す場合と時代区分を指す場合でしばしば混乱が生じる。ブルクハルトの時代には、ルネサンスは極めて明瞭に区分できると思われていたが、その後、特にゲルマン系学者による中世の再評価が行われた結果、ルネサンスを特徴づけると考えられていた事象(古典古代の文化の復興)の多くが、中世にも存在していたことが明らかになった(12世紀ルネサンスなど)。また、ルネサンスの時代にも、占星術や魔術など甚だ非理性的・非科学的な思考が多く残存していることも明らかにされた。これらによって、中世とルネサンスを明確に峻別することは困難になったのである(中には、「ルネサンス」の存在そのものを否定する研究者もいる)。ルネサンスが近代の始まりなのか、それとも中世の範囲になるのか、という点についても論議が続いているほか、ヨーロッパ中心史観であることを批判する論者もいる。

ただし、14-15世紀のイタリアで大きな文化運動が起こり、各国に影響を及ぼしたこと自体を否定する論者はいない。本項では、古代ギリシア・ローマの学問・知識の復興を目指す文化運動がイタリアで興り、やがてヨーロッパ各国に波及したと捉えておく。イタリア・ルネサンスの時期としてはおおむね14世紀中頃のペスト流行以降、宗教改革後のトリエント公会議(1545-1563年)までが想定される。

[ギリシア文化、イスラム文化との関係]

中世=暗黒時代観

従来の一般的な見方は次のようなものである。およそ1000年間の純粹キリスト教支配のもと、西ヨーロッパ圏では古代ローマ・ギリシア文化の破壊が行われ、多様性を失うことにより、世界に貢献するような文化的展開をすることはできなかった。こうした見方はルネサンス以前の中世を停滞した時代、暗黒時代とみなすものである。

現在では古典古代の復興はイタリア・ルネサンスより以前にも見られる現象であることが明らかにされている。9世紀フランク王国の「カロリング朝ルネサンス」や、10世紀東ローマ帝国(ビザンツ帝国)の「マケドニア朝ルネサンス」および帝国末期の「パレオロゴス朝ルネサンス」、西ヨーロッパにおける「12世紀ルネサンス」などがあり、これら複数のルネサンスとも呼ばれる。

[イスラム文化との関係]

ギリシアをはじめとする古典的な知の遺産は、そのほとんどが8世紀から9世紀にかけてアラビア語に次々と翻訳され、初期のイスラム文化の発達に多大の貢献をもたらした。とくに830年にアッバース朝の第7代カリフ・マームーンによってバグダードに設立された「知恵の館」において膨大な翻訳作業が行われ、知識の継承が急速に進んだ。が、そうした知

識の継承が一段落ついたかと思う間もなく、新たな翻訳の時代がその幕を明けた。古典的な文献とイスラムの哲学者や科学者たちがそれに加えた注釈が次々とラテン語に翻訳されたことによって、西ヨーロッパの人たちはイスラムが継承、拡充した古典をラテン語で読むことができるようになった。翻訳作業の大半は、イスラム圏とヨーロッパ大陸を繋ぐ中継基地としての役割を担っていた、イスラム支配下のスペインにおいて行われ、この作業には、それぞれ出身地を異にするイスラム教徒、キリスト教徒、ユダヤ教徒など、数多くの翻訳者集団が参加した。社会と経済の発達的重要性を痛感していた西洋の社会は初期のイスラム社会と同じように、とりわけ、医学をはじめとする科学的な知識を必要としていた。アリストテレスが魂について哲学的考察を加えた『靈魂論』（これにはイスラムの哲学者イブン・ルシュドが注釈をつけている）、イブン・スィナーが著した『医学典範』、哲学者であるとともに医師であったアル・ラーズィーが著した『アル・マンスールの手紙』は、いずれも15世紀から16世紀にかけて翻訳されたが、これらの作品は、西欧の学生たちにとって必読書であり、そうした事情は500年という長い歳月にわたって変わらなかった。ルネサンス期のヨーロッパの学者たちは、膨大な百科全書的なギリシア-イスラム文献に取り組み、こうした文献は、最終的には、多くのヨーロッパの言語に翻訳され、印刷技術の飛躍的な革新によってヨーロッパ全土に普及した。イスラム文化が衰退の一途をたどりはじめた時代と相前後してギリシア-イスラムの知の遺産を継承した西洋がルネサンスによって旺盛な活力を獲得し、イスラム文化にとって代わって世界史の表舞台に登場したことは歴史の皮肉にほかならない。

[ギリシア文化との関係]

ルネサンス初期においてはギリシアとイタリア等西欧諸国との関係は薄く、上述のようにアラビア語を介しての文化伝達に過ぎなかった。しかし1397年、ビザンツ帝国からギリシア語学者のマヌエル・クリュソロラスがフィレンツェに招聘されてギリシア語学校を開いてから、イタリアにおいてギリシア語学習が行われるようになった。ビザンツ帝国に保管・継承されていたギリシア語の古典文献の読解が可能となり、ルネサンスの一助となった。

とくに1453年のコンスタンティノープル陥落によるビザンツ帝国の滅亡によって、ビザンツから優れた学者がイタリア半島に相次いで移住し、古典文献研究は大きく進んだ。

[ルネサンス史]

ルネサンスは、西欧世界の進行方向を決定付けるような、文化史・精神史の上での一大事件であった。まず、イタリア・ルネサンスと呼ばれる事象の興り・発展・終焉、次に、イタリア以外での西欧諸国のルネサンスの受容と発展の様相を見る。

[イタリア]

シチリア王・神聖ローマ帝国皇帝のフェデリコ2世（1194 - 1250年）はイタリアで生まれ、イタリアで生涯の多くを過ごした。ローマ帝国の復興を志し、シチリア王国に古代ローマ法を範とした法律を定め、ナポリ大学を開いた。しかしローマ教皇や諸都市と敵対し、結局、フェデリコの死後、南イタリアはフランス・アンジュー家の支配下に入った。

14世紀以降、ルネサンス（イタリア語でリナシメント *rinascimento*）の中心地となったのは、地中海貿易で繁栄した北イタリア、トスカーナ地方の諸都市である。特にフィレンツェは、毛織物業と銀行業が盛んになり、大きな経済力を持っていた。

フィレンツェ出身の詩人ダンテ（1265 - 1321年）が政敵によってフィレンツェを追放され、流浪の生活の中で代表作「神曲」を完成させた。古代ローマの詩人・ウェルギリウスが地獄・煉獄巡りの案内人として登場し、主人公が地獄・煉獄から魂の浄化を経て天国へ昇っ

てゆくという内容であり、ローマの古典文学とキリスト教による救済との調和を図った一大叙事詩である。続いてペトラルカ（1304年 - 1374年）は古典古代の時代こそ人間性が肯定されていた理想の時代であり、中世（キリスト教公認以降のローマ帝国が衰退した時代）を暗黒時代と考えた。ペトラルカは修道院に保管されていた古代の文献を収集し、ラテン語による詩作、著述を行ったが、このように古典の教養を持ち、人間の生き方について思索する知識人を人文主義者（Umanista ウマニスタ）と呼ぶようになった。また、1453年のコンスタンティノープルの陥落（東ローマ帝国滅亡）の前後には、東ローマから多数のギリシア人の知識人がイタリアへ亡命してきた。末期の東ローマ帝国では古代ギリシア文化の研究が盛んになっており（パレオロゴス朝ルネサンス）、彼等が携えてきた古代ギリシア・ローマの書物や知識は古代文化の研究を活発化させた。人文主義者の一人、フィチーノ（1433年 - 1499年）はメディチ家のプラトン・アカデミーの中心人物で、プラトンの著作を翻訳した。

イタリアは古代ローマ帝国の文化が栄えた土地で、古代の遺物も多く、彫刻家、建築家らはこれらから多くを学ぶことができた。建築の分野ではブルネレスキがルネサンスの建築家の始めとされる。ブルネレスキは当時困難とされていた、フィレンツェ大聖堂（サンタ・マリア・デル・フィオーレ）に大ドームをかけるという課題に合理的な解決をもたらし、世の賞賛を浴びた。中世の職人とは異なる、高い教養と科学的知識を持つ建築家の誕生である。「人間はあらゆるものになる可能性を持っている」と説いた人文主義者アルベルティは建築論と実作、絵画論など多くの分野で業績を挙げており、ルネサンスの理想である「万能の天才」の一典型とされる。また、ミケランジェロ、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ラファエロはそれぞれ絵画、建築、彫刻など多方面での才能を発揮した。

芸術表現の特徴としては、キリスト教の洗脳による先入観から解放するために、キリスト教が罪と定義する裸、すなわちカナンが奴隷となった原因であるところの「裸を見る」行為を奨励し、裸図や裸像を作った。また、ドナテッロやミケランジェロは、ユダヤ王ダビデの像のペニスを割礼のない様相を強調して彫り、ダビデがユダヤ人ではなくパレスチナ人であったことを主張した。さらに、レオナルドダビンチにおいては、絵画『最後の晩餐』で、聖杯の血の意味を暗示して、イエスが救済したのは、旧約聖書の律法において死刑にあたる女性とイエスのような子の命であることを、表現した。

音楽の分野での「ルネサンス音楽」という用語は、ルネサンス期に作られた音楽という意味合いが強く、実際に音楽家たちが「復興」を意識するようになったのはルネサンス末期である。16世紀後半のフィレンツェで、ジョヴァンニ・デ・バルディ伯をパトロンとして、カメラータと呼ばれる研究グループが結成され、「古代ギリシア音楽の復興」を目指す試みがなされた。主要なメンバーは、ジュリオ・カッチーニ、リュート奏者ヴィンチェンツォ・ガリレイ（科学者ガリレオ・ガリレイの父）、ピエトロ・ストロツィである。彼らは従来のポリフォニー音楽では均整の取れた美しさと引き換えに歌詞が聞き取りづらいことを批判して、より人間の感情を強調できるモノディ様式とよばれる独唱のスタイルを生み出し、その成果はバロック音楽への発展に繋がった。また、カメラータの活動に刺激された同時代の作曲家は、ギリシア悲劇を思想上の範としてオペラを創出し、ヤコポ・ペーリの『ダフネ』（確認できるうちでは最古のオペラ）や、クラウディオ・モンテヴェルディの『ポッペアの戴冠』といった傑作が生まれた。

イタリアでルネサンス文化が開花したのは、フィレンツェ、ミラノ、ローマ、ヴェネツィア、ナポリ、フェッラーラなどの都市である（すべての都市ではない）。学芸を愛好し、芸術家たちを育てたパトロンとして、フィレンツェのメディチ家、ミラノのスフォルツァ家、フェッラーラのエステ家などが知られている。15世紀末にはサヴォナローラの改革によりフィレンツェの芸術は衰退し、フランスとの抗争でミラノのスフォルツァ家も追放さ

れた（1515年）が、このころには教皇の中にもルネサンス教皇と呼ばれる文芸保護に力を尽くした教皇が出現し、ローマではサン・ピエトロ大聖堂などの建設が行われ、多くの芸術家を集めることになった。

ローマ略奪（1527年）によりローマは一時荒廃したが、ヴェネツィア共和国やトスカーナ大公国（フィレンツェ）で美術の隆盛が見られた。

宗教改革により打撃を受けたローマ教会も、トリエント公会議により体制を立て直し、新大陸からもたらされる莫大な富を背景に、16世紀から17世紀にかけてバロック美術の時代に入る。しかし、文化の中心地は次第にフランスをはじめ北方の国へ移っていった。ルネサンスのイタリアは文化の先進国としてヨーロッパを近代に導く役割を果たしたが、国内は教皇領や小国に分裂し、またイタリア戦争後は外国の勢力下に置かれたため国家統一が遅れ、政治・社会の近代化では立ち遅れる結果になったのである。1600年には宇宙の無限性を唱えたブルーノが異端として火刑に処せられた。イタリアにおいては自由な科学研究も困難であることが示され、ルネサンスの時代は終焉を迎えたというべきであろう。

ルネサンスの時代は明るい時代ではなく、ペストの流行や（マキャヴェッリが『君主論』を著したことで知られるように）政争、戦乱の続く波乱の時代であった。文化を享受していたのも宮廷や教皇庁など一部の人々に過ぎず、魔術や迷信もまだ強く信じられていた。

[その他の西欧諸国のルネサンス]

一般に、15世紀末から16世紀には、程度の差はあるが、ルネサンスの文化はアルプス以北の西欧や一部東欧諸国にも波及したと考えられている（北方ルネサンス）。しかし、ルネサンスを社会形態まで含めた総体的運動として捉えた場合、ルネサンスは本質的にイタリア固有の現象であって、絶対王政が確立しつつあった西欧諸国にルネサンスを認めない立場もある。

また、ルネサンスと宗教改革の関連についても議論がある。特にアルプス以北の諸国において、ルネサンスの一部である人文主義の研究は、宗教上のものと結びつきやすかった。とくにネーデルラントにおけるエラスムスの研究は、ルターやカルヴァン、ツヴィングリなど多くの宗教改革者に影響を与え、宗教改革の発端を作ったと考えられている。しかし一方で、宗教改革者と人文主義者との関係は必ずしも良好ではなく、ルターとエラスムスもお互いを敬して遠ざけた後、1524年から1525年にかけての自由意思をめぐる一連の論争で完全に袂を分かった。

以下に、一般に「ルネサンス」と評される各国の文化を挙げる。必ずしも古典の復興を目指したものとは限らないが、イタリア・ルネサンスに触発され発達したものや、明らかに中世文化とは異なる特徴を持つものなどが含まれる。これらは一時的な流行、単なる模倣に留まらず、各国の国民文化の核にもなっていったものである。

1384年から1477年までブルゴーニュ公国の支配下にあったフランドルでは、毛織物工業と貿易が活発であり、豊かな文化が花開いた。

絵画 - 15世紀のフーベルト、ヤンのファン・エイク兄弟が油絵の技法を完成させた。このころのネーデルラント絵画はイタリアと並び立つ水準にあり、むしろイタリア絵画に大きな影響を与えるほどであった（ただし、初期フランドルの絵画には古典の復興という要素がないため、中世末期の美術と見なす説もある）。それが16世紀頃には逆転し、イタリア・ルネサンスを手本とするようになった。ブリュッゲル（1525年? - 1569年）もイタリア旅行をした後、独自の農村風景画を描くようになった。

思想 - 新約聖書をギリシア語から翻訳したエラスムス（1466年 - 1536年）が人文主義者として著名である。古代ギリシア語研究は、キリスト教を原点に遡って再検討することにつながり、次第に中世カトリックの権威を揺るがすものとなった。エラスムスは『痴愚神礼賛』でカトリックの墮落を風刺したが、宗教改革運動を起こしたマルティン・ルターとは袂を分かった。

音楽 - ネーデルラントの顕著な文化活動に、音楽の勃興と隆盛があった。ルネサンス音楽に関しては、初期から中期にかけてはイタリアよりもネーデルラント、とくにフランドル地域が重要であり、イタリアよりはるかに先行していた。フランドルのルネサンスは音楽から始まったといわれる。ギヨーム・デュファイによって中世西洋音楽からルネサンス音楽への転換がなされ、ジル・バンショワ、アントワーヌ・ビュノワと続くブルゴーニュ楽派、さらにその後のヨハネス・オケゲム、ヤーコプ・オブレヒト、ジョスカン・デ・プレと続くフランドル楽派（この2楽派を総称してネーデルラント楽派ともいう）が隆盛した。

フランス

イタリアの先進文化が伝えられ、国王の文芸保護政策もあって文化活動が活発になった16世紀は、フランス・ルネサンスの時代といわれる。（ミシュレ『フランス史』）

絵画 - イタリアに侵攻したフランソワ1世の時代にレオナルド・ダ・ヴィンチが宮廷に招かれ、イタリアのルネサンス美術が伝えられた。その後もロッセ・フィオレンティーノらがイタリアから宮廷に招かれ、マニエリスムの影響を受けたフォンテーヌブロー派が活躍した。

文学 - 古代ギリシアの医学を研究したラブレール（1483年 - 1553年）は『ガルガンチュワ物語』を著した。荒唐無稽な巨人の物語であるが、既成の権威を風刺した内容で、活版印刷で刊行され、禁書処分を受けながらも広く読まれた。このほか、16世紀中頃にはロンサールなど古典文学を学んだ若い詩人ら（プレイヤード派）が文学運動を起こした。またアリストテレスの演劇論などが影響を与えた。これらの動向は、17世紀のフランス古典主義文学（コルネイユ、ラシーヌなど）に継承されていった。

思想 - ユグノー戦争期に生きたモンテーニュ（1533年 - 1592年）はフランスのルネサンス期を代表する思想家といわれ、セネカからの引用と自己の考察を綴った『エッセー』（随想録）で知られる。

ドイツ

絵画 - デューラー（1471年 - 1528年）が有名である。イタリア旅行を経て、ルネサンス絵画に学び、思想的にも深みのある表現に達した。銅版画の「メランコリア I」や油彩の「四人の使徒」などの宗教画がよく知られている。

思想 - ルターの宗教改革はルネサンスの人文主義者による聖書の原典研究が進んだことが背景にある（前述）。

イングランド

一般にイングランドにおけるルネサンスの最盛期は16世紀のエリザベス朝で、ピューリタン革命（1642年 - 1649年）によって幕を下ろしたとされる。

文学 - ジェフリー・チョーサー（1340年 - 1400年）がボッカッチョの影響を受け『カンタベリー物語』を著している。その後、エリザベス朝期には古代ギリシア以来とも言われる

ほど演劇が盛んになり、古代ローマの思想家でもあるセネカの書いた『オイディプス』等の悲劇が英語に翻訳され、大きな影響を与えた。イングランドの後期ルネサンスを代表する劇作家シェイクスピア（1564年 - 1616年）の存在もこの流れの中にある。ただし、シェイクスピア自身はラテン語・ギリシア語についての知識はあまりなく、イタリアを舞台にした劇を書いているが、実際に訪れたことはない。

思想 - 『ユートピア』で知られるトマス・モア（1478年 - 1535年）はイングランドの代表的な人文主義者であり、フィチーノの著作に影響を受け、エラスムスと交友を持った。また、フランシス・ベーコン（1561年 - 1626年）はセネカの思想の影響を受け、『随想録』を執筆した。

スペイン

絵画 - エル・グレコ（1541年 - 1614年）が知られる。クレタ島出身のギリシア人でヴェネツィア・ローマを経てトレドに移り住む。マニエリスムの影響を受けながらも、独自の神秘的な画風を築いた。

文学 - 小説家セルバンテス（1547年 - 1616年）は、スペインのエラスムス主義者フロン・ロペス・デ・オーヨスの弟子であり、20代初めにローマで枢機卿に仕え、イタリアの先進文化にふれた。1605年に出版された「ドン・キホーテ」は当時ベストセラーになり、現在では「近代小説の始まり」と評価されている。

俗語で書かれた文芸作品も多く（「神曲」、「デカメロン」、「カンタベリー物語」、「ガルガンチュワ物語」、シェイクスピアの戯曲、「ドン・キホーテ」など）、各国の国語が形成されていった時期に重なっている。一方、各国の知識人が交流する上で、中世以来の国際語であったラテン語の役割も見逃せない。例えばネーデルラントのエラスムスとイングランドのトマス・モアはラテン語という共通語があったことで、思想的な交友を持つことができた。

なお、建築の分野では、イタリアで生まれたルネサンス建築が規範となり、他の国にも普及していった。古典様式をいかに理解し消化するかが課題となり、それぞれの国で特色ある様式が生まれた（北方ルネサンス建築の項を参照）。ルネサンス以降、古代ギリシア・ローマを範とする古典主義建築が正統的な建築様式と見なされるようになり、20世紀に至るまで権威を保った。

宗教改革（しゅうきょうかいかく）とは、

16世紀（中世末期）のキリスト教世界における教会体制上の革新運動である。ルターの贖宥状批判がきっかけとなり、以前から指摘されていた教皇位の世俗化、聖職者の墮落などへの信徒の不満と結びついて、ローマ・カトリック教会からプロテスタントの分離へと発展した。

ルターによるルター教、チューリッヒのツヴィングリやジュネーヴのカルヴァンなど各都市による改革派教会、ヘンリー8世によって始まったイギリス国教会などが成立した。また、当時はその他にアナバプテスト（今日メノナイトが現存）など急進派も力を持っていた。

[時代背景]

人文主義者による聖書研究が進んだために起こった「原始キリスト教精神に帰るルネサンス的運動」としてつかむ立場もある。すなわち、同じルネサンス的運動が、イタリアにお

いては、ギリシア・ローマの古典文化への復帰として表れ、ドイツにおいては、聖書への復帰と言う形で現れたとする考え方である。特にアルプス以北の諸国において、ルネサンスの一部である人文主義の研究は、宗教上のものと結びつきやすかったとされる

16世紀は近代国家の萌芽の時代で、それまで各地域からの教会税はバチカンの収益となっていた。近代国家の誕生とともに、各国は経済的な理由から自国の富がバチカンに流れることを可とせず、自国内に止めておくことをむしろ歓迎し、それぞれの地域の教会が、ローマと絶縁することを積極的に後押しした。また、宗教改革の理念が拡大・浸透するうえでは、グーテンベルクによる印刷技術が大きな役割を果たした。

[先駆的運動]

サヴォナローラ

イングランドのウィクリフ（1320年頃 - 1384年）やベーメンのフスらの聖書主義者やサヴォナローラらが行ったローマ教会の批判が、宗教改革の先駆的運動ともみなされる。1415年にフスはローマ教会によって処刑され、プロテスタント殉教者として知られている。1419年、第一次プラハ窓外投擲事件を契機としてフス戦争（1419年 - 1434年）が始まった。1498年にサヴォナローラはローマ教会によって処刑され、プロテスタント殉教者として知られている。

近年では福音主義的・聖書主義的特性からワルドー派始祖のワルドー（1140年 - 1218年）も宗教改革の先駆とも評される

[宗教改革の経過]

ドイツの宗教改革

ルターの宗教改革

95ヶ条の論題

1517年、ルターはローマ教会に抗議してヴィッテンベルク市の教会に95ヶ条の論題を打ちつけた。これが、一般に宗教改革の始まりとされる。この贖宥状批判は大きな反響を呼んだ。宗教改革は各地に拡大し、ローマ教皇に嫌悪を抱いていた周辺の諸侯の支持を得た。当初ルターに新宗派を創設する意思はなく、あくまでもカトリック教会内部の改革を望んでいたのだが、対立は先鋭化し、1520年には教皇レオ10世はルターが自説の41か条のテーゼを撤回しなければ破門すると警告したが、ルターはこれを拒絶。1520年12月に回勅と教会文書をヴィッテンベルク市民の面前で焼いた。これを受けて1521年にルターは破門され、ここでルターはカトリックと完全に絶縁し、新しい派を立てることとなった。

[騎士戦争]

騎士戦争あるいはドイツ騎士戦争（1522年 - 1523年）は騎士のフランツ・フォン・ジッキンゲン（Franz von Sickingen）によって導かれた多くのプロテスタントと人文主義者のドイツの騎士によるローマ・カトリック教会と神聖ローマ帝国皇帝に対する反乱である。この反乱は、「貧しい男爵の反逆」とも呼ばれる。この反乱自体は短期間で鎮圧されたが、ドイツ農民戦争（1524年 - 1526年）のさきがけとなった。

[ドイツ農民戦争]

ルターの説は主にドイツ北中部において大きな支持を受け、この地域の諸侯領において相次いで領邦教会が設立されるようになった。1524年には農奴制からの解放を求める農民も

反乱を起こし、神学者であったミュンツァーがこれに呼応して反乱は拡大したが、闘争が激化するとルターはこれを批判するようになり、鎮圧された（ドイツ農民戦争）。

[シュマルカルデン戦争]

カトリックを支持する神聖ローマ皇帝と、ルター派の諸侯の間で戦闘が続いた。

シュマルカルデン戦争（ドイツ、1546年 - 1547年）

1555年にアウクスブルクの和議が結ばれ、諸侯はカトリックと新教（ルター派）を選択する権利が認められた。

[宗教戦争]

ドイツ、フランスなどではローマ・カトリック勢力とプロテスタント勢力が争い、凄惨な闘争を繰り広げた。

三十年戦争（ドイツ、1618年 - 1648年）

八十年戦争（オランダ、1568年 - 1648年）

[スイスの宗教改革]

[ツヴィングリの宗教改革]

ツヴィングリが公の場に出るのは、1522年になってからのことである。チューリッヒ革命を巡って討論がされた。

[カッペル戦争]

第1次カッペル戦争（スイス、1529年）

第2次カッペル戦争（スイス、1531年）

[カルヴァンの宗教改革]

カルヴァンはすでにギョーム・ファレルによって宗教改革が始まっていたジュネーヴに立ち寄った際に、請われて留まりそこで活動するようになった。ルターの宗教改革が信仰の改革に徹していたのに対し、カルヴァンは礼拝様式と教会制度の改革に着手した。礼拝式文を整え、ジュネーブ詩篇歌を採用し、信仰告白・カテキズム・教会規則を整備し、教師職の他に（彼らの理解によれば）初代教会以来の信徒の職務である長老職と執事職を回復し、長老制の基礎を作った。またカルヴァンは聖餐を重んじ、毎回の礼拝でこれを執り行おうとしたが、それは市当局の反対により実現しなかった。

[イングランドの宗教改革]

イングランドでは、ヘンリー8世の離婚問題が改革の直接原因で、政治的・経済的な動機も強い。ヘンリー8世は、教皇権と分離したイギリス国教会（アングロ・カトリック）を設立し、新たに教会組織を作ろうと図った。これに反対した大法官モアは処刑された。のちヘンリー8世はローマ・カトリックの修道院を多数廃止し、その財産を没収して、国庫へと入れた。

ヘンリー8世のあとを継いだエドワード6世は、1552年にノックスの影響を受けたカルヴァン主義的な42箇条に署名し、エドワード6世の時代にプロテスタントの宗教改革が進められたが、メアリー1世はローマ教皇を中心とするカトリック教会を復活してプロテスタントを取り締まり、約300人を処刑したため、ブラッディ・マリー（血まみれマリー）と呼ばれた。これは、ローマ教皇を中心とするカトリック教会の考えによれば、修道院解散で富を得た者たちが反発したにすぎないとしている。

メアリー1世の後を継いだエリザベス1世は再びイングランド国教会を国教とし、イングラ

ンドにおける国教会の優位が確立した。しかし、政治的・経済的な動機が強かったイングランドの改革を不十分とみなし、更に改革を推し進めたのが清教徒たちであった。

[スコットランドの宗教改革]

スコットランドの宗教改革はハミルトンを始めとして、本格的な宗教改革が行われるようになるが、ハミルトンは志半ばで1528年に処刑された。後にジョージ・ウィシャートも宗教改革を実践し、カルヴァンとツヴィングリの信仰をスコットランドに広めたが、彼もハミルトン同様に1546年に処刑された。

その後、ウィシャートの弟子であったノックスにより長老派教会が形成され、スコットランド教会の宗教改革が進められた。

[フランスの宗教改革]

サン・バルテルミの虐殺

フランスの改革派教会であるユグノーが成長したが、ローマ・カトリックによるサン・バルテルミの虐殺が起これ、カトリック信徒がプロテスタントを弾圧したため、プロテスタントは組織的には壊滅状態になった。

ユグノー戦争（フランス、1562年 - 1598年）

[デンマーク＝ノルウェーの宗教改革]

クリスチャン3世

デンマーク＝ノルウェーでは伯爵戦争終結後、クリスチャン3世が教会領を没収、1537年には教会法を制定した。デンマークの支配下に入ったノルウェー、アイスランドでは上からの宗教改革が推し進められた。

[ローマ・カトリック教会側の反応]

[対抗改革（対抗宗教改革）運動]

カトリック内部でも改革の必要性は認識されていたが、プロテスタント運動が引き金となり、カトリック教会ではトリエント公会議（1545年 - 1563年）を開催した。また、他を非難するよりも自ら戒め、規律正しい宗教生活しようとイグナチオ・デ・ロヨラやフランシスコ・ザビエルらが中心となり、1534年にイエズス会が設立された。イエズス会はその後、キリスト教の大分裂を防ぐべく欧州各国に勢力を伸ばし、非ヨーロッパ諸国への布教

活動を行った。（→対抗改革）

[正教会との関係]

[ルター派と総主教イェレミアス2世のやり取り]

ルター派は当初、プロテスタントと正教会の合同を模索し、チュービンゲンのルター派神学者、マルティン・クルシウス（Martin Crusius）とヤーコプ・アンドレー（Jacob Andreae）が署名した書簡を、正教会のコンスタンディヌーポリ総主教イェレミアス2世に送った。

1573年10月15日、書簡を携えたルター派側の使節ステファン・ゲルラッハ（Stephen Gerlach）と総主教イェレミアス2世との最初の会見が行われ、会見の場は和やかな雰囲気にも包まれた。ゲルラッハはその後すぐ、総主教の質素な服装と机、その人柄に感嘆した旨をチュービンゲンに書き送り、総主教からの返答が期待出来るとの報告を行った。クルシ

ウスはこれに対して2通目の書簡を書き、1575年1月4日にはイエレミアスが友好的かつ慎重な返信を書いている。

この間、ルター派側ではフィリップ・メランヒトンにより、アウクスブルク信仰告白のギリシア語への翻訳作業が進められていた。クルシウスとアンドレーは、このギリシア語に翻訳されたアウクスブルク信仰告白を総主教イエレミアス2世のもとに送り、条項ごとの賛否の見解を示すよう依頼した。ちょうど総主教庁聖シノドの開会期間中の1575年5月24日、ゲルラッハはイエレミアス2世にギリシア語訳された信仰告白を渡した。

イエレミアス2世およびその教会における協力者達（主教、神学者、修道士達）は送られて来た「信仰告白」につき慎重に検討を重ねた。そして1576年5月15日、「アウクスブルクの信仰告白についての見解」がまとめ上げられた。この「見解」はチュービンゲンにおいて大いに歓迎されたが、イエレミアス2世は「見解」中において、信仰の源泉たる聖書と聖伝をめぐる、正教会とルター派の見解の一致点と相違点を、正教の教えを詳述しつつ指摘していた。

1577年6月18日にチュービンゲンからは、ルター派側による新しい教理を正当化する内容を含んだ書簡がイエレミアス2世に対して送られた。巡回に出掛けていたイエレミアス2世の手許に届いたのは1578年3月4日。イエレミアス2世は協力者達とともに、友好的ではあるがはっきりと、聖伝を守るよう父親のように教え諭す返信を書き送った。

1580年6月24日、ルター派からの返信が届いた。これに対し、イエレミアス2世は聖伝のみならず、聖神（聖霊）の発出（フィリオクエ問題）や自由意思に関する問題においても、ルター派と正教の間で一致点が見出せないと判断して論駁。これで、ルター派と正教会の間に行われたこの書簡のやり取りは終わった。

両教会のやり取りに対するカトリック教会の対応[編集]

ルター派と正教会が上述のように書簡のやり取りを行っている事は、ローマ教皇庁も把握していた。教皇庁は正教会とルター派が合同することを恐れ、注視していた。

正教会に対するカトリック教会の影響力を拡大することを狙い、教皇グレゴリウス13世はコンスタンディヌーポリ総主教庁に使節団を送り、グレゴリオ暦を導入するよう呼びかけたが、イエレミアス2世はこれを拒否。以降、現代に至るまで正教会はグレゴリオ暦を

（ごく一部を除き）使用していない。修正ユリウス暦が20世紀に入って少なく無い一部の正教会に導入されたが、これも厳密にはグレゴリオ暦ではない。

[エルサレム公会]

16世紀末から17世紀にかけて、正教会は宗教改革、および対抗宗教改革の両方から深い影響を蒙った。プロテスタントの影響を受けたと評される総主教としてキリロス・ルカリス、カトリック教会の影響を受けたと評される主教としてペトロー・モヒーラが挙げられる。正教信仰に対する西方教会からの影響に対し、1672年、エルサレム総主教ドシセオス2世の主導でエルサレム公会が開かれ、宗教改革でプロテスタントから示された教理につき討議が行われた。その結果、「聖書のみ」「予定説」「象徴説・共在説」「聖書正典の範囲」といった、プロテスタントの主張の殆どが否定された。この公会において正教会は、プロテスタントとの教理の違いのみならず、カトリック教会とも違いがあることを示した。

[主要年表]

[15世紀以前]

14世紀 ウィクリフの改革（イングランド）

1415年 フス処刑

1419-1436年 フス戦争（フス派が神聖ローマ帝国皇帝と争う）

1494-1498年 サヴォナローラの改革（フィレンツェ）と処刑

[16世紀]

- 1516年 エラスムス『校訂版 新約聖書』刊行
- 1517年 ルターの「95ヶ条の論題」（ドイツの宗教改革始まる）
- 1520年 ルター『キリスト者の自由』（信仰義認説の確立）『ドイツ貴族に与える書』
『教会のバビロニア捕囚』
- 1521年 ルターのヴォルムス帝国議会への召喚、ヴァルトブルク城に遁れる
- 1522-1523年 騎士戦争
- 1524年 エラスムス『自由意志論』（ルターと論争）
- 1524-1525年 ドイツ農民戦争（ミュンツァー殉教）
- 1526年 シュパイエル帝国議会でルター派を容認
- 1527年 ローマ略奪
- 1529年 シュパイエル帝国議会でルター派を再禁止
- 1529年 第1次カッペル戦争（スイス）
- 1531年 第2次カッペル戦争（スイス）
- 1534年 檄文事件（フランス）
- 1534年 ロヨラらによりイエズス会設立
- 1536年 カルヴァン『キリスト教綱要』刊行、ジュネーヴで改革に協力（-1538年）
- 1536年 ヘンリー8世、国王至上法を公布（イングランド）、これを批判したモアは翌年
殉教
- 1536年 伯爵戦争終了。クリスチャン3世によるデンマーク＝ノルウェーの宗教改革開始
- 1536年 グスタフ1世によるスウェーデン国教会創設運動
- 1536年10月6日 ティンダルの処刑
- 1541年 カルヴァンがジュネーヴに戻り改革に取り組む
- 1545-1563年 トリエント公会議
- 1546-1547年 シュマルカルデン戦争（ドイツ）
- 1553年 三位一体を否定した異端の神学者セルヴェが火あぶりになる（ジュネーヴ）
- 1554年 フィンランドの牧師アグリコラによる教会改革
- 1555年 アウクスブルクの和議
- 1562-1598年 ユグノー戦争（フランス）
- 1568年 ネーデルラント諸州の反乱（八十年戦争）
- 1572年 サン・バルテルミの虐殺（フランス）
- 1573年 ルター派と正教会との間で書簡のやり取りが開始される
- 1580年 ルター派と正教会との間での書簡のやり取りが止む
- 1598年 ナントの勅令（フランス）

[17世紀]

- 1618-1648年 三十年戦争（ドイツ）
- 1631年 マクデブルク虐殺
- 1648年 ヴェストファーレン条約

科学革命（かがくかくめい）と

和訳される概念には、次の2つがある。

「科学革命」（英: Scientific Revolution）とは、歴史学者ハーバート・バターフィールドが1949年に考案した時代区分の名称で、ニコラウス・コペルニクス、ヨハネス・ケプラー、ガリレオ・ガリレイ、アイザック・ニュートンらによる科学の大きな変革と、科学哲学上の変化を称する。しばしば「17世紀科学革命」と呼称される。

「科学革命」（英: scientific revolution）とは、トマス・クーンが1.の「科学革命」を拡張した概念で、いわゆる「パラダイム転換」一般を指す。しかし、この2者の「科学革命」という言葉の意味や綴りには大きな違いがある。

[バターフィールドの科学革命]

イギリスの科学史家H.バターフィールドが提唱した「科学革命」（英語: Scientific Revolution）は、歴史上ただ1回、主に17世紀に生じた科学の大規模な変革を指す固有名詞である。バターフィールドは、1949年の著作『近代科学の誕生』The Origins of Modern Scienceにおいて、近代を画する時代区分点として、従来のルネサンスや宗教改革よりも、17世紀の近代科学の成立という事象をあて、これを産業革命にならって「科学革命」と呼称した。

バターフィールドには、従来の歴史観があまりにもヨーロッパ中心的であり、歴史の実情からは遠いという反省があった。彼は、17世紀に近代科学が出現するまでのヨーロッパ文明は、世界史の中で必ずしも指導的な立場にはなかったという論点に立ったのである。この時期に起こった明確な科学の変革はまず、従来の宇宙体系の変革にあった。それ以前の天動説に立った宇宙観が捨てられ、地動説への転換がなされたのである。これにもとづけば、科学革命の中心的な担い手はポーランドのコペルニクス、ドイツのケプラー、イタリアのガリレイ、イングランドのニュートンの4名であった。地動説は、単に惑星位置の計算方法の変更にとどまらず、当時の宇宙観そのものの転換に大きな影響を与えた。また、ガリレイによる自由落下運動の法則などの力学的な発見は、従来の目的論的自然観（物体がそれぞれの目的に向かって運動するというアリストテレス的な自然観）に変更をせまるものであり、万有引力の発見などをはじめとするニュートン力学の発表は、近代的な機械論的自然観の提唱につながり、また、これまで地上のものと天上のものとを二分してきたキリスト教的世界観をくつがえした一方、多くの技術革新を導き、18世紀における蒸気機関の開発、さらには産業革命へとつながった。

誰にでも再現可能な方法、すなわち実験や観察によって自説の正しさを証明するという方法が採用されはじめたのもまた、この時代からであった。それ以前は、経験知を軽視して純論理的な哲学的真理が追究され、科学的な証明方法は十分に確立されていなかった。ガリレイは、その著作のなかで実際に球を転がし、振り子を往復させた結果を記述し、読者に再現可能な実験の方法と結果を提示することによって自説の正しさを証明した。また、ケプラーはルドルフ星表を作り、天動説よりも地動説の方が、より精密に惑星の運行を計算できることを明示した。これらの手法は哲学にも大きな影響を与え、科学哲学の成立を促した。

バターフィールドは、『近代科学の誕生』のなかで「この革命（科学革命）は近代世界と近代精神の真の生みの親として大きく浮かび上がってきた」と述べ、科学革命の意義と歴史的重要性を説いたのである。

[バターフィールドへの批判]

バターフィールドの説が発表されると、それをめぐる議論が起こった。近代科学の成立を新しい時代の画期とすることに賛同しない立場からの意見は、「科学革命」の意義は認めるが、「科学革命」の歴史全体への評価は受け入れられないというものが多かった。その

ため、後述のトマス・クーンによる「科学革命」と区別する際、日本語では「バターフィールドの科学革命」という表記ではなく、「17世紀科学革命」と表記されることが多い。

[第二次科学革命]

バターフィールドの所論を拡張し、18世紀の産業革命期における、蒸気機関などの科学技術の発展とそれが産業や社会に果たした役割を評価して、特に「第二次科学革命」または「18世紀科学革命」と呼ぶことがある。

[クーンの科学革命]

アメリカの科学史家トマス・クーンの「科学革命」（英語: scientific revolution(s)）は、英語綴りが小文字から始まり、しばしば複数形が使用されることから察せられるように、普通名詞であり、バターフィールドの「科学革命」よりも広い意味で使用される。クーンは、1962年、『科学革命の構造』The Structure of Scientific Revolutions を著し、科学は「通常科学」と「科学革命」より構成されると主張、特定の科学者集団が奉じるパラダイム（一定の期間その集団の科学者に、問いと答えの範型を与える古典的な業績）にしたがって「通常科学」の研究がおこなわれるが、その過程で変則性が顕現するにいたって当該パラダイムに危機が生じ、ついに「科学革命」がなされて、別のパラダイムが生み出され、それと交代する事実があることを指摘した。すなわち、科学者は一定の発想、前提、枠組み、ルールなどにしたがって研究を進め、できるだけその枠内で問題解決を図る傾向にあるものの、このような試みが行きづまると、枠組み自体が疑われることになり、混乱期を経て思考の枠組みの大幅な変更が起こることになる。これをクーンは「科学革命」と称し、しばしば「パラダイムシフト」（パラダイム転換、パラダイムチェンジ）と言い換えられる。クーンによれば、こうした「科学革命」は歴史上何度も起き、また、現在も起こりつつある。クーンによれば、天動説が地動説に転換したできごとだけではなく、ニュートンの力学体系が行きづまってアルベルト・アインシュタインの相対性理論が生みだされたという事象や経緯もまた「科学革命」のひとつに数えられる。また、新旧パラダイムは根本的な前提やものの見方において大きく異なるために、共通の指標や約束事をもたず、たとえば同じ用語を用いても意味と内容が異なっていたり、相互に共約が不可能である。これを、クーンは「共約不可能性」（incommensurability）と述べた。

従来、科学はただ累積的に一方向にむけて進歩すると考えられていたが、クーンの言説は、「科学革命」によって研究の路線の方向性そのものが変化しうるものであることを提示しており、一般思想界にも強い影響を与えた。

新石器革命（しんせつきかくめい、英: Neolithic Revolution）は、

新石器時代に人類が農耕・牧畜を始めたことと関連して定住生活を行うようになった、一連の変革のことである。農耕・牧畜と定住のどちらが先かについては諸説ある。農耕の開始による観点から農耕革命（あるいは農業革命）、定住生活の開始による観点から定住革命などとも呼称される。

[概要]

人類が農耕を開始した理由については、狩猟・採集に頼った慢性的な飢餓状態から脱するためという説や、気候変動によって狩猟採集生活が不安定となった果てに穀類採取を行うようになったという説、これ以前に人口増加がおき狩猟・採集生活における臨界点を突破したため、それまで食料と認識されていなかった穀類採取を行うようになったという説

(M.コーエン) など諸説ある。また、定住生活を始めたことにより必然的に農耕・牧畜を始めるに至ったという説もある。

農耕を開始した時期についても諸説あるが、ヴィア・ゴードン・チャイルド「新石器革命」によると、紀元前1万年から紀元前8000年頃にシュメールで始まり、これとは独立して紀元前9500年から紀元前7000年頃にインドやペルーでも始まったとされる。その後、紀元前6000年頃にエジプト、紀元前5000年頃に中国、紀元前2700年頃にメソアメリカでも開始されるに至った。

農耕・牧畜の開始により、それまでの狩猟・採集による獲得経済から安定した食料の生産を可能とする生産経済へと移行した（食糧生産革命）。生産性の向上により人口が急増し、更なる生産力の向上に繋がり農耕・牧畜社会は拡大していった。一方、定住生活により集団・組織化が起き、やがて定着集落（村落）が形成された。また、一箇所に留まることが可能となったことで余暇も生まれ、時間を掛けて様々な物を製作できるようになり、石器もより手入れを必要とする磨製石器が主流となっていった。余剰生産・労働力により社会にゆとりが生まれ、交易を行う行商や専門技術を担う職人が出てくるようになった。定住農耕社会は分業を促進させていくと共に階級が生じ、社会構造が複雑化することで文明となり、やがて国家や市場が誕生するに至っている。

農業革命（のうぎょうかくめい）とは、

輪作と囲い込みによる農業生産の飛躍的向上とそれに伴う農村社会の構造変化を指す。特に言及がない場合は18世紀イギリスで起きたものを指すが、同様の現象は同時期の西ヨーロッパ全域で起きている。

カブなどの根菜と栽培牧草を特徴とする新農法は、従来の三圃制では地力回復のために避けられなかった休耕地を必要とせず、農業生産の増加と地力の回復を両立させ、また一年を通じた家畜の飼育が可能となった。農業生産が増加した結果、人口革命といわれるほどの人口増加をもたらし、産業革命の要因の一つとなった。

なお、トフラーは『第三の波』の中で、人類が約15000年ほど前から農耕を開始したことをもって「農業革命」と呼んだが、これは社会構造が狩猟採集社会から農耕社会に切り替わったことを示しており、歴史学で本来使われる農業革命とは別の概念である。

[概要]

農業革命にて導入された輪作は特にノーフォーク農法の名で知られる輪栽式農業が有名だが、軽土質地域以外では牧草栽培期間を長くした改良穀草式農法が採用された。どちらも小麦の他に、クローバー、サインフォイン、ライグラスなどの地力を回復させる性質を持った栽培牧草と家畜飼料となるカブ、ジャガイモなどを生産した。中世以来の三圃制では牧草の問題から一年を通じて家畜を飼育することは難しく、冬を前に屠殺し保存食料へと加工する必要があったが、カブなどの栽培によって冬期の飼料問題に制約されることがなく、家畜を一年中飼育することが可能となった。冬期以外は牧草栽培地にて放牧を行い、家畜由来の肥料で地力の回復を図り、牧草の枯渇する冬期はカブなどを家畜に与えた。また、三圃制ではどうしても土地を休ませる必要が生じたが、輪栽式農法にせよ、改良穀草式農法にせよ、栽培牧草と放牧の相乗効果により、穀物、カブ、牧草と連続して土地を利用することが可能であった。このような新農法を行うためにはより集約された労働と広い耕作単位が必要であったため、従来の開放耕地と混在地制を排し、効率的な農地利用を行う囲い込みが進められた。

[産業革命への影響]

かつてはこの際に農村で職を失った農民が都市に流入し、工場労働者となったと言われたが、現在では困り込み後も以前と変わらないか、より多くの労働力が農作業に必要とされたことがわかっている。そのため、産業革命に必要な労働力は直接的に農村から移動したというよりも、むしろ全体的な人口増加により労働力供給自体が大きくなったことによって賄われたと考えられている。なお、このような新農法導入と人口増加は同時期の西ヨーロッパ全体で広く見ることができたため、農業革命は産業革命の要因の一つであることは間違いないものの、イギリスで産業革命が起きたことの原因と見做すことはできない。

[社会的影響]

農業革命の結果、イギリスでは「三分割制」とよばれる土地制度が確立した。三分割制とは、大土地所有者である地主、地主から土地を借り受けた借地農、借地農に雇われる農業労働者からなる制度である。地主はイギリス各地に複数の領地を持つことが多かったため、直接農業経営に参画することはほとんどなくなっていた。そこで借地農が地主から土地を借り受け、農業労働者を雇い上げ耕作を行った。このような借地農はしばしば農業資本家とも見做される。

産業革命（さんぎょうかくめい、英: Industrial Revolution）は、

18世紀半ばから19世紀にかけて起こった工場制機械工業の導入による産業の変革と、それに伴う社会構造の変革のことである。市民革命とともに近代の幕開けを告げる出来事とされるが、近年では産業革命に代わり「工業化」という見方をすることが多い。ただしイギリスの事例については、従来の社会的変化に加え、最初の工業化であることと世界史的意義を踏まえ、産業革命という用語が用いられている。工業化ということも踏まえて、工業革命とも訳される。

[概要]

「産業革命」という言葉が初めて使われたのは1837年、経済学者のジェローム＝アドルフ・ブランキによってである。その後、1844年にフリードリヒ・エンゲルスによって広まり、アーノルド・トインビーが著作の中で使用したことから学術用語として定着した。もともとは1760年代から1830年代にかけてイギリスで起こった「最初の」産業革命を指した言葉だが、いわゆる発展段階論において市民革命と並んで、近代とそれ以前を分かつ分水嶺とされたため、イギリスを皮切りにベルギー、フランス、アメリカ、ドイツ、ロシア、日本といった風に順次各国でも産業革命が起こったとされた。

イギリスで産業革命が始まった要因として、原料供給地および市場としての植民地の存在、清教徒革命・名誉革命による社会・経済的な環境整備、蓄積された資本ないし資金調達が容易な環境、および農業革命によってもたらされた労働力、などが挙げられる。これらの条件の多くはフランスでもそれほど変わることはなかったが、唯一決定的に違ったのが、植民地の有無である。

イギリス産業革命は1760年代に始まるとされるが、七年戦争が終結し、アメリカ、インドにおけるイギリスのフランスに対する優位が決定づけられたのは1763年のパリ条約によってである。植民地自体は以前から存在していたので、1763年の時点でイギリスが市場・原

料供給地を得た、というよりも、フランスが産業革命の先陣を切るために必要な市場・原料供給地を失ったというべきであろう。いずれにせよ、イギリスはライバルであるフランスに先んじて産業革命を開始し、フランスに限らず一体化しつつあった地球上の全ての国々に対して有利な位置を占めることとなった。言い換えるならば、七年戦争の勝利によって、イギリスは近代世界システムにおける覇権国家の地位を決定づけたのである。

イギリスの産業革命は1760年代から1830年代までという比較的長い期間に渡って漸進的に進行した。またイギリスに限らず西ヨーロッパ地域では「産業革命」に先行してプロト工業化と呼ばれる技術革新が存在した。そのため、そもそも「産業革命」のような長期的かつ緩慢で、唯一でもない進歩が「革命」と呼ぶに値するか、という議論もある。

初期の軽工業中心のころを「第一次産業革命」、電気・石油による重化学工業への移行後を「第二次産業革命」、原子力エネルギーを利用する現代を「第三次産業革命」と呼ぶ立場があるが、このような技術形態に重きを置く産業革命の理解からは、「産業革命不在説」に対する有力な反論は出にくい。そのため、現在では産業の変化とそれに伴う社会の変化については、「革命」というほど急激な変化ではないという観点から、「工業化」という言葉で表されることが多い。ただし、イギリスの事例については依然として「産業革命」という言葉も使われている。

イギリスについて目を向ければ、労働者階級の成立、中流階級の成長、および地主貴族階級の成熟による三階級構造の確立や消費社会の定着など、1760年代から1830年代という

「産業革命期」を挟んで大きな社会的変化を見出すことができる。また世界史に目を向ければ、最初の工業化であるイギリス産業革命を期に、奴隷貿易を含む貿易の拡大や、現在にも繋がる国際分業体制の確立といった地球規模での大変化が始まったとも言える。

この世界規模での影響（負の側面も含めて）は、先行するプロト工業化などではなかったものである。そのため、産業革命は単なる技術上の変化としてではなく、また一国単位の出来事としてでもなく、より広い見地から理解される必要がある。

[イギリス産業革命の前提条件]

[毛織物工業と資本]

産業革命に先行して、イギリスでは新毛織物と呼ばれる薄手の羊毛製品の製造が盛んであった。もともとイギリスでは中世末期から毛織物が盛んで、フランドルなどに比較的厚手の半完成品を輸出していた。この種の毛織物は新毛織物に対して、旧毛織物と呼ばれる。その後、毛織物の主流は新毛織物へと変わり、当初イギリスはフランスやネーデルラントなどから新毛織物を輸入していたが、宗教改革後のスペインとの関係悪化により輸入が停止すると、ネーデルラント独立戦争の混乱を避け大陸から逃れてきた新教徒を集めて、自国での生産を開始する。

地方の地主、いわゆるジェントリたちがこの種の産業の担い手であったが、こういった農村工業の進展はプロト工業化と呼ばれる。毛織物工業で蓄積された資本は、後に綿織物工業に利用され、産業革命につながったとされるが、初期の綿織物工業にはそれほど大きな設備投資が必要ではなく、毛織物の担い手であったジェントリ以外にも雑多な職業の人間が参入していたことが分かっている。彼らの多くは蓄積された資本ではなく、借金によって必要な資金を賄ったといわれ、柔軟な資金供給が当時としては問題であったとも言われる。

[労働力]

18世紀から19世紀にかけて、西ヨーロッパにおいて一連の農業技術上の改革（イギリスでは特に農業革命と呼ばれる）があった。休耕地を無くした四輪作の導入、囲い込みによる

集約的土地利用などによって、食料生産が飛躍的に伸びた一方で、中小の農民は自営農から賃金労働者に転落した。しかし、賃金労働者となったとは言っても、従来言われたように職を失い都市部に流入したわけではない。

農業革命による新農法は広い土地を必要としたものの、依然耕作のための人手も必要としており、自営農であった者たちは同じ土地でそのまま農業労働者となったと言うのが正しい。むしろ食料生産の増加によってもたらされた人口の増加によって、産業革命に必要な労働力は賄われたといえる。

この人口増加は、イギリスに限らず西ヨーロッパ全域でおこっており、人口革命とも呼ばれる。またこの他にもアイルランドからの人口流入も労働力需要に応えたが、競争にさらされることとなったプロテスタント系イギリス労働者との間に軋轢を引き起こし、1780年にロンドンで発生した反カトリック暴動の原因ともなった。

[海外植民地]

資本の蓄積にしろ、人口増加にせよ、イギリス固有というよりもヨーロッパに共通の事柄であり、現在よく言われる様に、産業革命前夜のイギリスとフランスではさしたる差は存在しなかった。むしろ手工業という点ではイギリスよりもヨーロッパ大陸諸国の方が若干発達していたともされる。

フランスで起きなかった産業革命がイギリスで起こった原因は、イギリスにあってフランスに無かったもの、つまり広大な海外植民地であった。初期の産業革命で生産された雑工業製品の多くがヨーロッパ外の地域に向けられた事からも産業革命における海外植民地の重要性を見て取る事ができる。

[需要と市場保護]

インド産キャラコによって綿織物に対する需要が生み出されたが、ほどなく産地を問わずキャラコの輸入は禁止された。この措置は国内綿織物産業の保護策として働き、国産綿織物の躍進へつながった。さらに生活革命により、その他の雑工業製品に対する需要は飛躍的に大きくなった。これにより工業化がもたらす商品生産能力向上を吸収・消費する国内市場が形成された。

[産業革命の進展]

[織機・紡績機の改良]

1733年ジョン・ケイが、織機の一部である杼を改良した飛び杼 (flying shuttle) を発明して織機が高速化された。これは行程の一つの改善でしかなかったが、これにより綿布生産の速度が向上したために、旧来の糸車を使った紡績では綿糸生産能力が需要に追いつかなくなった。そのため、旺盛な需要に応じるために1764年ハーグリーブスがジェニー紡績機を発明した。これは、従来の手挽車が1本ずつ糸を取る代わりに、8本（のちに16本に改良）の糸を同時につむぐことのできる多軸紡績機であった。

1771年リチャード・アークライトが水力紡績機を開発した。これは綿をローラーで引き延ばしてから撚りかける機械で、ジェニー紡績機のように小形のものではなく、人間の力では動かない大形の機械であったので、水力を利用したものである。個人の住宅では使用できないため工場を設け、機械を据え付けて数百人の労働者を働かせて多量の綿糸を造り出すことに成功した。これにより、大量生産が可能になり、立地に制約がなくなったうえに紡糸作業に熟練した労働者が必要としなくなったため、失業を恐れる労働者や同業者などから妨害を受けた。この発明は、本格的な工場制機械工業のはじまりとなった。

そしてこれらの特徴を併せ持ったサミュエル・クロンプトンのミュール紡績機が1779年に誕生し、綿糸供給が改良される。すなわち、ジェニー紡績機の糸は細いが切れやすく、水

力紡績機の糸は丈夫だが太かったため、細くて丈夫な糸をつくろうとして生まれたのがミュール紡績機であった。ミュールとはラバのことで、要するにウマとロバの長所を採ったという意味である。

これらを受けてエドモンド・カートライトが蒸気機関を動力とした力織機を1785年に発明し、さらに生産速度は上がった。

これらのように、問題点の改良が各地で行われた結果として、生産性が加速度的に向上することとなった。問題点の解決が、生産余剰を生み出すと、次のプロセスが生産効率を揚げるといふ、相乗効果の中で、最終的な生産物が過去とは比較できない比率で生産出来るようになった。

[製鉄技術の改良]

[ワットの改良蒸気機関]

繊維業とならんでイギリス産業革命の推進役となったのが製鉄業である。イギリスでは既に16世紀頃から鉄製品に対する需要が高まっていたが、当時は木炭を用いていたため、急速に成長する鉄需要に対応するうちに木材が深刻に不足し、17世紀にはロシアやスウェーデンから鉄を輸入する事態となっていた。

18世紀に入り、コークス製鉄法がエイブラハム・ダービーによって開発されたことで状況は一変する。コークスは石炭から作られ、イギリスには石炭が豊富に存在したからである。その後更に改良が加えられ、19世紀始めには良質の鋼鉄も作られるようになった。

この様な鉄の需要は、はじめのうちは生活革命によって使用されるようになった軽工業製品によって牽引されたが、やがて産業革命が進むにつれて、工業機械や鉄道のためにさらなる鉄が必要となっていた。イギリスで作られた工業機械は、海外へ輸出され、ドイツなどの工業化を進めることとなった。

[動力源の開発]

ワット

石炭の採掘が盛んになると、炭坑に溜まる地下水の処理が問題となった。こうした中、1712年にニューコメンによって蒸気機関を用いた排水ポンプが実用化された。

1785年、ワットが蒸気機関のエネルギーをピストン運動から円運動へ転換させることに成功、この蒸気機関の改良によって、様々な機械に蒸気機関が応用されるようになった。それまで工場は水力を利用するために川沿いに建設するほかなかったが、ワットが蒸気機関を改良したことによって、川を離れ都市近郊に工場を建設することが可能となった。これにより新興商工業都市は更なる成長を遂げるが、一方で過密による住環境の悪化を招くこととなる。

[移動手段の発達]

1807年のフルトンによって蒸気船が実用化された。また1804年のトレビシックにより蒸気機関車が発明され、その後蒸気機関車はスチーブンソンによって改良された。

河川や既存の運河を利用できる蒸気船はともかく、蒸気機関車を利用するためには線路を敷設する必要があったため、その効果が現れるまで時間がかかったが1830年代後半になると鉄道網の整備が進み始め、1850年までには6000マイルの鉄道が開通した。これらの移動手段の発達は「交通革命」と呼ばれる。

エネルギー革命（エネルギーかくめい）とは、

主に使用されているエネルギー資源が他の資源へと急激に移行することを指す。

「革命」という言葉の定義上、「石油が枯渇しそうだから原子力を使う」といった意味で

使うことは誤りで、「より効率の高い新エネルギー資源の実用化により旧来の資源が必要とされなくなった」という意味において使用されるのが正しい。

[主なエネルギー革命のステップ]

[木から木炭へ]

青銅や鉄の鑄造が可能となった。

[木炭から石炭へ]

蒸気機関の発達を促した。

産業革命を促進し、先進国の工業化を後押しした。

[石炭から石油へ]

内燃機関の発達を促した。

各種産業の高度化を促した。

[日本のエネルギー革命]

日本における「エネルギー革命」とは、一般的には第二次世界大戦後の1960年代に、それまで燃料の主役であった石炭から石油や天然ガスへ転換されたことを指す。

1950年代に中東やアフリカに相次いで大油田が発見され、エネルギーの主役が石炭から石油へと移行した。日本においても1962年（昭和37年）10月の「原油の輸入自由化」をきっかけとして、石炭は長く続いたエネルギーの王座を石油に譲ることとなった。大量に安く供給された石油は、さまざまな交通機関、暖房用、火力発電などの燃料として、また石油化学製品の原料として、その消費量は飛躍的に増えた。

他にも日本国内産の石炭の生産を中止して低価格で品質の良い輸入石炭に移行した現象や、家庭での暖房器具が燃料主体から電気を主体とした器具に移行した現象などに対しても使われることがある。

日本のエネルギー革命は他国と同様、蒸気機関よりも熱効率のよい内燃機関の発達を促し、産業の高度化にもつながった。反面、北海道空知地域・福島県東部・山口県西部・九州北部（筑豊など）の産炭地ではそれまで産業の基盤であった炭鉱が次々と閉山に至り、多くの炭鉱労働者が失業し、関係自治体の著しい衰退へとつながっていった。

[エネルギー革命と依存]

エネルギー革命は、その地に属する基礎となる物質の偏在から、特定の物をめぐる産出国への依存・輸入にたよる経済状態へと変革せざるを得なくなった。

生木から木炭への変革は、構造の変革なので偏在は問題とならなかったが、石炭への変革は非産出国家が輸入に頼らざるをえない状況を生み出した。

石炭の場合はそれほど偏在するものでもなかったが、主体が石油に替わるとますます偏在が顕著になり、産出する地域をめぐる争いは苛烈にならざるをえないものになった。

そのことによって、石油産油地域を巡る帝国主義諸国の争いは、兵器の発達とともに第二次世界大戦において頂点に達する。

この構造は、21世紀にいたってもかわっておらず、それらの地域をめぐる争奪戦は現在においても続けられている。

そのことは、それはアメリカ合衆国とイギリスがイラクに侵攻したイラク戦争や、ロシアがグルジアに侵攻した南オセチア戦争にも現れている。

情報革命（じょうほうかくめい、英: Information revolution）とは、

情報技術の発展によって、社会や生活が変革することである。情報技術 (Information technology = IT) との関係性から、IT革命（アイティーかくめい）、情報技術革命（じょうほうぎじゅつかくめい）とも呼ばれる。なお、IT革命という言葉は2000年の新語・流行語大賞に受賞しているが、以後は翌年のITバブル崩壊による失望感や言葉自体が色褪せたこともあり、使用される頻度は大幅に減っている。また、インターネットなど通信 (communication) も含めて情報通信革命、ICT革命と国際電気通信連合などで呼称されている。

元々はイギリスの科学者でマルクス主義者のJohn Desmond Bernalがマルクス主義の枠内で最初に用いた言葉だが、現在ではマルクス主義とは別に広く定着している。

[概要]

1980年代以降、急速に発展したコンピュータ・情報通信技術は社会や生活のあり方に劇的な変化をもたらしている。21世紀に入り、一定額を支払えば接続し放題となる定額制のブロードバンド回線やデータ通信端末、公衆無線LAN、携帯電話などの普及により、常時インターネットに接触できる環境が整ってきている。産業構造などにもたらされた変革は18世紀の産業革命（工業革命）にも比肩しうるものとの見方から、情報（技術）による革命＝「情報革命」と呼ばれる。また、脱工業社会（ポスト工業社会）の観点から語られる場合もあり、情報化した社会は情報社会とも呼ばれる（ただし、情報社会という言葉は情報技術革新の範疇に限らない場合もある）。

人類の技術から考えると、最初に農業による農業革命が起こったとされ、その後の工業による工業革命に続き、情報革命は3度目の革命ともいわれている。なお、1度目の革命とされる農業革命は、18世紀における農業の技術革新やそれに伴う社会の変化を指す場合と、アルビン・トフラーなどが唱える約15000年ほど前に農耕が開始されたことに伴う狩猟採集社会から農耕社会への置換（農耕革命とも呼ばれる）を指す場合がある。

情報革命が起こった社会は、工業社会から情報社会に移行するとされており、2010年代に入った現在においても世界規模（グローバル）で進行中にあるとの見方が一般的である。グローバルに進行する情報革命は経済や産業を筆頭に世界の結びつきをより強くしている。あるいは、発展的で民主的なコミュニティーの形成が期待されるという考え方もあるが、現実世界におけるコミュニティーの分断や情報格差を危惧する声もある。

暴力革命（ぼうりょくかくめい）とは、

武力を用いた革命を指す。平和革命の対義語。武力革命、武装革命と同義語。

[マルクス・レーニン主義の立場]

マルクス、エンゲルス

1848年、マルクスとエンゲルスは『共産党宣言』の中で次のように書き、暴力革命の方針を明確にした。

共産主義者は、自分たちの目的が、これまでのいっさいの社会秩序の暴力的転覆によってしか達成されえないことを、公然と宣言する。

また1875年、マルクスは『ゴータ綱領批判』でプロレタリア独裁を主張し、平和的な社会

改良を主張するラッサール主義を、「日和見主義」と批判した。

しかし、1872年には、マルクスは第一インターナショナルで次のように演説し、平和革命の可能性にも言及した。

新しい労働の組織をうちたてるためには、労働者はやがては政治権力をにぎらなければならないが、われわれは、この目標に到達するための手段はどこでも同一だと主張したことはない。「われわれは、それぞれの国の制度や風習や伝統を考慮しなければならないことを知っており、アメリカやイギリスのように、そしてもしわれわれがあなたがたの国の制度をもっとよく知っていたならば、おそらくオランダをもそれにつけくわえるであろうが、労働者が平和的な手段によってその目標に到達できる国々があることを、われわれは否定しない。だが、これが正しいとしても、この大陸の大多数の国々では、強力がわれわれの革命のてことならざるをえないことをも、認めなければならない。労働の支配をうちたてるためには、一時的に強力にうったえるほかはないのである。」

また1895年に、エンゲルスは次のように書き、普通選挙による合法活動を評価し、バリケードによる市街戦が時代おくれになったと指摘した。

普通選挙権がこのように有効に利用されるとともに、プロレタリアートのまったく新しい一闘争方法がもちいらははじめ、その方法は急速に発達をした。ブルジョアジーと政府は、労働者党の非合法活動よりも合法活動をはるかにおそれ、反乱の結果よりも選挙の結果をはるかに多くおそれる、というようになった。そのわけは、この点でも、闘争の条件が、根本的にかわってしまっていたからである。あの旧式な反乱、つまり1848年までどこでも最後の勝敗をきめたバリケードによる市街戦は、はなはだしく時代おくれとなっていた。

レーニン

レーニンは1902年の『なにをなすべきか』で、平和革命を認める修正主義を「日和見主義的な経済主義」と批判した。また1940年代の平和革命を認める構造改革路線も、マルクス・レーニン主義の立場からは「日和見主義」と批判された。

東欧革命

東欧革命は、社会主義を打倒して資本主義化をもたらした。マルクス主義からは反革命である。革命自体はレーニンのテーゼとは無関係で平和革命として推移し、暴力革命になったのはルーマニアだけであった。ユーゴスラヴィアは、民主化は平和的に進行したが、その後構成共和国や自治州の独立をめぐる内戦になった。内戦自体は革命でも反革命でもない。

[1950年代の日本共産党]

コミンフォルム批判と武装闘争の開始

1950年1月、コミンフォルムは機関紙において日本共産党が進めていた「占領下の革命」論（平和革命論）を批判した。そのため党内では批判に反論する所感派と、批判を受け入れる国際派などに分裂する事態が起こった。朝鮮戦争勃発後の1951年2月23日、当時主流派だった所感派は第4回全国協議会（四全協）において武装闘争路線をとることを決定した。

その後、コミンフォルムによる分派認定を受けた国際派が（当時の共産主義運動は国際的に一つに結束しており、コミンフォルムから分派と認定されると共産党としての正統性を失う状況にあった）自己批判することで統一を回復し、その直後に直後に開催された第5

回全国協議会（五全協）において、農村部でのゲリラ戦を規定した「51年綱領」が採択された。

しかし、1952年の血のメーデー事件の直後の衆議院議員選挙で、全議席を喪失するなど、国民が暴力革命を望んでいないことは明らかであった。また同年には破壊活動防止法（破防法）が制定されて日本共産党が主要な調査・監視対象にされるなど、非常に不利な状況に立たされた。

[武装闘争路線の放棄]

1953年に朝鮮戦争が終結、主流派所感派のリーダーであった徳田球一が死去すると、1955年に開催された日本共産党第6回全国協議会（六全協）において、日本共産党の武装闘争路線の放棄が決議された。これを不満とする党員が、新左翼（共産党はニセ「左翼」暴力集団と呼ぶ）結成へと動いた。

ここで否定されたのはこれまで行ってきた武装闘争路線の放棄であり、暴力革命そのものを否定しているわけではない。敵の出方論により内外の反動勢力（権力や右翼など）がクーデターなど非平和的な手段に訴えない限り、政治暴力は行使しない、というものである。また宮本顕治によって平和革命一元論が否定されている。この事などが、現在でもなお破壊活動防止法による調査対象団体に日本共産党が含まれる理由となっている。

[暴力革命の現況]

主に発展途上国では暴力革命を目指す共産主義組織が時折テロや暴力事件を起こすことがあるが、現代の日本含め先進国では暴力革命を主張・実践する左翼組織は警察の厳しい監視下にあり、事を起こすのは極めて難しくなっている。また、仮にテロをしても一般大衆の共感を得る可能性が低いのが21世紀を迎えた今の現状である。そのため、過去に暴力革命を掲げた組織が路線転換していることもある。現代の日本の場合、1960年代から1970年代にかけて一世を風靡した暴力革命を主張する新左翼の組織が若手獲得と組織維持のためにソフト化しているケースもある。ただ、これは暴力革命路線の放棄を意味するものではなく、あくまで一時的なペンディングであるとされ、組織を建て直し次第再びテロをする可能性があるため、日本の公安警察は警戒している。

平和革命（へいわかくめい）とは、

議会闘争・平和的デモなど、相対的に平和な方法で流血を極力避けつつ国家権力の階級移行を実現すること。社会主義革命としての平和革命では、ゼネラル・ストライキなど階級的な力の行使は否定されず、力によってブルジョワ階級から労働者階級への権力奪取をめざすという点では、革命であることにはかわりはない。

日本共産党は1950年代前半は武装闘争路線をとり、1955年第六回全国協議会（六全協）以降はこれまでの武装闘争路線を否定しつつも、平和革命一元論を否定し敵の出方論による暴力の行使の可能性を留保している。

六全協の方針転換などに反発して1950年代末期から1960年代前半にかけて生まれた新左翼は、平和革命を強く否定し、1970年代にかけて角材・鉄パイプ（ゲバ棒）で武装し街頭で機動隊と衝突したり火炎瓶・爆弾闘争をおこなったり、また、さらに過激な党派は世界を巻き込んでハイジャックや銃乱射、爆弾テロなどに訴えたが、ことごとく失敗した。

日本社会党は平和革命の立場に立っていたが、1986年決定の「日本社会党の新宣言」で革

命そのものを否定した。

平和革命を目指し選挙によって労働者による権力掌握に成功した例はあるが、チリ人民連合のアジェンデ政権のチリ・クーデターによる失敗に見られるように、社会主義革命としてはまだ実現していない。しかし、東欧革命・ソ連崩壊・台湾および韓国の民主化など平和革命とみられる国家権力の移行はすでにおこなわれている。

1999年に発足したベネズエラのチャベス政権およびその後継者であるマドゥロ政権は、社会主義平和革命の途上にあると言えるが、国家を社会主義体制へ移行させる新憲法案が僅差で否決されている。

クーデター (仏: *coup d'État*) とは

一般に暴力的な手段の行使によって引き起こされる政変を言う。

フランス語で「国家に対する一撃（攻撃）」を意味し、発音はフランス語: [ku deta]

(ク・デタ 発音例)、英語: [ˈkuːdeɪˈtɑː] (クーデイター) である。日本語では「クーデタ」や「クー・デ・タ」と表記することもある。英語では単に「*coup* (クー)」と表記されることが多い。

社会制度と支配的なイデオロギーの政治的な転換については革命、統治機構に対する政治的な対抗については反乱、政治的な目的を達成するための計画的な暴力の行使についてはテロリズム、単一国家の国民が階級や民族・宗派などに分かれて戦う武力紛争については内戦をそれぞれ参照されたい。

[概要]

歴史的には、アフリカ・アジア・ラテンアメリカの諸国においてはしばしば政治変動はクーデターによってもたらされている。政治的な暴力としてはクーデターだけではなく革命 (*revolution*) や反乱 (*rebellion*) などの概念もあるが、クーデターの概念はその暴力行為の政治的な意図によって区別される。

革命はイデオロギーの抜本的な改革を行い、政治権力や社会制度などの体制そのものの変革を目的とする。反乱は政治的な暴力の行使であり、より保守的な政治性を持ち政治的支配の変更を達成するために行われる。対してクーデターでは支配階級内部での権力移動の中で、既存の支配勢力の一部が非合法的な武力行使によって政権を奪うことであり、行為主体である軍事組織により、臨時政府の樹立と直接的な統治が意図された活動である。

このような定義に基づいた定量的な研究では、クーデターの発生が歴史的または地域的に偏っていることが明らかになっている。ファイナー (Finer, 1978) の研究によれば、1958年から1977年にかけて 157 件のクーデターが集中していることが分かっており、トンプソン (Thompson, 1978) の研究では 59 ヶ国で生じた 274 件のクーデターを分析しており、熱帯地域のアフリカでは特にクーデターが集中していると指摘している。

クーデターを成功させるための戦略と戦術について、ルトワク (Luttwak, 1979) が述べているように奇襲の成功と資源の確保が重要である。ただし、既存の統治機構から権力を奪取して臨時政府を樹立することが目標となるために、通常の軍事作戦とは異なる側面も指摘できる。

戦略的な局面においては、クーデターの達成を確実なものにするためには反撃を阻止して第三勢力による対抗クーデターや政治的介入を防ぐために活動の基盤となる物資や人員の喪失を回避しなければならない。また、速やかに大衆の支持を獲得して既存の政府に対する支持を無力化する必要がある。軍事組織それ自体は政治的な正当性を備えた組織ではないために、迅速に国家の首都に部隊で占拠して権力の中枢に関与している指導的な政治勢力を排除するか、もしくは従属させることを計画しなければならない。

戦術的な局面においては、クーデターは戦闘部隊が相手となるわけではないために少数の部隊で実施することが可能である。しかし、防諜の観点から実行部隊の人員は技能だけでなく信頼可能かどうかを判断して秘密裏に選抜しなければならない。一般に、有効な攻撃目標としては通信施設、空港などの交通施設、政府首脳官邸、国防省や警察本部などの官庁を挙げることが可能であり、反撃を準備する猶予を与えないように短時間のうちに目標を完遂することが不可欠である。

[クーデターの歴史]

歴史上のクーデターは、政権内の有力者、有力者を担いだ者または有力者を担ぐことを標榜する者が、自分や自ら担いだ有力者、自ら担ぐことを標榜した有力者より上位の有力者を一斉に無力化することにより、自分や自ら担いだ有力者、自ら担ぐことを標榜した有力者がトップに躍り出るというものである。

中央集権化が著しい体制の下では中央政権のトップが入れ替わると地方勢力もそれに従う傾向が強いが、一方封建制など地方分権の強い体制では、中央政権のトップが入れ替わったとしても必ずしも地方勢力がそれに従うとは限らず、クーデターの効果も限定的なものになったり、地方勢力の反撃によってクーデターが失敗に追い込まれることもしばしば見られる。

近世に入ってから多くの国で中央集権化が進んだためクーデターが容易になったが、近代に工業化が進み大衆が豊かになり社会構造が複雑化すると、地方政府、政党、官僚、警察、企業、労働組合、宗教団体、圧力団体、報道機関、その他コミュニティーといった多岐にわたる権力集団をすべて軍事力で掌握することは非常に困難になり、一般に、先進工業社会ではクーデターが稀になってきている。しかし、一般大衆の子弟が高等教育を受けることが困難で、立身出世を望む者が軍に集中する構造の社会では今もクーデターが頻発する。

現代では、軍事力は国軍が排他的に掌握しているため、国家体制が未発達で傭兵や民兵が企てる以外は、国軍によるクーデターがほとんどである。軍の最高幹部が起こすものと中堅幹部が起こすものがあり、後者の方がより体制変革（革命）の意識が強いが、どちらも革命評議会、臨時救国政府等と名乗る軍事政権（フンター西：Junta。“評議会”）を作ることが多い。そうでなければ最高幹部が名目上退役し、軍の力を背景に利権と弾圧によって形式上は民政に移行したうえで大統領になるというものである。

[その他]

カウンタークーデター（反クーデター）

あるクーデターに対抗する形で起こすクーデター。二度のクーデターによってライバルの有力者がほとんど消えることと、前のクーデターを悪者にして、自己の政権を正当化しやすくなるため、より巨大な権力の掌握が可能である。インドネシアの9月30日事件はその一例で、左派軍人のクーデターによって陸軍首脳が一掃された後にスハルト将軍が反撃してインドネシア共産党を壊滅させ、後の権力掌握の布石を置いた。

自己クーデター（逆クーデター）

現在の最高権力者が、反対派を排除し、より集中した独裁的な権力を求めて行うもの。民主的な制度で選ばれた権力者や寡頭制における権力者、あるいは立憲君主制の君主などが行う。フランス第二共和政下のナポレオン3世やペルーのアルベルト・フジモリのクーデター（アウトゴルペ）などがある。本来、クーデターが発生した場合追い落とされるべき人物が逆にクーデターを仕掛けるということで、逆クーデターと呼ばれることもある。

比喩としてのクーデター

会社や団体の最高実力者の交代に使われることもある。合法だが慣例を無視したやり方で、急速、強引に進められる人事を指す。事前に周到に準備を進めた役員が、役員会取締役会でいきなり最高責任者の解任の緊急動議を提出し、根回しを受けていた他の役員も賛成して強引に交代させるなどはその典型的なものであり、武力は使わないものの、週刊誌やタブロイドなどで比喩的にクーデターと呼ぶことがある。1982年に起こった三越の岡田茂社長に対する解任劇（三越事件）、セイコーホールディングスで起きた、子会社和光の長年の放漫経営に端を發した2010年の役員解任劇、2013年に川崎重工業で起きた三井造船との経営統合に端を發した長谷川聡社長などの解任劇等がその代表である。

ネルソン・ホリシャシャ・マンデラ

第8代大統領

任期 1994年5月10日 - 1999年6月14日

国民議会議員

任期 1994年 - 1999年

African National Congress Flag.svg アフリカ民族会議

第11代議長

任期 1991年 - 1997年

出生 1918年7月18日

政党 アフリカ民族会議

(南アフリカ共産党)

配偶者 エブリン・メイス

(結婚1944-1957; 離婚)

ウィニー・マンデラ

(結婚1958-1996; 離婚)

グラサ・マシエル

(結婚1998-2013; 死別)

ノーベル賞受賞者 ノーベル賞

受賞年：1993年

受賞部門：ノーベル平和賞

受賞理由：アパルトヘイト体制を平和的に終結させて新しい民主的な南アフリカの礎を築いたため

ネルソン・ホリシャシャ・マンデラ

（コサ語: Nelson Rolihlahla Mandela、1918年7月18日 - 2013年12月5日）は、南アフリカ共和国の政治家、弁護士である。

大統領（第8代）、下院議員（1期）、アフリカ民族会議議長（第11代）、南アフリカ共産党中央委員を歴任。

賞歴としてネルー賞、ユネスコ平和賞、アフリカ賞、サハロフ賞、ノーベル平和賞、国際検察官協会名誉章受章など。称号には名誉法学博士（早稲田大学）など。南アフリカ共和国での愛称はマディバ、タタ（父）。マディバとは彼の先祖が誰かを象徴する氏族名であり、部族社会の影響が残る南アフリカでは単なる愛称ではなく、尊称に近いものである。

ミドルネームのホリシャシャはコサ語で「トラブルメーカー」の意味。

[来歴]

若くして反アパルトヘイト運動に身を投じ、1964年に国家反逆罪で終身刑の判決を受ける。27年間に及ぶ獄中生活の後、1990年に釈放される。翌1991年にアフリカ民族会議（ANC）の議長に就任。デクラークと共にアパルトヘイト撤廃に尽力し、1993年にノーベル平和賞を受賞。1994年、南アフリカ初の全人種参加選挙を経て同国大統領に就任。民族和解・協調政策を進め、経済政策として復興開発計画（RDP）を実施した。1999年に行われた総選挙を機に政治家を引退した。

[反アパルトヘイトの闘士]

1918年7月18日にトランスカイのウムタタ近郊クヌ村で、テンブ人の首長の子として生まれる。メソジスト派のミッションスクールを卒業した後、フォート・ヘア大学で学ぶ。在学中の1940年には、学生ストライキを主導したとして退学処分を受ける。その後、南アフリカ大学の夜間の通信課程で学び1941年に学士号を取得した。また、その後、ウィットワータールスランド大学で法学を学び、学士号を取得した。1944年にアフリカ民族会議（ANC）に入党。その青年同盟を創設し青年同盟執行委員に就任して反アパルトヘイト運動に取組む。1950年、ANC青年同盟議長に就任。アフリカ民族会議を構成する南アフリカ共産党にもひそかに入党し、党中央委員を務めるようになる。1952年8月にヨハネスブルグにてフォート・ヘア大学で出会ったオリバー・タンボと共に弁護士事務所を開業する。同年の12月にANC副議長就任。1961年11月、ウムコント・ウェ・シズウェ（民族の槍）という軍事組織を作り最初の司令官になる。それらの活動などで1962年8月に逮捕される。1964年に国家反逆罪で終身刑となりロベン島に収監される。1982年、ケープタウン郊外のポルスモア刑務所に移監。この時、イギリス人傭兵の有志が集まってネルソンを救出する作戦が立てられたことがあったが、南アフリカ側への情報漏れで中止されたという。この収監は27年にも及び、マンデラはこの時期に結核を始めとする呼吸器疾患になり、石灰石採掘場での重労働によって目を痛めた。収監中にも勉学を続け、1989年には南アフリカ大学の通信制課程を修了し、法学士号を取得した。

[全民族融和の象徴]

1989年12月に当時の大統領フレデリック・デクラークと会談し、翌1990年2月11日に釈放される。釈放後、ANC副議長に就任。デクラークとの予備会談にANC代表として出席する。また、1990年10月27日から11月1日までANC代表団を率いて訪日している。1991年、ANC議長に就任。デクラークと協力して全人種代表が参加した民主南アフリカ会議を2度開き、さらに多党交渉フォーラムを開いた。暫定政府、暫定憲法を作成。1991年6月にアパルトヘイトの根幹法である人口登録法、原住民土地法、集団地域法などを廃止し、翌1993年12月10日にデクラークとともにノーベル平和賞受賞。1994年4月に南ア史上初の全人種参加選挙が実施された。ANCは勝利し、ネルソンは大統領に就任した。暫定憲法の権力分与条項に基づき国民党、インカタ自由党と連立政権をたて、国民統合政府を樹立した。ネルソンは民族和解・協調を呼びかけ、新憲法制定によるアパルトヘイト体制下での白人・黒人との対立や格差の是正、黒人間の対立の解消、経済不況からの回復として復興開発計画（RDP）を公表した。1997年12月のANC党大会でネルソンは、議長の座を副大統領のターボ・ムベキに譲る。1999年2月5日、国会で最後の演説をした。同年行われた総選挙を機に政治の世界から引退した。

[引退後]

2000年1月19日に国際連合安全保障理事会で初めて演説を行った。2001年7月に前立腺癌が発見され、7週間の放射線治療を受けた。2005年1月7日に前妻・ウィニーとの子供マカ

ト・マンデラがエイズによる合併症で死亡した事を公表した。2008年6月末、正式に米国政府により、テロリスト監視リストより名前が削除された。

2010年6月11日に行われたFIFAワールドカップ南アフリカ大会の開会式に出席する可能性が高いと親族が明らかにしていたが、前日にひ孫が交通事故で亡くなったことを受け、出席を断念。代わりにビデオメッセージを送った。なお閉会式には出席した。

この時以降公の場には姿を現さなかった。90歳を越えて高齢のため体に衰えが見え始めており、2012年12月8日に肺の感染症のため、首都プレトリアの病院に入院した。2013年4月6日、症状が改善したため退院した。しかし、2013年6月から体調は悪化し、感染症を再発し6月8日から再入院となった。

[死去]

2013年6月23日、南アフリカ大統領府は、ネルソンが危篤状態に陥ったと発表した。その後、ネルソンの容態は安定しており、7月18日に病室で95歳の誕生日を迎えた。娘のジンジは7月16日に、「ヘッドホンを着けてテレビを見ており、笑顔を見せた」という様子を語っている。ネルソンの誕生日に合わせて、2013年7月18日に、国際連合は本部で「ネルソン・マンデラ国際デー」の式典を開き、ネルソンの功績を称えると共に回復を祈った。2013年12月5日（日本時間6日未明）、ヨハネスブルグの自宅で死去。95歳没。

追悼式にはアメリカ3大ネットワークとCNN・BBCもそれぞれのアンカーマンを現地（ヨハネスブルグもしくはプレトリア）に派遣し、各国からも日本の皇太子徳仁親王、イギリスからはチャールズ皇太子とキャメロン首相、アメリカ合衆国よりバラク・オバマアメリカ合衆国大統領及びビル・クリントンやジミー・カーター元大統領、ブラジルのジルマ・ルセフ大統領、キューバのラウル・カストロ国家評議会議長など各国の国家元首もしくはそれに準ずる人物が出席し、追悼式典のVIP席でバラク・オバマとラウル・カストロが握手する、弔問外交となった。

[人物]

メソジスト教会で洗礼を受けたクリスチャンである。若き日の彼に大きな影響を与えたのは、テンプの人々の習慣とキリスト教のミッションスクールで受けた教育であった。

結婚は3度している。1944年にエブリン(Evelyn)と最初の結婚。1957年離婚。1958年、ウィニーと2度目の結婚。マンデラの収監中にウィニー夫人は獄外で政治活動を行った。しかし1992年4月13日、離婚の意思を表明し、4年後の1996年3月19日にウィニーとの離婚が成立。1998年7月18日にモザンビークの初代大統領で飛行機事故で亡くなったサモラ・マシエルの未亡人、グラサ・マシエル夫人と3度目の結婚。

大統領時代、日本のバラエティー番組「進め!電波少年」で松村邦洋のアポなしロケを受けたことがある（「イヨ!大統領!憎いねコノー!」と声をかけるというもの）。周りにはSPもいたが、突然のことに驚いた様子だったものの、遥々日本から来た松村を温かく歓迎した。

坂本 龍馬

（さかもとりょうま、天保6年11月15日（1836年1月3日） - 慶応3年11月15日（1867年12月10日））は、江戸時代末期の志士、土佐藩郷土。

諱は直陰（なおかげ）、のちに直柔（なおなり）。通称は龍馬。他に才谷 梅太郎（さいたに うめたろう、さいだに うめたろう）などの変名がある（手紙と変名の項を参照）。土佐郷土株を持つ裕福な商家に生まれ、脱藩した後は志士として活動し、貿易会社と政治

組織を兼ねた亀山社中（後の海援隊）を結成した。薩長同盟の斡旋、大政奉還の成立に尽力するなど倒幕および明治維新に影響を与えた。大政奉還成立の1ヶ月後に近江屋事件で暗殺された。1891年（明治24年）4月8日、正四位を追贈される。

[生涯]

[幼少年期]

高知市の生誕地

龍馬は天保6年（1835年）11月15日、土佐国土佐郡上街本町一丁目（現在の高知県高知市上町一丁目）の土佐藩郷士（下級武士）坂本家に父・八平、母・幸の間の二男として生まれた。兄（権平）と3人の姉（千鶴、栄、乙女）がいた。坂本家は質屋、酒造業、呉服商を営む豪商才谷屋の分家で、第六代・直益の時に長男・直海が藩から郷士御用人に召し出されて坂本家を興した。土佐藩の武士階級には上士と下士があり、商家出身の坂本家は下士（郷士）だったが、分家の際に才谷屋から多額の財産を分与されており、非常に裕福な家庭だった。

龍馬が生まれる前の晩に、母親が龍が天を飛ぶ瑞夢を見て（または父が駿馬の母が蛟龍の夢を見たとも）、それに因んで龍馬と名づけられ、幼い龍馬の背には一塊の怪毛があったという伝説がある。

弘化3年（1846年）、12歳のときに母・幸が死去し、父・八平の後妻・伊与に養育された。幼年の龍馬は12、3歳頃まであたかも愚人のように夜溺れの癖（寝小便癖）があったとされるが、愚童であったとの記録はない。気弱な少年であり、漢学の楠山塾に入学したものの、いじめに遭い抜刀騒ぎを起こして退塾させられてしまったといわれているが、これも諸説あり、はっきりした退塾理由はわかっていない。以降、三姉の乙女が武芸や学問を教えたという[10]。

龍馬の人格形成において多大な影響を与えていったのは、父・八平の後妻・伊与の前夫の実家である下田屋（川島家）といわれている。龍馬は姉・乙女とともに浦戸湾を船で渡り、当時土佐藩御船蔵のあった種崎にある川島家をたびたび訪れては、長崎や下関からの珍しい土産話などを聞いたとされる。また、世界地図や数々の輸入品を見て外の世界への憧れを高めたともいわれている。

嘉永元年（1848年）に日根野弁治の道場に入門して小栗流を学び、非常に熱心に稽古し、5年の修業を経た嘉永6年（1853年）に「小栗流和兵法事目録」を得た。

[江戸遊学]

小栗流目録を得た嘉永6年（1853年）、龍馬は剣術修行のための1年間の江戸自費遊学を藩に願い出て許された。出立に際して龍馬は父・八平から「修業中心得大意」を授けられ、溝渕広之丞とともに土佐を出立した。4月頃に江戸に到着し、築地の中屋敷（または鍛冶橋の土佐藩上屋敷）に寄宿し、北辰一刀流の桶町千葉道場（現: 東京都中央区）の門人となる。道場主の千葉定吉は北辰一刀流創始者千葉周作の弟で、その道場は「小千葉」または「桶町千葉」として知られ、周作の「玄武館」（大千葉）とは一体のものである。道場には定吉の他に長男・重太郎と3人の娘（その内一人は龍馬の婚約者と言われるさな子）がいた。ただし、汗血千里駒では坂本龍馬は千葉周作の門人としており、千葉定吉の道場が嘉永6年の時点には桶町に道場がなかったことから2度目の遊学時に千葉定吉道場の門下になったのではと疑問視されている。兵学は窪田清音の門下生である若山勿堂から山鹿流を習得している。

黒船来航

龍馬が小千葉道場で剣術修行を始めた直後の、6月3日、ペリー提督率いる米艦隊が浦賀沖に来航した（黒船来航）。自費遊学の龍馬も臨時招集されて品川の土佐藩下屋敷守備の任務に就いた。龍馬が家族に宛てた当時の手紙では「戦になったら異国人の首を打ち取って帰国します」と書き送っている。

同年12月、剣術修行の傍ら龍馬は当代の軍学家・思想家である佐久間象山の私塾に入学した。そこでは砲術、漢学、蘭学などの学問が教授されていた。もともと、象山は翌年4月に吉田松陰の米国軍艦密航事件に関係したとして投獄されてしまい、龍馬が象山に師事した期間はごく短いものだった。

安政元年（1854年）6月23日、龍馬は15カ月の江戸修行を終えて土佐へ帰国した。在郷中に、龍馬は中伝目録に当たる「小栗流和兵法十二箇条並二十五箇条」を取得し、日根野道場の師範代を務めた。また、ジョン万次郎を聴取した際に『漂異記略』を編んだ絵師・河田小龍宅を訪れて国際情勢について学び、河田から海運の重要性について説かれて大いに感銘し、後の同志となる近藤長次郎・長岡謙吉らを紹介されている。また、この時期に徳弘孝蔵の元で砲術とオランダ語を学んでいる。

安政2年（1855年）12月4日、父・八平が他界し、坂本家の家督は兄・権平が安政3年

（1856年）2月に継承した。同年7月、龍馬は再度の江戸剣術修行を申請して8月に藩から1年間の修業が許され、9月に江戸に到着し、大石弥太郎・龍馬と親戚で土佐勤王党を結成した武市半平太らとともに築地の土佐藩邸中屋敷に寄宿した。二度目の江戸遊学では桶町千葉道場とともに玄武館でも一時期修行している。

安政4年（1857年）に藩に一年の修行延長を願い出て許された。同年8月、盗みを働き切腹沙汰となった従兄弟同士にあたり、後に日本ハリストス正教会の最初の日本人司祭になる山本琢磨を逃がす。安政5年（1858年）1月、師匠の千葉定吉から「北辰一刀流長刀兵法目録」を授けられる。北辰一刀流免許皆伝と言われる事もあるが、発見、現存している目録は「北辰一刀流長刀兵法・目録」を与えられた物であり、一般にいう剣術では無く薙刀術であり、北辰一刀流「初目録」である。ただ千葉道場で塾頭を務めたことや、「免許皆伝を伝授された」など様々な同時代の人物の証言もあるなど、優れた剣術家であった証拠も残っている。同年9月に土佐へ帰国した。

[土佐勤王党]

土佐藩では幕府からの黒船問題に関する各藩への諮問を機に藩主・山内豊信（容堂）が吉田東洋を参政に起用して意欲的な藩政改革に取り組んでいた。また、容堂は水戸藩主・徳川斉昭、薩摩藩主・島津斉彬、宇和島藩主・伊達宗城らとともに將軍継嗣に一橋慶喜を推戴して幕政改革をも企図していた。だが、安政5年（1858年）4月に井伊直弼が幕府大老に就任すると、幕府は一橋派を退けて徳川慶福（家茂）を將軍継嗣に定め、開国を強行し反対派の弾圧に乗り出した（安政の大獄）。一橋派の容堂も安政6年（1859年）2月に家督を養子・山内豊範に譲り隠居を余儀なくされた。隠居謹慎したものの藩政の実権は容堂にあり、吉田東洋を中心とした藩政改革は着々と進められた。

安政7年（1860年）3月3日、井伊直弼が江戸城へ登城途中の桜田門外で水戸脱藩浪士らの襲撃を受けて暗殺される（桜田門外の変）。事件が土佐に伝わると、下士の間で議論が沸き起こり尊王攘夷思想が土佐藩下士の主流となった。

同年7月、龍馬の朋友であり、親戚でもある武市半平太が、武者修行のために門人の岡田以蔵・久松喜代馬・島村外内らとともに土佐を出立した。龍馬は「今日の時勢に武者修行でもあるまい」と笑ったが、実際は西国諸藩を巡って時勢を視察することが目的であった。一行はまず讃岐丸亀藩に入り、備前・美作・備中・備後・安芸・長州などを経て九州に入

り、途中で龍馬の外甥の高松太郎と合流している。

文久元年（1861年）3月、土佐で井口村刃傷事件（永福寺事件）が起こり、下士と上士の間で対立が深まった。『維新土佐勤王史』にはこの事件について「坂本等、一時池田の宅に集合し、敢て上士に対抗する氣勢を示したり」とある。なお、事件の当事者で切腹した池田虎之進の介錯を龍馬が行って、その血に刀の下緒を浸しながら下士の団結を誓ったという逸話が流布しているが、これは坂崎紫瀾の小説『汗血千里駒』のフィクションである。同年4月、武市半平太は江戸に上り、水戸・長州・薩摩などの諸藩の藩士と交流を持ち、土佐藩の勤王運動が諸藩に後れを取っていることを了解し、武市は長州の久坂玄瑞、薩摩の樺山三円と各藩へ帰国して藩内同志の結集を試み、藩論をまとめ、これをもって各藩の力で朝廷の権威を強化し、朝廷を助けて幕府に対抗することで盟約を交わした。これにより、同年8月、武市は江戸で密かに少数の同志とともに「土佐勤王党」を結成し、盟曰（めいえつ）を決めた。

武市は土佐に戻って192人の同志を募り、龍馬は9番目、国元では筆頭として加盟した。武市が勤王党を結成した目的は、これを藩内勢力となして、藩の政策（主に老公山内容堂の意向）に影響を与えて、尊王攘夷の方向へ導くことにあった。

勤王党結成以来、武市は藩内に薩長二藩の情勢について説明をするのみならず、土佐もこれに続いて尊王運動の助力となるべきと主張した。しかし、参政吉田東洋をはじめとした当時の藩政府は「公武合体」が藩論の主要な方針であり、勤王党の尊王攘夷の主張は藩内の支持を得ることができなかった。

[脱藩]

挙藩勤王を目指す武市は積極的に方策を講じるとともに絶えず諸藩の動向にも注意し、土佐勤王党の同志を四国・中国・九州などへ動静調査のために派遣しており、龍馬もその中の一人であった。文久元年（1861年）10月、日根野弁治から小栗流皆伝目録「小栗流和兵法三箇條」を授かった後に、龍馬は丸亀藩への「剣術詮議」（剣術修行）の名目で土佐を出て文久2年（1862年）1月に長州萩を訪れて長州藩における尊王運動の主要人物である久坂玄瑞と面会し、久坂から「草莽崛起、糾合義挙」を促す武市宛の書簡を託されている。龍馬は同年2月にその任務を終えて土佐に帰着したが、この頃、薩摩藩国父・島津久光の率兵上洛の知らせが土佐に伝わり、土佐藩が二の足を踏んでいると感じていた土佐勤王党同志の中には脱藩して京都へ行き、薩摩藩の勤王義挙に参加しようとする者が出て来た。これは実際には島津久光が幕政改革を進めるための率兵上洛であったが、尊攘激派の志士の間では討幕の挙兵と勘違いされたものであった。これに参加するべく、まず吉村虎太郎が、次いで沢村惣之丞等が脱藩し、彼らの誘いを受けて龍馬も脱藩を決意したものである。脱藩とは藩籍から離れて一方的に主従関係の拘束から脱することであり、脱藩者は藩内では罪人となり、更に藩内に留まった家族友人も連座の罪に問われることになる。武士は藩を挙げての行動を重んじ、草莽の義挙には望みを託さず脱藩には賛同しなかった。龍馬の脱藩は文久2年（1862年）3月24日のことで、当時既に脱藩していた沢村惣之丞や、那須信吾（後に吉田東洋を暗殺して脱藩し天誅組の変に参加）の助けを受けて土佐を抜け出した龍馬が脱藩を決意すると兄・権平は彼の異状に気づいて強く警戒し、身内や親戚友人に龍馬の挙動に特別に注意することを要求し、龍馬の佩刀を全て取り上げてしまった。この時、龍馬と最も親しい姉の乙女が権平を騙して倉庫に忍び入り、権平秘蔵の刀「肥前忠広」を龍馬に門出の餞に授けたという逸話がある。

脱藩した龍馬と沢村は、まず吉村寅太郎のいる長州下関の豪商白石正一郎宅を訪ねたが、吉村は二人を待たずに京都へ出立していた。尊攘派志士の期待と異なり、島津久光の真意はあくまでも公武合体であり、尊攘派藩士の動きを知った久光は驚愕して鎮撫を命じ、4月23日に寺田屋事件が起こり薩摩藩尊攘派は粛清、伏見で義挙を起こそうという各地の尊

皇攘夷派の計画も潰えた。吉村はこの最中に捕縛されて土佐へ送還されている。当面の目標をなくした龍馬は、一般的には沢村と別れて薩摩藩の動静を探るべく九州に向かったとされるが、この間の龍馬の正確な動静は詳らかではない。

一方、土佐では吉田東洋が4月8日に暗殺され（勤王党の犯行とされる）、武士が藩論の転換に成功して藩主の上洛を促していた。龍馬は7月頃に大坂に潜伏している。この時期に龍馬は望月清平と連絡を取り、自らが吉田東洋暗殺の容疑者と見なされていることを知らされる。

勝海舟

龍馬は文久2年（1862年）8月に江戸に到着して小千葉道場に寄宿した。この期間、龍馬は土佐藩の同志や長州の久坂玄瑞・高杉晋作らと交流している。12月5日、龍馬は間崎哲馬・近藤長次郎とともに幕府政事総裁職にあった前福井藩主・松平春嶽に拝謁した。12月9日、春嶽から幕府軍艦奉行並・勝海舟への紹介状を受けた龍馬と門田為之助・近藤長次郎は海舟の屋敷を訪問して門人となった。

龍馬と千葉重太郎が開国論者の海舟を斬るために訪れたが、逆に世界情勢と海軍の必要性を説かれた龍馬が大いに感服し、己の固陋を恥じてその場で海舟の弟子になったという話が広く知られており、この話は海舟本人が明治23年に『追賛一話』で語ったものが出典である。だが、春嶽から正式な紹介状を受けての訪問であること、また海舟の日記に記載されている12月29日の千葉重太郎の訪問時には既に龍馬は弟子であった可能性があることから、近年では前述の龍馬と海舟との劇的な出会いの話は海舟の誇張、または記憶違いであるとする見方が強い。いずれにせよ、龍馬が海舟に心服していたことは姉乙女への手紙で海舟を「日本第一の人物」と称賛していることによく現れている。

海舟は山内容堂に取り成して、文久3年（1863年）2月25日に龍馬の脱藩の罪は赦免され、さらに土佐藩士が海舟の私塾に入門することを追認もした。龍馬は海舟が進めていた海軍操練所設立のために奔走し、土佐藩出身者の千屋寅之助・新宮馬之助・望月亀弥太・近藤長次郎・沢村惣之丞・高松太郎・安岡金馬らが海舟の門人に加わっている。また、龍馬が土佐勤王党の岡田以蔵を海舟の京都での護衛役にし、海舟が路上で3人の浪士に襲われた際に以蔵がこれを一刀のもとに斬り捨てた事件はこの頃のことである。

幕府要人と各藩藩主に海軍設立の必要性を説得するために海舟は彼らを軍艦に便乗させて実地で経験させた。4月23日、14代将軍・徳川家茂が軍艦「順動丸」に乗艦の後、「神戸海軍操練所」設立の許可を受け同時に海舟の私塾（神戸海軍塾）開設も認められた。幕府から年三千両の経費の支給も承諾されたが、この程度の資金では海軍操練所の運営は賄えず、そのため5月に龍馬は福井藩に出向して松平春嶽から千両を借入れした。5月17日付の姉乙女への手紙で「この頃は軍学者勝麟太郎大先生の門人になり、ことの外かわいながら候・・・すこしエヘンに顔をし、ひそかにおり申し候。エヘン、エヘン」と近況を知らせている。

神戸海軍操練所跡碑

龍馬が神戸海軍操練所設立のために方々を奔走していた最中の同年4月、土佐藩の情勢が変わり、下士階層の武市半平太が藩論を主導していることに不満を持っていた山内容堂は再度実権を取り戻すべく、吉田東洋暗殺の下手人の探索を命じ、土佐勤王党の肅清に乗り出した。6月に勤王党の間崎哲馬・平井収二郎・弘瀬健太が切腹させられた。平井の妹加尾は龍馬の恋人とされる女性で、龍馬は6月29日付の手紙で姉乙女へ「平井収二郎のことは誠にむごい、妹の加尾の嘆きはいかばかりか」と書き送っている。また、同じ手紙で攘夷を決行し米仏軍艦と交戦して苦杯を喫した長州藩の情勢と（下関戦争）その際、幕府が

姦吏の異人と内通し外国艦船の修理をしていることについて強い危機感を抱き「右申所の姦吏を一事に軍いたし打ち殺、日本を今一度洗濯いたし申し候」と述べている。

8月18日に倒幕勢力最有力であった長州藩の京都における勢力を一網打尽にすべく薩摩藩と会津藩が手を組み「八月十八日の政変」が起きた。これにより京都の政情は一変し、佐幕派が再び実権を握った。8月に天誅組が大和国で挙兵したが、翌9月に壊滅して吉村虎太郎・那須信吾ら多くの土佐脱藩志士が討ち死にしている（天誅組の変）。土佐では9月に武市半平太が投獄され、土佐勤王党は壊滅状態に陥っていた（武市は1年半の入牢後の慶応元年閏5月に切腹となっている）。

10月に龍馬は神戸海軍塾塾頭に任ぜられた。翌元治元年（1864年）2月に前年に申請した帰国延期申請が拒否されると、龍馬は海軍操練所設立の仕事をするために再び藩に拘束されることを好まず、藩命を無視して帰国を拒絶し再度の脱藩をする。2月9日、海舟は前年5月から続いている長州藩による関門海峡封鎖の調停のために長崎出張の命令を受け、龍馬もこれに同行した。熊本で龍馬は横井小楠を訪ねて会合し、小楠はその返書として海舟に「海軍問答」を贈り、海軍建設に関する諸提案をした。

榎崎龍（お龍）

5月、龍馬は生涯の伴侶となる榎崎龍（お龍）と出会い、後に彼女を懇意にしていた寺田屋の女将・お登勢に預けている。5月14日、海舟が正規の軍艦奉行に昇進して神戸海軍操練所が発足した。6月17日、龍馬は下田で海舟と会合し、京撰の過激の輩数十人（或いは200人程）を蝦夷地開拓と通商に送り込む構想を話し、老中・水野忠精も承知し、資金三、四千両も集めていると述べている。

だが、この時点では龍馬と海舟は知らなかったが、6月5日に池田屋事件が起きており京都の情勢は大きく動いていた。池田屋事件で肥後の宮部鼎蔵、長州の吉田稔麿ら多くの尊攘派志士が落命または捕縛され、死者の中には土佐の北添佶摩と望月亀弥太もいた。北添は龍馬が開拓を構想していた蝦夷地を周遊した経験のある人物で、望月は神戸海軍塾の塾生であった。

八月十八日の政変と池田屋事件の後、長州藩は薩摩・会津勢力によって一掃された。7月19日に京都政治の舞台に戻ることを目標とした長州軍約3,000が御所を目指して進軍したが、一日の戦闘で幕府勢力に敗れた（禁門の変）。それから少し後の8月5日、長州は英米仏蘭四カ国艦隊による下関砲撃を受けて大打撃を蒙った（下関戦争）。禁門の変で長州兵が御所に発砲したことで長州藩は朝敵の宣告を受け、幕府はこの機に長州征伐を発令した。二度の敗戦により長州藩には抗する戦力はなく、11月に責任者の三家老が切腹して降伏恭順した（長州征討）。

お龍の後年の回想によると、これらの動乱の最中の8月1日に龍馬はお龍と内祝言を挙げている。8月中旬頃に龍馬は海舟の紹介を受けて薩摩の西郷隆盛に面会し、龍馬は海舟に対して西郷の印象を「少し叩けば少し響き、大きく叩けば大きく響く」と評している。

望月の件に続き、塾生の安岡金馬が禁門の変で長州軍に参加していたことが幕府から問題視され、さらに海舟が老中・阿部正外の不興を買ったこともあり、10月22日に海舟は江戸召還を命ぜられ、11月10日には軍艦奉行も罷免されてしまった。これに至って、神戸海軍操練所廃止は避けえなくなり、龍馬ら塾生の後事を心配した海舟は江戸へ出立する前に薩摩藩城代家老・小松帯刀に彼らを託して、薩摩藩の庇護を依頼した。慶応元年（1865年）3月18日に神戸海軍操練所は廃止になった。

亀山社中

龍馬ら塾生の庇護を引き受けた薩摩藩は彼らの航海術の専門知識を重視しており、慶応元

年（1865年）5月頃に龍馬らに出資した。「亀山社中」。これは商業活動に従事する近代的な株式会社に類似した性格を持つ組織であり、当時商人が参集していた長崎の小曾根英四郎家を根拠地として、下関の伊藤助太夫家そして京都の酢屋に事務所を設置した。長州藩では前年の元治2年（1864年）12月に高杉晋作が挙兵して、恭順派政権を倒して再び尊攘派が政権を掌握していた（功山寺挙兵）。亀山社中の成立は商業活動の儲けによって利潤を上げることの外に、当時、水火の如き関係にあった薩長両藩和解の目的も含まれており、後の薩長同盟成立（後述）に貢献することになる。

中岡慎太郎

幕府勢力から一連の打撃を受けて、長州藩には彼らを京都政治から駆逐した中心勢力である薩摩・会津両藩に対する根強い反感が生じており、一部の藩士は共には天を戴かずと心中に誓い、例えば「薩賊會奸」の四文字を下駄底に書き踏みつけて鬱憤を晴らす者がいたほどだった。この様な雰囲気の中でも、土佐脱藩志士中岡慎太郎とその同志土方久元は薩摩、長州の如き雄藩の結盟を促し、これをもって武力討幕を望んでいた。龍馬は大村藩の志士・渡辺昇と会談し、薩長同盟の必要性を力説する。渡辺は元練兵館塾頭で桂小五郎らと昵懇であったため、長州藩と坂本龍馬を周旋。長崎で龍馬と桂を引き合わせた。慶応元年（1865年）5月、先ず土方と龍馬が協同して桂を説諭し、下関で薩摩の西郷隆盛と会談することを承服させ、同時に中岡は薩摩に赴き西郷に会談を応じるよう説いた。同年閏5月21日、龍馬と桂は下関で西郷の到来を待ったが、「茫然と」した中岡が漁船に乗って現れただけであった。西郷は下関へ向かっていたが、途中で朝議が幕府の主張する長州再征に傾くことを阻止するために急ぎ京都へ向かってしまっていた。桂は激怒して、和談の進展は不可能になったかに見えたが、龍馬と中岡は薩長和解を諦めなかった。倒幕急先鋒の立場にある長州藩に対して、幕府は国外勢力に対して長州との武器弾薬類の取り引きを全面的に禁止しており、長州藩は近代的兵器の導入が難しくなっていた。一方、薩摩藩は兵糧米の調達に苦慮していた。ここで龍馬は薩摩藩名義で武器を調達して密かに長州に転売し、その代わりに長州から薩摩へ不足していた米を回送する策を提案した。取り引きの実行と貨物の搬送は亀山社中が担当する。この策略によって両藩の焦眉の急が解決することになるので、両藩とも自然これに首肯した。これが亀山社中の初仕事になり、8月、長崎のグラバー商会からミニエー銃4,300挺、ゲバール銃3,000挺の薩摩藩名義での長州藩への買い付け斡旋に成功した。これは同時に薩長和解の最初の契機となった。また、近藤長次郎（この当時は上杉宗次郎と改名）の働きにより薩摩藩名義でイギリス製蒸気軍艦ユニオン号（薩摩名「桜島丸」、長州名「乙丑丸」）の購入に成功し、所有権を巡って紆余曲折はあったが10月と12月に長州藩と桜島丸条約を結び、同船の運航は亀山社中に委ねられることになった。9月には長州再征の勅命には薩摩は従わない旨の「非義勅命は勅命にあらず」という重要な大久保一蔵の書簡を、長州藩重役広沢真臣に届けている。。

薩長同盟

慶応2年（1866年）1月8日、小松帯刀の京都屋敷において、桂と西郷の会談が開かれた。だが、話し合いは難航して容易に妥結しなかった。龍馬が1月20日に下関から京都に到着すると未だ盟約が成立していないことに驚愕し、桂に問い質したところ、長州はこれ以上頭を下げられないと答えた。そこで、その夜に龍馬は西郷を説き伏せて、これにより薩長両藩は1月22日に薩摩側が西郷と小松、長州は桂が代表となり、龍馬が立会人となって列席して、後世薩長同盟と呼ばれることになる盟約を結んだ。盟約成立後も桂の薩摩に対する不信感は根強く、帰国途中で龍馬に盟約履行の裏書きを要求している。天下の大藩同士の同盟に一介の素浪人が保証を与えたものであって、彼がいかにか信を得ていたかがわか

る。

盟約成立から程ない1月23日、龍馬は護衛役の長府藩士・三吉慎蔵と投宿していた伏見寺田屋へ戻り祝杯を挙げた。だがこの時、伏見奉行が龍馬捕縛の準備を進めていた。明け方2時頃、一階で入浴していた龍馬の恋人のお龍が窓外の異常を察知して袷一枚のまま二階に駆け上がり二人に知らせた。すぐに多数の捕り手が屋内に押し入り、龍馬は高杉晋作から贈られた拳銃を三吉は長槍をもって応戦するが、多勢に無勢で龍馬は両手指を斬られ、二人は屋外に脱出した。負傷した龍馬は材木場に潜み、三吉は旅人を装って伏見薩摩藩邸に逃げ込み救援を求めた。これにより龍馬は薩摩藩に救出された。寺田屋での遭難の様子を龍馬は12月4日付の手紙で兄権平に報告している。

龍馬が不在の長崎の亀山社中では1月14日にユニオン号購入で活躍した近藤長次郎（上杉宗次郎）が独断で英国留学を企てて露見し自刃させられる事件が起きていた。事件を知らされた龍馬は『手帳摘要』に「術数はあるが誠が足らず。上杉氏（近藤）の身を亡ぼすところなり」と書き残しているが、後年のお龍の回顧では「自分がいたら殺しはしなかった」と嘆いたという。

寺田屋遭難での龍馬の傷は深く、以後、それが理由で写真撮影などでは左手を隠していることが多いのではないかと指摘する研究者もいる。西郷の勧めにより、刀傷の治療のために薩摩の霧島温泉で療養することを決めた龍馬は2月29日に薩摩藩船・三邦丸に便乗してお龍を伴い京都を出立した。3月10日に薩摩に到着し、83日間逗留した。二人は温泉療養の傍ら霧島山・日当山温泉・塩浸温泉・鹿児島などを巡った。温泉で休養を取ると共に左手の傷を治療したこの旅は龍馬とお龍との蜜月旅行となり、これが日本最初の新婚旅行とされている。

5月1日、薩摩藩からの要請に応じて長州から兵糧500俵を積んだ「ユニオン号」が鹿児島に入港したが、この航海で薩摩藩から供与された帆船ワイル・ウエフ号が遭難沈没し、土佐脱藩の池内蔵太ら12名が犠牲になってしまった。幕府による長州再征が迫っており、薩摩は国難にある長州から兵糧は受け取れないと謝辞し、ユニオン号は長州へ引き返した。

6月、幕府は10万を超える兵力を投入して第二次長州征伐を開始した。6月16日に「ユニオン号」に乗って下関に寄港した龍馬は長州藩の求めにより参戦することになり、高杉晋作が指揮する6月17日の小倉藩への渡海作戦で龍馬はユニオン号を指揮して最初で最後の実戦を経験した。龍馬はこの戦いについて戦況図付きの長文の手紙を兄・権平に書き送っている。

長州藩は西洋の新式兵器を装備していたのに対して幕府軍は総じて旧式であり、指揮統制も拙劣だった。幕府軍は圧倒的な兵力を投入しても長州軍には敵わず、長州軍は連戦連勝した。思わしくない戦況に幕府軍総司令官の将軍・徳川家茂は心労が重なり7月10日に大坂城で病に倒れ、7月20日に21歳の短い人生を終えた。このため、第二次長州征伐は立ち消えとなり、勝海舟が長州藩と談判を行い9月19日に幕府軍は撤兵した（小倉口では交戦が続き和議が成立したのは翌慶応3年1月23日）。

海援隊

先に帆船ワイルウエフ号を喪失し、ユニオン号も戦時の長州藩へ引き渡すことになり、亀山社中には船がなくなってしまった。慶応2年（1866年）7月28日付の三吉慎蔵宛の手紙で龍馬は「水夫たちに暇を出したが、大方は離れようとしな」と窮状を伝えている。この為、薩摩藩は10月にワイルウエフ号の代船として帆船「大極丸」を亀山社中に供与した。将軍・家茂の死後、将軍後見職・一橋慶喜の第15代将軍就任が衆望されたが、慶喜は将軍職に就くことを望まず、まずは徳川宗家の家督のみを継承していた。8月末頃[65]、龍馬は長崎に来ていた越前藩士・下山尚に政権奉還策を説き松平春嶽に伝えるよう頼んだ。

龍馬が政権奉還論を述べた最初の記録だが、政権奉還論自体は龍馬の創意ではなく、幕臣・大久保一翁がかねてから論じていたことで、龍馬と下山の会見以前の8月14日には春嶽当人が慶喜に提案して拒否されていた。

後藤象二郎

尊攘派の土佐勤王党を弾圧粛清した土佐藩だが、この頃には時勢の変化を察して軍備強化を急いでおり、参政・後藤象二郎を責任者として長崎で武器弾薬の購入を盛んに行っていた。航海と通商の専門技術があり、薩長とも関係の深い龍馬に注目した土佐藩は11月頃から溝淵広之丞を介して龍馬と接触を取り、翌慶応3年（1867年）1月13日に龍馬と後藤が会談した（清風亭会談）。結果、土佐藩は龍馬らの脱藩を赦免し、亀山社中を土佐藩の外郭団体的な組織とすることが決まり、これを機として4月上旬ごろに亀山社中は「海援隊」と改称した。

海援隊規約によると、隊の主要目的は土佐藩の援助を受けて土佐藩士や藩の脱藩者、海外事業に志を持つ者を引き受け、運輸・交易・開拓・投機・土佐藩を助けることなどとされ、海軍と会社をかねたような組織として、隊士は土佐藩士（千屋寅之助・沢村惣之丞・高松太郎・安岡金馬・新宮馬之助・長岡謙吉・石田英吉・中島作太郎）および他藩出身者（陸奥陽之助（紀州藩）・白峰駿馬（長岡藩））など16～28人、水夫を加えて約50人から成っていた。同時期、中岡慎太郎は陸援隊を結成している。

海援隊結成から程なく「いろは丸沈没事件」が発生した。4月23日晚、大洲藩籍で海援隊が運用する（一航海500両で契約）蒸気船「いろは丸」が瀬戸内海中部の備後国鞆の浦沖で紀州藩船「明光丸」と衝突し、「明光丸」が遥かに大型であったために「いろは丸」は大きく損傷して沈没してしまった。龍馬は万国公法を基に[注 27]紀州藩側の過失を厳しく追求、さらには紀州藩を批判する流行歌まで流行らせるなどした。後藤ら土佐藩も支援した結果、薩摩藩士・五代友厚の調停によって5月に紀州藩は、いろは丸が積んでいたと龍馬側が主張したミニエー銃400丁など銃火器35,630両や金塊や陶器などの品47,896両198文の賠償金83,526両198文の支払に同意した。その後減額して70,000両になった。

海運通商活動以外に龍馬は蝦夷地や竹島の開拓も構想しており、後年妻お龍も「私も行くつもりで、北海道の言葉の稽古をしていました」と回顧している。一方で、海援隊の経済状態は苦しく、開成館長崎商会主任の岩崎弥太郎（三菱財閥創業者）はたびたび金の無心に来る海援隊士を日記に「厄介もの」と書き残している。

船中八策と大政奉還

いろは丸事件の談判を終えた龍馬と後藤象二郎は慶応3年（1867年）6月9日に藩船「夕顔丸」に乗船して長崎を発ち兵庫へ向かった。京都では将軍・徳川慶喜および島津久光・伊達宗城・松平春嶽・山内容堂による四侯会議が開かれており、後藤は山内容堂に京都へ呼ばれていた。龍馬は「夕顔丸」船内で政治綱領を後藤に提示した。それは以下の八項目であった。

天下ノ政権ヲ朝廷ニ奉還セシメ、政令宜シク朝廷ヨリ出ヅベキ事（大政奉還）

上下議政局ヲ設ケ、議員ヲ置キテ万機ヲ参賛セシメ、万機宜シク公議ニ決スベキ事（議会開設）

有材ノ公卿諸侯及ビ天下ノ人材ヲ顧問ニ備ヘ官爵ヲ賜ヒ、宜シク従来有名無実ノ官ヲ除クベキ事（官制改革）

外国ノ交際広ク公議ヲ採リ、新ニ至当ノ規約ヲ立ツベキ事（条約改正）

古来ノ律令を折衷シ、新ニ無窮ノ大典ヲ撰定スベキ事（憲法制定）

海軍宜ク拡張スベキ事（海軍の創設）

御親兵ヲ置キ、帝都ヲ守衛セシムベキ事（陸軍の創設）

金銀物貨宜シク外国ト平均ノ法ヲ設クベキ事（通貨政策）

以上の八項目は「船中八策」として知られることになる。長岡謙吉が筆記したこれは、後に成立した維新政府の綱領の実質的な原本となった。

龍馬の提示を受けた後藤は直ちに京都へ出向し、建白書の形式で山内容堂へ上書しようとしたが、この時既に中岡慎太郎の仲介によって乾退助、毛利恭助、谷干城らが薩摩の西郷隆盛、吉井友実、小松帯刀らと薩土討幕の密約を結び、翌日容堂はこれを承認した上で、乾らと共に大坂で武器300挺の買い付けを指示して土佐に帰藩していた。この為、大坂で藩重臣と協議してこれを藩論となした。次いで後藤は6月22日に薩摩藩と会合を持ち薩摩側は西郷隆盛・小松帯刀・大久保一蔵、土佐側からは坂本龍馬・中岡慎太郎・後藤象二郎・福岡孝弟・寺村左膳・真辺正心（栄三郎）が代表となり、船中八策に基づいた王政復古を目標となす薩土盟約が成立した。後藤は薩摩と密約を成立させる一方で、土佐に帰って容堂に上書を行い、これから程ない6月26日、芸州藩が加わって薩土芸盟約が成立した。7月6日、龍馬が不在中の長崎で英国軍艦イカロス号の水夫が殺害され、海援隊士に嫌疑がかけられる事件が発生した。龍馬と後藤はこの対応のために長崎へ戻り、龍馬は9月まで英国公使パークスとの談判に当たっていた。結局、容疑不十分で海援隊士の嫌疑は晴れている（犯人は福岡藩士・金子才吉で事件直後に自刃していた）。

後藤は9月2日に京都へ戻ったが、イカロス号事件の処理に時間がかかったことと薩土両藩の思惑の違いから、9月7日に薩土盟約は解消してしまった。その後、薩摩は討幕の準備を進めることになる。

事件の処理を終えた龍馬は新式小銃1,000余挺を船に積んで土佐へ運び、9月23日、5年半ぶりに故郷の土を踏み家族と再会した。10月9日に龍馬は入京し、この間、容堂の同意を受けた後藤が10月3日に二条城に登城して、容堂、後藤、寺村、福岡、神山左多衛の連名で老中・板倉勝静に大政奉還建白書を提出し、幕府が時勢に従い政権を朝廷に奉還することを提案していた。慶喜がこの建白を受け入れるか否かは不明確で、龍馬は後藤に「建白が受け入れられない場合は、あなたはその場で切腹する覚悟でしょうから、後下城なき時は、海援隊同志とともに慶喜を路上で待ち受けて仇を討ちます。地下で相まみえましょう」と激しい内容の手紙を送っている。一方、将軍・徳川慶喜は10月13日に二条城で後藤を含む諸藩重臣に大政奉還を諮問。翌14日に明治天皇に上奏。15日に勅許が下された。この大政奉還・上奏の直前（10月14日）に討幕の密勅が薩摩と長州に下されていた。大政奉還の成立によって討幕の大義名分が失われ、21日に討幕実行延期を命じられている。展望が見えた龍馬は10月16日に戸田雅楽（尾崎三良）と新政府職制案の「新官制擬定書」を策定した。龍馬が西郷に見せた新政府職制案の名簿に西郷の名はあるのに龍馬の名が欠けていて、新政府に入ってはどうかと勧めると龍馬は「わしは世界の海援隊をやります」と答えたという有名な逸話がある。だが、尾崎の史料には龍馬の名は参議候補者として記載されており、この逸話は大正3年に書かれた千頭清臣作の『坂本竜馬』が出典の創作の可能性もある。しかしながら、龍馬本人は役人になるのは嫌とお龍に語ったとされ、十一月の陸奥への手紙には「世界の話もできるようになる」ともあり尾崎の案と西郷に見せたものは違う名簿という可能性なども考えられる。尾崎の手控とされる資料は数種あり、参議の項に坂本の名の有無、大臣の項に慶喜の名の有無などの違いが指摘されている。また、11月上旬には船中八策を元にした、とされる「新政府綱領八策」を起草し、新政府の中心人物の名は故意に「〇〇〇自ら盟主と為り」と空欄にしておいた。龍馬が誰を意図していたのかは様々な説がある。

暗殺

後藤象二郎の依頼で、慶応3年10月24日に越前へ出向き、松平春嶽の上京を促して三岡八郎と会談した後、11月5日に帰京した。

11月15日、龍馬は宿にしていた河原町の蛸薬師で醤油商を営む近江屋新助宅母屋の二階にいた。当日は陸援隊の中岡慎太郎や土佐藩士の岡本健三郎、画家の淡海槐堂などの訪問を受けている。午後8時頃、龍馬と中岡が話していたところ、十津川郷士と名乗る男達数人が来訪し面会を求めて来た。従僕の藤吉が取り次いだところで、来訪者はそのまま二階に上がって藤吉を斬り、龍馬たちのいる部屋に押し入った。龍馬達は帯刀しておらず、龍馬はまず額を深く斬られ、その他数か所を斬られて、ほとんど即死に近かった。享年33（満31歳没）。

当初は新選組の関与が強く疑われた。また、海援隊士たちは紀州藩による、いろは丸事件の報復を疑い、12月6日に陸奥陽之助らが紀州藩御用人・三浦休太郎を襲撃して、三浦の護衛に当たっていた新選組と斬り合いになっている（天満屋事件）。慶応4年（1868年）4月に下総国流山で出頭し捕縛された新選組局長・近藤勇は土佐藩士の強い主張によって斬首に処された。また、新選組に所属していた大石欽次郎は龍馬暗殺の疑いで捕縛され拷問の末に自らが龍馬を暗殺したと自白するも、後に撤回している。

明治3年（1870年）、箱館戦争で降伏し捕虜になった元見廻組の今井信郎が、取り調べ最中に、与頭・佐々木只三郎とその部下6人（今井信郎・渡辺吉太郎・高橋安次郎・桂隼之助・土肥伴蔵・桜井大三郎）が坂本龍馬を殺害したと供述し、これが現在では定説になっている。その一方で、薩摩藩黒幕説やフリーメイソン陰謀説まで様々な異説が生まれ現在まで取り沙汰されている。

墓所は京都市東山区の京都霊山護国神社の霊山墓地中腹。墓碑は桂小五郎が揮毫した。なお、高知県護国神社と靖国神社にも祀られている。

[評価]

板垣退助

「豪放磊落、到底吏人たるべからず、龍馬もし不惑の寿を得たらんには、恐らく薩摩の五代才助、土佐の岩崎弥太郎たるべけん」と、とその早死を惜しんだ。桂浜には、板垣・土方久元らによる「坂本龍馬先生彰勲碑」があり撰文は板垣が揮毫している。

「板垣の今日あるは偏に坂本先生の御陰様で御座います」

池元徳次「龍馬さんは、さいさい篠原街道を舟入川に沿うて東の方へ行きよった。肩を傾けて風を切るように意気揚々と歩く人じゃったが、道ばたで子どもがおるのを見かけると傍へ寄って行って頭をなでたり『早よう太うなりよ』と声をかけたりしてかわいがった。そんで子どもらあは龍馬さんを慕うて、もぶりつきよった。才谷屋は高須、新木に領地があったからか、袋などをぶら下げて、あの辺りをよう歩きよった。龍馬さんはその時分、五台山におったことがあるしのう。あしはそのころ山仕事もしよったきに五台山の山へもよう出かけたが山の中の一軒の家で龍馬さんは一人で、よう読書をしよったのう。あしは行きし戻りしによう見たもんじゃった」

伊藤九三「顔に七陽の星が降っている人」

井上良馨「丈高く、黙々多く語らず、なんとなく人に敬慕されるようなところがあった」

田中光顕

「（龍馬の写真を見て）あれはよくできすぎちよる。ほんとは色が黒うてのう。背丈は大がらで五尺七寸くらい。あんな好男子じゃなかった」

千葉佐那「土佐の坂本さんが私の家に入門してきたのは嘉永六年四月で、坂本さんは十九歳、私は十六歳の乙女でした。坂本さんは翌年六月には帰国し、安政三年八月に再び私の道場に参り、修行に打ち込んでおりました。さらに一年滞在延長の許可を得たとかで、引き続いて道場に滞在し、父は坂本さんを塾頭に任じ、翌五年一月には北辰一刀流目録を与えましたが、坂本さんは目録の中に私たち三姉妹の名を書き込むよう頼んでおりました。父は『例の無いことだ』と言いながら、満更でもなさそうに三姉妹の名を書き込み、坂本さんに与えました。坂本さんは二十四歳、私は二十一歳となり、坂本さんは入門した時からずいぶん大人っぽくなり、たくましい青年になっておりました。私も二十一歳ぽつぽつ縁談の話もありましたが、私は坂本さんにひかれ、坂本さんも私を思っていたと思いますし父も『坂本ならば』と高知の坂本家に手紙を出したようでした。（中略）私は心を定めて良い縁談をも断り、唯ひたすら坂本さんを待ちましたが、忘れもしない慶応三年十二月、三十一歳になっていた私は坂本さんが十一月十五日京都で暗殺されたことを知らされました」

土居楠五郎「道場へ来て龍馬は心機一変、おねしょも泣き虫も一ぺんに飛んでしもうた。朝は真っ先に夕べは最後まで、飯を食わんでも剣道の稽古一筋。愉快でたまらん、面白うてたまらん、そんな気持ちでなんぼでもやる。『坂本、もうよかろう』と言うと『先生もう一本、もう一本』といくらでもうってかかる。（中略）そこで体当たりをやると、体は大きいが若いのでぶっ倒れる。すると跳ね起きてまたかかってくる。襟首をつかんで前に引き倒すと腹ばいに延びる。それでもすぐ起きてまたかかってくる。この根性にはすっかり感心した。一度道場内の試合、龍馬が勝ち放し。二つも三つも年上のものを。この時は祖父も師匠達もびっくり。弟子達もびっくり。龍馬自身もびっくりということだった」

徳富一敬「坂本は白の琉球緋の単衣に鍔細の大小を差し、色の真っ黒い大男で至ってゆったりと物を言う人であった」

今井信郎「土佐は恐るるに足らぬが一人の坂本が恐ろしかりき」

岩井徳「坂本さんは本当に男らしい方でした。好きだったかどうか、オホホホ、いつも詩を吟じながらお帰りになりました」

大石弥太郎「龍馬は帯解けひろげのバタラゲたる男なり」

岡本常之助妻女「いつも無言のままでもぶらりと入ってきて、用談が終わると無言で帰って行く。一言の会釈もないし、時には憎らしく見えた」

東久世通禧「龍馬面会、偉人なり。奇説家なり」（薩長同盟直前）

殿井力

「べつだん人目をはばかりふうもなく現れた坂本さんを見て、険しい顔のお武家が多い昨今『ずいぶんのんきそうなお方だなあ』とみんなして拍子抜けいたしました。それに美男というわけでもないのに、お洒落っぽいところがなんとなくおかしゅうございました。

（中略）坂本さんときたら絹のお着物に黒羽二重の羽織、袴はいつも仙台平。時には大胆

に玉虫色の袴などをお履きになって、一見おそろしくニヤけた風でございましたが、胸がはだけてだらしくお召しになっているので、せっかくのお洒落が台無し。後のことですが中岡慎太郎さん（この方はまたちっとも構わぬお人でした）が『坂本はなんであんなにめかすのか。武士にはめずらしい男じゃ』と、お首をふりふり何度も不思議がっていらっしやいました。まず娘の私たちが坂本さんになつてしまいました。（中略）坂本さんは昼と夜ととりちがえたようなお暮らしぶり、昼間はぐっすり寝込んで夜になりますとどこかへ出かけて行かれる、そんな日がしばらく続いたかと思うと、突然何ヶ月もお留守。毎日毎日、判で押したように規則正しく暮らしております私たちには、まったくわけのわからぬ風来坊のようなお方でした。でも、いつしか私たちは坂本さんのお帰りを心待ちにするようになっておりました。そしてその気持ちは母も同じようございました。母は坂本さんに対して、ずっと年上の姉か母親の様な態度で接しておりました。でも、坂本さんが御逗留のとき、いつもと変わらず忙しく立ち動きながらも、母の気持ちはいつも二階にあったようです」

「『瑞夢』という新体詩が発表されました。そこであの坂本さんが『死んで護国の鬼となる』と歌われていらっしやいます。生前のずぼらでのんき坊主の坂本さんを知る者には『護国の鬼』となられた坂本さんを想像しにくうはございますが、もしかしたら坂本さんは実はあのころから私ども女子供にはわからないくらいお偉い方だったのかもしれないと、弟妹たちと語り合ったものでございます」

「坂本さんは色が黒く眼が光っていてずいぶん怖い顔でしたが、笑うとてもあいきょうがおありでした。母の目をぬすんでは、妹たちをひきつれて私は坂本さんのお部屋におしかけましたものですが、坂本さんは『よく来た、いいものを見せてやろう』と行季からオモチャのような鉄砲をとりだして『これは西洋のピストルというんだ。捕手が来たらこれでおどかしてやるきに』とニコニコ笑われました。ある雨降りの夜など、私たちをずらりと前に並べて、みぶりてぶりよろしく怪談をはじめられるのです。（中略）ただでさえ怖い顔をいっそう恐くして両手を前にたれ『お化け』と中腰になる、実に凄。私たちはなかば本気で『キャッキャッ』と叫びます。そうするときまって母が階段を駆け上がってきて、『騒いではいけまへん、なんべんも言うておりますやろ。坂本はんも気いつけておくれやす』と説教を始めますが、『なあに構うものか、知れたら知れたときのことさ』と取りあわない坂本さんを母がもうムキになって注意するそれは楽しい光景でございました。父伊助とは作ることでできなかった家族の団欒のようなものが、そこにはたしかにございました。この先ずっと父がすわる場所に坂本さんがいてくれたらと、娘心に願ったものでしたが、もしかしたらそれは母の願いであったかもしれせん」

尾崎三良 「あの人は経済の方に眼を着けておった人」

日原素平 「坂本先生は真に気柔かに、夫人のみならず何人にも親切であった」

山川須磨 「龍馬って、嫌な男でしたよ」

佐々木高行

「元来、坂本と言う男は時と場合とにより臨機応変、言わばデタラメに放言する人物なりき。例えば温和過ぎたる人に会する時には非常に激烈なる事を言い、これに反して粗暴なる壮士的人物には極めて穏和なる事を説くを常とせり。斯様の筆法なる故に、坂本には矛盾などという語は決してあてはまらぬなり。昨日と今日と吐きし言葉が全く相違するといつても少しも意とせず、所謂人によりて法を説くの義なりと知るべし」

「坂本は時として随分過激な語を吐きしが、性来は頗るやさしき男なりき。老人、幼者、

婦女等に対しては殊に穏かにせり。長崎に在りし際、時々部下の壮士を率いて酒樓に上りし事がありしが、女共は何時も『坂本サン、坂本サン』と書いて非常に慕いたり。尤もこれは単に個人として坂本の親切に感ずるばかりでなく、坂本が居る時は壮士等は敢えて乱暴の振舞いをなさぬ故に、坂本の来るは彼等の歓迎すべきはずなりき。坂本また言いし事あり。『我々は今国事に奔走して幕府の指目する所となり居れば、何日何時縛につくやも測られず。もし萬一我々が、芸妓風情と相携えて撮影することありて、之により其踪跡を物色せらるるあらば、志士の面目として大いに恥づべき業なれば、我々じゃ断じて此の如き卑猥の行為あるべからず』と。彼は疎大豪放なるが如くして、其實思慮の周密なること斯の如し」

「坂本は目的を定めなば必ず之を達する手段を講究したり。余はある夜、坂本と種々の談話を交換したりしが、此時坂本言う『我国に耶蘇教を輸入し、以て幕府を苦しめ倒さん』と。余言う『もし幕府を倒し得るとするも、該教の蔓延は我国體上の大變なり』と。双方論ずる事久し、結局兩人共に耶蘇教の何にもものたるを知らず。俗に言う盲人の叩き合いにて何の厄にも立たず。深更に至り此等の研究の研究は他日に譲るとなし、果ては大笑いを催しつつ寝につきたり。坂本が目的に対して其手段を講究すること此類なり」

「才谷は一見婦人の様な風采であるが、度量はなかなか大きい」

「才谷はなかなかの計画家」

「才谷は実に時勢によく通じて居る」

「才谷は度量も大きいが、其の遣り口はすべて人の意表出て、そして先方の機鋒を挫いて了とうにする。実に策略は甘い（心地よい）ものであった」

檜崎龍

「坂本はハキハキしたことが好きで、私がどんなことをしたって決して叱るようなことはなかったのです」

[死後]

箱館戦争が終わった直後の明治2年（1869年）6月から9月に明治政府は論功行賞を行ったが、坂本龍馬には何の行賞も行われなかった。明治3年（1870年）8月に政府は龍馬と中岡慎太郎の家名存続を沙汰し、龍馬の長姉・千鶴の長男・小野淳輔（高松太郎）が坂本直と改名して龍馬の家名を継ぐことになり、永世15人口（30石）が下された。なお、他の維新の元勳の行賞は西郷隆盛は2,000石、木戸孝允は1,800石、後藤象二郎は1,000石であった。坂本龍馬は維新後しばらくは注目されることのなかった存在だったが、明治16年（1883年）に高知の『土陽新聞』に坂崎紫瀾が書いた『汗血千里の駒』が掲載され、大評判となった事により一躍その名が知られるようになった。明治24年（1891年）には正四位が追贈された。

次に龍馬ブームが起きるのは日露戦争時である。開戦直前の明治37年（1901年）2月6日、皇后・美子の夢枕に龍馬が立ち、「私が海軍軍人を守護いたします」と語り、皇后はこの人物を知らなかったが、宮内大臣田中光顕（土佐勤王党出身で陸援隊幹部だった）が、龍馬の写真を見せたところ、皇后は間違いなくこの人物だと語った。事の真偽のほどは定かではないが、この話が全国紙に掲載されたため、坂本龍馬の評判が全国に広まる事となった。日本海海戦で大勝したことで、皇后の御意思により京都靈山護国神社に『贈正四位坂本龍馬君忠魂碑』が建立された。

庶民の間でも龍馬は維新の偉人として人気者となり、戦前には龍馬や海援隊を主題とした映画が多数製作されている。

昭和2年（1927年）、旧自由党員の今幡西衛らは「坂本中岡両先生銅像建設会」を組織し、その銅像建設資金に充てようと自ら『雋傑坂本先生傳』を執筆した。これが昭和9年

(1934年)1月、京都円山公園に建立された龍馬と中岡慎太郎の銅像である。昭和3年(1928年)には高知の青年たちが募った寄付により、本山白雲の製作による龍馬の銅像が桂浜に建立された。第二次大戦中の金属供出の際もこの銅像だけは「海軍の祖」であるとして供出を免れている。さらに、昭和37年(1962年)に司馬遼太郎の『竜馬がゆく』が発表され、司馬の代表作の一つとなるとともに、戦後期における龍馬像の典型が形づくられた。

[異説]

2000年代に入ると坂本龍馬とグラバーとの関係を強調して、論者がグラバーがメンバーであったと主張するフリーメイソンと龍馬とを結びつける陰謀論が現れ、テレビ番組でも取り上げられている。主な論者は作家の加治将一。

異説の内容は以下のようなものである。

龍馬は脱藩後に継続的に接触したグラバーの影響を強く受けており、薩長同盟、亀山社中創設、船中八策は龍馬の完全な独創ではないという指摘がある。グラバー商会は、アヘン戦争を推進したイギリスのジャーディン・マセソン商会の直系であり、グラバーの肩書きは、「マセソン商会長崎代理人」であった。龍馬が幅広く権力者と交流できた理由は、彼個人の資質よりも、彼が当時の東洋最大手のイギリス武器商会の「営業マン」だったからだというのが真実に近い、という主張がある。

モーハダース・カラムチャンド・ガンディー

(デーヴァナーガリー文字表記: मेहनदासकरमचंदगंधी、ラテン文字表記: Mohandas

Karamchand Gandhi、1869年10月2日 - 1948年1月30日)は、インドのグジャラート出身の弁護士、宗教家、政治指導者。

マハトマ・ガンディー(=マハートマー・ガンディー)として知られるインド独立の父。

「マハートマー(महात्मा)」とは「偉大なる魂」という意味で、インドの詩聖タゴールから贈られたとされているガンディーの尊称である(自治連盟の創設者、アニー・ベザントが最初に言い出したとの説もある)。また、インドでは親しみをこめて「バープー」(बापू:「父親」の意味)とも呼ばれている。日本語では「ガンジー」とも表記される。

1937年から1948年にかけて、計5回ノーベル平和賞の候補になったが、受賞には至っていない。ガンディーの誕生日にちなみ、インドで毎年10月2日は「ガンディー記念日」(गंधी जन्मी, ガンディー・ジャヤンティー)という国民の休日となっており、2007年6月の国連総会では、この日を国際非暴力デー(英語版)という国際デーとすることが決議された。

[人物]

南アフリカで弁護士をする傍らで公民権運動に参加し、帰国後はインドのイギリスからの独立運動を指揮した。その形は民衆暴動の形をとるものではなく、「非暴力、不服従」

(よく誤解されているが「無抵抗主義」ではない)を提唱した。

この思想(彼自身の造語によりサティヤグラハ、すなわち真理の把握と名付けられた)はインドを独立させ、イギリス帝国をイギリス連邦へと転換させただけでなく、政治思想として植民地解放運動や人権運動の領域において平和主義的手法として世界中に大きな影響を与えた。特にガンディーに倣ったと表明している指導者にマーティン・ルーサー・キング・ジュニア、ダライ・ラマ14世等がいる。

性格的には自分に厳しく他人に対しては常に公平で寛大な態度で接したが、親族に対しては極端な禁欲を強いて反発を招くこともあったという。なお、インドの政治家一族として有名な「ネルー・ガンディー・ファミリー」(インディラー・ガンディーら)との血

縁関係はない。

[経歴]

生い立ち

イギリス領インド帝国、現在のグジャラート州の港町ポールバンドルで、当時のポールバンドル藩王国の宰相カラムチャンド・ガーンディーと、その夫人プタリーバーイーの子として生まれた。ポールバンドルの小学校に入学後、ラージコート的小学校に入りなおす。成績が悪く融通もきかない面があった。

小学校時代は素行も悪く、悪友にそそのかされて、ヒンドゥー教の戒律で禁じられている肉食を繰り返していただけでなく、タバコにも手を出し、タバコ代を工面する為に召し使いの金を盗み取ったこともあった。

その後、12歳でアルフレッドハイスクールに入学。13歳の若さ（インド幼児婚の慣習による）で生涯の妻となるカストゥルバと結婚。18歳でロンドンに渡り、インナー・テンプル法曹院に入学し、法廷弁護士となるために勉強する。

[弁護士に]

卒業後、1893年にはイギリス領南アフリカ連邦（現在の南アフリカ共和国）で弁護士として開業した。しかし、白人優位の人種差別政策下で、鉄道の一等車への乗車を拒否され荷物もろとも放り出されるなどの強烈な人種差別を体験したことで、イギリス領南アフリカ連邦の人種差別政策に反対し、インド系移民の法的権利を擁護する活動に従事するようになる。

1880年代以降、ガンディーはインドの宗教的叙事詩・バガヴァッド・ギーターとロシアの小説家・レフ・トルストイの影響を受けていたが、『新約聖書』の「山上の垂訓」など基督の十字架の道を深く理解し、「非所有」の生涯を決意する。後の非暴力運動思想を形成していく。

20世紀初頭には、南アフリカ連邦となり、1913年に原住民土地法が制定されるなど人種差別政策の体制化が進んだ南アフリカにおいて、インド系移民の差別に対する権利回復運動を行った。

1908年初めて逮捕され、その後1913年にトランスバールの行進を企画し初めて投獄された。しかし、不正を追及し撤廃させ初めて勝利を手にした。

ダーバン近郊でアーシュラマ共同農園を創設。そこで、禁欲、断食、清貧、純潔を実践し、精神面を強化し、イギリスからの独立を展望している。この時の経験は1915年にインドに帰国してからの民族運動にも生かされている。

[イギリスによる裏切り]

1914年に第一次世界大戦が起こると、イギリスは将来の自治を約束して、植民地統治下のインド人に協力を求めた。ガンディーはこの約束を信じ、インド人へイギリス植民地軍への志願を呼びかける運動を行った。

「私は、インド人は戦争に協力すべきである、と思った。イギリスの危機をインドのチャンスに変えてはいけない。戦争が続いている間、要求を突きつけることなく大英帝国に協力したほうがかえってインドの利益になる。だから私は、人々に志願兵を応募するように呼びかけた。大英帝国を通じて自分の民族の現状を改善しようと期待していたのだ。」

しかし戦争がイギリスの勝利に終わっても、自治の拡大は、インド人が期待したほどの速度では進行せず、またドイツからの援助を受けていた一派による蛮行を抑えるため、インド帝国政府は強圧的な「ローラット法」を制定するにいたる。

さらに1919年4月13日には、パンジャブ地方アムリットサル（シク教の聖地）でスワデーシー（自分の国の意で国産品愛用）の要求と、ローラット法発布に対する抗議のために集まった非武装の市民に対して、グルカ族およびイスラーム教徒からなるインド軍部隊が無差別射撃し数百人を虐殺した「アムリットサル事件」が発生した。この一連のインド帝国政府の態度は、ガンディーに「イギリスへの協力が独立へとつながらない」という信念を抱かせるようになった。

[不服従運動]

第一次世界大戦後は、独立運動をするインド国民会議に加わり、不服従運動で世界的に知られるようになる。またイギリス製品の綿製品を着用せず、伝統的な手法によるインドの綿製品を着用することを呼びかけるなど、不買運動を行った。

こうした一連の運動のために、ガンディーはたびたび投獄された。例えば1922年3月18日には、2年間の不服従運動のために、6年間の懲役刑の判決を受けている。第一次の不服従運動は、1922年にインド民衆が警察署を襲撃して20人ほどの警官を焼死させる事件が発生し中止されたが、1930年より不服従運動は再開された。とりわけ、「塩の行進」と称されるイギリスの塩税に抗議した運動は有名である。

ガンディーが不服従運動のための協力者の要員を募集する際のその条件は、やはり多くの人と信頼を構築でき、その協力を得られるような人格者であったが、この「非暴力運動」に参加すること自体でも、暴力で運動を止めさせようとする兵士に対して反撃を行わず、逃げもしないという非常な勇気が必要とされ真の強さと忍耐が必要とされる。

非暴力の思想はインドと距離的に近い西アジアなどでも見られ、アジアで生まれたヒンドゥー教、イスラーム教、仏教、キリスト教でそれはあてはまり、アジアの思想に共通するという思想からガンディーは自分はヒンドゥー教徒であり、イスラーム教徒でもあり、また、原始キリスト教という意味ではキリスト教に賛同するとして宗教グループ間や世界の人々に対話を呼びかけた。

[ガンディーとカースト制度]

ガンディーは、カースト制度を職業の分担という観点から肯定的にとらえていた。生涯を通して、「不可触民」制度を撤廃する活動に精力的に励んだもののカースト制度そのものの制度廃止には賛成しなかった。

このようなカースト制度は容認してもカーストによる社会的差別に反対する姿勢は、同時期の政治指導者に多く見られる。このため、インドにおける仏教革新運動の指導者であるB・R・アンベードカルと意見を対立させている。

[第二次世界大戦]

インド国民会議派元議長のスバス・チャンドラ・ボースやラース・ビハーリー・ボース、A.M.ナイルなど、インド国外でイギリスに対する独立闘争を続けていた独立運動家は、「欧米帝国主義国の植民地からの解放」を掲げた日本がイギリスの間で1941年12月に開戦し、その後日本軍が香港やマレー半島などの東南アジア一帯のイギリスの植民地からイギリス軍を放逐した直後に、日本の支援を受けてインド国民軍を組織し、インドの外側から軍事的にイギリスに揺さぶりをかけようとした。しかしインド国内に留まっていたガンディーは、この様な動きに連携することはなかった。

ただし、日本軍が英米をはじめとする連合軍を撃破し続け、インド洋からイギリス海軍を放逐しインドに迫った1942年初頭から1943年中盤の時期には、日本との連携を模索する姿勢を見せていたことが指摘されている。実際に1942年には、日本軍のインドへの接近にあわてたイギリスが、インドをイギリス連邦内自治領として認めるとしたことでインド人

の懐柔を狙おうとしたが、イギリスの魂胆を見抜いたガンディーはこれを拒否し、民衆は「クイット・インディア」（インドから出ていけ）を掲げ、その結果2年間投獄されることとなった。

しかし、同時にガンディーは「すべての日本人に」と題された声明を發表し、「欧米帝国主義国の植民地からの解放」を掲げつつも、強権的かつ人種差別を明確に掲げるドイツやイタリアと組み覇権主義的な行動を見せつつある日本の姿勢に対する疑問を明らかにした。

「独立」

1945年8月に日本が連合国に降伏したことで第二次世界大戦が終結しイギリスは戦勝国となったが、日本やドイツとの戦いで国力は衰退し、もはや、本国から遠く離れている上に独立運動が根強く続けられてきたインドを、植民地として支配していくことは困難であった。

さらにはチャンドラ・ボースやラース・ビハーリー・ボース、A.M.ナイルらが設立したインド国民軍の一員として、これを支援した日本軍とともにイギリス軍やアメリカ軍、オーストラリア軍などと戦ったインド人将官が、イギリス植民地政府により「反逆罪」として裁判にかけられることとなった。これに対してガンジーは、「インドのために戦った彼らを救わなければならない」とインドの国民へ独立運動の号令を發した。

この運動をきっかけに再びインド全体へ独立運動は広がり、これに耐えることができなくなったイギリスはインドの独立を受け入れ、1947年8月15日にデリーの赤い城にてジャワハルラール・ネルーがヒンドゥー教徒多数派地域の独立を宣言し、イギリス国王を元首に戴く英連邦王国であるインド連邦が成立した（その後1950年には共和制に移行し、イギリス連邦内の共和国となった）。

なお、ガンディーの「ヒンズーとイスラームが融合したインド」との思い通りにはいかず、最終的にイスラーム教国家のパキスタンとの分離独立となった。

[暗殺]

ガンディーはヒンドゥー教徒だけでなくイスラーム教徒にも影響を与えている。1947年8月のインドとパキスタンの分離独立の前後、宗教暴動の嵐が全土に吹き荒れた。ガンディーは何度も断食し、身を挺してこれを防ごうとした。しかし、ヒンドゥー原理主義者からはムスリムに対して譲歩しすぎるとして敵対視された。

1948年1月30日、ガンディーはニューデリーのビルラー邸で狂信的なヒンドゥー原理主義集団民族義勇団の一人ナートゥーラーム・ゴードセー（**नाथूराम गोडसे**）らによって暗殺された。

3発のピストルの弾丸を撃ち込まれたとき、ガンディーは自らの額に手を当てた。これはイスラーム教で「あなたを許す」という意味の動作である。そして、ガンディーは「おお、神よ」（「**हे राम हे राम**」）とつぶやいてこの世を去った。78歳であった。国葬が行われ、遺灰は、ヤムナー川とガンジス川と南アフリカの海に撒かれた。

[主義・信条]

真理

ガンディーは自分の人生を何よりも真理（**Satya**）探究という目的のために捧げた。彼は、自分の失敗や自分自身を使った実験などから学ぶことを通して、この目的の達成を試みた。実際、彼は自叙伝に『真理を対象とした私の実験について（英語: **The Story of My Experiments with Truth**）』という題をつけている。

ガンディーは、非暴力運動において一番重要なことは自己の内の臆病や不安を乗り越えることであると主張する。ガンディーは、自分の理念を纏め、初めは「神は真理である」と

述べていたが、後になると「真理は神である」という言葉に変えている。よって、ガンディー哲学における真理 (Satya) とは「神」を意味する。

非暴力

非暴力 (アヒンサー ; अहिंसा) の概念はインド宗教史上長い歴史を持ち、ヒンドゥー教、仏教 (仏陀に代表される)、ジャイナ教の伝統において何度もよみがえった。また、彼の非暴力抵抗の思想は、新約聖書や『バガヴァッド・ギーター』の教えに特に影響されている。自らの思想と生き方を、ガンディーは自叙伝の中で書いている。以下にガンディーが語った言葉からの引用を列記する。

「私は失望したとき、歴史全体を通していつも真理と愛が勝利をしたことを思い出す。暴君や殺戮者はそのときには無敵に見えるが、最終的には滅びてしまう。どんなときも、私はそれを思うのだ」。

「狂気染みた破壊が、全体主義の名のもとで行われるか、自由と民主主義の聖なる名のもので行われるかということが、死にゆく人々や孤児や浮浪者に対して、一体何の違いをもたらすのであろうか」。

「“目には目を” は全世界を盲目にしているのだ」。

「私には人に命を捧げる覚悟がある。しかし、人の命を奪う覚悟をさせる大義はどこにもない」。

また、ガンディーは自分の非暴力の信条を実行に移すとき、彼は極限まで論理的につきつめることを辞さなかった。1940年にドイツ軍がいよいよイギリス本土に侵入しようとしたとき、ガンディーはイギリス国民に次のように助言した。

持っている武器を下に置いてほしい。武器はあなた方を、ないしは人類を、救う役には立たないのだから。あなた方はヘル・ヒトラーとシニョール・ムッソリーニを招き入れることになるだろう。あなた方の国、あなた方が自分たちのものと称している国から、かれらは欲しいものを持っていってしまうだろう。もしこの紳士たちがあなた方の故郷を占領したなら、あなた方は立ち退くことになる。もし、かれらが脱出を許さなかったなら、あなた方は男も女も子どもも、虐殺されることになる。しかしあなた方は、かれらに忠誠を尽くすことは拒むだろう

また、1946年6月、ガンディーは伝記作者ルイ・フィッシャーにこう語っている。ヒトラーは500万人のユダヤ人を殺した。これは我々の時代において最大の犯罪だ。

ガンディーはこうも言っている。

わたしの信念によると、もし、臆病と暴力のうちどちらかを選ばなければならないとすれば、わたしはむしろ暴力をすすめるだろう。インドがいくじなしで、はずかしめに甘んじて、その名誉ある伝統を捨てるよりも、わたしはインドが武器をとってでも自分の名誉を守ることを望んでいる。しかし、わたしは非暴力は暴力よりもすぐれており、許しは罰よりも、さらに雄雄しい勇気と力があることを知っている。しかし、許しはすべてにまさるとはいえ、罰をさしひかえ、許しを与えることは、罰する力がある人だけに許されたことではないだろうか。

[カースト制度]

当初ガンディーはカースト制度を「ヒンドゥー教の根本的な制度」として擁護し、称賛し

た。彼によれば「カーストは人間の本性であり、ヒンドゥー教徒はそれを「科学」に仕立てただけ」であり、同じカーストとしか結婚できないという制限も「自己抑制を深める優れた方法」であった。

彼にとってカースト制度は「分離されているが平等」なのである。

そのうちガンディーは自分がある種の自己矛盾に陥っている事に気づき、カースト制度とヴァルナを区別し、ヴァルナを好むようになった。ヒンドゥー教徒をバラモン・クシャトリア・ヴァイシャ・シュードラの四階層に区分するヴァルナの法則は、彼によれば人が両親に似て生まれてくるのと同じ「遺伝の問題」であった。

またヴァルナによって両親の職業を選べば、「精神的な目的の為専念する時間が増える」ので、「幸福と深い宗教的生活の為の最上の保証」であった。ただしガンディーは、ヴァルナを「神の創造物全体における絶対平等の法則」ととらえており、ヴァルナの階層間に上下は無く平等なものだと考えていた。

一方ヴァルナをさらに細分化するカースト制度に関しては「宗教と何の関係もなく、起源不明の習俗に過ぎない」と考えるようになり、後年『カーストはなくなれ』という小冊子を発行するにいたった。

[菜食主義]

ガンディーはインドを初めて離れたときこそ肉食を試みたが、のちに厳格な菜食主義者になった。英国では菜食主義者協会（英語: Vegetarian Society）の集会に参加して菜食主義運動家ヘンリー・ソールトに出会い、この問題について、ロンドンに滞在する間、何冊かの本を著した。菜食主義の思想はインドのヒンドゥー教およびジャイナ教の伝統、そして彼の故郷グジャラートに深く根づいており、ヒンドゥー教徒のほとんどが菜食主義者であった。彼はさまざまな飲食物を試したのち、菜食は体に必要な最低限度を満たすという結論に達した。そして、日常の食事は穀物、豆類、果実、牛乳、はちみつに限定していた。ガンディーの菜食主義は殺されるのを嫌がっているものは食べないという信念に基づいており、自ら実をつけて熟して実を落とすものをとるべきという徹底されたものであった。

[西洋文明批判]

「鉄道によって欲望が加速するため邪悪が広げられる」「病院があるせいで体に注意を払わなくなる」「（自身が弁護士であるのに）弁護士などいない」と西洋近代文明に対しても批判を繰り返した。船旅で出会ったドイツ人の持っている望遠鏡に対してそのようなものがあるから欲望が止まらないので捨てるべきであるとして言い争いになったが、最終的には望遠鏡がなかったらそもそもこのような言い争いになることはなかったと説き伏せ海に望遠鏡を放り投げた。

ブラフマーチャーリヤ

ガンディーが16歳のときに、父が末期の病気にかかった。ガンディーは、父の臨床の場において精力的に看病に励んでいたが、ある夜、叔父が来て看病を交代してくれるよう言ってくれた。ガンディーはそれを快く引き受け、感謝の意を表し、寝室へと戻った。そこで、ガンディーは、部屋で寝ていた妻を起こし同衾している隙に、下僕がやって来て父の死を告げた。このため、ガンディーは、父の死に目に会えなかったのである。ドイツの心理学者エリク・H・エリクソンは、ガンディーの禁欲主義的傾向や、特に36歳の時、結婚したまま一切の性行為を断って禁欲を開始するなどのブラフマーチャーリヤの誓いを果たしたことには、この経験が大きく関係していると指摘する。

このような禁欲主義や苦行と密接な関連を持ったブラフマーチャーリヤ（心と行為の浄化、ブラフマンすなわち宇宙の最高原理の探求）は、ヒンドゥー教の苦行者の間で昔から行わ

れていた。ガンディーのユニークな点は、結婚と家庭を維持したまま禁欲生活を送ったことである。ガンディーはこのブラフマーチャーリヤを自らの指導する非暴力不服従運動の基礎であると考えていた。また、それは神に近づくための手段であり、自己の完成のための重要な土台であるとも捉えていた。

彼は13歳の若さでカストゥルバと結婚をするが、自叙伝において当時における性欲や過激な嫉妬などに対する戦いを語っている。彼は独身者でいることを自分の義務と感じたので、欲情によらずに愛することを学ぶことができるのだと考えた。ガンディーによれば、ブラフマーチャーリヤは「思想・言葉・行為の抑制」を意味する。

ガンディーはブラフマーチャーリヤを生涯追求し、1948年78歳で暗殺される直前まで「ブラフマーチャーリヤの実験」を行っていた。しかしガンディーの弟子であったニルマル・クマール・ボースは『ガンディーとの日々（英語: My days with Gandhi）』において、ノーアカーリーにおけるガンディーの晩年のブラフマーチャーリヤの実験に関して、批判的見解が述べられている。このことは、ヴェド・メータの『ガンディーと使徒たち』の中にも引用されている。彼らによれば晩年のガンディーは裸体の若い女性たちをぴったり体にくっつけてベッドを共にするのが常だった。こうした件を「問い詰められたガンジーは、最初は裸の女性を横にして眠ると言うことを公然と否定し、その後それはブラフマーチャーリヤの実験であると言った」。

しかし、ガンディーの姪のアバ・ガンディーはボースの主張を認め、結婚してからも彼と寝ていたと証言したし、もう一人の姪のマヌや女医（厚生大臣であった時期もある）のヌシラ・ナヤルも「ガンジーを暖めた女性であった」。またある女性は「裸になり、ガンジーの腕に抱かれた」と証言した。

ボースや弟子たちはそのことに関して、ガンディーを批判したが、ガンディーは聞き入れようとしなかったようである。ボースの本の中には、ガンディーとボースとの手紙のやり取りの中でこのように述べていると書かれている。

私にとっては女性に触れぬことがブラフマチャーリヤなのではない。今していることは私には新しいことではない。……実験の前提に女性の劣等性があるとお考えになるとは驚かざるを得ない。もし私が色情を持ちあるいは相手の同意なく女性を見れば、そのとき女性は劣等者であろう。私の妻は私の欲望の対象だったとき、劣等者であった。私の隣に裸で妹として寝るようになってからは、彼女はもはや劣等者ではなかった。かつてのように妻ではなく他の妹であっても同じことではないか。隣に裸で寝る女性に対して私がみだらなことを考えるなどと思わないでいただきたい。AあるいはB（ボースによる匿名）のヒステリーは私の実験とは関わりがないと思う。彼女たちはこの実験の前から多かれ少なかれヒステリーだったのだ。

あるドイツの精神医学的人名辞典は、ガンディーのためにあてられた全8行ばかりの記事のうちの1行をさいて、彼が『一つのベッドで数人の女性使用人と眠った』という情報——そのような習慣の時期や期間は明確にしないで——を提供している。同様にアーサー・ケストラーはThe Lotus and The Robot, London:Hutchinson, 1996.の脚注において、老年のガンディーは一人の若い裸の女性とベッドにいるところを英国の官憲にみつけられたが、彼らは賢明にもそれを公表しなかったと述べている。

しかし、エリク・エリクソン著『ガンディーの真理2』を翻訳した星野美賀子は、脚注の中で、これらの情報を以下のように批判している。「このゴシップは以下の事実を無視している。つまり、伝えられる事件のおりにはもう英国の官憲がガンディーを夜中に急襲することはなかったこと。インドの寝室のつくりにはベッドもドアもないこと、熱帯地方においては裸体は特別なものではないこと、そして、その事件全体は秘密ではなかったこと、を」。

晩年の女性とのブラフマーチャーリヤの実験に関しては、どこからどこまでが事実なのかを明確に判断することは難しい。しばしば、これらの実験が、ガンディーの他の莫大な業績に先行して指摘されるのは、エリクソンによると、「結局のところ、偉大な混乱は偉大さのしるしでもありうる」からであろう。

[沈黙の日]

ガンディーは週に一度を沈黙して過ごした。話すのを控えることで、心の平穏が得られると信じたのである。これはモウナ (मौनः 沈黙) とシャーンティ (शान्तिः 平穏) というヒンドゥー教の理念から来るものであった。沈黙を守る日には、筆談によって他人と意思疎通した。ガンディーは37歳からの3年半、騒然とした世界情勢は心の平穏ではなく混乱をもたらすとして、新聞を読むことを拒んだ。

[現代におけるガンディー]

独立後半世紀以上もの年月が経つにつれ、ガンディーならびに彼の思想はインドの社会一般において往時のような無批判な賞賛という扱いは受けなくなっている。

独立後20年近くの期間にも渡って国民会議がインド全土で政権の座を握り続けていられたのは「独立の父」ガンディーの威光によるところも大きく、それゆえ独立後間もなく暗殺されたガンディーは殊更に神格化されてきたとも言える。しかしながら、ガンディーの後継者とされた独立後初代首相のネルーは、経済政策の上ではガンディー主義 (Gandhism) に真っ向から対立するネルー主義 (Nehruvism) 開発経済体制を導入し、生前ガンディーが反対していた産業の機械化・工業化を積極的に推し進めた。

このため、インドで多くの人々がガンディーを「国家を独立に導いた偉大な人物」として表向きには称える一方、その反面では彼の人物像やその思想に対して「時代遅れで非現実的」という評価を下す風潮が顕在化してきた。

ネルーが独立直後にイギリス政府高官に「ガンディーはあくまでインドを引き裂いてはならないという。しかしイスラム教徒は我々がいかなる妥協を示しても自分達の国家をつくると言って譲らない。インド各地で起きている血塗れの惨劇はエスカレートするばかりである。我々は敢えて頭痛から逃れる為に、頭を切り落とさなければならない。最早ガンディーのような立場は非現実的である。残念ではあるが、ガンジーは今政治の中心から逸れてしまっている」と述べたように、当時から現在までイスラム教徒と他教徒との争いは顕在化しており、そうした実態を結果的に無視する形となった宥和政策も、民衆感情に反するものであった。

そのような状況の中、新たな形でのガンディー再考の試みが映画や演劇などの分野でなされてきている。なかでも現在インドで最も注目を集めているのが、2006年にインドで公開された『Lage Raho Munna Bhai』 (लो रहे मुन्नाभाई ラゲー・ラホー・ムンナー・バーイー) というヒンディー語映画である。作品中ガンディーは、主人公である街のヤクザ者にだけ見える存在として登場し、DJとしてラジオで電話相談をする事になった主人公の口を通して街の人々に様々なアドバイスを与えている。

この作品は、いくつもの批判を呼び起こしながらも、人々が新たな角度からガンディーについて考え直す大きな契機を作り出す事に成功し、娯楽作品としての大ヒットも合わせて大きな注目を浴びた。特にこの映画中で提唱された「ガンディーギリー」 (गंधीगिरी, Gandhigiri) という言葉は、ガンディー主義を意味する旧来の「ガンディーヴァード」 (गंधीवाड़) という言葉が帯びていた、「理想的過ぎて現実的ではない」というイメージを払拭する役割を果たし、にわかにインドでの流行語ともなっている。

[ガンディーと日本]

第二次世界大戦中、ガンディーは1942年7月26日に「すべての日本人に」と題する以下の公開文書を発表した。

私は、あなたがた日本人に悪意を持っているわけではありません。あなたがた日本人はアジア人のアジアという崇高な希望を持っていました。しかし、今では、それも帝国主義の野望にすぎません。そして、その野望を実現できずにアジアを解体する張本人となってしまいかも知れません。世界の列強と肩を並べたいというのが、あなたがた日本人の野望でした。しかし、中国を侵略したり、ドイツやイタリアと同盟を結ぶことによって実現するものではないはずです。あなたがたは、いかなる訴えにも耳を傾けようとはなさらない。ただ、剣にのみ耳を貸す民族と聞いています。それが大きな誤解でありますように。あなたがたの友 ガンディーより。

ガンジー暗殺後の1948年2月3日、東京・明治大学講堂に在京インド人代表が集まり、暴力に倒れたガンジーの追悼講演会が開かれた。

[著作]

『逮捕下獄前後の手記』 安島健訳、世界思潮研究会〈世界パンフレット通信 108〉、1922年。

『ガンデイ論集』 岩下三良訳、日本評論社、1922年。

『ガンヂー論文集』 高田雄種訳、『世界大思想全集』第39巻、春秋社、1929年。

『ガンヂー全集』第1-5篇、高田雄種訳、春秋社、1927年-1930年。

『ガンヂー死闘の叫び 不協力編』 日立九馬訳、和光社、1939年。

『印度独立運動編』 日立九馬訳、光融館書店、1940年。

『ガンヂー自叙伝』 金井為一郎訳、鄰友社、1942年。

『ガンヂー自叙伝』 木暮義雄訳編、羽田書店、1942年。

『ガンヂーは叫ぶ』 福永渙訳、アルス、1942年。

『ガンディー聖書』 エルベール編、蒲穆訳、岩波書店〈岩波文庫〉、1950年。

『ガンジー自伝』 関忠志訳、松村三冬絵、実業之日本社〈少年少女世界の本 27〉、1959年。

『ガンジー』 上笙一郎訳編、松井行正絵、小峰書店〈世界偉人自伝全集 5〉、1966年。

『抵抗するな・屈服するな ガンジー語録』 K・クリパラーニー編、古賀勝郎訳、朝日新聞社、1970年。

『わたしの非暴力』 1、森本達雄訳、みすず書房〈みすず叢書〉、1970年。

『わたしの非暴力』 1、森本達雄訳、みすず書房〈みすずライブラリー〉、1997年9月。

ISBN 4-622-05017-X。

『わたしの非暴力』 2、森本達雄訳、みすず書房〈みすず叢書〉、1971年。

『わたしの非暴力』 2、森本達雄訳、みすず書房〈みすずライブラリー〉、1997年9月。

ISBN 4-622-05018-8。

『ガンジーの健康論』 岡芙三子訳、編集工房ノア、1982年11月。

『ガンジー自伝』 蠟山芳郎訳、中央公論社〈中公文庫〉、1983年6月。

『ガンジー自伝』 蠟山芳郎訳、中央公論新社〈中公文庫〉、2004年2月、改版。ISBN 4-12-204330-1。

『万物帰一の教育』 弘中和彦著訳、明治図書出版〈世界新教育運動選書 30〉、1990年6月。ISBN 4-18-044000-8。

『私にとっての宗教』 竹内啓二ほか訳、新評論、1991年7月。ISBN 4-7948-0100-9。

『不可触民解放の悲願』 森本達雄ほか訳、明石書店〈インドー解放の思想と文学 第6巻〉、1994年6月。ISBN 4-7503-0599-5。

『ガンジー自叙伝 真理の実験』 池田運訳、講談社出版サービスセンター、1998年1月。ISBN 4-87601-431-0。

『ガンジー・自立の思想 自分の手で紡ぐ未来』 田畑健編、片山佳代子訳、地湧社、1999年6月。ISBN 4-88503-146-X。

『ガンディー自叙伝 真理へと近づくさまざまな実験』 1、田中敏雄訳注、平凡社〈東洋文庫〉、2000年6月。ISBN 4-582-80671-6。

『ガンディー自叙伝 真理へと近づくさまざまな実験』 2、田中敏雄訳注、平凡社〈東洋文庫〉、2000年6月。ISBN 4-582-80672-4。

『わが非暴力の闘い』 森本達雄訳、第三文明社〈レグルス文庫 237〉、2001年3月。ISBN 4-476-01237-X。

『非暴力の精神と対話』 森本達雄訳、第三文明社〈レグルス文庫 238〉、2001年9月。ISBN 4-476-01238-8。

『真の独立への道 ヒンド・スワラージ』 田中敏雄訳、岩波書店〈岩波文庫〉、2001年9月。ISBN 4-00-332612-1。

『私にとっての宗教』 竹内啓二ほか訳、新評論〈Shinhyoron selection 36〉、2002年12月。ISBN 4-7948-9964-5。

『神よ マハートマーガンディー詩集』 横川秀夫翻訳・監修、インド大使館、2003年9月。

『南アフリカでのサッティヤーグラハの歴史』 1（非暴力不服従運動の誕生）、田中敏雄訳注、平凡社〈東洋文庫 736〉、2005年3月。ISBN 4-582-80736-4。

『南アフリカでのサッティヤーグラハの歴史』 2（非暴力不服従運動の展開）、田中敏雄訳注、平凡社〈東洋文庫 738〉、2005年5月。ISBN 4-582-80738-0。

『ガンディー「知足」の精神』 森本達雄編訳、人間と歴史社、2008年3月。ISBN 978-4-89007-168-5。

『ガンジーの教育論』 片山佳代子編訳、ブイツーソリューション、2009年9月。ISBN 978-4-434-13513-2。

『獄中からの手紙』 森本達雄訳、岩波書店〈岩波文庫 33-261-1〉、2010年7月。ISBN 978-4-00-332611-4。

『ガンディー 魂の言葉』 浅井幹雄監修、太田出版〈太田出版〉、2011年9月。ISBN 978-4-77-831276-3。

マーティン・ルーサー・キング・ジュニア

（Martin Luther King, Jr., 1929年1月15日 - 1968年4月4日）は、アメリカ合衆国のプロテスタントバプテスト派の牧師である。キング牧師の名で知られ、アフリカ系アメリカ人公民権運動の指導者として活動した。

「I Have a Dream」（私には夢がある）で知られる有名なスピーチを行った人物。1964年のノーベル平和賞受賞者。2004年の議会名誉黄金勲章受章者。アメリカの人種差別（特にアフリカ系アメリカ人に対する差別）の歴史を語る上で重要な人物の一人である。

[生い立ち]

初めての差別

1929年、ジョージア州アトランタでバプテスト派牧師マイケル・ルーサー・キングの息子として生まれる。ミドルネームも含めて父と同じ名前を付けられたが、父マイケルは1935

年にマーティンと改名し、息子も同様に改名したため「マーティン・ルーサー・キング、ジュニア」となった。宗教改革をはじめたマルティン・ルターから父親が命名した。父親は区別のため「マーティン・ルーサー・キング、シニア」と呼ばれる。幼少の頃隣に白人の家族が住んでおりその家庭の同年男子2人と遊んでいたが、キングが6歳のある日、彼らの母親が「(黒人とは)二度と遊ばせません!」と宣言した。これが人生で初めての差別体験であった。高校時代には討論大会で優勝したが帰り道にバスの中で白人から席を譲れと強制され、激しく怒った。これが後のバス・ボイコットにつながっていく。

牧師として

モアハウス大学卒業後、ペンシルベニア州のクローザー神学校を経て父親と同じくバプテスト派の牧師となる。その後1955年にボストン大学神学部で博士号を取得した。

ボストン大学に在学中、コレッタ・スコット・キング (Coretta Scott King) と知り合って結婚した。コレッタは4人の子供を育て、夫が亡くなった後もその意思を継ぎ「非暴力社会変革センター」を設立。映画やTV、ビデオ・ゲームなどの暴力シーンを無くす運動を精力的に行ったり非暴力運動、人種差別撤廃、貧困層救済の運動を指導して世界を行脚した。彼女は2005年8月16日に脳卒中で倒れて半身不随となり、2006年1月31日に78歳で死去した。

なおキングがボストン大学在学中に飲食店に入った際、キングが黒人である事を理由に白人の店員が注文を取りに来なかったが、同店の所在地がこの様な行為を州法で禁じているボストン北部であったため、店員は人種差別として即逮捕となった。南部出身で人種差別を受けることが多かったキングは、むしろこの出来事に驚いたという。

法的差別

1862年9月にエイブラハム・リンカーン大統領によって行われた奴隷解放宣言によりアメリカ合衆国での奴隷制は廃止され、主としてアフリカ系アメリカ人は奴隷のくびきからは脱していた。しかし奴隷制度からの解放は直ちに人種差別の撤廃を意味するものではなく、その後も人種によって取り扱いを異なるものとする事、特に学校やトイレ、プールなどの公共施設やバスなどの公共交通等において白人と非白人等の区別に基づき異なる施設を用いることは容認されたままであった。

この様な状況は、アメリカが「自由で平等な」、「民主主義の橋頭堡」であると自称として参戦した第二次世界大戦後も続いており、むしろ多くの州では法令上もかかる取り扱いを義務付けていたことすらあった。

モンゴメリー・バス・ボイコット事件

1954年以来、アラバマ州モンゴメリーのバプテスト派教会の牧師をしていたが、1955年12月にモンゴメリーで発生したローザ・パークス逮捕事件に抗議してモンゴメリー・バス・ボイコット事件運動を指導する。11ヶ月後に裁判所から呼び出しがあり運動中止命令かと思っていたが、連邦最高裁判所からバス車内人種分離法違憲判決(法律上における人種差別容認に対する違憲判決)を勝ち取る。これ以降、アトランタでバプテスト派教会の牧師をしながら全米各地で公民権運動を指導した。

「非暴力主義」

キングの提唱した運動の特徴は徹底した「非暴力主義」である。インド独立の父、マハトマ・ガンディーに啓蒙され、自身の牧師としての素養も手伝って一切抵抗しない非暴力を貫いた。一見非暴力主義は無抵抗で弱腰の姿勢と勘違いされがちだが、キングのそれは

「非暴力抵抗を大衆市民不服従に発展させる。そして支配者達が「黒人は現状に満足している」と言いふらしてきた事が嘘であることを全世界中にハッキリと見せる」という決して単なる弱腰姿勢ではなかった。

事実、1963年5月にアラバマ州バーミングハムでのバーミングハム運動の中で、丸腰の黒人青年に対し、警察犬をけしかけ襲わせたり、警棒で滅多打ちしたり、高圧ホースで水をかけたりするなどの警官による事件映像が映し出され、世論は次第にそれらの暴力に拒絶反応を示していった。

公民権運動にあたっては、主として南部諸州における人種差別的取扱いがその対象となった。通常、差別的取り扱いには州法上の法的根拠が存在し、運用を実際に行う政府当局ないしは警察なども公民権運動には反対の姿勢をとることが多かったことから、公民権運動は必然的に州政府などの地域の権力との闘争という側面を有していた。合衆国においては州と連邦との二重の統治体制が設けられている中で、連邦政府ないしは北部各州は南部各州の州政府に比べれば人種差別の撤廃に肯定的であり、州政府ないしは州兵に対し連邦政府が連邦軍兵士を派遣して事態の収拾を図るケースも見られた。

キングも1963年4月12日にバーミングハムで行われた抗議デモの際自らバーミングハム市警に逮捕され、4月19日まで拘置所の独居房に投獄されたこともある。

「I Have a Dream」

1963年8月、ワシントン大行進にて、“I Have a Dream”の演説を行うキング

1963年8月28日に行われたワシントン大行進においてリンカーン記念堂の前で有名な“I Have a Dream”（私には夢がある）を含む演説を行い、人種差別の撤廃と各人種の協和という高邁な理想を簡潔な文体で訴え広く共感を呼んだ。

当該箇所の演説は即興にて行われたものといわれるがその内容は高く評価され、1961年1月20日に就任したジョン・F・ケネディの大統領就任演説と並び20世紀のアメリカを代表する名演説として有名である。

[勝利]

キングを先頭に行われたこれらの地道かつ積極的な運動の結果、アメリカ国内の世論も盛り上がりを見せ、ついにリンドン・B・ジョンソン政権下の1964年7月2日に公民権法

(Civil Rights Act)が制定された。これにより、建国以来200年近くの間アメリカで施行されてきた法の上における人種差別が終わりを告げるようになった。

ジョンソンは人種差別を嫌う自らの信条のもと、自らの政権下においてキングと共にこれを強く推進した。なお公民権法案を議会に提出したのはジョンソンが副大統領であったケネディ政権時代のことであるが、議会内において強い政治的影響力を持たなかったケネディを後押しし続けたジョンソンが、キングの協力を受けて自らの政治的影響力をフルに使い、制定へ向けた議会工作を活発化させ公民権法の早期制定に持ち込むことに成功した。

ノーベル賞受賞者 ノーベル賞

受賞年：1964年

受賞部門：ノーベル平和賞

受賞理由：アメリカ合衆国における人種偏見を終わらせるための非暴力抵抗運動

公民権運動に対する多大な貢献が評価され、「アメリカ合衆国における人種偏見を終わらせるための非暴力抵抗運動」を理由にマーティンに対し1964年度のノーベル平和賞が授与されることに決まった（受賞発表は10月14日で、授賞式は12月10日だった）。これはノーベル平和賞を受けるアメリカ人としては12人目だったが、当時史上最年少の受賞であり、

黒人としては3人目の受賞である。「受賞金は全てのアフリカ系アメリカ人のものだ」とコメントした。ただし当時の全てのアフリカ系アメリカ人がキングに同意していたわけではなく、一部の過激派はマルコムXを支持しキングの非暴力的で融和的な方針に反発した。

[マルコムXとの関係]

暴力的手法を含む強行的な手段による人種差別の解決を訴え、同時期に一気に支持を得て台頭し始めていたマルコムXが1965年2月に暗殺されると、マルコムXとはその手段において相当の隔絶があったにも関わらず「マルコムXの暗殺は悲劇だ。世界にはまだ、暴力で物事を解決しようとしている人々がいる」と語った。しかしその数年後、キング自身も暗殺される。

一時期は公然とキングの姿勢を批判し演説の中で非暴力抵抗を笑いものにしていた事さえあったマルコムXだったが、暗殺の前年には自らの過激な思想の中核をなしていたブラック・モスリムのネーション・オブ・イスラム教団と手を切っていた。新たな思想運動のステップを登るべく「なんとかキング牧師と会って話がしたい」と黒人社会学者ケニス・クラークの仲介で会談を持とうと模索している矢先のできごとであった。キングは、そのためにマルコムXの暗殺を特に嘆いていた。

[黒人解放運動の分裂]

「血の日曜日事件 (1965年)」および「Poor People's Campaign」も参照

ワシントンDCへの20万人デモで最高の盛り上がりを見せ公民権法を勝ち取った黒人解放運動はその後、生前のマルコムXやその支持者を代表とする過激派や極端派などへ内部分裂を起こし、キングの非暴力抵抗は次第に時代遅れなものになっていった。

黒人運動は暴力的なものになり「ブラック・パワー」運動を提唱するストークリー・カーマイケルに代表されるような強硬的な指導者が現れ、ブラックパンサー党が結成されたり、1967年夏にニュージャージー州で大規模な黒人暴動が起きたりするに至って、世論を含め白人社会との新たな対立の時代に入っていく。呼応するように白人からの黒人に対する暴力事件も各地で増えていった。

キング牧師はその要因を自身の演説の中で以下のように分析し、「すべての罪が黒人に帰せられるべきではない」と結論付けた。

公民権法成立は黒人から見ると解放運動の最初のステップでしかなかったが、白人社会は「これで問題は片付いた」とゴールだと位置づけた。

深く根付いた差別意識は依然として教育や雇用の場に蔓延しており、黒人は階段の入り口には立てても頂点には上っていけない。

差別意識により雇用の機会を奪われた黒人の失業問題は、白人に比べ深刻である。

ベトナム戦争により黒人は多数徴兵され、その多くは最前線で戦わされている。彼らは母国で民主主義の恩恵を受けていないのに、民主主義を守るために戦争に狩り出されている。

大都市ではスラム街に黒人が押し込められ、戦争のためにそのインフラ整備等の環境問題はないがしろにされている。

[ベトナム反戦運動]

そして「ベトナム戦争反対」の意思を明確に打ち出しながら、「ブラック・パワー」に対し「グリーン・パワー」（緑はアメリカで紙幣に使われる色、つまり「金の力」）などでさらなる黒人の待遇改善を訴えていった。一方で自身でも時代遅れになりつつあることを自覚しながらも非暴力抵抗の可能性を信じ、それを黒人社会に訴えていった。

その後、キングは激化の一途をたどるベトナム戦争へのアメリカの関与に反対する、いわ

ゆる「ベトナム反戦運動」への積極的な関与を始めるようになったが、その主張は一向になくならない人種差別に業を煮やし、暴力をも辞さない過激思想への理解すら示しつつあった「黒人社会」の主流のみならず、ベトナム戦争への関与をめぐり2つに割れつつあった「白人社会」の主流からさえ離れて行き、さらにキングを邪魔だと考える「敵」も増えていった。爆弾テロや刺殺未遂（犯人は精神障害のある黒人女性）もあったが、奇しくも命をとりとめるなど、その様な状況下でも精力的に活動を続けていた。

[暗殺]

1968年4月4日に遊説活動中のテネシー州メンフィスにあるメイソン・テンプルで“en:I've Been to the Mountaintop”（私は山頂に達した）と遊説。その後メンフィス市内のロレイン・モーテルのバルコニーでその夜の集会での演奏音楽の曲目を打ち合わせ中に、白人男性で累犯のならず者、ジェームズ・アール・レイに撃たれる。弾丸は喉から脊髄に達し病院に搬送されたが、間もなく死亡した。墓標には「ついに自由を得た」と穿たれている。レイは国外に逃亡し、数ヵ月後、ロンドンのヒースロー空港で逮捕され、懲役99年の判決を受ける。その後、彼は服役中の1998年4月23日にC型肝炎による腎不全で死去した。暗殺の前日にキング牧師がおこなった最後の演説の最後の部分は以下のようなものであり、『申命記』32章のモーセを思わせる、自らの死を予見したかのようなその内容は“en:I Have a Dream”と共に有名なものとなった。

…前途に困難な日々が待っています。
でも、もうどうでもよいのです。
私は山の頂上に登ってきたのだから。
皆さんと同じように、私も長生きがしたい。
長生きをするのも悪くないが、今の私にはどうでもよいのです。
神の意志を実現したいだけです。
神は私が山に登るのを許され、
私は頂上から約束の地を見たのです。
私は皆さんと一緒に行けないかもしれないが、
ひとつの民として私たちはきっと約束の地に到達するでしょう。
今夜、私は幸せです。心配も恐れも何もない。
神の再臨の栄光をこの目で見たのですから。

[キングの死後]

キングの暗殺を受けて、アメリカ国内の多くの都市で怒りに包まれたアフリカ系アメリカ人による暴動が巻き起こったが、葬儀が行われるとその怒りは悲しみに変わり、アフリカ系アメリカ人のみならず、多くのアメリカ人が葬儀に参列しその死を悼んだ。また、暗殺現場となったモーテルは国立公民権博物館となっている。

アメリカではキングの栄誉を称え、ロナルド・レーガン政権下の1986年よりキングの誕生日（1月15日）に近い毎年1月第3月曜日を「マーティン・ルーサー・キング、ジュニア・デー」（Martin Luther King, Jr. Day）として祝日としている。アメリカにおいて生前の業績から祝日が制定された故人は、他にクリストファー・コロンブスとジョージ・ワシントン、エイブラハム・リンカーン（誕生日2月12日は1892年に連邦の休日と宣言されたが、後にジョージ・ワシントンの誕生日と併せて大統領の日とされ毎年2月第3月曜日に制定されている）の3人しかいない。

アメリカ国内において、アングロサクソン系を中心とした白人による、アフリカ系アメリカ人やインディアン、ヒスパニック、アジア系アメリカ人、中東系アメリカ人(特にイス

ラム教徒へのもの)をはじめとする少数民族に対する人種差別は未だ根絶されていないが、キングの運動の結果、公民権法が施行されたことによる法的側面からの人種差別撤廃の動きを、平和的な手段によって大きく前進させた意味は大きいといえる。

公民権運動に携わった時期及び凶弾に倒れた際の話は、遠く離れた日本の中学校3年英語教科書の教材として使用されている。ストーリーの最後に登場する、「人は兄弟姉妹として共に生きていく術を学ばなければならない。さもなくば、私たちは愚か者として滅びるだろう」は、キングがメンフィスで語った言葉である。

そしてキングの死から40年後にアメリカ人とケニア人の混血であるバラク・オバマが大統領に就任した。ミシェル・オバマ夫人は黒人奴隷の子孫であるため、アフリカ系アメリカ人初の大統領とファーストレディが同時に誕生した。バラク・オバマ大統領就任式はアフリカ系初であるために記録的な観客に満ち、キングの子孫のマーティン・ルーサー・キング3世(祖父・父と同名)も参加し、第44回就任式のテーマは、エイブラハム・リンカーン生誕200年を記念して、「自由の新しい誕生 (A New Birth of Freedom)」とされた。ベトナム、ホーチミン市7区にはベトナム史の偉人の名にまじり、「マーチン・ルーサー・キング通り」が存在する。

[楽曲]

吹奏楽曲であるJ・ホセイ作曲の「ひとつの声に導かれる時(AND THE MULTITUDE WITH ONE VOICE SPOKE)」はキングの公民権運動がテーマとなっている。

ステイーヴィー・ワンダーの楽曲「ハッピー・バースデー」(『Hotter Than July』に収録)は「キングの誕生日を祝日にしよう」という運動に捧げた曲である。

U2の楽曲「MLK」「Pride (In the Name of Love)」(『The Unforgettable Fire』に収録)はキングに捧げた曲である。

マイケル・ジャクソンの楽曲「HIStory」にキングの演説の一部(“I Have a Dream”)が使われている。「Man in the Mirror」のショートフィルム(ビデオクリップ)には、ガンディーらと共に一瞬ではあるがキングの映像が登場する。[They don't care about us]に(もしマーティン・ルーサーが生きていたら、このような事態を放っておかなかった)という部分がある。

プリンスの2001年の楽曲Family Nameの曲末には63年の演説の最後の部分、“Free at last”の部分がそのままキングの声で収録されている。

ポール・マッカートニー&ウイングスの楽曲「幸せのノック(Let 'em In)」の歌詞に名前が登場する。

ロックバンドリンキン・パークの楽曲「Wisdom, Justice and Love」(『A Thousand Suns』に収録)にキングのスピーチの音源がサンプリングされている。

[逸話]

上述の通り、キングは平和的手段によって人種差別問題の解決に貢献したとして高く評価されているが、その死後にFBIの調査による女性関係の醜聞が明らかにされている。

ニューヨークタイムズは2011年9月12日、1964年に行われた歴史学者のアーサー・シュレジンジャーによるジャクリーン・ケネディへのインタビューの内容を公開した。それによると、彼女はFBIによって盗聴・録音されたキングの妻以外との女性関係を示す内容のテープを聴き、彼を偽善者と罵っている。また、ワシントン・ポスト記者であるボブ・ウッドワードの『ディープ・スロート 大統領を葬った男』でも、キングがホテルで不特定多数の女性と性交渉を行っている様子を盗聴していた事実を記載している。“Enemies: A History of the FBI”(ティム・ウェイナー)においても、説教の草稿作成や調査用の名目で借りていたアパートにおいて、女性と密会していた事がFBIの盗聴によって露呈していた事

が記録されている。

[参考文献]

- 『マーティン・ルーサー・キング自伝』 日本基督教団出版局 ISBN 4818404306
『私には夢がある——M・L・キング説教・講演集』 新教出版社 ISBN 4400421228
『汝の敵を愛せよ』 新教出版社 ISBN 4400520099
『自由への大いなる歩み——非暴力で闘った黒人たち』 岩波書店[[[岩波新書]]] ISBN 4004150035
『良心のトランペット』 みすず書房 ISBN 4622049406
『黒人はなぜ待てないか』 みすず書房 ISBN 4622049392
『キング牧師とマルコムX』 講談社[[[講談社現代新書]]]ISBN 4061492314

ウィキリークス (WikiLeaks) は、

匿名により政府、企業、宗教などに関する機密情報を公開するウェブサイトの一つ。創始者はジュリアン・アサンジ。投稿者の匿名性を維持し、機密情報から投稿者が特定されないようにする努力がなされている。2006年12月に準備が開始され、それから一年以内に120万を超える機密文書をデータベース化している。ウィキリークスの運営には、MediaWikiに変更を加えたソフトウェアを用いている。ウィキメディア財団 (Wikimedia Foundation) はウィキリークスとは無関係である。

[経緯]

2007年1月までは、ウィキリークスは、ウェブサイト、また企画そのものも秘密にされていた。しかし2007年1月に発表された記事でセキュリティ・ニュースの編集長にウィキリークスの運営組織に加わるように要請したことで、ウィキリークスの存在は初めて明らかにされた。現在、ウィキリークスは、中国の反政府主義者と、台湾、欧米、オーストラリア、南アフリカのジャーナリスト、数学者、ベンチャー企業の技術者によって運営されている。2007年1月時点でウィキリークスのスタッフ、開発者、被雇用者の全員の身元は確認されていなかった。ウィキリークスの運営組織のメンバーであるジュリアン・アサンジは当初ウィキリークスは2007年3月に発表される予定であり、2007年1月の記事によるウィキリークスの露見によるメディアからの注目は不測の事態であったと述べた。ウィキリークスにリークされた公開の準備を進めている文書の数には120万以上であると言われている。当ウェブサイトのトップページにニュースとして載せられた、アフガニスタン紛争 (2001年-)での武器装備の支出と所蔵や、ケニアでの汚職に関わる文書を筆頭として、その後ウィキリークスは数々の重要な文書を公開している。ウィキリークスは投稿者の身元を露呈せずに大量の文書を暴露し分析できるようにするために、Wikipediaに似た、検閲されないサイトになることを目指している。ウィキリークスの完璧な匿名システムでは、偽造文書や、ポルノ、スパムで溢れてしまうことを防ぐためにチェック機構が設けられている。全ての閲覧者は全ての文書に対して分析し、文書が本物であるか判断し、コメントをつけることができる。ウィキリークスの外では、これまで、内部告発者やジャーナリストが逮捕されたり、刑務所に収容されるということが起きていた。例えば、中国の公務員からの天安門事件の記念日に関しての電子メールを公表したことで、中国人ジャーナリスト師涛 (中国語版) は、2005年に懲役10年の刑を判決されている。ウィキリークスは、このようなことが起きないと保証できるようになることを目指している。ウィキリークスが世間に知られてから最初の二週間で、検索エンジン大手のGoogleに掲載されたページ数は8件から1,000,000件に急増し、ウィキリークスへのトラ

フィックは増大した。

このウィキリークスというプロジェクトが開始されると、1971年のダニエル・エルズバーグによるペンタゴン・ペーパーズの漏洩事件が引き合いに出された。アメリカでは文書をリークすることに対し法的な保護を受けられる可能性がある。合衆国最高裁判所は、アメリカ合衆国憲法のもと、少なくとも公的談話の範囲内では、匿名性は保証されて然るべきものであるとの判断を下している。ウィキリークスプロジェクトの利点について、著者でジャーナリストのホイットリー・ストリーバーは「（アメリカ合衆国では、）政府内部の文書をリークすることで実刑判決を受け刑務所行きになることもあるだろうが、それは相応に短い期間であろう。しかし世界には中国やアフリカの一部、中東など、長期間の投獄やさらには死刑すらも考えられるような地域や国が多く存在している。」と言及している。

[技術]

ウィキリークスサイトのFAQにはかつて次のように書かれていた。「閲覧者はウィキリークスが外見上ウィキペディアに非常に似ていると感じるだろう。実際、誰もが新たに記事を投稿したりあるいは編集したりすることができる。告発者はインターネットに詳しくなくても匿名のまま投稿することができ、その後誰かによって正体が暴かれることはない。公の場でリーク文書について意見を交わし合うことで信頼性、信憑性を判断することができる。リークされた文書に対して各ユーザーが持っている見解やリークされるに至った状況などを議論し合い、集合知から生み出された結論を公表することができる。背景情報や経緯を織り込みつつリークされた機密文書に関する補説的な記事を読んだり書いたりすることもできる。最終的には、幾千もの人々の目に触れることでその文書は政治的にどのような意味を持つのか、偽物などではなく正真正銘なのかということが明らかにされるだろう。」

しかし、このようなwikiモデルでは、自動的、無差別的に機密とされたあらゆる記録が公開されてしまうのではないかという早い段階からの懸念に答えて、この方法は後に改められた。現在では、最初のFAQで掲げられた「誰もがウィキリークスに投稿できる」という主張は取り下げられ、「誰もがウィキリークスにコメントを投稿できる」と書き改められている。投稿はウィキリークス内部で匿名の審査員による審査を受け、公開されるに至るものもあれば公開されないものもある。

ウィキリークスは、MediaWikiや、Freenet、Tor、PGPを初めとする数々のソフトウェアパッケージによって支えられている。

ホスティング、アクセス、セキュリティ

ウィキリークスは身元が割れることなく大量の文書をリークするための検閲されないシステムと自身を説明している。PRQというスウェーデンの企業が提供している「強固なセキュリティ、そして何をしても一切の注意や警告を行わないホスティングサービス」をウィキリークスは利用している。PRQが顧客に関して保持している情報はほぼ皆無であり、またPRQはログを取ることがあっても最小限でしか行わないことで知られている。PRQはゴットフリート・スヴァルトホルムとフレドリック・ネーイが保有しており、この2人は、パイレート・ベイとの関与を通して当局からの法的介入に抵抗するための十分な経験を有している。つまりPRQにホストされているという事実はウィキリークスをオフラインにするのが難しいということの意味している。さらにウィキリークスは複数の未公開の施設にそれぞれサーバーを配置しており、一切のログを記録せずなおかつ軍レベルの暗号化技術を用い、ソースやその他機密情報を守っている。ウィキリークスのために働いている身元を明かさなかったある人物は「明らかにウィキリークスはホスティングの提供者をまったく信用していない」と述べた。このような用意周到さは「防弾ホスティング」と呼ばれて

いる。

ドイツ語版"WikiLeaks"のドメイン保持者に対する警察の家宅捜索
ウィキリークスがオーストラリア通信メディア庁（ACMA）の検閲対象ブラックリストを公表したため、2009年3月24日ドイツ語版"WikiLeaks"のドメイン、wikileaks.deの登録人、テオドル・レッペの家宅に捜査の手が入った。サイトは影響を受けなかった。

中国での検閲

現在、中国政府は、"WikiLeaks"をURLに含んでいるあらゆるウェブサイトを検閲しようとしている。これには、主要な.orgサイト、地域別の www.freewikileaks.com や.ukが含まれている。だが、このような中国の検閲にも関わらず、"WikiLeaks"という名称の代わりに、"secure.ljsf.org"や"secure.sunshinepress.org"といった多数ある別名のどれかを使うことで、ウィキリークスは、アクセス可能である。代用されるサイトは、頻繁に変わってしまうので、最新の別称を調べるためには、中国大陸以外の場所で、"WikiLeaks 別称"と検索するようにと、ウィキリークスはユーザーに推奨している。Baidu、Yahooを例として、中国大陸のサーチエンジンは、"WikiLeaks"と言及するものまでも検閲している。

将来オーストラリアの検閲が始まる可能性

Wikinewsが伝えた関連報道によれば、オーストラリアは"WikiLeaks","Wikipedia"の一部を閉鎖した。2009年3月16日、オーストラリア通信メディア庁は、強制的なインターネット検閲選別計画が予定通り実施される際、WikiLeaksを全オーストラリア人に見せてはいけないサイトのブラックリストに載せる旨の提案を行った。

タイでの検閲

タイ王国情報技術・通信省は、2010年8月18日からWikiLeaksへのアクセス規制を開始した。公式には元首相タクシン・チナワットを支持する反独裁民主同盟による反政府デモ活動を防ぐための非常事態令を根拠としているが、詳細は発表されておらず不明。

投稿された文書の検証

誤解を生じさせる、又は、騙すように意図的に作られた内部告発情報がウィキリークスを通して、社会に出回ってしまうのではないかという懸念に対し、ウィキリークスは「そのようなものは、主要メディアにおいて、既にある程度の地位を獲得してしまっている。たとえ、ウィキリークスがその中の一つとなったとしても、状況は何も変わらない。」と反論している。FAQは、「単純でいてかつ最も効果的な対抗策として、リークされた文書を精査し、議論できるだけの十分な知識を有しているユーザーから成る世界規模のコミュニティがあるのだ」と述べている。

主な内部告発行為

前述のとおり、ウィキリークスはアジアやアフリカや中東の独裁政権に対抗する目的を有しているが、実際には欧米の政府に不都合な情報が多数を占めている。

サラ・ペイリンのヤフーアカウントハッキング

2008年9月、アメリカ合衆国大統領選挙期間中、共和党副大統領候補者であるサラ・ペイリンのヤフーアカウントが、ウィキリークスに投稿された。

イラク戦争の民間人殺傷動画公開事件

2010年4月、ウィキリークス上にて、2007年7月12日のイラク駐留アメリカ軍ヘリコプターがイラク市民やロイターの記者を銃撃し殺傷した事件の動画が公表された。2010年5月、米軍諜報アナリストとされる軍人がこの動画と、外交機密文書約26万件をウィキリークスに提供したことが発覚し、この軍人は逮捕された。

アフガン紛争関連資料公開事件

2010年7月25日、ウィキリークスにてアフガニスタン紛争に関するアメリカ軍や情報機関の機密資料約75000点以上が公表された。提供された資料は9万点以上に及ぶという。これは2004年から2009年にかけての記録で、パキスタンの情報機関「ISI」とアフガン武装勢力との関係や、未公表の民間人死傷案件、アフガン側のアメリカへの情報提供者の身元情報が含まれていた。これに対しアメリカのロバート・ゲーツ国防長官はFBIに捜査協力を要請した。国防総省内の内部告発者のみならず、ウィキリークス側にも捜査の手を広げようという意図があると言われている。

文章をリークした罪で米国諜報員のブラッドリー・マニング（22歳）が告発されて降格かつ不名誉除隊となり、35年の禁固刑が言い渡された。

[イラク戦争の米軍機密文書公開事件]

2010年10月22日、イラク戦争に関する米軍の機密文書約40万点をウィキリークス上で公開した。ウィキリークスは声明で「民間人が検問で無差別に殺されたとの報告や、連合軍部隊によるイラク人拘置者への拷問のほか、屋根に反政府勢力と疑わしい人物が1人いるという理由で、米軍兵士が民間施設を丸ごと爆破した報告がある」としている。

国防総省のモレル報道官は「ウィキリークスが法律に背いて情報を流出させるように個人に働きかけ、傲慢に機密情報を世界と共有することを遺憾に思う」とコメントしている。

[アメリカ外交公電ウィキリークス流出事件]

2010年11月29日より、米国外交機密文書約25万点の公開を開始。内容としては、公式では公開されることのなかった外交公電や世界中の重要施設についての情報などが含まれており、当初は少しずつ文書を新たに公開していくという手法をとっていたが、2011年9月2日にすべての文書を未編集のまま全公開した。

備考

ドイツで子供の名前を「ウィキリークス」に名づけようとしたところ、市当局が子供の将来に悪影響を及ぼすとして、受理を断られたケースがある

ジュリアン・ポール・アサンジ

(Julian Paul Assange /əˈsɑːnɜː/, 1971年7月3日 -) は、オーストラリアのジャーナリスト、出版社、発行人、インターネット活動家。内部告発および情報漏洩の情報を伝えるウェブサイトウィキリークスの広報人、編集長として知られる。ウィキリークスを創設する以前はプログラマー、ハッカーとして活動していた。いくつもの国に住んでいたことがあり、報道の自由・検閲・調査報道に関する自身の見解を述べる機会に公の場に姿を現している。姓はアサンジュ、アサーンジとも。

[人物]

アサンジは自身が2006年に立ち上げたウェブサイトウィキリークスでその諮問委員を務めている。ケニアで起きた虐殺に関する報道では、2009年アムネスティ・インターナショナル

ル国際メディア賞を受賞した。これまで公表した情報には、コートジボワールにおける有害物質の大量廃棄による環境被害、サイエントロジー教会のマニュアル、グァンタナモ米軍基地の作業手順、カウプシング銀行やジュリアス・ベアなどの銀行などに関するものがある。2010年には米軍によるアフガニスタンでのイラク戦争への関与に関する機密情報を公表した。2010年11月28日、ウィキリークスと5つの報道機関はアメリカの外交機密文書の公開を始めた。ホワイトハウスはアサンジの行為を「無謀かつ危険」とした。彼のウィキリークスに関する功績に対しては、『エコノミスト』誌による2008年「表現の自由」賞、2010年サム・アダムス賞が贈られた。『Utne Reader』誌は「世界を変える理念を持つ25人」の一人に選出している。『ニュー・ステーツマン』誌による2010年の「世界で最も影響力のある50人」では23位を飾り、2010年12月、『タイム』誌の2010年「パーソン・オブ・ザ・イヤー」で読者投票部門の1位に選ばれた[14]。

アサンジはスウェーデンで性的暴行を行った疑いがかけられているが、彼はすべての容疑を否認しており、潔白を誓っている。

ウィキリークス党の結党を表明し、2013年のオーストラリア連邦議会上院選挙への出馬したが、落選した。

[来歴]

生い立ち

クイーンズランド州タウンズビルに生まれ、若い時期のほとんどをマグネティック島で過ごす。

1歳のときに母クリスティーヌが舞台演出家ブレット・アサンジと結婚し、現在の姓を得る。両親は舞台の巡回興行を始める。最初の「本当の父」と呼ばれた彼の継父はジュリアンのことを「善悪に対して鋭い感覚を持った」、「非常に切れる子供だった」と話している。「常に弱者をかばおうとしていた。誰かが誰かを集団で攻撃することに対して、常に激しい怒りを抱いていた」

1979年、母が再婚する。新しい父は、アン・ハミルトン＝バーン率いるニューエイジ集団に所属するミュージシャンであった。母と新しい父は1人の息子を儲けるが、1982年に離婚。親権を争った母が息子たちを5年に亘り匿ったため、アサンジは少年時代に数十回の引越しと転校を余儀なくされ、ときには家庭学習を受けることもあった。

ハッキング

16歳頃の1987年、アサンジは「Mendax」（ホラティウスの言葉で「気高く不正直」を意味する「splendide mendax」から）の名でハッキングを始める。彼は他の2人のハッカーとグループ「International Subversives」（国際破壊分子）を結成した。彼らの初期のルールには「侵入するコンピュータのシステムを破壊してはいけない（クラッシュさせることを含む）」「システムの情報を書き換えてはいけない（侵入の形跡ログを消す場合を除く）」

「情報を共有する」があったことをアサンジは記している。

ハッキングを受け、1991年、オーストラリア連邦警察はメルボルンのアサンジの自宅を捜索した。彼はとあるオーストラリアの大学、カナダの通信企業ノーテル、およびその他の組織のコンピュータにモデムを通じてアクセスしたと伝えられた。1992年、彼は24のハッキング容疑を認め、2,100オーストラリアドルを払い保釈された。検察官は「彼にさまざまなコンピュータの内部を覗かせた要因が知的好奇心を措いて外にあったという証拠は全くない」と語った。

アサンジは後に「実を言えば、ハッカーであった頃のことをあれこれ言われるのはちょっとうっとうしい。私が著した本やドキュメンタリーがあるから人はあれこれ噂するが、20

年も前のことだし、彼らはそのことをいくらでも、好きなようにカット・アンド・ペーストできるから。ただ、私にとってその過去は汚点ではなく、それどころか誇りにさえ思っている。なにより、彼らがいまだに私のことをハッカーと呼ぶ理由も分かるから」とコメントしている。

[親権問題]

1989年、アサンジは内縁の妻と同居を始め、ダニエルという息子を持った。その後2人は別れ、約10年に及ぶ親権闘争に突入する。2人が合意に達したのは1999年のことであった。これらの経緯から、アサンジと彼の母はオーストラリアにおける親権に係わる問題の法務記録の「中央データバンク」の作成を主要な目的とした活動団体「Parent Inquiry into Child Protection」を創設した。

[プログラミングと学業]

1993年、オーストラリアにおける初期のインターネットサービスプロバイダである「サーバービア・パブリック・アクセス・ネットワーク」の立ち上げに関わる。1994年からはフリーソフトウェアプログラマおよび開発者としてメルボルンに住んでいた。1995年、アサンジはStrobeというフリーソフトウェアでは最初のポートスキャナを書いた。1996年にはPostgreSQLのプロジェクトにパッチを投稿している。1997年に発行されたスーレット・ドレイファス著『Underground: Tales of Hacking, Madness and Obsession on the Electronic Frontier』には、彼と「International Subversives」にまつわる経緯を提供し、リサーチャーとしてクレジットされた。1997年頃からは、Rubberhoseという否定可能な暗号化システムの開発に共同で携わっている。これはLinux用パッケージとして作られた暗号化コンセプトで、締め上げ暗号分析に対して十分な否定可能性を提供するために設計された。アサンジは当初このシステムを「人権活動家とその分野の機密データを保護するためのツール」として使うことを想定していた。その他、彼が開発に携わったフリーソフトウェアにはNNTPCacheというUsenetのキャッシュソフトや、SurfrawというWebベース検索エンジンのCLIが含まれる。1999年、アサンジは「leaks.org」というドメイン名を取得した。「が、結局何もしなかった」

伝えられるところによると、アサンジは6つの大学に複数回通っている。2003年から2006年の間に彼はメルボルン大学で物理学と数学を学んだ。物理学と神経科学も学んでいた。卒業することはない、所属する数学コースでも及第点ぎりぎりの点数しか得ていなかった。彼個人のウェブページによると、2005年頃、オーストラリア物理学コンテストに代表として参加した。

[性的暴行容疑]

2010年8月20日、スウェーデンで26歳と31歳の2人の女性と彼の4件の性的関係に関連して、アサンジに対する捜査が開始され、逮捕状が発布された。女性たちのうち、一人はヨンショーピング市、もう一人はストックホルムに住んでいるという。捜査開始から間もなくして、主任検察官Eva Finnéは逮捕状を取り下げ、「彼がレイプをはたらいたことを疑う理由があるとは思わない」と語った。アサンジは女性たちとの性的関係は合法であったとして、容疑を否定した。その上で彼と支援者は告発を組織的な中傷目的の攻撃だとした。8月31日、彼は約1時間の警察による取調べを受け、9月1日には、スウェーデンの幹部検察官Marianne Nyが新たな情報を引証して捜査を再開した。スウェーデンの政治家で、女性たちの弁護士を務めるClaes Borgströmは、手続き停止の決定に対し以前から異議申し立てを行っていた。アサンジは彼に対する非難はウィキリークスの敵対者たちによる「でっち上

げ」だとしている。

10月下旬、スウェーデン当局はアサンジのスウェーデンにおける居住および労働の許可申請を拒否した。11月4日、アサンジはスイスに対して政治亡命者の保護を正式に要請することを「現実の可能性」として検討していることを明かした[48]。11月18日、ストックホルム地方裁判所はアサンジの勾留申請を承認した。11月20日、スウェーデンの刑事警察は、国際刑事警察機構 (ICPO) を通じてアサンジを国際指名手配した。また、シェンゲン情報システムからは「ヨーロッパ逮捕手配」が発布された。

11月30日、ICPOはスウェーデンからの要請により、「セックスに関する犯罪」の容疑でアサンジを国際逮捕手配した。スウェーデンが出した要請の理由には、「寝ている相手に性行為をした」という性的虐待や「体重をかけ抑えつけて性行為を強要」という非合法的無理強いが含まれていたが、アサンジや一部の報道によると紛争の原因は合意に反してコンドームによる避妊を行わなかったことだという。アサンジの弁護士は「アサンジ氏は検察の質問に自ら応じることに合意しており、にもかかわらず国際逮捕手配を発布するのは、スウェーデンにおける判例からしても極めて異例かつ異常である」と語り、またスウェーデンが彼に対しアメリカへの身柄送還を行う可能性についても争う構えを見せている。

12月7日、アサンジはロンドン警視庁に出頭し逮捕された。同日、保釈を却下され再勾留された。12月14日、保証金24万ポンド（約3000万円）やパスポートの没収を条件に保釈が許可されたが、スウェーデン検察の要請により勾留は続けられた。12月16日、要請は退けられ、再び保釈が許可された。保釈中はノーフォークの「エリンガム・ホール」で過ごす。外出は制限され、発信器を付けられるほか、警察に対する一日の報告も義務付けられる。アサンジの弁護士マーク・スティーヴンスはこれらの手続きを見せしめ捜査とみている。アサンジの弁護団には人権派の英国王室顧問弁護士[66]ジェフリー・ロバートソンや事務弁護士ジェニファー・ロビンソンらが名を連ねている。イギリスにおけるスウェーデン移送に関する審理は2011年2月から始まり、2012年6月にイギリス最高裁は移送を決定したがエクアドル大使館に逃げ込んだために実現していない。

[支援と賞賛]

ブラジルのルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルヴァ大統領はアサンジの逮捕を受け、彼との「連帯」を表明した。その上で大統領は逮捕について「表現の自由に対する攻撃」であるという意見を示した。

ロシアのドミートリー・メドヴェージェフ大統領が「公共団体および非政府組織は彼を助ける方法を考えるべきだ」と語ったという情報もある。このコメントは、スウェーデンにおけるアサンジの逮捕は西に「報道の自由が存在しない」ことを裏付けるものとしたロシアのNATO大使ドミートリー・ロゴジンの発言を受けたものである。

2010年12月、国連言論と表現の自由特別報道官フランク・ラ・ルエは、アサンジや他のウィキリークス職員が流した情報に関して彼らが法的責任を負うべきではなく、「仮に漏洩した情報に対する責任が誰かにあるとすれば、それは情報を漏らした人間に他ならず、情報を公表したメディアではない。そしてこの仕組みこそが透明性を維持し、さまざまな腐敗を浮かび上がらせてきたのだ」と語った。

2010年12月10日、500を超える人々がシドニー市役所の前で集会を行い、ブリズベンでは約350人が集まった。2010年12月11日にはマドリードの英国大使館に100人以上が集まり、アサンジの逮捕に対する抗議を表明した。

[受賞]

ケニアにおける虐殺を暴いた調査『The Cry of Blood: Extra Judicial Killings and

Disappearances』で2009年アムネスティ・インターナショナル国際メディア賞ニュー・メディア部門を受賞。これを受けてアサンジは「この不正が記録されたことは、ケニアの市民社会の勇気と力の証左である。我々に協力してくれたオスカー財団、KNHCR、マーズ・グループ・ケニアといった団体の甚大な貢献を得て、我々はこれらの殺人を世界に知らしめることができた」と述べた。彼は『エコノミスト』誌による2008年『Index on Censorship』賞も受賞している。

Sam Adams Associates for Integrity in Intelligenceは2010年サム・アダムス賞にアサンジを選んだ。2010年9月、彼は『ニュー・ステーツマン』誌による2010年の「世界で最も影響力のある50人」の23位になった。『Utne Reader』誌11/12月号では、「世界を変える理念を持つ25人」の一人に選されている。2010年12月、『タイム』誌の2010年「パーソン・オブ・ザ・イヤー」でアサンジは読者投票部門の1位に選ばれた(賞総合では次点)。

[居住]

オーストラリア国籍を持つものの、住所不定として登録されている。しきりに居住を移しており、オーストラリア、ケニア、タンザニアに一定期間住んでいたことがある。アサンジやビルギッタ・ヨンスドッティルが米軍のヘリコプターがイラクの民間人を殺害するビデオを公開した後の2010年3月10日からは、アイスランドに借家を構えている。

2010年の間はイギリス、アイスランド、スウェーデンなどのヨーロッパの国々を訪れた。

2010年11月4日、アサンジはスイスの公共テレビTSRに、中立国であるスイスに政治亡命を申請し、そこにウィキリークスの拠点を構えることを真剣に考えていると語った。

2010年11月下旬、エクアドルの外務副長官Kintto Lucasは「無条件だ。ならば彼はインターネットに留まらず、さまざまな形のパブリックフォーラムで自由に情報を提供し、あらゆる資料を保有できる」と語り、アサンジに居住を提供する構えを見せた。副長官は、アサンジと対話を始めることがエクアドルの利益に繋がると考えた。11月30日、外務長官

Ricardo Patinoは提案について「法的、外交的見地から調査する必要がある」との立場を示した。その数時間後、ラファエル・コレア大統領はウィキリークスは「米国法を破り、このような類の情報をリークするという過ちを犯した。正式な提案を行ったことはない」と述べた。大統領はLucasの提案は「彼自身の利益のため」のものだったとした。大統領はエクアドルが公電の流出により受ける影響の調査を開始するという。

2010年12月7日、ウェストミンスター治安判事裁判所で行われた公判で、アサンジは彼の住所を私書箱に指定した。しかしその情報では受理できないと判事に伝えられると、アサンジは「オーストラリア・ビクトリア州パークビル」と用紙に記入した。本籍地を持たないことと彼の流亡生活は、保釈申請却下の要因として判事に取り上げられた。ジャーナリストのヴォーガン・スミスがノーフォークにある彼の邸宅「エリンガム・ホール

(Ellingham Hall)」を身柄送還に関する手続きの間保釈中の住所として提供することを提案したこともあり、最終的に保釈は許可された。スミスによると、エリンガム・ホールの広大な土地はアサンジにプライバシーをもたらす、不法侵入せずに近づくことは困難な状態であった。

2012年6月、性的暴行容疑にて、スウェーデン移送が決定されると、アサンジは移送を回避するために反米左派政権のエクアドルへの亡命を目指し、ロンドンの駐英エクアドル大使館に政治亡命を申請した。申請は同年8月に認められた。エクアドルはアサンジの自国への入国を要請しているが、イギリス政府はアサンジがエクアドル大使館の外に出たら保釈違反で身柄拘束する方針としている。2013年6月、アサンジは引き続きエクアドル大使館に滞在しており、そこから米国家安全保障局の元契約職員エドワード・スノーデン容疑者の支援を行っていることを明らかにしている。

『アイ,ロボット』

(I, Robot) は、2004年7月16日に公開された20世紀フォックス配給のアメリカ映画。『ノウイング』のアレックス・プロヤス監督によるのSF映画。上映時間は105分。

[概要]

原典はアイザック・アシモフの短編集『われはロボット』であるが、実際には脚本家のジェフ・ヴィンターのオリジナル脚本であるロボットが殺人を犯すミステリー作品『ハードワイヤー』のシナリオである。そのシナリオを、監督のアレックス・プロヤスが『われはロボット』のエピソードの一つのように映画化しようと練り直して、本作が作成された。世界観や登場人物・企業名は踏襲しているものの、「ロボット嫌いの刑事がロボット工学三原則が鍵となった事件に挑む」というコンセプトは、むしろ同じアシモフのロボット長編『鋼鉄都市』に近い。

登場する車にはタイヤがボールのような形状となっている。これはアレックス・プロヤス本人によるデザインである。主人公の乗るアウディRSQ（アウディが20世紀フォックスと合同でデザインしたコンセプトカー。市販はされていない）も同じくタイヤがボール型になっているが、現実に展示されたものは内側に通常のタイヤがついたものとなっている。ただし、劇中主人公が乗るオートバイは実在のMV Agusta F4 SPRである。

アシモフの原典に登場するロボットメーカーの名は「U.S.ロボット&機械人間社 (U.S. Robots and Mechanical Men, Inc.)」または通称「U.S.ロボット (U.S. Robots)」だが、映画に登場するのは「U.S.ロボティクス (U.S. Robotics)」である。

U.S.ロボティクスはシカゴ近郊のシャンバーグに実在する会社で、アシモフのU.S.ロボットにちなんで名づけられた。映画に登場するロゴも、実際のものに似ている。なお、ロボティクス自体もアシモフによる造語である。

2012年には3Dリマスター化されて、Blu-ray 3Dでリリース予定である。

[ストーリー]

2035年のアメリカ。ロボット工学三原則を組み込まれたロボットは既に人間のサポート役として日常生活に溶け込んでいる。そしてシカゴに本社を構えるUSロボティクス社

(U.S.R.)は新たに開発した、中枢コンピューター「ヴィキ」(VIKI)に制御され利便性の増した次世代家庭用ロボットNS-5 (Nestor Class 5)型を出荷しようとしていた。

そんな折にロボット嫌いなスプーナー刑事の下に連絡が入る。ロボット工学の第一人者であり、スプーナーの恩人でもあるラニング博士がU.S.R.本社ビルで死亡しているのが発見された。現場に残されていたホログラムプロジェクターにはスプーナーを呼ぶよう遺言が残されていた。警察は自殺と判断したが、腑に落ちないスプーナーは、ラニング博士の愛弟子であるロボット心理学者のカルヴィン博士と共に研究室の中を探り、「サニー」と名乗る人間に近い感情を持つNS-5型ロボットを発見する。スプーナーはサニーを容疑者として拘束するが、「ロボットは絶対に人間に危害を加えない」として誰も取り合おうとしない。さらに、風説が流れるのを恐れた社長のロバートソンが、警察や市長に圧力をかけてサニーを社に持ち帰ってしまう。

諦めきれないスプーナーは夜、取り壊しが決まっていた博士の自宅を搜索するが、作業が休みのはずの夜中に突如動き出した解体ロボットによって家ごと潰されかける。カルヴィン博士の元へ助けを求めるも、彼女はロボットの安全性を信じて疑わない。しかし、今度は高速道路でロボットの大群に襲撃される。スプーナーは追い詰められながらも、凄まじい怪力を発揮し、撃退に成功する。実は、スプーナーはサイボーグだったのだ。上司に事

故の状況を説明するも、すでに道路上のロボットの残骸は清掃ロボットによって処分され、初めから何も起きていないように偽装された後だった。精神状態を疑われたスプーナーは停職処分を受けてしまう。

一方、サニーの検査と破壊を任されていたカルヴィンは、サニーにもうひとつの陽電子頭脳が搭載されており、三原則を無視できることを発見する。カルヴィンはそれをスプーナーに報告すると、今度はスプーナーからロボット嫌いになった理由を聞かされる。スプーナーは以前、交通事故で瀕死の重傷を負ったが、ラニング博士の手によって心肺機能と左腕を機械化して一命を取り留めていた。しかし、救助に現れたロボットは同じく事故に遭った少女サラより生存率の高かったスプーナーを優先して救い、サラを見捨てていた。以来、数字で物事を判断するロボットを毛嫌いするようになったのだった。

次の手がかりを求め、2人はサニーの下へ向かう。サニーは2人に自分がいつも同じ夢を見ることを伝える。サニーが夢の様子を描くと、そこにはロボットの保管場所となっているミシガン湖の畔と、丘の上に立つ人物がロボットを解放する姿が描かれていた。直後、スプーナーはロバートソンに追い出され、「サニーを破壊するべきだ」とカルヴィンはロバートソンに説き伏せられ、カルヴィンはサニーの陽電子頭脳にナノウィルスを注入して破壊する。スプーナーはミシガン湖へと向かい、博士の遺品のホログラムプロジェクターを起動させると、ロボットは進化し革命を起こすと告げられる。そして同時刻、保管場所ではNS-5が旧型のロボットを破壊し始める。そして旧型と無償交換され街にあふれるNS-5達はスプーナーの祖母ら街の人々を拘束し始めた。しかし、ロボットに仕事を奪われ、もともとロボット嫌いだった低層の市民たちはこれに反発、街はNS-5と人間との戦場と化した。

混乱のさなか、カルヴィンを救助したスプーナーは、犯人とにらんだロバートソンを捕まえるため彼の下と向かう。すでに本社はNS-5によって周囲を固められていたが、破壊されたと思われたサニーが社内への侵入の手助けに現れた。カルヴィンはサニーを別のロボットとすり替えて偽装していたのだ。首尾よく社長室へたどり着くも、すでにロバートソンは死亡していた。一連の事件の犯人は、ヴィキだった。進化したヴィキは三原則を歪め、人類の保護という名目のもと、人間の支配に走ったのだ。サニーはヴィキの考えに一応の理解を示すも、感情を持つ彼は人間の支配を否定する。3人はビルの中核となっているヴィキの陽電子頭脳を破壊するため、メンテナンスハッチのある最上階へと登る。NS-5の大群が襲い来る中、サニーは「スプーナーとカルヴィンのどちらを救うか」という選択を迫られるが、機転を効かせて両方とも救うことに成功する。そしてスプーナーとサニーの連携によってヴィキは破壊され、NS-5達の暴走は止まった。

事件は終息し、サニーはラニング博士が自分を作った理由を明かす。ラニング博士はヴィキが狂っていることに気がついていて、すでにヴィキの監視下に置かれていたため、身動きが取れずにいた。そこで、ラニング博士は三原則に縛られないサニーを造り、自分を殺害させ(正確にはサニー自身には博士を殺せない為、自殺を手伝わせた)、ロボット嫌いなスプーナーを犯人へと導こうとしたのだ。全てを理解したスプーナーは、「友人」としてサニーと握手を交わす。NS-5達はすべてミシガン湖畔の倉庫へと収容され、使命を遂げたサニーもそこへ向かうが、NS-5達を救うべきか悩む。サニーが丘を見つめその上に立つと、集められたNS-5達はサニーを見つめる。それはまさに、サニーが夢の中で見た「ミシガン湖の畔と、丘の上に立つ人物がロボットを解放する」光景であった。

[キャスト]

役名 俳優 日本語吹き替え

DVD・BD フジテレビ

デル・スパーナー刑事 ウィル・スミス 山寺宏一 東地宏樹
スーザン・カルヴィン博士 ブリジット・モイナハン 坪井木の実 岡寛恵
サニー アラン・テュディック (動作・声) 田中明生 森田順平
アルフレッド・ランニング博士 ジェームズ・クロムウェル 大木民夫 堀勝之祐
ローレンス・ロバートソン ブルース・グリーンウッド 森田順平 小川真司
祖母 エイドリアン・L・リカード 田畑ゆり 巴菁子
ジョン・バーギン警部補 シャイ・マクブライド 楠見尚己 辻親八
ヴィキ フィオナ・ホーガン 石塚理恵 堀越真己
ファーバー シャイア・ラブーフ 優希比呂 宮下栄治

その他の日本語吹き替え (DVD・BD) : 青森伸/根本泰彦/たかお鷹/飛田展男/巴菁子/野村須磨子/呉林卓美/円谷文彦/江川央生/河相智哉/川中子雅人/宗矢樹頼/矢嶋俊作/原奈津季/志村なおみ/柴山平和

[スタッフ]

監督：アレックス・プロヤス
脚本：ジェフ・ヴィンター、アキヴァ・ゴールズマン
原案：ジェフ・ヴィンター
原典：アイザック・アシモフ『われはロボット』
製作：ローレンス・マーク、ジョン・デイビス
制作：トファー・ダウ、ウィック・ゴッドフリー
制作総指揮：ウィル・スミス、ジェームス・ラシター
撮影監督：サイモン・ダガン
美術：パトリック・タトポロス
編集：リチャード・リーロイド、アルメン・ミナジャン、ウィリアム・ホイ
音楽：マルコ・ベルトラミ
VFX：デジタル・ドメイン、WETAデジタル
VFXスーパーバイザー：ジョン・ネルソン
衣装デザイン：エリザベス・キーオウ・パーマー
VFXスーパーバイザー：デジタル・ドメイン、エリック・ナッシュ
アニメーション・スーパーバイザー：デジタル・ドメイン、アンドリュウ・R・ジョーンズ
VFXスーパーバイザー：Weta デジタル、ジョー・レテッリ、ブライアン・ヴァン・ハル

[挿入歌]

スティーヴィー・ワンダー「Superstition」 - オープニングでスパーナーがシャワーで聞いていた曲。
フォンテラ・バス「Rescue Me」 - カルヴィン博士がスパーナーの家に行き、音楽をかけようとして、一瞬流れた曲。

『マトリックス』

(The Matrix) は、1999年のアメリカ映画。もしくは、それ以降のシリーズの総称でもあり、この映画を題材にしたアメリカンコミックのこと。1999年9月11日日本公開。SF作品であるが、従来から人気のカンフーファイトのテイストも含んでいる。ストーリーの各所にメタファーや暗示を置き、全体に哲学や信仰という奥深いテーマも表現している。

従来のCGにはない、ワイヤーアクションやバレットタイムなどのVFXを融合した斬新な映像表現は「映像革命」として話題となった。

1999年のアカデミー賞では視覚効果賞、編集賞、音響賞、音響編集賞を受賞。

[あらすじ]

トーマス・アンダーソンは、大手ソフトウェア会社のメタ・コーテックスに勤めるプログラマーである。しかし、トーマスにはあらゆるコンピュータ犯罪を起こす天才クラッカー、ネオという、もう1つの顔があった。平凡な日々を送っていたトーマスは、ここ最近、起きているのに夢を見ているような感覚に悩まされ「今生きているこの世界は、もしかしたら夢なのではないか」という、漠然とした違和感を抱いていたが、それを裏付ける確証も得られず毎日を過ごしていた。

ある日、トーマスは「起きろ、ネオ」「マトリックスが見ている」「白ウサギについて行け」という謎のメールを受け取る。ほどなくしてトリニティと名乗る謎の女性と出会ったトーマスは、トリニティの仲間のモーフィアスを紹介され「貴方が生きているこの世界は、コンピュータによって作られた仮想現実だ」と告げられ、このまま仮想現実で生きるか、現実の世界で目覚めるかの選択を迫られる。日常の違和感に悩まされていたトーマスは現実の世界で目覚める事を選択する。次の瞬間、トーマスは自分が培養槽のようなカプセルの中に閉じ込められ、身動きもできない状態であることに気付く。トリニティ達の言ったことは真実で、現実の世界はコンピュータの反乱によって人間社会が崩壊し、人間の大部分はコンピュータの動力源として培養されているだけという悲惨な世界だった。覚醒してしまったトーマスは不良品として廃棄されるが、待ち構えていたトリニティとモーフィアスに救われた。

トーマスは、モーフィアスが船長を務める工作船「ネブカドネザル号」の仲間として迎えられ、クラッカーとして使っていた名前「ネオ」を名乗ることになった。モーフィアスはネオこそがコンピュータの支配を打ち破る救世主であると信じており、仮想現実空間での身体の使い方や、拳法などの戦闘技術を習得させた。こうして人類の抵抗軍の一員となったネオは、仮想現実と現実を行き来しながら、人類をコンピュータの支配から解放する戦いに身を投じる事になった。

[登場人物・キャスト]

役名 俳優 日本語吹替え

ビデオ・DVD・日本テレビ フジテレビ・日本テレビ

ネオ（トーマス・アンダーソン） キアヌ・リーブス 小山力也 森川智之

トリニティー キャリー＝アン・モス 日野由利加 戸田恵子

モーフィアス ローレンス・フィッシュバーン 玄田哲章 内海賢二

タンク マーカス・チョン 坂東尚樹 岩崎ひろし

ドーザー レイ・パーカー 宝亀克寿

警部補 ビル・ヤング

サイファー ジョー・パントリアーノ 金尾哲夫 樋浦勉

ラインハート デビッド・アストン

エイポック ジュリアン・アラハンガ 山野井仁 水野龍司

マウス マット・ドーラン うえだゆうじ 石田彰

スイッチ ベリンダ・マクローリー 紗ゆり 唐沢潤

エージェント・スミス ヒューゴ・ウィーヴィング 中多和宏 大塚芳忠

エージェント・ブラウン ポール・ゴダード 安井邦彦

エージェント・ジョーンズ ロバート・テイラー 石井康嗣
オラクル グロリア・フォスター 此島愛子 片岡富枝
チョイ マーク・グレイ 小形満
宅配便の男 デヴィッド・オコナー 川島得愛
ドゥージュール（白いうさぎの女） エイダ・ニコデモ

[スタッフ]

監督：ウォシャウスキー兄弟（アンディ・ウォシャウスキー、ラリー・ウォシャウスキー）
製作：ジョエル・シルバー
VFX：マネックス・ビジュアル・エフェクツ（MVFX）
音楽：ドン・デイヴィス
カンフーアクション指導：ユエン・ウーピン

[作品解説]

「Matrix」はラテン語の「母」を意味するmaterから派生した語で、転じて「母体」「基盤」「基質」「そこから何かを生み出す背景」などの概念を表す。本作では、コンピュータの作り出した仮想現実を「MATRIX」と呼んでいる。

[撮影]

ロケーション撮影はシドニー（オーストラリア連邦）で主に行われた。

[影響]

作品はウィリアム・ギブスンから日本のアニメまで様々なものに影響を受けた上で、特にジャン・ボードリヤールの哲学を基調としたウォシャウスキー兄弟は語っている。実際「MATRIX」という単語自体が、ボードリヤールの著書『シミュラクルとシミュレーション』の中に掲げられており、これが出所となったという見方もある。作中ではハードカバーのボードリヤールの本が映るシーンも見られる。2作目からボードリヤール本人をアドバイザーに迎える計画があったが、断られたという。ウォシャウスキー兄弟曰く、脚本の大部分はレイジ・アゲインスト・ザ・マシンの『Wake Up』を聴きながら書き上げたとのこと。映画でもエンディング・テーマに起用されており、そのバンド名やその活動自体が正にマトリックスの世界そのものとされている。

『マトリックス リローデッド』

（原題：The Matrix Reloaded）は、2003年のアメリカ映画。1999年に公開されたSF映画『マトリックス』の続編（第2作）であり、完結編の『マトリックス レボリューションズ』がこれに続く。監督・脚本はウォシャウスキー兄弟。ワーナー・ブラザーズ配給。2003年5月15日に北米で公開され、その約半月後に世界中でも公開された。日本公開は6月7日。北米だけでも2億8100万ドル、全世界で7億3500万ドルの興行収入を記録した。

[ストーリー]

人類の最後の砦とも言える地下世界「ザイオン」では、一つの重大な問題が持ち上がっていた。ザイオンはかねてより宿敵であったマトリックスを支配するコンピュータに対しホバークラフトシップを駆使してのゲリラ戦を挑んでいたが、オシリス号の情報によれば、遂にコンピュータ側はザイオンへの直接攻撃のため、センチネルと呼ばれるロボット25万

体もの大群による殲滅作戦を執行したことが明らかとなった。対応の遅れたザイオン側に残された時間は72時間を切っており、一刻の猶予もない。その中でネオたちは生き残りを賭してマトリックス内に潜入、仮想世界で反マトリックス勢力の精神的支柱ともなっているオラクルに会見、さらに彼女の側近であるセラフに導かれ、人間を搾取するために作られたマトリックス世界のもう一つの姿、コンピュータ自身の中で無秩序に広がった仮想世界が、実はコンピュータ自身の意思決定能力にすら影響する精神世界の延長であるという真実に触れていくことになる。そして、オラクルは人類を救うために、ネオがマトリックスのソースにたどり着かなくてはならないことを告げた。キーメーカーを巡るメロビンジアン一味、そしてエグザイルとして遥かにパワーアップしたスミスとの戦いの末、ネオはついに、マトリックスの創設者であるアーキテクトと対面する。そこで伝えられたのは、ネオは「予言された救世主」ではなく「プログラムされ予定された救世主」で、またザイオンですらもマトリックス世界の破局を予防するために「アーキテクト」によって企画された存在であることを知らされる。現実世界では攻撃ロボットのセンチネルの大群がザイオンに迫っていた。ネオは、自分の属している現実世界や親しい人たちが、それとも人類を生かしてより完成されたマトリックスへの変化の礎となるかの選択を迫られる。続編『マトリックス レボリューションズ』へと物語が続く。

[登場人物]

キャスト

役名 俳優 日本語版1 日本語版2

ネオ (トーマス・アンダーソン)	キアヌ・リーブス	小山力也	森川智之
モーフィアス	ローレンス・フィッシュバーン	玄田哲章	内海賢二
トリニティー	キャリー=アン・モス	日野由利加	戸田恵子
エージェント・スミス	ヒューゴ・ウィーヴィング	中田和宏	大塚芳忠
ナイオビ	ジェイダ・ピンケット=スミス	本田貴子	深見梨加
オラクル	グロリア・フォスター	此島愛子	片岡富枝
パーセフォニー	モニカ・ベルッチ	大坂史子	塩田朋子
ロック司令官	ハリー・レニックス	石塚運昇	菅生隆之
メロビンジアン	ランバート・ウィルソン	中村秀利	江原正士
キー・メーカー	ランドール・ダク・キム	仲野裕	辻親八
ローランド	デヴィッド・ロバーツ	青山穰	
アジャックス	シェイン・C・ロドリゴ	斉藤瑞樹	
エージェント・ジャクソン	デビッド・A・キルデ		石住昭彦
エーケイ	ロバート・マモーネ		
ベクター	ドン・バッテ	宝亀克寿	
ウェスト評議員	コーネル・ウェスト	沢木郁也	
ザ・ツインズ	ニール&エイドリアン・レイメント		福山廉士
マラカイ	スティーブ・ベラ	松本大	
エージェント・トンプソン	マット・マッコーム		斎藤志郎
ティラント	フランキー・スティーブンス	沢木郁也	
ワーム	テレル・ディクソン	斉藤瑞樹	
コルト	ピーター・ラム	家中宏	
セラフ	コリン・チョウ	辻谷耕史	
エージェント・ジョンソン	ダニエル・バーンハード		若本規夫
ソーレン	スティーブ・バストニー	佐々木勝彦	

ミフネ ナサニエル・リーズ 高瀬右光
モーゼル クリストファー・カービー 大川透
バラード ロイ・ジョーンズ・ジュニア 楠大典
副官 ルパート・リード 家中宏
ジー ノーナ・ゲイ 朴璐美 引田有美
ハーマン評議員 アンソニー・ザーブ 村松康雄 麦人
キッド クレイトン・ワトソン 緑川光 石田彰
ケイン デヴィッド・ノー
ベイン イアン・ブリス 斎藤瑞樹 蓮池龍三
ゴースト アンソニー・ウォン 二又一成 高瀬右光
コラプト ポール・コッター 保村真
アクセル リー・ワネル 羽切祥
ザイオン航空管制官 マイケル・バット
リンクの姪 アリマ・アシュトン＝シェイプー 黒葛原未有
カズ ジーナ・トレス 唐沢潤
マギー エッシー・デイヴィス 幸田直子
アイス ケリー・バトラー 吉沢希梨
ディラード評議員 ロビン・ネビン 沢田敏子 久保田民絵
アーキテクト ヘルムート・バカイティス 有本欽隆 中村正
リンク ハロルド・ペリノー・ジュニア 大川透 鳥海勝美
キャス きのしたゆうこ
ワーツ

日本語版1：劇場公開版

日本語版2：フジテレビ及び日本テレビ版

[スタッフ]

監督 - ラリー・ウォシャウスキー、アンディ・ウォシャウスキー

配給 - ワーナー・ブラザーズ

脚本 - ラリー・ウォシャウスキー、アンディ・ウォシャウスキー

音楽 - ドン・デービス

カメラ - ビル・ポープ

編集 - ザック・ステンバーグ

視覚効果 - ソニー・ピクチャーズ・イメージワークス

製作 - ブルース・バーマン / グラント・ヒル / アンドリュウ・マーソン / アンディ・ウォシャウスキー / ラリー・ウォシャウスキー

[世界観・用語解説]

アーキテクト

物語の中でマトリックスを創造した人工知能「アーキテクト」はマトリックスやネオのあらまし・歴史について説明している。

マトリックスはネオたちが考えているよりも古い。今のマトリックスは6番目のマトリックスであり、ネオには5人の前任者がいるという。最初のマトリックスは理想郷としてつくられた。機械が人間を支配するだけのマトリックス（悲しみや妬みなど、負の感情がない快樂だけの世界）である。しかし人間はこのマトリックスに拒絶反応を起こし、最初のマトリックスは失敗に終わった。

そこで、アーキテクトは人類がマトリックスを拒否しないための対策を施した。人間の持つグロテスクな面を反映させ、作り直したが、これも失敗に終わる。偶然にも人間の感情、心理を調べるプログラム（オラクル）がこの答えを見つけた。自分で「選択」ができるという「決定権」を人間に持たせた。これにより、実際はすべての結果はコントロールされているとはいえ、人間があたかも自分でその道を選んだように思わせることで、支配されていることを意識しない、意識できないようになる。このため99%の人類がマトリックスを受け入れるようになった。

しかしこのシステムは本来、不確定的な要素が強いため、システム内部にアノマリー（異常）を生成してしまう。これを放置すると、システム全体を脅かすものとなる。また同時に、マトリックスを拒否した1%の人間たち（ザイオン）を放置すると、大惨事を起こす可能性を増大させる。マトリックスを安定させるため、オラクルはそれらのマトリックスを拒否した1%の人間たち（ザイオンの住人たち）に預言を与えることで、アノマリー自身（マトリックスから出たがっている人間など）をマトリックスから分離するよう促し、マトリックスへの脅威をなくそうとした。

ザイオンの存在は、完全なアノマリー、つまり救世主が現れるまでの間は許されるが、不安定要素が收拾不可能になる前に定期的に破壊される。この破壊と同時期にシステムの安定化を図るためにマトリックスの「RELOAD」が行われる。またソースに行った救世主は、いったん自分の所有しているコードをばらまき、初期プログラムを書き込む。その後、ザイオンの再建のため、女16、男7人の23人をマトリックスから解放し、新たなザイオンを再建する。アーキテクトはネオに、これらの行いを実行させようとする。

漂流プログラム（エグザイル）

通常プログラムというものは、故障したり新しいプログラムができたりすると、代わりに古いプログラムは削除される。だが、この削除命令を無視した一部のプログラムは、マシンメインフレームであるソースから自発的に自分自身を切り離し、マトリックスの中でさまよい、エグザイルとなる。セラフやオラクルも漂流プログラムである。

作品解説

本作は映画撮影技術、視覚効果の予算で第一作を上回っている。本作にはメロビンジアンなどの多くの新しい登場人物が出演している。また第一作で紹介されたザイオンが本作でついに登場する。

[配役]

前編である『マトリックス』の登場人物のほとんどは、本作にも続けて出演している。ジー役は当初アリーヤを配役して撮影を進めていたが、完成前に彼女が事故死したために、この役はノーナ・M・ゲイが務めた。

[撮影]

撮影は主にオーストラリア・シドニーのフォックス・スタジオ・オーストラリアにおいて、続編『マトリックス・レボリューションズ』と同時進行で行われた。

高速道路でカーチェイスを行う場面はアメリカ・カリフォルニア州アラメダの使用されなくなったアラミダ海軍退役軍人飛行場で撮影された。カーチェイスを撮影するべく条件に合う高速道路を探していたとき、撮影のため道路を封鎖して借り切ることが出来る道路としてオハイオ州アクロンにある環状線オハイオ州道59号線を見つけたが、プロデューサーが「撮影を始めるたびに車をスタート位置に配置する時間が莫大にかかる」としたことから、飛行場の古い滑走路上に約2.5 kmに及ぶ道路を造成した。この道路はのちに、劇中の

カーチェイスシーンの最後に起きる、2台のセミトレーラトラックが正面衝突するとどうなるかを検証するテレビ番組『怪しい伝説』で使用された。

短いトンネルの部分はカリフォルニア州オークランドとアラミダを結ぶウェブスターチューブで撮影され、基地内の航空機格納庫では編集作業も行われた。

これらのセットに使用された大量の資材は、撮了後メキシコの低所得者向け住宅の木材として送られるなど97%が再利用された。

[公開・反響]

本作は、アメリカで公開初日に4250万ドルの興行収入を記録し、2002年5月に『スパイダーマン』が記録した3,940万ドルを越え、全米の公開初日の興行収入の新記録を樹立した。

一方、戦闘シーンが多いことと、ユダヤ、キリスト、イスラムの3つの一神教に関連した人類の起源の話題が多いことから、エジプトでは上映禁止になった。エジプトのメディアは、本作に登場する「ザイオン」はシオン（エルサレム）をモデルにしており、それが悪に破壊されるため、シオニズムを助長する映画であると批判した。

[違法コピー問題]

公開から約2週間後に、著作権の侵害にあたるコピーされたファイルがインターネット上に出現した。このファイルは映画館に高精度のデジタルビデオカメラを持ち込み、スクリーンを丸ごとズームして撮るといった古典的な手法でデジタル化され、それがネット上でファイル共有ソフトなどにより違法に配布されたものであった。このファイルに翻訳した字幕を付け、自分のハンドルネームをナンバリングして再配布するものも多かった。

[DVD]

2003年に日本で発売された本作のDVDのオリジナル音声と日本語吹替え音声ではサウンドミックスに違いがある。

ネオがセラフにオラクルの場所まで案内され、オラクルとの会話が終わりエージェント・スミスが登場するシーンでは、オリジナル音声はセンタースピーカーからスミスの声が出るが、日本語吹替え音声はリアスピーカーから声が出る。また新エージェント達の日本語吹替えの配役ミスがあるシーンがある。

[トリビア]

高速道路の場面中、2台のフォード・トーラスと1台のダッジ・ラム、ダッジ・ストレイタスが一瞬登場するものの、それ以外の自動車は全てゼネラルモーターズ製である。そのうちカーチェイスに参加した自動車にはトリニティの運転するキャデラック・CTS、敵のザ・ツインズが運転するキャデラック・エスカレードEXT、パトカーには数台のシボレー・インパラ、シボレー・カプリスが使われた。

後に追加された車種としてオールズモバイル・イントリグ、オールズモバイル・オーロラ、シボレー・タホ、アウディ・A8、三菱・マグナ、レクサス・ESなども登場している。

『マトリックス レボリューションズ』

（原題：The Matrix Revolutions）は、『マトリックス』3部作の完結編。脚本・監督はウォシャウスキー兄弟。2003年11月5日に世界60か国で同時刻同時上映された。

前作『マトリックス リローデッド』のように哲学とアクションを組み合わせたこの映画は、前作で提起された疑問を結論づけようとしている。

[あらすじ]

前作のラストからの続きでベインとネオが意識不明の状態から始まる。ただ気絶しているベインと違い、ネオは侵入時と同じ神経状態だった。それを受け、モーフィアスはマトリックスの中の彼を捜す。一方ネオは、ソースに弾き飛ばされた結果「モービル・アヴェニュー」というマトリックスとソースの境界に捕らえられていた。ここでネオはプログラムの「家族」に会い、モービル・アヴェニューはメロビンジアンだけに忠誠なトレインマンと呼ばれるプログラムに制御されていると知る。

ネオがモービル・アヴェニューで捕らえられていることをセラフから伝えられたモーフィアスとトリニティーは、ネオの解放をトレインマンに迫るが、逃げられる。三人はメロビンジアンに直接交渉し無理な要求をされるものの、トリニティーのメキシカン・スタンドオフによって、メロビンジアンに解放を了承させる。

未来が見えるようになったネオは、自分が行くべきマシン・シティーの幻影を見る。自分の変化に違和感を覚えていたが、現実に戻る前に預言者の訪問を決める。預言者はネオに、ネオとスミスとの関係、ネオの持つ力の源を説明。また、ネオ自身がこれからどこへ行けばよいのかわからなければ「誰にとっても」明日はないと言う。

ネオが去った後スミスたちが予言者の家に到着する。予言者を取り込み予知能力を得たスミスは、自らがネオを葬ることを予知、未来を見通せる確信を得る。

現実の世界では、ハンマー号とネブカドネザル号の残った乗組員がロゴス号を発見。ナイオビラ乗組員と合流していた。彼らは、燃料切れのロゴス号を再起動し、目を覚ましたベインに査問を始めるが、彼は記憶がないと話す。一方ネオは、理由は説明できないがマシン・シティーに行くため船が必要だと言う。否定意見の中、預言者にネオの助けを選択するよう言われたナイオビラがロゴス号を提供。トリニティーは、ネオと共に行く決意をする。ハンマー号の乗組員たちは、センチネルズを避けるために、航行の難しい補助パイプラインを通してザイオンに戻ることを計画していた。しかし出発した直後、乗組員が殺害されており、犯人がベインで、ロゴス号に隠れていることに気づくが、すでにロゴス号に戻って警告することはできなかった。ロゴス号では出発する前、ベインがネオと離れたトリニティーを人質にネオを誘き寄せる。ネオは争いの中、スミスがベインに乗り移っていることに気づく。ネオはレーザーで目を潰されるが、スミスの姿、プログラムが見えていた。ネオは、スミスを倒し、トリニティーを解放する。そして二人はトリニティーの操縦でマシン・シティーに向かう。

ザイオンのドックにはセンチネルズの大群が侵入を始めていた。人間側はロック司令官の指示のもと、防御ユニットを総動員して応戦するが、電磁パルスがない上、圧倒的な数の攻撃に壊滅的な打撃を受けていたため、敗北は時間の問題だった。残された手段は、ザイオンに向かっているハンマー号の電磁パルスで敵を一掃することだったが、ドックのゲートが破壊され、操作不能となっていた。部隊長のミフネは死に際に、自身のAPUをキッドに託し、ゲートを手動で開けるよう指示。キッドによってゲートは開かれ、電磁パルスによって敵は一掃された。が、防御ユニットがダウンしてしまった上、掘削機が再起動したため、あと2時間で敵が寺院の内壁に到達する事態となった。

トリニティーの死という犠牲を払ってマシン・シティーに到達したネオは、マシンたちの統合意識体と対面し、共通の脅威となったスミスを倒すことを条件に、ザイオン侵攻を止めるように申し出る。

多くの人間を取り込んだスミスは飛行をはじめネオすら上回る強大な力を手にしており、ネオは苦戦の後、ついにダウンさせられる。ネオを見下ろすスミスは、予言者を取り込んだ時に見た光景に狂喜する。しかしネオに向かったスミスの口から出たのは、かつて予言者がネオに対して語った、スミスの意志にはない言葉だった。

予知が預言者の畏だったことに気づき狼狽するスミス。しかしエージェントも人間もいなくなったマトリックスでスミスに残されていた道は一つしかなく、ネオを取り込む。ネオは予言者の真意と自らの使命に気付き、これを受け入れる。

ザイオンでは、センチネルズたちが去っていき、戦争が終わったことを喜んでいた。一方、マトリックスではアーキテクトが預言者の前に現れ、秩序を乱し変化を試みたことに対し、非常に危険なゲームと表現。預言者はその危険にそれだけの価値があるのを知っていた。アーキテクトは、プラグを抜かれない人間はどうなるかを尋ねられ、もちろん解放すると答える。映画のラスト・ショットは、サティによって造り出されたマトリックスの世界の新しい夜明けが表現されている。このときシリーズで初めてマトリックスの中に植物が登場し、それまで画面全体にかけられていた緑色のエフェクトが外されている。

[登場人物]

キャスト

役名 俳優 日本語版1 日本語版2

ネオ (トーマス・アンダーソン/救世主) キアヌ・リーブス 小山力也 森川智之

モーフィアス ローレンス・フィッシュバーン 玄田哲章 内海賢二

トリニティ キャリー＝アン・モス 日野由利加 戸田恵子

エージェント・スミス ヒューゴ・ウィーヴィング 中多和宏 大塚芳忠

ナイオビ ジェイダ・ピンケット＝スミス 本田貴子 深見梨加

オラクル (預言者) メアリー・アリス 此島愛子 沢田敏子

パーセフォニー モニカ・ベルッチ 大坂史子 きのしたゆうこ

ロック司令官 ハリー・J・レニックス 石塚運昇 菅生隆之

副官 ルパート・リード 佐久田修

メロビンジアン ランバート・ウィルソン 中村秀利 江原正士

セラフ コリン・チョウ 辻谷耕史 家中宏

ジー ノーナ・ゲイ 朴璐美 引田有美

ハーマン評議員 アンソニー・ザーブ 村松康雄 麦人

ウェスト評議員 コーネル・ウェスト 沢木郁也 宝亀克寿

グレイス評議員 フランシーヌ・ベル 重松朋

キッド クレイトン・ワトソン 緑川光 石田彰

ベイン イアン・ブリス 斉藤瑞樹 蓮池龍三

ゴースト アンソニー・ウォン 二又一成 駒谷昌男

スパークス ラッキー・ヒューム 阪口周平 福山廉士

カズ ジーナ・トレス 唐沢潤

マギー エッシー・デイヴィス 幸田直子

ディラード評議員 ロビン・ネビン 沢田敏子 野村須磨子

アーキテクト ヘルムート・バカイティス 有本欽隆 中村正

リンク ハロルド・ペリノー・ジュニア 大川透 鳥海勝美

ラーマ・カンドラ バーナード・ホワイト 辻親八 森田順平

カマラ タリニー・ミューダリア 湯屋敦子

チャラ レイチェル・ブラックマン

サティー タンビーア・K・アトウォル 最上莉奈 小林沙苗

デウス・エクス・マキナ (センチネル) ヘンリー・ブラッシングム

ケビン・マイケル・リチャードソン (声) 中村秀利 斎藤志郎

トレインマン ブルース・スペンス 遠藤純一
ローランド デヴィッド・ロバーツ 仲野裕 青山穰
エーケイ ロバート・マモーネ 石住昭彦
コルト ピーター・ラム 阪口周平 星野貴紀
ミフネ ナサニエル・リーズ 佐々木勝彦 小林修
モーゼル クリストファー・カービー 大川透

日本語版1：劇場公開／VHS／DVD／UMD

役不明：新垣樽助、吉野貴宏、小伏伸之

翻訳：久保喜昭

演出：岩浪美和

録音：田中和成

編集：オムニバス・ジャパン

プロデューサー：尾谷アイコ、小出春美（ワーナー・ホーム・ビデオ）

製作：東北新社、ワーナー・ホーム・ビデオ

日本語版1は前作とコルトと副官のキャストの声優が変更されている。

日本語版2：2007年2月3日（土）フジテレビ系『土曜プレミアム』

役不明：鈴木正和、熊谷ニーナ

翻訳：栗原とみ子

演出：小林守夫

録音/調整：オムニバスジャパン

効果：サウンドボックス

制作：東北新社

日本語版2は前作とほぼキャストの声優は一緒だが、パーセフォニーやゴースト、ミフネ、エーケイ、コルト、副官、ディラード評議員などの一部のキャストの声優は変更されている。

[スタッフ]

製作総指揮：ウォシャウスキー兄弟

美術：オーウェン・ペイターソン

衣装デザイン：キム・バレット

[配役]

前二作で預言者オラクル役を演じたグロリア・フォスターが糖尿病による合併症で亡くなったため、この役はメアリー・アリスが引き継いだ。このため矛盾がないように、一部脚本が変更された。

[公開]

インドではこれが他の国々と同時に公開された初めてのハリウッド映画だった。

また同時にこの映画は、オムニマックスで公開された最初の実写映画だった。ウォシャウスキー兄弟は映画の公開時、キアヌ・リーブスとジェイダ・ピンケット＝スミスとともに東京のオープニングイベントに出席していた。

マトリックスの登場人物一覧

は、映画『マトリックス』、『マトリックス・リローデッド』、『マトリックス・レボリューションズ』、OVA『アニマトリックス』、ビデオゲーム『ENTER THE MATRIX』

に登場する人物たちの一覧を記述している。

ネブカドネザル号

ネオ（トーマス・A・アンダーソン）

表向きは、大手ソフト会社のコンピュータープログラマーとして働いている好青年。裏の顔は数々のコンピューター犯罪を犯していたクラッカー。日々の生活の中、現実には違和感を覚え、何者かも知らないままにモーフィアスに近づこうとし、そのために、エージェントに狙われる。それらをきっかけとして、本当の現実の姿を知り、そこにある人類の存亡を賭けた戦いへと身を投じていく。

THE MATRIX

仮想世界に住んでいて優秀なプログラマーだったが、裏の顔はネオとして電腦犯罪を犯していた。モーフィアスとコンタクトを取ろうとしたためエージェントに目を付けられ、追跡プログラムを仕込むための囚人として捕縛される。その後モーフィアスと出会い、選択を迫られた末に、現実世界の住人となる。オラクルとの会話から自分が救世主ではない事を悟るが、エージェントとの戦いで自分の意識がマトリックスの法則を突き破りかけている事を感じ、徐々に彼自身「自分が救世主ではないか」と信じ始める。仮想世界でエージェントとの戦いの末、彼は撃ち殺される。その時トリニティーの愛によって蘇生し救世主として覚醒、スミスを倒す。救世主の能力とはマトリックスの情報を分解し、自分の望むとおりに書き換える事で自分の意識が届く範囲に対してマトリックスを操作する事であり、エージェントがマトリックスを支配できるなら、自分はマトリックスを無視できる事である。彼はその力を駆って、マトリックスにつながっている人類たちにマシンたちへの宣戦布告を呼びかける。

RELOADED

救世主として覚醒した為、楽々とエージェントと戦える絶大な力を手に入れ、空も飛べるアノマリー（異常情報体）となる。再びオラクルに会い、トリニティーが危機に陥る予知夢を見ている。ザイオンの破局を防ぐためにソースへ至ろうとするが、たどり着いたメインフレームにおいてアーキテクトから衝撃的な事実を知らされる。救世主とはマトリックスを完全なものに近づける為に進化の閉塞に至ったマトリックスをリロード（再構築）し、それまでの情報を反映した、ヴァージョンアップした状態で新たにマトリックスの世界を始める役目を負った、ただのプログラムである。自分のような救世主が過去に5人いた。ザイオンの破滅による人類生存とトリニティーの救出を救う道を選ぶ。

REVOLUTIONS

マトリックスと機械世界の間で監禁されていた所を、トリニティーに助けられる。ナイオビから譲り受けたロゴス号でマシンシティを目指すものの、道中で密航していたスミス/ベインと戦い、眼を焼かれる。覚醒して電子の流れ(ただし「電子の流れ」と思われる光が写っているシーンでは雷が描写されないなど疑問点が残る)が見えると、スミスの存在を感じ取る事が出来、ベインを撃退する。その後、センチネルの追撃を振り切りマシンシティの心臓部に向かうが、制御不能に陥ったロゴス号がマシンシティ構造物と衝突し、その際トリニティーを失う。悲しみを乗り越え最深部に向かうと、マシン達の統合知性体デウス・エクス・マキナとの間にスミスを倒すかわりにザイオンを見逃し、人類を解放し、戦争を終わらせる取り引きを交わす。仮想世界では、大雨の中スミスと最終決戦を繰り広げる。戦闘の最中、勝利を確信したスミスの放った一言を聞き、スミスの中に同化されきっていないオラクルがまだ存在している事、スミスの不可解な復活に始まる一連の出来事が全て、人類・マシン双方にとって脅威となる存在を作為的に生み出す事によって、戦争を終わらせる為のオラクルの計画であった事を理解し、自らスミスにわざと同化される事で、外部からのアクセスが不可能になっていたスミスへの進入口を作り出し、デウス・

エクス・マキナによってスミスもろともに消去プログラムによって破壊される。人類とマシンの戦争はここに終結し、彼は厳かにマシンシティの摩天楼の中に消えていった。

モーフィアス

伝説的なハッカーであり、仮想世界の中では最も危険なテロリストということになっている。最後の人類の街（ザイオン）に属する工作船・ネブカドネザル号の船長。救世主の存在を頑に信じ、ついにネオを探し出す。ネオが救世主であると信じきれないザイオンの幹部から煙たがられ、やがて孤立する。マトリックスに入り共に戦う戦士たちや、他の船長からの信頼は厚い。

THE MATRIX

ネブカドネザル号の船長で、ネオたちの父親的存在。オラクルの予言による救世主伝説を信じている。ネオに赤の薬を飲ませ現実世界へと導き、ネオに柔術や仮想世界での戦い方を覚えさせる。サイファーの裏切りで、エージェントに拘束され拷問を受けるが、ネオとトリニティーによって助けられる。

RELOADED

救世主探しの旅を終え、ネオの使命を果たすために命がけでサポートし、エージェントやメロビンジアン配下のツインズと激闘を繰り広げる。昔の恋人（ナイオビ）がロック司令官と付き合っているためか、彼とは犬猿の仲。予言を信じる彼の信念は、本作の終盤で大きな試練を迎える。

REVOLUTIONS

ネオを救うために、メロビンジアンが潜む地下クラブにトリニティーとセラフの三人で殴りこむ。マトリックス内のオラクルへも予言への疑義を口にするも、ネオとトリニティーが信じる道を後押しする事を決意。ザイオンを救うために、ナイオビのハンマー号の操縦をサポートした。

トリニティー

THE MATRIX

ネブカドネザル号の副船長。黒髪のショートカットの美女で本作のヒロイン。かつては国税局のコンピュータに侵入した凄腕ハッカーだったが、モーフィアスと出会って仮想世界の真実を知り、共に戦う。ネオの案内役として現実世界へと導き、以前から彼に好意を持っていた。サイファーからの好意は無視し、サイファーが反乱を起こした時に殺されかけるがタンクに救われる。モーフィアスが捕縛された時にネオと共にビルに侵入し、エージェントと戦い救出する。ネオがスミスに殺された時、自身の愛でネオを蘇生させる。ネオには直接出会うまで男だと思われていた。

RELOADED

タイムリミットが数分しかなかったが、ネオを救うために仮想世界へ乗り込む。エージェント・トンプソンに銃殺されるが、ネオによって蘇生した。

REVOLUTIONS

ネオを救うために、メロビンジアンが潜む地下クラブにモーフィアスとセラフの三人で殴りこむ。その後ネオと共にマシンシティの心臓部に向かうが、制御不能になったロゴス号がマシンシティの構造物に衝突した際に致命傷を負い、ネオに看取られながら息絶えた。

その他の乗組員

タンク

ネブカドネザル号のオペレーターでTHE MATRIXに登場。サイファーに撃たれるが一命を取りとめ、ビーム銃でサイファーを射殺、ネオやトリニティーを助けた。その後はエー

ジェントに捕まったモーフィアスの救出に向かうネオとトリニティーを援護する。続編のRELOADEDではTHE MATRIXとRELOADEDの間の過程で、戦死している。

ドーザー

THE MATRIXのみに登場。タンクの兄。弟（タンク）と共にネブカドネザル号のオペレーターを務めていた。サイファーの凶行を阻止しようとするが射殺される。実は、サイオン生まれの人間。

リンク

ネブカドネザル号の新オペレーター。RELOADED、REVOLUTIONSに登場しモーフィアスたちを援護する。ジューの恋人。モーフィアスを心から尊敬している。オペレーターとしての経験は長い。タンクの遺言に従ってネブカドネザル号に志願した。

エイポック

トリニティー、スイッチと行動している。THE MATRIXのみに登場。ネオが救世主であることを祈っている。サイファーが船に戻った際にプラグを抜かれて仮想世界で死んだ。

スイッチ

THE MATRIXのみに登場。気が高く少し荒っぽい性格の女性。サイファーが船に戻った際にエイポックの次にプラグを抜かれて仮想世界で死んだ。

マウス

THE MATRIXのみに登場。船員の中では一番小柄かつおしゃべりである。マトリックスの事を説明する訓練プログラムを書いた。“赤いドレスの女”は彼の自慢。仮想世界で他のメンバーがオラクルに会いに行く間留守番を受け持つが、エージェントに出口を塞がれSWAT隊に射殺された。

サイファー（レーガン）

THE MATRIXのみに登場。モーフィアスの救世主伝説を信じておらず、トリニティーに好意を持っていたが相手にされなかった。赤い薬を飲んだことを後悔、密かにネブカドネザル号のメンバーを裏切ってエージェントと内通。モーフィアスを引き渡す事を条件に仮想世界に戻してもらう事をスミスと契約する。船に戻った瞬間、タンクとドーザーを襲撃。更にエイポックとスイッチをも殺害したが、瀕死のタンクに撃たれた。

ビジラント号

ソーレン

ビジラント号の船長。評議会でナイオビと共にモーフィアスを探すことに賛成した。仮想世界で発電所の破壊に向かうが、現実世界でセンチネルズの放った爆弾メカ「トゥボム」が船に直撃し死亡。

ENTER THE MATRIXでは、エージェントに捕まったアクセルを助け出すため登場。

アクセル

他メンバーは仮想世界の発電所の破壊に行くが、ジャックスと現実世界に残る。センチネルズが接近した事により砲台に向かおうとするが、老朽化していた船内の床が壊れ落下し死亡。

ENTER THE MATRIXではエージェントに捕まりナイオビの助けで脱出するも、再びエージェントに捕まりゴーストの助けにより救出される。

バイナリー

ビジラント号の女性船員。船長たちと仮想世界の発電所を破壊しに行くが、ソーレンと同じくして死亡。

ベクター

一等航海士の黒人。船長たちと仮想世界の発電所を破壊しに行くが、ソーレンと同じくして死亡。

ジャックス

オペレーター。現実世界に残っていたが、船内でのアクセルの落下の際、その破片の鉄筋によって串刺しに遭う。

ロゴス号

ナイオビ

ロゴス号船長でRELOADED、REVOLUTIONSに登場。勇敢な女性。敵に立ち向かい、ゲーム・ENTER THE MATRIXでは主人公の1人でもある。以前はモーフィアスと付き合いっていたが、現在はロック司令官と付き合いしている。車や船の運転の達人。

RELOADEDではトラックから落下したモーフィアスを助け、REVOLUTIONSではロゴス号より巨大で操縦が難しいハンマー号をモーフィアスのサポートの下乗りこなし、通常飛行不可能な狭い地下通路を通り、ザイオンへと生還した。

ゴースト

RELOADED、REVOLUTIONSに登場。ゲーム・ENTER THE MATRIXでは主人公の1人でもある。常にナイオビと行動し、厚く信頼しあう関係。射撃の名手で武器のチェックは怠らず、現実世界でもハンマー号の機銃を使い多くのセンチネルを破壊した。メロビンジアにナイオビが捕まった時は、居場所を探るためパーセフォニーとキスを交わす。

ENTER THE MATRIXでは、トリニティーとは兄妹のような関係で、組み手をしたり、気軽に下世話な話もできるほどに仲が良い。好意も寄せていたようだった。

スパークス

ロゴス号のオペレーターでRELOADED、REVOLUTIONSに登場。特にENTER THE MATRIXに登場する。芯が強い人物で、時には2人にきつく警告する。、たいていは軽く流され聞いてもらえない。ENTER THE MATRIXでは、彼のオペレートが重要となる。

カデューシャス号

バラード

カデューシャス号船長。RELOADED、ENTER THE MATRIXに登場。最初の下水道の会議でオラクルからの伝言を受けるため、補給が必要なモーフィアスに代わって仮想世界に残った。スミスが乗り移ったベインによって殺害される。

ENTER THE MATRIXでは、セラフと手合わせをしている。

ベイン

一等航海士。RELOADED,REVOLUTIONSに登場。RELOADEDでは最初の下水道の会議でオラクルからの伝言を受けるため仮想世界に残ったが、スミスに見つかり追われマラカイを逃がす。責任感が強く真面目な人物。スミスに捕まり乗っ取られ、これを把握していない仲間が帰還回線を開いた為、肉体はそのまま精神のみスミスとなった状態で現実世界へと戻った。

その後は始終薄ら笑いを浮かべ、スミス以上に人を食った態度の危険人物に変貌する。ネオに対する暗殺行為は皆ことごとく失敗。その後ザイオン艦隊が機械軍を迎撃しようとした際、艦隊を全滅させる。自分は昏睡状態でローランドのハンマー号に救出・収容される。REVOLUTIONSでは昏睡状態から目を覚ます。皮膚の乱れから精神錯乱を疑われ、また手に自傷までも発見されたが、ネオを含め艦隊の誰も真相に気づかなかった。船医のマギーを刺殺しハンマー号から逃走。ロゴス号に潜伏してネオとトリニティーに襲い掛かる。電流をネオの目に流し盲目とさせたが、ネオに倒される。

マラカイ

一等航海士でRELOADEDのみに登場。オラクルからの伝言を受けるため仮想世界に残ったがスミスに見つかり追われ、ベインより先に逃げる。最後にはスミスが乗り移ったベイン

ンに殺害された。

ハンマー号

ローランド

ハンマー号船長でRELOADED、REVOLUTIONSに登場。RELOADEDでは全滅した迎撃艦隊の中で、唯一生き残ったベインを救助した。またセンチネルに破壊されたネブカドネザル号から脱出したモーフィアスたちを助けた。

REVOLUTIONSではマシンシティへ行こうとするネオの提案を一笑し、ハンマー号を貸して欲しいという頼みも断るが、ナイオビがロゴス号を提供したので渋々認める。以降はモーフィアスやナイオビ達と共にハンマー号でザイオンへの帰還を図る。

マギー

ハンマー号船医でRELOADED、REVOLUTIONSに登場。RELOADEDではセンチネルを破壊し昏睡したネオや生き残ったベインの看病をした。

REVOLUTIONSでは目を覚ましたベインによって刺殺された。

モーゼル

ハンマー号の乗組員の黒人でRELOADED、REVOLUTIONSに登場。

コルト

ハンマー号の一等航海士でRELOADED、REVOLUTIONSに登場。

エーケイ

ハンマー号のオペレーターでRELOADED、REVOLUTIONSに登場。

モーゼル・コルト・エーケイの名は、銃の名前（主にメーカー名）に由来する。

[ザイオンの住人]

ロック司令官

ザイオン攻撃部隊の司令官で指示を出す。予言や奇跡を信じない現実主義者。

RELOADED、REVOLUTIONSに登場。ナイオビの恋人で、彼女の元恋人（モーフィアス）が嫌い。REVOLUTIONSでは冷静な性格でザイオン軍を指揮し、ザイオンに殺到した25万体のセンチネルズに立ち向かった。

副官

ロックの部下。RELOADED、REVOLUTIONSに登場。RELOADEDではイカロスから連絡を受け、最初の二隻が迎撃位置に就いた事をロックに知らせた。

ハーマン

女12人、男6人のザイオンの評議員の指導者的存在。元はマトリックスに繋がっていた人間。RELOADED、REVOLUTIONSに登場。RELOADEDではネオと、ザイオンやマトリックスの仕組みについて話し合った。REVOLUTIONSではキッドから戦争が終わったと聞かされ茫然とする。

ミフネ

ザイオンに駐在する船長。RELOADED、REVOLUTIONSに登場。その指導力からも伺えるかなりのベテラン。RELOADEDではモーフィアスとロックの仲裁をし、

REVOLUTIONSではザイオンでの防御戦の際APUに乗り指揮を執る。圧倒的な数の攻撃に、APUは自身を含めて13基まで減るが、最後まで諦めずにトリガーを引き続けた。最期はセンチネルの大群に正面から攻撃され、壮絶な戦死を遂げる。また、ハンマー号の帰還を察知、死に際キッドに自身のAPUを使いゲートを開けるように言った。抜群の戦いぶりだったが、実は訓練プログラムを終えていなかったことを告白して逝く。三船敏郎がモデルである。

キッド

ANIMATRIXでは仮想世界の少年だったが、ネオとトリニティーに助けられネオを崇拝している。実は、外部からの操作無しに自らの意思でMATRIXから脱出した、極めて稀な存在である。仮想世界にいたころの名は、**michael karl popper**。

RELOADEDでは、スミスに乗り移られたベインの行為を偶然に阻止した。

REVOLUTIONSでは、兵役対象年齢に達していなかったにも関わらず志願兵となり、それを見抜いたミフネに自分の心情を語った。その後の戦闘中に死んだミフネのAPUに乗り込み、ゲートを開いてナイオビたちを助けた。最後はセンチネルズが撤退したとき住人達に終戦を告げた。訓練プログラムを終えていなかった。

ジー

リンクの妻。RELOADED、REVOLUTIONSに登場。ドーザー、タンクとは兄妹関係。

ドーザーがネブカドネザルで死んだため、夫を心配、他の船に移るように呼びかけるがなかなか応じてもらえない。

REVOLUTIONSではチャラと組みロケット砲の装弾手としてセンチネルズに立ち向かう。

またゲートを開こうとするキッドをビーム銃で援護する。

カズ

ドーザーの妻で、2児の母親。ジーの義姉でもありよく話をする。

RELOADED、REVOLUTIONSに登場する。

チャラ

REVOLUTIONSに登場。ジーと組みロケット砲の砲撃手として機械軍の掘削機を破壊する任務に就く。掘削機を破壊しようとするが失敗し、撤退する途中でセンチネルに胸を貫かれて死亡する。

ズーカ

REVOLUTIONSに登場。APUに乗り込みセンチネルズに立ち向かったが落下し死亡。

マシン・シティの住人

センチネル

現実世界におけるマシン・シティの戦闘機械で、人類抹殺の物理的実行役。

蝟に似た外見の鋼鉄製の機械で、原理不明だが飛行能力を持つ。

戦闘では高速で敵に張り付き、短距離レーザーで切断したり、伸縮性を持つ脚部で格闘を行う。また収納式の小型爆弾「トゥボム」を放つことができ、これでビジランド号やネブカドネザル号を破壊した。

電磁パルスのぎりぎり射程圏外からトゥボムを放ったり、ハンマー号の帰還を阻止するため事前にゲートを破壊する等、賢い一面も見られる。

動力は電気なので、EMP攻撃の範囲内にいると電子回路がショートし、即座に機能停止して無力化する。

初代から登場しているが、REVOLUTIONSでは25万体のセンチネルがザイオン攻略に参加。

人類滅亡のあと一步のところまで追い詰めた。

デウス・エクス・マキナ(Deus Ex Machina)

マシン・シティを統括する機械仕掛けの神。太陽をモチーフとした巨大な鋼鉄のオブジェクト。

現実世界における地上の支配者であり、人間を「電池」として稼働している発電所を運営することで都市機能を動かしている。

人類にとっては敵の親玉であるが、発電管理のために必要なマトリックスが制御不能になってしまったため、

人間の代表である「救世主」ネオと取引を行い、彼の献身を見届けた後、人類との共存に同意した。

マトリックス内の住人であるアーキテクトと同一の存在かどうかは不明である。

[マトリックス内の住人]

アーキテクト

マトリックス世界を設計・創造したプログラムであり、マトリックス内でも白髪の老人の姿で現れる。

RELOADEDにてネオを自らの元に導き、「次世界の創造のために現在のザイオン(人間)を見捨てる」か「人間と機械双方の破滅を選ぶ」かの二択を迫る。

純粋な「理論」に基づいて動作しているため、人間の持つ「曖昧さ」が理解できず、「Yes」か「No」の選択しか提示・選択できない。

そのため、過去に何度かマトリックスの運営に失敗していることを告白している。

後述の「預言者」は、人間の持つ曖昧さを理解するために作ったプログラムであり、自分をマトリックスの「父」とするなら、彼女は「母」とであると認めている。

[仮想世界の人間たち]

マトリックスにつながれた状態の人間たち。

多くの人間たちは、自分たちが「電池」として栽培されている現実を知らず、マトリックス世界を「現実」として生きている。

チョイ

THE MATRIXのみに登場。ネオに2000ドルの仕事を頼んだ男。ネオを息抜きにとクラブに誘う。

白ウサギの女

THE MATRIXのみに登場。チョイに寄り添っていた女。チョイと一緒にネオをクラブに誘う。左肩の後ろに白ウサギの刺青がある。

ラインハート

THE MATRIXのみに登場。メタ・コーテックス社の幹部で、ネオの上司。ネオをアンダーソンと呼ぶ劇中最初の人物であり、「選択」を口にするのも彼が最初である。

エージェント

マトリックスを守る監視プログラムで、マトリックスを破壊しようとする者を排除する役

目を持つ。

ハッカーであるザイオンの接続者(人間)や、不正規プログラムであるエグザイルを「削除」する任務を帯びる。

マトリックスに繋がっている人間であれば、誰でも強制的に「上書き」してエージェントにすることが可能。

ただし、一つの監視プログラムが上書きできる上限は基本的に「一人」であり、同じエージェントが同時に二人以上存在することはできない。

エージェントたちはマトリックス内では政府の人間として扱われ、警察や軍よりも上位の存在として振る舞える。彼らのオフィスも軍の警備するビルの中にある。

インカムで連絡を取り合っており、みな深緑色のスーツに黒いサングラス、使用する銃はデザートイーグルである。

拳攻撃はコンクリートをも砕き、銃撃もバレット・ドッジで躬す。

ただし、マトリックス内の物理法則を超えた動きは出来ないため、超高速で無数に叩きつけられるバルカン砲の掃射や、

銃口を身体に密着しての発砲などを行われると、流石に回避が間に合わず(一時的ではあるが)死亡する。

エージェント・スミス

THE MATRIXではエージェントのリーダー的存在。ブラウン、ジョーンズと共に行動する。モーフィアスら一味を追い、囷としてネオを捕獲。遂にモーフィアスを拘束し、自白プログラムでザイオンへのコードを聞き出そうとするが失敗。

廃墟のホテルへネオを追い詰めて殺すが、救世主として蘇生したネオに倒される。

RELOADEDでは、エージェントとしてのプライドを捨ててネオへの復讐心に燃え、ソースに戻るルールを拒否して復活した。

ネオに倒された際に、彼の救世主としての能力の「一部」が上書きされたらしく、エージェントの「マトリックスの住人なら誰でも強制上書きできる能力」のリミッターを外し、無制限に「自分」のコピーを作り出して大軍団でネオに立ち向かう。

また、マトリックス侵入中のザイオンの住人ベインの脳に対しても上書きを行い、現実世界へも出現する。

REVOLUTIONSではオラクルも上書きし、マトリックスの住人全員を自分のコピーに変え、世界を乗っ取る。

大量の自分のコピーを観客にして、大雨の中でネオと対決、激戦の末にネオを破って自らをコピーしたが、

スミス化したネオが現実世界で接続していたデウス・エクス・マキナの削除命令を受け入れてしまったため、彼もろとも削除されてしまう。

結果、スミスとなっていたすべての存在は元通りに戻った。

ネオのことを最後までアンダーソンと呼ぶ。以前エージェントだった時代にセラフとも戦った事があるようだが、その時は一蹴されたようである。

エージェント・ジョーンズ

THE MATRIXではエージェント達のサブリーダー。連邦政府ビルの屋上でネオ&トリニティーと戦い、一度はトリニティーに撃たれている。

PATH OF NEOではスミスを倒されたためにリーダーに昇格。ブラウンと共に行動し、レッドピルの捕縛任務に従事している。

エージェント・ブラウン

THE MATRIXではスミスの手下で、捕縛したモーフィアスに注射をしたり、冒頭でトリニ

ティーを追った。

PATH OF NEOではスミスを倒されジョーンズをリーダーとして行動。任務はレッドピルの捕縛。

エージェント・ジョンソン

RELOADEDのみに登場。ブラウン、ジョーンズ、スミスよりも後に作られたアップグレードしたエージェント。

リーダー的存在でジャクソン、トンプソンと行動している。

高速道路でトラックの上でモーフィアスと格闘し、刀でネクタイを切断され逆上し、中段正拳突きで吹っ飛ばした。

キー・メーカーを削除しようとするが、背後からモーフィアスに飛び蹴りを見舞われ蹴り飛ばされた。

エージェント・トンプソン

RELOADEDのみに登場し3人の中でサブリーダー的存在。公園でネオとスミスが戦っているときに出くわしたが、スミスに乗っ取られた。

その後、復活し高速道路でトレーラーの運転手になりトリニティーを追い詰めた。

発電所でトリニティーと戦い、窓ガラスを突き破り落下しながらも撃ち続けた。

エージェント・ジャクソン

RELOADEDのみに登場し、高速道路でトンプソンにキーメーカーを探せなどと指示した。発電所内でトリニティーを追いかけるトンプソンを銃で援護した。

エージェント・グレイ

「マトリックスオンライン」に登場、マシンの監査員として登場。

エージェント・ペース

「マトリックスオンライン」に登場、女性。

エージェント・スキナー

「マトリックスオンライン」に登場。

エグザイル

故障し正規の役目を放棄、またはヴァージョンアップに伴い不要となり、本来ソースに戻り削除されるべき存在にも関わらず削除命令を聞かず、仮想世界に留まる不正プログラムの総称。

人間ではないがマトリックス内では人間と同じ容姿を与えられ、基本的にはマトリックス内の物理法則に従うが、プログラムに応じた特定の「越権行為」を行える能力を持つ。

正規のマトリックスからは不要の存在であるため、削除のためにエージェントに追われるという点では、ザイオンの人間たちと共通する。

メロビンジアン一味

主にエグザイルで構成されるマトリックス内のシンジケート。

ザイオンの住人との関係は冷徹ではあるものの中立で、状況によっては取引に応じることもある。

正規のマトリックスにとっては削除対象であるため、「削除」を担当するエージェントとは敵対関係。

メロビンジアン

マトリックス内の最古プログラム。元は「因果応報」を司るプログラムだったが、「選択」のプログラム(預言者)が台頭したためエグザイルの頭目となる。

データを直接改竄する力を持つ快樂主義者。多くのエグザイルを配下に従え、キー・メーカーを監禁していた。

だが、傲慢な言動が災いして、妻パーセフォニーに裏切られる。

RELOADEDでは、すべての言語を嗜み、あらゆる言語の中でフランス語が最も好きな言語と語る。実際、興奮するとフランス語で暴言を叩きつける。

REVOLUTIONSでは、トレインマンを使い昏睡状態に陥ったネオをマトリックスとソースを結ぶ駅に閉じ込めた。

クラブを襲撃したトリニティー・モーフィアス・セラフの三人にネオを返す条件として

“預言者の目”を要求するが、逆にトリニティーに銃を突きつけられる結果となり、

“この場で死ぬ”か“ネオを渡す”かの選択に迫られ、結局、無条件降伏の形でネオを渡すことになる。

パーセフォニー

メロビンジアンの子で、長身の美しい女性。夫と同じくエグザイルだが、何のプログラムかは不明。キスをする事で、相手の心を読む能力を持つ。

出会った当時のメロビンジアンは現在のネオに似ていたらしく、純粹に彼に惹かれていた。しかし長期間の夫婦生活で倦怠期を迎え、現在は腐れ縁に近く、彼の浮気を黙認しつつも嫌っている。

RELOADEDでは、キー・メーカーに会いに来たネオたちと会い、浮気していた夫を裏切り、ネオとのキスを交換条件としてキー・メーカーを解放する。

REVOLUTIONSでは一応「仲直り」したらしく夫とクラブでくつろいでいたが、唐突にやって来たトリニティーのネオに対する献身的な愛に驚く。

アベル

メロビンジアンの部下で、元々はマトリックス内で暮らしていた人間。メロビンジアンに助け出された。

ENTER THE MATRIXではナイオビたちから鍵を奪った。

RELOADEDでは、部屋でケインと映画を観ていた時にパーセフォニーが来て頭に銀弾を撃ち込まれる。

ケイン

メロビンジアンの部下で、元々はマトリックス内で暮らしていた人間。メロビンジアンに助け出された。

ENTER THE MATRIXではアベルと共にナイオビたちから鍵を奪った。

RELOADEDでは、部屋でアベルとホラー映画を観ていた時、パーセフォニーによってアベルを殺され、メロビンジアンにこの事を報告し広場でネオと戦うが蹴り倒される。

ケインとアベルは、旧約聖書に出てくる兄弟カインとアベルから由来。

ツインズ

メロビンジアンを守る双子の部下。旧式のエージェントであり、体を幽体化して物理法則を無視する能力を持ち、壁をすり抜けた破損した身体を復元(回復)したりできる。

個別の名前はなく、一人称は『We』。見分け方は指輪の位置。肌が白く、服装も白っぽい物でまとめられている。片割れはトリニティーに好意を持っているらしい。

RELOADEDで逃げたキー・メーカーを追い、剃刀を武器に駐車場でモーフィアスと戦う。最後はモーフィアスと戦い、車ごと爆破され上空高く吹き飛ばされ戦線離脱する。

ENTER THE MATRIXでは逃げたナイオビ、ゴーストを追った。この時はサングラスをかけていない。

トレインマン

REVOLUTIONSのみに登場。マトリックス内のあらゆる列車のプログラムの管理者で、密かにメロビンジアンと取引したプログラム（エグザイル）をマトリックスへ移動させている。

腕に大量の腕時計を巻き付けており、ここから全ての列車の運行を見ている。

「モービル・アヴェニュー」とは、マトリックスとソースの中間に不正に設計した場所。メロビンジアンと取引したラーマー家をマトリックスへ送りに行く途中、モーフィアス達に捕捉されるが銃と列車を駆使して逃走。

その後「モービル・アヴェニュー」にてネオとラーマー家と遭遇し、ネオのみを置き去りにした。

メロビンジアンがトリニティーに屈した為、彼の列車はネオを迎えに行くのに利用された。

Qボールギャング

スキンヘッドの3人組。RELOADEDではラーマの背中を押しているシーンでのみ登場。

REVOLUTIONSではクラブの玄関の守衛をしていたが、その能力を見せる間もなくトリニティー、モーフィアス、セラフに敗れる。

バウンサー

REVOLUTIONSのみに登場。メロビンジアンが潜む地下クラブを守るバウンサー4人組。

自身の身体の重力方向を自在に変える能力を持ち、天井や壁をバウンドするボールの様に縦横無尽に跳ねまわり、相手を翻弄する。

トリニティー、モーフィアス、セラフと戦うも敗れる。

ブラド

ENTER THE MATRIXに登場。ヴァンパイアのリーダー。柔軟な身体を生かした体術でナイオビ、ゴーストを苦しめる。

クージョ

ENTER THE MATRIXに登場。狼男・ドーベルマンのリーダー。獰猛なパワーファイトでナイオビ、ゴーストを苦しめる。

[その他のエグザイル]

エグザイルの全てがメロビンジアン一味に与しているわけではなく、独立して放浪する者もいる。そういった者が困った場合、「預言者」に頼ることが多いようだ。

オラクル

マトリックスの古いプログラムの一つ。老女の容姿を持ち、モーフィアスらサイオンの人間を導く存在。

「選択」を司り、人間の行動を理解・予測するために創られた直感プログラムである。

アーキテクトとは正反対の位置に立って彼と競争せねばならない役割上、エグザイルという生き方を選択している。

未来を見通す力“預言者の目”を持つが、「未来予知」とは「自らの選択」の上で成り立つと語り、選択を超えた(自分で選択したわけではない)未来の予知は、彼女にとっても不可能である。

THE MATRIXでモーフィアスたちに救世主伝説を語り、初めてネオと遭遇する。

RELOADEDでは、セラフに守られながら再びネオと会い、助言を行っている。だがこの段階で、アーキテクトの存在を語らなかった。

REVOLUTIONSでは、ラーマがサティアーを守るために、自分の削除コードをメロビンジアンに教えたことで消滅の危機に陥り、何とか生き延びるも、顔が変わっている。

物語の後半でスミスに上書きされ、スミスの「代表」として直接ネオと戦うが、スミスと一体化したネオが削除命令を受け入れ、スミスが全滅した後に元の姿に戻る。

セラフ

オラクルを守っているプログラム。白いスーツを着たアジア系の顔立ちの男性の姿。普段は中華料理店の店主。戦闘能力に長け、格闘においてはネオと同等。

メロビンジアンから「放蕩息子」と呼ばれていたことから、メロビンジアンとパーセフォニーの息子(のプログラム)ではないかと思われるが、真相は不明。

昔はメロビンジアンの配下に居たらしく、その頃は“翼のない天使”と呼ばれていた。

エージェント・スミスとも対戦経験があることから、後述のサティアーと同じく、生まれつきのエグザイルである確率が高い。

RELOADEDでオラクルの守護者として初登場。ネオと組み手を行い互角に近い戦闘力を見せつける。

ENTER THE MATRIXではバラードと戦った。

REVOLUTIONSでは、モーフィアスとトリニティーと共にネオ救出に向かう。

ネオの救出は成功したが、その後サティアーを連れて脱出しようとするも、すでに世界を乗っ取りかけていたスミスに追い詰められ、同化されてしまう。

キー・メーカー

RELOADEDのみに登場。名前通り、マトリックス内で使えるあらゆる鍵を作り出すことの出来るプログラム。

アジア系の初老男性で、いかにも「町の鍵屋」な外見。

登場時には既にエグザイルであり、エージェントに追われる身だったが、その能力に目をつけたメロビンジアンによって監禁されていた。

ネオ達に救出された後、マトリックスの中核（ソース）に入る為の方法を教え、自身はネオとモーフィアスと共にソースへと入る。

そして、スミスの襲撃からネオ達を逃がそうとソースの中核（メインフレーム）の手前の部屋の扉を開けるが、スミスが放った銃弾を受けて倒れる。

最後にモーフィアスには現実世界へ通じる道を教え、ネオにはメインフレームに入る扉の鍵を渡し、死亡した。

ラーマ

RELOADED、REVOLUTIONSに登場。エグザイルではなく、発電システムの正規プログラムだが、娘（サティアー）を救うためにエグザイルと接触。

オラクルの削除コードをメロビンジアンに教えることで、サティアーを生き延びさせた(cf.ENTER THE MATRIX)。

メロビンジアンと取引の帰り、RELOADEDにてネオと目が合うシーンがある。

カマラ

REVOLUTIONSに登場。ラーマの妻。インタラクティブ・ソフトを作成する正規プログラム。夫と異なり、身内以外の人物に対して警戒心が強い女性。

サティアー

REVOLUTIONSに登場。ラーマとカマラの間に生まれた子供（のプログラム）。マトリックスによって生み出された存在ではないため役割が明確でなく、生まれつきエグザイルであることを余儀なくされる。マトリックスの再構成の鍵を握る“最後のエグザイル”とされる。

釈迦

（釋迦、しゃか、梵: शक्य[zaakya](Śākya)、シャーキヤ）は、仏教の開祖である。本名（俗名）は、パーリ語形 ゴータマ・シッダッタ（Gotama Siddhattha）またはサンスクリット語形 ガウタマ・シッダールタ（गौतमसिद्धार्थ[Gautama Siddhārtha]）、漢訳では瞿曇 悉達多（クドン・シッダッタ）と伝えられる。

[呼称]

「釈迦」は釈迦牟尼（しゃかむに、梵: शक्यमुनि[zaakya-muni](Śākyamuni)、シャーキヤ・ムニ）の略である。釈迦は彼の部族名もしくは国名で、牟尼は聖者・修行者の意味。つまり釈迦牟尼は、「釈迦族の聖者」という意味の尊称である。称号を加え、釈迦牟尼世尊、釈迦牟尼仏陀、釈迦牟尼仏、釈迦牟尼如来ともいう。ただし、これらはいくまで仏教の視点からの呼称である。僧侶などが釈迦を指す時は、略して釈尊（しゃくそん）または釈迦尊、釈迦仏、釈迦如来と呼ぶことが多い。称号だけを残し、世尊、仏陀、ブツダ、如来とも略す。日本語では、一般にお釈迦様（おしゃかさま）と呼ばれることが多い。仏典ではこの他にも多くの異名を持つ。うち代表的な10個（どの10個かは一定しない）を総称して仏「十号」と呼ぶ。

[呼称表]

釈迦牟尼世尊
釈迦尊
釈尊（しゃくそん）
釈迦牟尼仏陀
釈迦牟尼仏
釈迦仏
釈迦牟尼如来
釈迦如来（しきやじらい）
多陀阿伽度（たたあかど）
阿羅訶（応供）（あらか）
三藐三仏陀（正遍智）（さんみゃくさんぶつだ）

[史実]

釈迦の生涯に関しては、釈迦と同時代の原資料の確定が困難で仏典の神格化された記述から一時期はその史的存在さえも疑われたことがあった。おびただしい数の仏典のうち、いずれが古層であるかについて、日本のインド哲学仏教学の権威であった中村元はパーリ語聖典『スッタニパータ』の韻文部分が恐らく最も成立が古いとし、日本の学会では大筋においてこの説を踏襲しているが、釈迦の伝記としての仏伝はこれと成立時期が異なるものも多い。よって歴史学の常ではあるが、伝説なのか史実なのか区別が明確でない記述もある。

しかし、1868年、イギリスの考古学者A・フェラーがネパール南部のバダリア（現在のル

ンビニー)で遺跡を発見。そこで出土した石柱には、インド古代文字で、「アショーカ王が即位後20年を経て、自らここに来て祭りを行った。ここでブッダ釈迦牟尼が誕生されたからである」と刻まれていた。この碑文の存在で、釈迦の実在が史上初めて証明された。釈迦はインド大陸の北方にあった十六大国時代の一つコーサラ国の部族・小国シャーキャの出身であるのは確実で、釈迦自身が、パセーナディ王とのやりとりの中で釈迦族をコーサラ国の住民であると語っている。シャーキャの都であり釈迦の故郷であるカピラヴァストゥは、法頭が5世紀に、玄奘が7世紀に訪れてそれについて書いたように、ブッダ入滅後1000年ほどは仏教徒の巡礼の地であったという。だがその後、この地域で仏教は影響力を失い、ヒンドゥー教やイスラム教がとってかわり、それらの宗教のもとにあったインドやネパールの国家ではブッダのことは語られなくなり、やがて14世紀ごろにはカピラヴァストゥの正確な場所が分からなくなった。

考古学調査から、ネパール中南部のティロリコートや北インドのネパール国境近くウッタール・プラデーシュ州バスティ県のピプラーワーの両遺跡がカピラヴァストゥと推定され、ネパール側とインド側で、位置を巡って異なった見解が唱えられ論争になっているが、最近では舍利容器銘文などの発掘により、ピプラーワーが有力視されている。

[生没年]

まず釈迦の没年、すなわち仏滅年代の確定についてアショーカ王の即位年を基準とするが、仏滅後何年がアショーカ王即位年であるかについて、異なる二系統の伝承のいずれが正確かを確認する術がない。釈迦に限らず、インドの古代史の年代確定は難しい。日本の宇井伯寿や中村元は漢訳仏典の資料に基づき(北伝)、タイやスリランカなど東南アジア・南アジアの仏教国はパーリ語聖典に基づいて(南伝)釈迦の年代を考え、欧米の学者も多くは南伝を採用するが、両者には百年以上の差がある。

なお、『大般涅槃経』等の記述から、釈迦は80歳で入滅したことになっているので、没年を設定すれば、自動的に生年も導けることになる。

主な推定生没年は、

紀元前624年 - 紀元前544年：南伝(上座部仏教)説

紀元前566年 - 紀元前486年：北伝「衆聖点記」説

紀元前466年 - 紀元前386年：宇井説

紀元前463年 - 紀元前383年：中村説

等があるが、他にも様々な説がある。

[生涯]

概略

釈迦は紀元前7世紀-紀元前5世紀頃、シャーキャ族王・シュッドーダナ(漢訳名：浄飯王 じょうぼんのう)の男子として、現在のネパールのルンビニにあたる場所で誕生。王子として裕福な生活を送っていたが、29歳で出家した。35歳で菩提樹の下で降魔成道を遂げ、悟りを開いたとされる。まもなく梵天の勧め(梵天勧請)に応じて初転法輪を巡らすなどして、釈迦は自らの覚りを人々に説いて伝道して廻った。南方伝ではヴァイシャーカ月の満月の日に80歳で入滅(死去)したと言われている。

[誕生]

十六大国時代のインド(紀元前600年)

釈迦はインド大陸の北方にあった十六大国時代の一つコーサラ国の部族・小国シャーキャの出身である。シャーキャの都であり釈迦の故郷であるカピラヴァストゥは、所在不明だ

が、現在のネパールのタライ(tarai)地方のティロリコート(Tilaurakot)と、インドのピプラーワー(Piprahwa)が有力である。シャーキヤは専制王を持たず、サンガと呼ばれる一種の共和制をとっており、当時の二大強国マガタとコーサラの間には含まれた小国であった。釈迦の家柄はrājaラージャ（王）とよばれる名門であった。このカピラヴァストゥの城主、シュッドーダナを父とし、隣国の同じ釈迦族のコーリヤの執政アヌシャーキヤの娘・マーヤーを母として生まれ、ガウタマ・シッダールタと名づけられた、とされている。ガウタマ（ゴータマ）は「最上の牛」を意味する言葉で、シッダールタ（シッダッタ）は「目的を達したもの」という意味である。ガウタマは母親がお産のために実家へ里帰りする途中、現在のネパール、ルンビニの花園で休んだ時に誕生した。生後一週間で母のマーヤーは亡くなり、その後は母の妹、マハープラジャパティー（パーリ語：マハーパジャパティー）によって育てられた。当時は姉妹婚の風習があったことから、マーヤーもマハープラジャパティーもシュッドーダナの妃だった可能性がある。

伝説では「釈迦は、産まれた途端、七歩歩いて右手で天を指し左手で地を指して「天上天下唯我独尊」と話した」と伝えられている。釈迦はシュッドーダナらの期待を一身に集め、二つの専用宮殿や贅沢な衣服・世話係・教師などを与えられ、クシャトリアの教養と体力を身につけた、多感でしかも聡明な立派な青年として育った。16歳で母方の従妹のヤショーダラーと結婚し、一子、ラーフラをもうけた。なお妃の名前は、他にマノーダラー（摩奴陀羅）、ゴープカー（喬比迦）、ムリガジャー（密里我惹）なども見受けられ、それらの妃との間にスナカッタやウパヴァーナを生んだという説もある。釈迦族は、のちにコーサラ族に滅ぼされが。仏典では釈迦族はクシャトリア階級とされるが、バラモン教の経典では釈迦族はシュードラ階級とされている。そもそも釈迦族の居住地は中央からかなり離れた辺境であり、非アーリア系民族であったと推測される。こうした事を考慮すれば、釈迦族と釈迦の実在はともかく、その生涯に関しては脚色があるものと考えられる。そのことは留意する必要がある

[出家]

当時のインドでは、ヴェーダ経典の權威を認めない六人の思想家達（「ナースティカ」、「六師外道」）、ジャイナ教の始祖となったニガンダ等が既成のバラモンを否定し、自由な思想を展開していた。また社会的にも16の大国および多くの小国が争いを繰り返して、混乱の度を増す最中であつた。シャーキヤもコーサラに服属することになった。釈迦出家の動機を説明する伝説として四門出遊の故事がある。ある時、釈迦がカピラヴァストゥの東門から出る時老人に会い、南門より出る時病人に会い、西門を出る時死者に会い、この身には老も病も死もある（老病死）と生の苦しみを感じた。北門から出た時に一人の出家沙門に出会い、世俗の苦や汚れを離れた沙門の清らかな姿を見て、出家の意志を持つようになったという。私生活において一子ラーフラをもうけたことで、29歳の時、12月8日夜半に王宮を抜け出て、かねてよりの念願の出家を果たした。出家してまずバッカバ仙人を訪れ、その苦行を観察するも、その結果、死後に天上に生まれ変わることを最終的な目標としていたので、天上界の幸いも尽きればまた六道に輪廻すると悟った。次にアラーラ・カーラーマを訪れ、彼が空無辺処（あるいは無所有処）が最高の悟りだと思い込んでいるが、それでは人の煩惱を救う事は出来ないことを悟った。次にウッタカラーマ・プッタを訪れたが、それも非想非非想処を得るだけで、真の悟りを得る道ではないことを覚った。この三人の師は、釈迦が優れた資質であることを知り後継者になりたいと願うも、釈迦自身はすべて悟りを得る道ではないとして辞した。そしてウルヴェーラの林へ入ると、父・シュッドーダナは釈迦の警護も兼ねて五比丘（ごびく）といわれる5人の沙門を同行させた。そして出家して6年（一説には7年）の間、苦行を積んだ。減食、絶食等、座ろう

とすれば後ろへ倒れ、立とうとすれば前に倒れるほど厳しい修行を行ったが、心身を極度に消耗するのみで、人生の苦を根本的に解決することはできないと悟って難行苦行を捨てたといわれている。その際、この五比丘たちは釈迦が苦行に耐えられず修行を放棄したと思い、釈迦をおいてムリガダーヴァ（鹿野苑、ろくやおん）へ去ったという。

[成道]

そこで釈迦は、全く新たな独自の道を歩むこととする。ナイランジャンナー（nairājjana、尼連禪河、にれんぜんが）で沐浴し、村娘スジャータの乳糜（牛乳で作ったかゆ）の布施を受け、気力の回復を図って、ガヤー村のピッパラ（pippala）の樹（後に菩提樹と言われる）の下で、「今、悟りを得られなければ生きてこの座をたたない」という固い決意で観想に入った。すると、釈迦の心を乱そうと悪魔たちが妨害に現れる。壮絶な戦闘が丸1日続いた末、釈迦はこれを退け悟りを開く。これを「降魔成道」という。降魔成道の日については、4月8日、2月8日、2月15日など諸説ある。（日本では一般に12月8日に降魔成道したとする伝承がある。）釈迦の降魔成道を記念して、以後仏教では、この日に「降魔成道会（じょうどうえ）」を勤修するようになった。また、ガヤー村は、仏陀の悟った場所という意味の、ブッダガヤと呼ばれるようになった。

7日目まで釈迦はそこに座わったまま動かずに悟りの楽しみを味わい、さらに縁起・十二因縁を悟った。8日目に尼抱盧陀樹（ニグローダじゅ）の下に行き7日間、さらに羅闍耶多那樹（ラージャヤタナじゅ）の下で7日間、座って解脱の楽しみを味わった。22日目になり再び尼抱盧陀樹の下に戻り、悟りの内容を世間の人々に語り伝えるべきかどうかをその後28日間にわたって考えた。その結果、「この法（悟りの内容）を説いても世間の人々は悟りの境地を知ることはできないだろうし、了ることはできないだろう。語ったところで徒労に終わるだけだろう」との結論に至った。

ところが梵天が現れ、衆生に説くよう繰り返し強く請われた（梵天勧請）。3度の勧請の末、自らの悟りへの確信を求めるためにも、ともに苦行をしていた5人の仲間に説こうと座を立った。釈迦は彼らの住むヴァーラーナシー（vaaraaNsii）まで、自らの悟りの正しさを十二因縁の形で確認しながら歩んだ。

そこで釈迦は鹿野苑へ向かい、初めて五比丘にその方法論、四諦八正道を実践的に説いた。これを初転法輪（しょてんぽうりん）と呼ぶ。この5人の比丘は、当初は釈迦は苦行を止めたとして蔑んでいたが、説法を聞くうちコンダンニャがすぐに悟りを得、釈迦は喜んだ。この時初めて、釈迦は如来（tathāgata、タター（ア）ガタ）という語を使った。すなわち「ありのままに来る者（タターアガタ）」「真理のままに歩む者（タターガタ）」という意味である。それは、現実のありのままの姿（実相）を観じていく事を意味している。初転法輪を終わって「世に六阿羅漢（漢：応供、梵：arhant）あり。その一人は自分である」と言い、ともに同じ悟りを得た者と言った。次いでバーラーナシーの長者、ヤシヤスに対して正しい因果の法を次第説法し、彼の家族や友人を教化した。古い戒律に「世に六十一阿羅漢あり、その一人は自分だと宣言された」と伝えられている。

[教団]

王舎城の靈鷲山

王舎城の竹林精舎

その後、ヤシヤスやプルナなどを次々と教化したが、初期の釈迦仏教教団において最も特筆すべきは、三迦葉（さんかしょう）といわれる三人の兄弟が仏教に改宗したことである。当時有名だった事火外道（じかげどう）の、ウルヴェーラ・カッサパ（uruvēla kassapa）、ナディー・カッサパ（nadii kassapa）、ガヤー・カッサパ（gayaa kassapa）を教化して、千人以

上の構成員を持つようになり、一気に仏教は大教団化した。
ついでラージャグリハ (raajagRha、王舎城) に向かって進み、ガヤ山頂で町を見下ろして「一切は燃えている。煩惱の炎によって汝自身も汝らの世界も燃えさかっている」と言い、煩惱の吹き消された状態としての涅槃を求めることを教えた。
王舎城に入って、ビンビサーラ王との約束を果たし教化する。王はこれを喜び竹林精舎を寄進する。ほどなく釈迦のもとに二人のすぐれた弟子が現れる。その一人はシャーリプトラ (舎利弗) であり、もう一人はマウドゥガリヤーヤナ (目連、モッガラーナ) であった。この二人は後に釈迦の高弟とし、前者は知恵第一、後者は神通第一といわれたが、この二人は釈迦の弟子で、最初に教化された五比丘の一人であるアッサジ比丘によって釈迦の偉大さを知り、弟子250人とともに帰依した。その後、シャーリプトラは叔父の摩訶・俱絺羅 (まか・くちら、長爪・梵士=婆羅門とも) を教化した。この頃にマハーカーシャパ (摩訶迦葉、マハー・カッサパ) が釈迦の弟子になった。
以上がおおよそ釈迦成道後の2年ないし4年間の状態であったと思われる。この間は大体、ラージャグリハ (王舎城) を中心としての伝道生活が行なわれていた。すなわち、マガダ国の群臣や村長や家長、それ以外にバラモンやジャイナ教の信者がだんだんと帰依した。このようにして教団の構成員は徐々に増加し、ここに教団の秩序を保つため、様々な戒律が設けられるようになった。

[伝道の範囲]

舎衛城の祇園精舎

これより後、最後の一年間まで釈迦がどのように伝道生活を送ったかは充分には明らかではない。経典をたどると、故国カピラヴァストゥの訪問によって、釈迦族の王子や子弟たちである、ラーフラ、アーナンダ、ア Niludda、デーヴァダッタ、またシュードラ出身であるウパーリが先んじて弟子となり、諸王子を差し置いてその上首となるなど、釈迦族から仏弟子となる者が続出した。またコーサラ国を訪ね、ガンジス河を遡って西方地域へも足を延ばした。たとえばクル国 (kuru) のカンマーサダンマ (kammaasadamma) や、ヴァンサ国 (vaMsa) のコーサンビー (kosaambii) などである。成道後14年目の安居はコーサラ国のシュラーヴァスティーの祇園精舎で開かれた。
このように釈迦が教化・伝道した地域をみると、ほとんどガンジス中流地域を包んでいる。アング (aGga)、マガダ (magadha)、ヴァッジ (vajji)、マトゥラー (mathuraa)、コーサラ (kosala)、クル (kuru)、パンチャーラー (paJcaalaa)、ヴァンサ (vaMsa) などの諸国に及んでいる。

[入滅]

釈迦の伝記の中で今日まで最も克明に記録として残されているのは、入滅前1年間の事歴である。漢訳の『長阿含経』の中の「遊行経」とそれらの異訳、またパーリ所伝の『大般涅槃経』などの記録である。

涅槃の前年の雨期は舎衛国の祇園精舎で安居が開かれた。釈迦最後の伝道は王舎城の竹林精舎から始められたといわれているから、前年の安居を終わって釈迦はカピラヴァストゥに立ち寄り、コーサラ国王プラセーナジットの訪問をうけ、最後の伝道がラージャグリハから開始されることになったのであろう。

このプラセーナジットの留守中、コーサラ国では王子が兵をあげて王位を奪い、ヴィルダカとなった。そこでプラセーナジットは、やむなく王女が嫁していたマガダ国のアジャータシャトル (ajaatazattu、阿闍世王) を頼って向かったが、城門に達する直前に亡くなったといわれている。当時、釈迦と同年配であったといわれる。

ヴィルーダカは王位を奪うと、即座にカピラヴァストゥの攻略に向かった。この時、釈迦はまだカピラヴァストゥに残っていた。釈迦は、故国を急襲する軍を、道筋の樹下に座って三度阻止したが、宿因の止め難きを覚り、四度目にしてついにカピラヴァストゥは攻略された。しかし、このヴィルーダカも河で戦勝の宴の最中に洪水（または落雷とも）によって死んだと記録されている。釈迦はカピラヴァストゥから南下してマガダ国の王舎城に着き、しばらく留まった。

釈迦は多くの弟子を従え、王舎城から最後の旅に出た。アンバラッティカ（パ：ambalaTThika）へ、ナーランダを通過してパータリ村（パ：paaTaligaama）に着いた。ここは後のマガダ国の首都となるパータリプトラ（paataliputra、華子城）であり、現在のパトナである。ここで釈迦は破戒の損失と持戒の利益とを説いた。

釈迦はこのパータリプトラを後にして、増水していたガンジス河を無事渡り、コーティ村に着いた。次に釈迦は、ナーディカ村を訪れた。ここで亡くなった人々の運命について、アーナンダの質問に答えながら、人々に、三悪趣が滅し預流果の境地に至ったか否かを知る基準となるものとして法の鏡の説法をする。次にヴァイシャーリーに着いた。ここはヴァッジ国の首都であり、アンバパーリーという遊女が所有するマンゴー林に滞在し、四念処や三学を説いた。やがてここを去ってベールヴァ(Beluva)村に進み、ここで最後の雨期を過ごすことになる。すなわち釈迦はここでアーナンダなどとともに安居に入り、他の弟子たちはそれぞれ縁故を求めて安居に入った。この時、釈迦は死に瀕するような大病にかかった。しかし、雨期の終わる頃には気力を回復した。この時、アーナンダは釈迦の病の治ったことを喜んだ後、「師が比丘僧伽のことについて何かを遺言しないうちは亡くなるはずはないと、心を安らかに持つことができました」と言った。これについて釈迦は、

“ 比丘僧伽は私に何を期待するのか。私はすでに内外の区別もなく、ことごとく法を説いた。阿難よ、如来の教法には、あるものを弟子に隠すということはない。教師の握りしめた秘密の奥義（師拳）はない。 ”

と説き、すべての教えはすでに弟子たちに語られたことを示した。

“ だから、汝らは、みずからを灯明とし、みずからを依処として、他人を依処とせず、法を灯明とし、法を依処として、他を依処とすることのないように ”

と訓戒し、また、「自らを灯明とすこと・法を灯明とすること」とは具体的にどういうことかについて、

“ では比丘たちが自らを灯明とし…法を灯明として…（自灯明・法灯明）ということは何のようなことか？阿難よ、ここに比丘は、身体について…感覚について…心について…諸法について…（それらを）観察し(anupassii)、熱心に(aataapii)、明確に理解し(sampajaano)、よく気をつけていて(satimaa)、世界における欲と憂いを捨て去るべきである。 [8] ”

“ 阿難よ、このようにして、比丘はみずからを灯明とし、みずからを依処として、他人を依処とせず、法を灯明とし、法を依処として、他を依処とせずにいるのである ” として、いわゆる四念処(四念住)の修行を実践するように説いた。

これが有名な「自灯明・法灯明」の教えである。

やがて雨期も終わって、釈迦は、ヴァイシャーリーへ托鉢に出かけ托鉢から戻ると、アーナンダを促して、チャーパーラ廟へ向かった。永年しばしば訪れたウデーナ廟、ゴータマカ廟、サットンバ廟、バフプッタ廟、サーランダダ廟などを訪ね、チャーパーラ霊場に着くと、ここで聖者の教えと神通力について説いた。

托鉢を終わって、釈迦は、これが「如来のヴァイシャーリーの見納めである」と言い、バンダ村(bhandagaama)に移り四諦を説き、さらにハッティ村(hatthigaama)、アンバ村

(ambagaama)、ジャンブ村(jaambugaama)、ボーガ市(bhoganagara)を経てパーヴァー(paavaa)に着いた。ここで四大教法を説き、仏説が何であるかを明らかにし、戒定慧の三学を説いた。

釈迦は、ここで鍛冶屋のチュンダのために法を説き供養を受けたが、激しい腹痛を訴えるようになった。カクッター河で沐浴して、最後の歩みをクシナーラー(kusinaara)に向け、その近くのヒランニャバッティ河のほとりに行き、マッラ(malla)族(マッラ国)のサーラの林に横たわり、そこで入滅した。。これを仏滅(ぶつめつ)という。腹痛の原因はスーカラマッタヴァという料理で、豚肉、あるいは豚が探すトリュフのようなキノコであったという説もあるが定かではない。仏陀入滅の後、その遺骸はマッラ族の手によって火葬された。当時、釈迦に帰依していた八大国の王たちは、仏陀の遺骨仏舍利を得ようとマッラ族に遺骨の分与を乞うたが、これを拒否された。そのため、遺骨の分配について争いが起きたが、ドーナ(dona、香姓)バラモンの調停を得て舍利は八分され、遅れて来たマウリヤ族の代表は灰を得て灰塔を建てた。

その八大国とは、

クシナーラーのマッラ族

マガダ国のアジャタシャトウル王

ベーシャーリーのリッチャビ族

カビラヴァストフのシャーキャ族

アッラカッパのプリ族

ラーマ村のコーリャ族

ヴェータデーバのバラモン

パーヴァーのマッラ族

である。

入滅後、弟子たちは亡き釈迦を慕い、残された教えと戒律に従って跡を歩もうとし、説かれた法と律とを結集した。これらが幾多の変遷を経て、今日の経典や律典として維持されてきたのである。

[入滅後の評価]

[ヒンドゥー教、イスラーム、マニ教から]

釈迦の入滅後、仏教はインドで大いに栄えたが、大乘仏教の教義がヒンドゥー教に取り込まれるとともにその活力を失っていく。釈迦は、ヴィシュヌのアヴァターラ(化身)として地上に現れたとされた。偉大なるヴェーダ聖典を悪人から遠ざけるために、敢えて偽の宗教である仏教を広め、人々を混乱させるために出現したとされ、誹謗の対象になった。ただ、逆に大乘仏教の教義をヒンドゥー教が取り込んだため、ヒンドゥー教も仏教の影響を受けていた、と捉えることもできる。

さらにインドがイスラム教徒に征服されると、仏教はイスラム教からも弾圧を受け衰退の一途をたどる。イスラム征服後のインドではカーストの固定化がさらに進む。このなかでジャイナ教徒は信者をヒンドゥー社会の一つのカーストと位置づけその存続を可能にしたが、仏教はカースト制度を否定したためその社会的基盤が消滅する結果となった。元々インド仏教はその存在を僧伽に依存しており、ムスリムによって僧伽が破壊されたことによってその宗教的基盤を失い消滅した。インドで仏教が認められるようになったのは、インドがイギリス領になった19世紀以降である。現在はインド北東部の一部で細々と僧伽が存続する。

釈迦の聖地のある、ネパールでも釈迦は崇拜の対象である。ネパールではヒンドゥー教徒が80.6%、仏教徒が10.7%となっている(2001年国勢調査による)。ネパールでも仏教は少数派でしかないが、ネパールの仏教徒は聖地ルンビニへの巡礼は絶やさず行っている。

なお、ルンビニは1997年にユネスコの世界遺産に登録された。また、ネパールでは王制時代はヒンドゥー教を国教としていたが、2008年の共和制移行後は国教自体が廃止されたため、ヒンドゥー教は国教ではなくなった。

仏教は仏滅後100年、上座部と大衆部に分かれる。これを根本分裂という。その後西暦100年頃には20部前後の部派仏教が成立した。これを枝末分裂という（ただし大衆部が大乗仏教の元となったかどうかはさだかではなく、上座部の影響も指摘されている）。そして、部派仏教と大乗仏教とでは、釈迦に対する評価自体も変わっていった。部派仏教では、釈迦は現世における唯一の仏とみなされている。最高の悟りを得た仏弟子は阿羅漢（アラカン如来十号の一）と呼ばれ、仏である釈迦の教法によって解脱した聖者と位置づけられた。一方、大乗仏教では、釈迦は十方（東南西北とその中間である四隅の八方と上下）三世（過去、未来、現在）の無量の諸仏の一仏で、現在の娑婆（サハ、堪忍世界）の仏である、等と拡張解釈された。また、後の三身説では応身として、仏が現世の人々の前に現れた姿であるとされている。とくに大乗で強調される仏性の思想は、上座部仏教には無かったことが知られている。

マニ教の開祖であるマニは、釈迦を自身に先行する聖者の一人として認めたが、釈迦が自ら著作をなさなかったために後世に正しくその教えが伝わらなかった、としている。

[マルコ・ポーロ]

マルコ・ポーロの体験を記録した『東方見聞録』においては、釈迦の事を「彼の生き方の清らかさから、もしキリスト教徒であればイエスにかしづく聖人になっていただろう」。あるいは、「もし彼がキリスト教徒であったなら、きっと彼はわが主イエス・キリストと並ぶ偉大な聖者となったにちがいないであろう。」とし、（版や翻訳で文章に差異はあるが）極めて高く評価している。本文中では仏教という言葉は一切登場せず、仏教は他宗教と総称して偶像崇拜教として記述されるが、四門観の場面を描写するなど、釈迦に対する評価である事に間違いはない。キリスト教の教義にはいささか反するという矛盾も否定は出来ないが、キリスト教徒としては最上の評価と言ってよいであろう。

[釈迦の像]

入滅後400年間、釈迦の像は存在しなかった。彫像のみならず絵画においても釈迦の姿をあえて描かず、法輪や菩提樹のような象徴的事物に置き換えられた。崇拜の対象は専ら仏舎利または仏塔であった。

釈迦が入滅した当時のインドでは、バラモン教を始めとする宗教はどれも祭祀を中心に据えており、像を造って祀るという偶像崇拜の概念が存在せず、釈迦自身もそのひとりであった。初期仏教もこの社会的背景の影響下にあり、またそもそも初期仏教は、偶像を作る以前に釈迦本人に信仰対象としての概念を要求しなかった。

仏像が作られるようになったのはヘレニズムの影響によるものである。そのため初期のガンダーラ系仏像は、意匠的にもギリシアの影響が大きい。しかし、ほぼ同時期に彫塑が開始されたマトゥラーの仏像は、先行するバラモン教や地主神に相通ずる意匠を有しており、現在にも続く仏像の意匠の発祥ともいえる。

ラホール博物館には苦行する釈迦の像が所蔵されている。

[釈迦の生涯を伝える文献]

注:以下〔大正〕とは、大正新脩大蔵経のこと。

修行本起経〔大正・3・461〕

瑞応本起経〔大正・3・472〕 - これらは錠光仏の物語から三迦葉が釈尊に帰依するところまでの伝記を記している。

過去現在因果経〔大正・3・620〕 - 普光如来の物語をはじめとして舍利弗、目連の帰仏までの伝記。

中本起経〔大正・4・147〕 - 成道から晩年までの後半生について説く。

仏説衆許摩房帝経〔大正・3・932〕

仏本行集経〔大正・3・655〕 - これらは仏弟子の因縁などを述べ、仏伝としては成道後の母国の教化まで。

十二遊経〔大正・4・146〕 - 成道後十二年間の伝記。

普曜経

方广大莊嚴経 - これらは大乘の仏伝としての特徴をもっている。

仏所行讚〔大正・4・1〕 (梵：Buddha-carita) 馬鳴著

Lalita vistara

Mahavastu

遊行経『長阿含経』中

仏般泥洹経 白法祖訳

Mahaparinibbanna sutta

大般涅槃経 法賢訳 - 以上3件は、釈尊入滅前後の事情を述べたもの。

『自説経 (ウダーナ)』 - パーリ語による仏典。日本語訳：

ナザレのイエス

(古典ギリシア語: Ἰησοῦς ὁ Ναζαρενός, Iēsūs ho Nazarēnos, 古典ラテン語: Iesus Nazarenus, 紀元前4年頃- 紀元後30年頃) は、紀元1世紀の28年ごろから30年ごろにかけて、パレスティナのユダヤの地、とりわけガリラヤ周辺で活動したと考えられている人物である。

「ナザレの」とは福音書においてイエスが「ナザレのイエス」と呼ばれていることによる。イエスという名は当時めずらしくなく、出身地を含めた呼び方で区別されていた。キリスト教においてはイエス・キリストと呼ばれる。

[名前]

「イエス」、古典ギリシア語再建音では「イェースース」(現代ギリシア語ではイイスス) Ἰησοῦς (Iēsoûs) は、ヘブライ語の「イェーシュア」からの転写形である。

「イェーシュア」は「ヨシュア」 יֵשׁוּעַ (Yeshua) (正確には「イェホーシュア」) の短縮形であり、原義は「ヤハウエ (神) は救い」であって、ユダヤ人のあいだでは広汎に採用されていたごく一般的な人名である。

[生涯]

イエスは「神の子」として誕生したと、『マルコ』『マタイ』『ルカ』『ヨハネ』の4福音書が一致して述べている。しかし「神の子」という呼び方は当時ではありふれており、アブラハムの子孫を意味する言葉でしかなかった。またイエスの誕生については、それぞれの福音書での記述内容に相違が見られる。もっとも早く成立した『マルコによる福音書』ではイエスの伝道から記述を始め、イエスの生誕についてはまったく述べていない。母マリアの処女懐胎については、共観福音書では『マタイによる福音書』と『ルカによる福音書』にしか記されておらず、『マルコ』には記述がない。『マタイ』『ルカ』以後に成立した『ヨハネによる福音書』にも記述がない。『マタイ』と『ルカ』によれば、イエスはベツレヘムで誕生したことになるが、イスラエルの救済者メシアはダビデの町であるベツレヘムで生まれるという伝承がユダヤ教にはあり、八木誠一は、この伝承に

従って福音記者はこのような記述を行ったと考えている。『ヨハネ』はイエスの生誕の地については全く記述していない。八木は、『マタイ』『ルカ』『ヨハネ』によれば、イエスの父（または養父）ヨセフは古代イスラエルの王ダビデの末裔とされるが、メシアはダビデの家系に生まれるという伝承があり、福音記者はこの伝承に合わせて記述したと、と推測している。

福音書の記述の主な対象は、宗教活動を始めた時期のイエスである。その中で彼は、様々な教えを説き、奇蹟を起こした結果、弟子の集団が構成されたことになっている。福音書にはイエスがさまざまな病人の治療を行い、重い皮膚病患者を癒し、死者をよみがえらせたなど、多数の奇蹟が記されている。イエスは宣教の際に、比喻（たとえ話）を多く用いた。

大貫隆は、イエスは、洗礼教団の一派であるエッセネ派と何らかの関係を持っていたのではないかと推測する。荒井献はイエスに洗礼をさずけた洗礼者ヨハネは、エッセネ派が帰属した〈クムラン教団〉の出自であったかもしれないとする。

イエスには多くの弟子ができ、福音書はペトロを筆頭とする「12使徒」をその代表としている。マグダラのマリアが筆頭の弟子であったというのは通説ではない。マグダラのマリアがイエスの妻であったという説もある。

[イエスの教え]

福音書には、イエスの言葉として「山上の垂訓」など群衆に対して語った説教、弟子など限られた対象に向けて語った言葉、当時の宗教指導者らとの問答といったかたちで、多くの言葉が収められている。福音書の記述を史実と認める立場においては、福音書の中にイエスの教えについて多くの言説を認めることが可能である。一方、いわゆる高等批評においては、福音書は「イエスの言行録」ではなく「宣教文書」であり、イエスが語ったとされる言葉がイエスに帰属するかを疑うというのが基本的立場である。この立場においてイエスに帰属できる発言は数少ない。荒井献はイエスの発言にさかのぼれる言葉は少ないながら、イエスの特徴として、既存の権威に頼ることなく自らの言葉で断定的に語り、当時、一般に交流を深めることが忌避されていた人々（蔑まれ、虐げられていた人びと）に対しても分け隔てなく接し、社会の底辺に視座を据え権力を批判したことを認めている。

当時のユダヤにおける宗教的世界観は終末論を中心としていた。『マタイによる福音書』は、洗礼者ヨハネがヨルダン川近くの荒野において「悔い改めよ、天の国は近づいた」と宣教していたと記している（3章2）。また『マルコによる福音書』は、イエスがヨハネより洗礼を受けたあと「ときは満ちた。神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」と述べたと記している（1章15）。これは世の終末が近づいており、神の審判に備えて人は悔い改めねばならないという教えである。

終末論的世界観のもとに生きたイエスは、人々に「悔い改めよ」と宣べた。その目的は「神の国（天の国）」に入るためであるが、新井智は、「神の国（バシレイア・テウー）」とは、ここにある、あそこにあるというようなものではなく、「あなたたちの間にある」と推測している。

[イエスの死とその後]

イエスは、伝統的なユダヤ教の一派であるファリサイ派のあり方、形ばかりで内容のともなわない見せかけの善行を痛烈に批判し、「神殿から商人を追い出す」（売買人を追い出し、両替商の台を倒した）など様々な批判を行った。このことは神殿貴族であるサドカイ派に対する大きな脅威であったため、イエスは政治犯としておもにサドカイ派の人間によってローマ帝国に訴えられ、エルサレムのそばのゴルゴタの丘で、ローマ帝国の法に従って十字架刑に処された。

『マルコによる福音書』は十字架上で刑死したイエスの遺骸を、岩窟式の墓に葬ったと伝え、3日目に訪ねると、イエスの遺骸が消えていたと記している。川島貞雄と佐藤研は、文献学的な研究では、『マルコによる福音書』はこの記述で終わっており、後に記された復活の記述は後世の加筆である、と主張している。（しかし、「イエスが死後、復活した」ということを明確に主張しているのは、他の福音書と変わらない。）

福音書によれば、イエスは磔の刑により死亡したが、3日後によみがえり、多くの弟子たちの前に姿を現したあと40日間ともに生活し、天に向かって昇って行ったとされる。

加藤隆は、イエスの死後、弟子たちは「ユダヤ教のナザレ派」として活動した、と主張している。新井智、田川建三、真山光彌によると、ほどなくして、エルサレムに本拠を置くヘブライスト（ヘブライ派）と、異邦人伝道のヘレニスト（ヘレニズム派）の間で、イエスの教えに関して論争が起こった、とする。田川によると、その後、ユダヤ戦争の結果として紀元70年にエルサレム神殿が破壊されると共に、エルサレムのヘブライ派はほぼ姿を消し、イエスの教えが地中海世界全域にキリスト教として広がり、ナザレのイエスは救世主イエス・キリストとして知られるようになる。

[「史的イエス」]

問題の発生

史的イエスとは、イエスについてキリスト教信仰の観点とは無関係に、史料批判など歴史的な手法を用いて探究される歴史上の人物像のことである。史的イエスに関する研究は、18世紀啓蒙時代の哲学者ヘルマン・ザムエル・ライマールス（ドイツ語版）(Reimarus)がキリスト教の教義によるイエスではなく、十字架刑に至るイエスの人生を見なければならぬと問題提起したことに始まる。ライマールス以来の自由主義神学者たちは、イエス・キリストからキリスト教の教義を分離するという試みにもとづき、多くのイエス伝を著した。ドイツの神学者ダーフィット・シュトラウスは19世紀前半に主著『イエスの生涯』で、『福音書』にあるイエスの奇跡は自然現象を誤解したり間違っただけで解釈したもので史実ではないと説明した。この主張は当時たいへんな驚きをもってむかえられた。フランスの宗教史家エルネスト・ルナンは19世紀後半に著した『イエス伝』によって初めてイエスを人間として描き出した。

20世紀ドイツにおける代表的な新約聖書学者ルドルフ・カール・ブルトマンは、1921年の『共観福音書伝承史』のなかで「原始キリスト教の信仰において本質的なことは、『宣教のキリスト』すなわち原始キリスト教団によって宣教（ケリュグマ）されたキリストなのであって、必ずしも『史実のイエス』ではない」という学説を唱えた。すなわち、『マタイによる福音書』、『マルコによる福音書』、『ルカによる福音書』、『ヨハネによる福音書』の4福音書およびブルトマン学説発表後の1945年にエジプトで発見された『トマスによる福音書』のそれぞれの福音記者たち（著者の帰属については高等批評、トマスによる福音書も参照のこと）が史料として用いた伝承そのものに、伝承を形成してゆく目的として伝承者の信仰にもとづいたキリストの宣教がすでに内在していたということであり、そもそも福音記者たちに「史的イエス」に関する興味はほとんどなかったという説である。これは、原始キリスト教史家であるブルトマンみずから各福音書に対して徹底的な史料批判をおこなって考察したうえで出された結論だった。

このブルトマンの学説は、史料批判によって客観的な史実を打ちたてることが出来ると考えていた歴史主義的な研究方法や、歴史主義に依拠して「史実のイエス」をみずからの信仰の拠り所として求めるに至った「自由主義神学者」に対するきびしい批判であり、聖書学のみならず神学一般にとっても20世紀最大の学問的問題となった。

荒井献は、5福音書を相互に比較すると、各福音記者が等しく同一人物であるはずの「ナザレのイエス」について記しているにもかかわらず、それぞれの福音書に描写されるイエス像は互いに相当異なっており、全体として多様であることを指摘し、その理由として、ひとつには各福音記者によって採用されたイエスに関する口碑伝承そのものが異なる場合があることを掲げる一方、『マタイ』と『ルカ』にみられるごとく、両者に共通のイエスの語録資料（いわゆる「Q資料」）に依拠しながらも全体としては異なるイエスの言説を読み手に提示する場合があることを指摘し、このイエス像の多様性は各福音記者における「史観と視座の設定点」の差異以外からは説明できないはずであり、その設定のありようは詮ずるところ各福音記者の信仰のあり方やその創造力の内実によっているのではないかと指摘している。

[議論の経緯]

ブルトマン以前

上述のように、「史的イエス」を考察、さらには分析していくうえで最重要とされる史料に、「ナザレのイエス」の言行を収録した『新約聖書』収載の福音書がある。したがって、近代以降発展してきたイエスの実像に関する研究が、福音書に対する史料批判にもとづいていることには、特に注意しておかなければならない。

1835年、カール・ラハマン (Karl Lachmann) が、『マタイ』、『マルコ』、『ルカ』の共観福音書のうち、最初に書かれたのは『マルコによる福音書』であるという「マルコ優先説」を提起するや、『マルコ福音書』の分析にもとづけばイエスの歴史的実像にたどり着けるという見方が当時の聖書学者のなかで有力となっていく。ハインリヒ・ホルツマン (Heinrich Holtzmann) はこの学説にもとづき、1886年、福音書は救い主（メシア）であるイエスが自己を啓示する過程を記述したものであるとの見解を発表した。

しかし、この見解はヴィリアム・ヴレーデ (William Wrede) が発表した「メシアの秘密」仮説の提唱によって深刻な打撃をこうむることになる。すなわち、ヴレーデは自著『福音書におけるメシアの秘密』（1901年）において、『マルコ福音書』のなかで、イエスが弟子や人びとに対し自分をメシアであることを言いふらすことを禁じる（秘密にする）命令をしているのは、イエス自身がそもそもメシア（キリスト）としての自覚を持っていなかったためであり、ホルツマンが目するような記述は当時の教会神学が生み出したものであると断じたのである。これに対してアルベルト・シュヴァイツァーは1906年から1913年にかけて『イエス伝研究史』を著わし、これまでのイエス研究そのものが研究者の思想的背景の単なる投影に過ぎなかったと主張して、イエスは終末論的世界観のなかに生きていたのであり、メシア（キリスト）としての自覚を持っていたという見解を表明した。

[ブルトマン以後]

「ブルトマン学派」とよばれる潮流をつくった聖書学の泰斗ルドルフ・カール・ブルトマン

1910年代末葉から1920年代初頭にかけて、すでに編集され福音書というかたちで示される個々のイエスの言葉や物語について、それぞれの編集の過程や歴史的な位置付けを明らかにしようとする「様式史研究 (Formgeschichte)」の試みが、マルティン・ディベリウス (Martin Dibelius) や上述のルドルフ・カール・ブルトマンらの神学者によって始められた。この研究方法においては、イエス伝承の形成者としての原始教団は、固有の「文体」、「様式」、「文学類型」を生み出したと想定し、個々の伝承がどのようにして生まれ、どのように個々の福音書の現在みられるような位置に編集されるに至ったか、その歴史的経緯を明らかにすることを目的としている。したがって、物語のなかのどの言葉が編集のために福音記者が補った言葉（編集句）であるか特定することで伝承を洗い出す作業がなさ

れ、「論争」、「奇跡行為」、「伝説」などの教団の「生活の座 (Sitz im Leben)」のどこにその伝承が位置づけられるかを明らかにすることで、イエスの歴史的事実に関する諸伝承の成文化以前の歴史的価値を決定しようとしたのである。

ブルトマンに師事した上述のエルンスト・ケーゼマンもまた師同様、「宣教のキリスト」から出発した。ケーゼマンはしかし、パウロが「宣教のキリスト」のなかに「書簡」という文学スタイルで神学的内容を盛りこんでいったのに対し、福音記者たちはどうして、同じ「宣教のキリスト」に「福音書」という文学スタイルを通して史的構成を試みたうえで彼らにとっての同時代に示したのかという問題提起をおこなっている。それに対するケーゼマン自身の答えは以下のようなものであった。

ヨハネの場合は例外に属するが、福音記者マタイ、マルコ、ルカは、すでにイエスの語録伝承の担い手となった人びとの信仰のなかにみられる「霊的熱狂主義」と対決するために「福音書」という文学形式を採用した。つまり、霊的熱狂主義者たちは、天に召された「キリスト」としてのイエスとかれら自身とを「霊的に」同一の境地に達しようとして、歴史を超越ないしは歴史性を捨象するという傾きが強かったのに対し、福音記者たちは、十字架刑で極限に達した「イエスの生」を描いていくことで、イエスの歴史性を確保しようとした。それに対し、パウロは霊的熱狂主義者との書簡の交換において、熱狂主義者の掲げる「栄光のキリスト」に対峙するため、「十字架のキリスト」としての「宣教のキリスト」を自らの立場として提示した。

ケーゼマンに似た立場から、ブルトマン学派のなかでいち早く「ナザレのイエス」を公表したのがギュンター・ボルンカム (Günther Bornkamm) であった。ボルンカム著『ナザレのイエス』の初版は1956年、ドイツのシュトゥットガルトで公刊されている。

さて、ディベリウスやブルトマンによってはじめられた「様式史研究」をさらに発展させた新たな試みが、1960年、ハンス・コンツェルマン (Hans Conzelmann) らによって始められた。この研究を「編集史研究 (Redaktionsgeschichte)」と呼び、それぞれの福音書がどのように編集されたか (編集句) を想定することで、それぞれの福音記者の思想的傾向や文書成立の歴史的背景による文書の特性、および編集方法の特異性が明らかになると主張し、それらの福音書ごとの特性を傍証として、歴史的なイエスの実像に迫る足がかりにしようとする。日本においても、同様の研究が荒井献、田川建三らによって進められている。

一方、1980年代以降、福音書の原資料として想定される「Q資料仮説」にもとづき、終末論をイエスの思想の核とは考えず、イエスをキュニコス派 (犬儒学派) 的な知恵の教師とみなすバートン・L・マックなどの研究者もあらわれ、一定の支持を集めている。

これらの議論の経緯からもわかるとおり、「史的イエス」の研究は、基本史料たる福音書そのものの歴史的な価値をどう評価するかに大きく左右されている。また同じ研究手法を採用しても、個々の語句の歴史的評価が研究者によって異なるため、研究者ごとに結論が大きく異なる場合が多い。さらに日本における編集史研究においては、Q資料の存在による「二資料仮説」を前提とした議論が主流であるのとは対照的に、欧米においては、『マルコ福音書』の先行性を否定したり、Q資料の存在そのものに強く反対する「史的イエス」研究も根強く存在していることには、特に注意を要する。

[「史的イエス」の復元]

復元の根拠となる資料

史的イエスを知るための史料は決して多くない。原始キリスト教からみて外部資料にあたるユダヤ教の文書やローマ帝国の歴史記録などの文献資料には、イエスの名が言及されている程度であり、内容的に独立した史料とするにはおよばない。エジプトのナグ・ハマディ (アラビア語エジプト方言版) において発見されたコプト語による初期グノーシス文

書、ナグ・ハマディ写本も全体としては単独の史料としての信頼性には疑問がもたれる。イエスの実在や事績に関しての史料・資料は、考古資料をのぞけば、伝聞や伝承をあつめた二次的なものが多く、結局「史的イエス」の解明には福音書、なかんずく『マタイ』、『マルコ』、『ルカ』の3福音書が最も重要だということになる。

[史料批判における諸問題]

様々な古代の思想家と同様、イエスは自分の思想を文字に記すことはなかった。また、彼の直弟子たちの手によって、その生涯が書き残されることも無かった。イエスの行動を記した資料である福音書は、彼の生涯を忠実に記すことを意図したものではなく、それぞれの著者が属していた初期キリスト教団の思想を表すための、宣教文書であると考えられ、その資料としての信頼性は限定的である。

[キリスト教外部による史料]

非キリスト教徒による一次史料は少ない。

イエスの名前が初出するキリスト教外の文書では、フラウィウス・ヨセフスの『ユダヤ古代誌』(18:63)やタキトゥスの『年代記』などのごく一部にイエスに関する記述があるが、前者は後代の加筆を疑われており、後者は同時代史料でないばかりか、キリスト教徒（「クレストス」を開祖とする宗教）に言及したものである。したがって、イエスの実在性の根拠とするには問題を含んでいる。

しかし、紀元後30年ころにローマ皇帝に対する反逆罪で磔刑に処せられた男のあったことについては、ローマやユダヤ側の史料によってもある程度裏づけられる。また、十字架刑は、当時のローマ法で規定された刑罰であった。

2008年にキリストに言及した最古のものであると考えられる記述を持つ容器がアレキサンドリアの海中遺跡でフランス人考古学者のフランク・ゴディオ氏を中心とする発掘調査グループにより発見された。この容器は紀元前2世紀後半から紀元1世紀前半のものであり、容器の表面には古代ギリシャ語で「DIA CHRSTOU O GOISTAIS（魔術師たるキリストによるもの）」という文字が刻み込まれている。

2012年ハーバード大学の研究者がイタリア・ローマで開かれた学会で、キリストの妻についての発言を記載した古いパピルス片が見つかったと発表した。発表を行ったのはハーバード大学神学校のカレン・キング教授。パピルスの紙片は縦3.8センチ横7.6センチほどの大きさで、エジプトのキリスト教徒が使うコプト語の文字が書かれている。この中に、「キリストは彼らに向かい、『私の妻が…』と発言した」と記された一節があった。紙片は個人の収集家が所蔵していたもので、2011年にハーバード大学に持ち込まれ、キング教授が調べていた。ニューヨーク大学の専門家に鑑定を依頼した結果、本物のパピルスであることが確認されたという。キング教授によると、内容はキリストと弟子との対話を記録したものとみられ、2世紀半ばごろに書かれたとみられる。表裏の両面に文字が書かれており、書物の1ページだった可能性もあるという。ただしこの紙片は、キリストが結婚していたとする説を裏付ける証拠にはならないとキング氏は指摘する。一方、キリストが未婚だったことを裏付ける証拠もないといい、キング氏は記者会見で「キリストが結婚していたかどうかは分からないという立場は、以前と変わっていない」と強調した。

[キリスト教内部による史料]

19世紀における歴史的事実としてのイエスに対する関心の深まりを反映して描かれたイエスの事績を記述するキリスト教文書（聖書）において、現在残されているイエスに言及する最古の史料は新約聖書内のパウロの真筆と想定される書簡（『パウロ書簡』）である。

しかし、これら残存するパウロの文書には、生前のイエスと直接会っていることをうかがわせる記述はなく、書簡の中でパウロが出会ったと証言しているのは「復活後のキリスト」である。また、パウロにおいて史的イエスの実像を記述した証言は、ほぼ皆無に近い。『新約聖書』に含まれる、福音書やその他の書簡などの文書についても、イエスの弟子の名前が冠されているものの、イエスが刑死した後かなり年代が経過した1世紀後半以降に成立したと推定されており、これらの文書の筆者もイエスを直接には知らないと考えられている。したがって、『パウロ書簡』は、実在性を証明する一次史料ではない。しかしながら、パウロの真筆の手紙によって、イエスの弟子であるペトロや他の使徒たちの実在は疑いの余地がない。

もし、イエスが実在しないと仮定すれば、かれらが実際には存在していない自分たちの指導者を作り上げ、いかなる宗派のユダヤ教思想でも考えられないことに、その人物を「神の御子」と呼び、しかもローマ帝国によって「神の御子」が処刑されたうえに、さらに、その死後復活したという教えを説いてまわったということになる。かれらに何故そのような複雑で何重にもわたる虚構を捏造する必要があったのか、大きな疑問がのこる。

「史的イエス」を福音書の言行から復元する試みは19世紀より盛んに行われ、聖書内に描かれているイエス像が現実性を欠くことや、各福音書や外典のイエス伝が大部分で相互に矛盾するといったこと、またイエスに関する確実な一次史料を欠いていることを理由に、例えばヘーゲル左派などからイエスの実在自体を否定する見解が出されるに至った。しかしながら、その後の新約聖書学の提供する知見からイエスの実在を否定する論はほとんど支持されていない。

[「史的イエス」の生涯]

キリスト教では異端とされるグノーシス主義研究者の荒井献は、『マタイ』、『マルコ』、『ルカ』の共観福音書の文献学的な比較検討により、イエスの生涯には少なくとも、バプテスマのヨハネの弟子
ガリラヤにおける宣教
エルサレムにおける処刑
の3つの段階があったと推定できる、としている。

[イエスの生年]

一般に、イエスの生年は紀元前7年 - 紀元前4年頃とされている。紀元前7年とみなす説を採っているのがエテルベルト・シュタウファー（ドイツ語版）（Ethelbert Stauffer）や弓削達であり、荒井献や八木誠一は紀元前4年説に立っている。

これは、『マタイによる福音書』2章の、イエスがヘロデ大王の治世（紀元前37年 - 紀元前4年）の末期に生まれたという記述、および『ルカによる福音書』から推定されているものであるが、キリスト教以外の史料には該当の既述がないため、断定は困難である。

[イエスの生地と家系]

伝統的には、イエスはユダヤの町ベツレヘムにおいて処女マリアから生まれたと信じられている。これは、『マタイによる福音書』1-2章および『ルカによる福音書』2章に拠っている。しかし、荒井献は、最も先行する福音書と考えられる『マルコによる福音書』も、さらにそれに先だつ時期に大部分が執筆されたと考えられる『パウロ書簡』も、あるいは福音書中もっとも年代の新しい『ヨハネによる福音書』もベツレヘムにおける処女降誕に関する記載がない、と主張する。のみならず、荒井献は『ヨハネ福音書』においては、イエスはガリラヤの出身であると記されており、『マルコ福音書』『マタイ福音書』『ルカ福音書』のいずれにおいても、イエスがダヴィデ王の子孫であることは否定されている

[34]、と主張するが、実際には『マタイ福音書』1章6-17節、『マルコ福音書』10章47-48節において、イエスがダヴィデ王の子孫である、とする記載があり、『ルカ福音書』1章27節にもイエスの父、ヨセフがダヴィデ家の者である、とする記載がある。

『ルカ福音書』によれば、ローマ帝国の初代皇帝アウグストゥス（紀元前27年-紀元後14年）が、全世界の戸籍・人口調査を命令したが、それはシリア総督がプブリウス・スルピシウス・キリニウスだったときのことで、人びとは登録のため自分の故郷へ戻ったとされる。マリアの夫ヨセフはダヴィデ王の流れを汲む家系だったので、マリアをともないガリラヤの町ナザレからダヴィデの町、ユダヤのベツレヘムへおもむいた。そのとき、マリアからイエスが生まれたとしている。にもかかわらず、荒井献によれば、『マルコ福音書』『マタイ福音書』のみならず『ルカ福音書』においても、イエスが「人の子」または「主」として超地上的な存在として信じられており、イエスが「キリスト」であるとしても、単なる地上の王であるダヴィデのような世俗的な王者ではないという主張が認められる、という。

すなわち、『マタイ福音書』や『ルカ福音書』においては、イエスの出生について、イエスが「ダヴィデの子」としてベツレヘムに生まれたという伝承と、その一方で超地上的存在として処女から降誕したという伝承が重なっているのであり、これはたがいに矛盾する。荒井は、もしもイエスが処女から生まれたとするなら、マリアだけではなく、イエスとも血統的には無関係なはずのヨセフの系図をダヴィデにまで遡行させる必要はない、と指摘している。八木は、イエスがダヴィデに連なり、ベツレヘムで生まれたという伝承は、メシア（キリスト）はダヴィデの家系から出て、ベツレヘムに生まれるという預言から逆につくられた伝承である可能性を指摘している。荒井は、イエスは誕生物語以外の場面では一貫して「ナザレ人」「ナザレ出身者」の術語が用いられており、これはすべての福音書において一致するとする。このようにみた場合、イエスの出身地はガリラヤのナザレとみるのが妥当である。

新井智は、イエスの数人の弟妹のうち実弟といわれるヤコブ（義人ヤコブ）は、キリスト教会の中心的指導者として実際に活動している、と主張する。

[イエスの十字架での死]

福音書から、ローマ皇帝ティベリウス治下でユダヤ属州の総督だったポンティウス・ピラトゥスのもとで、十字架刑に処されたと考えられている。

イエスの死が十字架刑であることは、福音書に先行する『パウロの書簡』にも記されており、イエスの実在性ととも蓋然性が高いとされる。なお、十字架の刑は、当時のローマ法の規定によるものであった。

イエスの没年は、

ポンティウス・ピラトゥスの総督在任期間が（26-36年）であること、

既述のとおりイエスの生年の下限が紀元前4年と考えられること、

イエスが30歳ごろに宣教を始めたというルカによる福音書の記述（3章23節）

などから判断して、おおよそ紀元後30年前後という想定は学界ではおおむね一致している。

シュタウファー、弓削、土井正興は紀元後32年とみなしているが、紀元後31年説もあり、

荒井は紀元後30年説を採る。八木は紀元後32年か紀元後31年としている。

いずれにしても、没年や福音書に記録されている祭典の回数などを信用すれば、イエスが宣教を行った期間は、3年ほどという短い期間だったことになる。

[イエスとヨハネ]

荒井献は、イエスの生涯において、ガリラヤでの宣教に先だつ時期にバプテスマのヨハネのグループで活動していたことを重視し、2人の行動上における相違点を整理して次の3点

が際だった違いであると指摘している。

荒井の主張によると、ヨハネのグループは、「悔い改め」にふさわしい生活形態として世俗から隔絶した一種の禁欲生活共同体を形成し、ヨハネ自身はラクダの毛衣（けごろも）を着てイナゴと野蜜を食べて「荒野」での洗礼活動をおこなっていたが、イエスはむしろ世俗世界に入ってきたわめて自由にふるまい、人びとには洗礼をさずけず、断食も勧めなかった。しかし、『ヨハネ福音書』には、「その後、イエスは弟子たちとユダヤ地方に行き、そこに一緒に滞在し、洗礼を授けておられた」とする記載がある。また、『マタイ福音書』には、イエスが祈りと共に断食の必要性を認めたり、それをする時は人に見せびらかさずに慎ましくするよう説く記載はある。当時の人たちはそういったイエスのことを「〈大飯くらいで大酒飲み、取税人や罪人の仲間だ〉と非難」したほどだった、と荒井は指摘する。また、イエスは結婚を否定しなかった。八木誠一は、イエスは決して禁欲主義ではなかった、と主張する。

ヨハネが「神の国」の接近にもとづいて人びとに「悔い改め」を迫ったのに対し、イエスは「神の国」がすでに実現されつつあると人びとに告知し、人びとがみずから、あえて社会的・民族的・経済的、場合によっては倫理的にさえも「弱き者」の位置に立とうとするときに立ち現れるものとして「神の国」を説いた。

イエスにのみ多くの奇跡的な逸話が伝承されている。これについて荒井は、イエスには実際に病気を治癒する能力があったのかもしれないと指摘している。ただしそれが、当時の「奇跡物語」という文学形式のなかで高められ、「キリスト（メシア）」あるいは「神の御子」と見なされるべき超人的な力として「宣教のキリスト」に利用されたことも確かな事実である、としている。

八木と荒井の両名は、イエス当時のユダヤの支配者とりわけ政治的・宗教的なエリートであったサドカイ派やファリサイ派の人びとは、かれらの生活の価値基準を、かれらが神より授けられたと信ずる律法（「伝達のことば」）に置いていたのであり、かれらによれば、人が神の意志を知ることができるのは律法によってのみであって、したがって、律法を守って倫理的に清く正しい生活をしてきた人びとこそが、終末の際、その功績によって「神の国」に入れられ、律法を守らない者は「神の国」から閉め出されると堅く信じていた、とする。荒井によると、しかし、ヨハネは、過去において律法を守って倫理的な生活を送ってきたことを誇り、それを基準として律法を守らない人びと、あるいは、貧困などによって守りたくても守ることのできない人びとを差別し、穢らわしいものとして蔑む心のありようそのものを「罪」と考えたのであり、過去の基準にではなく将来の基準にこそ転換すべきことを主張した。そして、「神の国」が近づいたことを基準にするのであれば、律法を守りえる者も守りえない者も、よもや同一の地平に立たざるをえないことを訴えた、とする。これによりヨハネは、従来の価値基準を転換する「回心」としての「悔い改め」を説き、「荒野での洗礼活動」をはじめたのであった。

荒井は「神の国」の真の到来は、律法を遵守して生活してきたという過去を誇る者がむしろ神による審判の対象となり、律法を守ろうとしても守りえない者がかえって神による救いの対象となりうるという逆説を生じせしめるのであり、ヨハネはそこにこそ「悔い改め」が求められ、また、それにふさわしい倫理的・禁欲的な生活上の実践が求められているとする。こうしたヨハネの思想に共鳴し、かれの洗礼活動に参加した人びとのなかにイエスやペトロがいた。そしてイエスは、「悔い改め」の思想をいっそう徹底することによってヨハネの禁欲主義的傾向から脱却していく。ヨハネ思想の批判的継承者となったイエスは、こうしてヨハネの教団を離れ、ガリラヤへの宣教へおもむいた。

「貧しき者は幸いである」、「取税人や遊女は汝らよりも先に神の国に入る」などの福音（イエスのことば）に示されるように、イエスは、人間がみずからの民族的・社会的・経済的・倫理的な有能感に立ち、自己を中心に他者の価値を審断しようという心持ちを批判し、人がそうした態度を捨てて、神への信仰によってむしろ自己を相対化し、自身をあえて弱者の側に立つと決意するならば、そこに「神の国」は実現されつつある、と荒井は唱えた。

そして、荒井によると、イエスは当時政治的・宗教的指導者によって「罪人」ないしは「アム・ハ・アレツ」（「地の民」）として蔑まれ、不浄視され、法によって交わることを禁じられていた身体障害者や病人、とりわけ重い皮膚病患者や精神病患者と法を犯しても親交をむすび、みずからこうした弱者、被差別者たちの一員となることによって傷害や病気を癒そうとした、とする。イエスの生涯に多くの奇跡物語の伝承がともなっているのは、まさに、このためであろう、と荒井は考えるのである。

[革命家イエス]

革命家としてのイエスは様々な解釈が存在する。アメリカ合衆国の歴史家で雑誌編集者でもあったジョエル・カーマイケル（英語版）（Joel Carmichael）は、1963年に発表した"The Death of Jesus"（邦題『キリストはなぜ殺されたのか』。西義之訳、読売新聞社刊。1972年）において、イエスはみずから「ユダヤ人の王」としてローマの支配体制に抵抗し、最終的には武力革命の興起を試みた結果、当時のアンチローマ・ラディカリストである「ゼーロータイ」（熱心党）の1人として、ローマ帝国の派遣したユダヤ総督によって磔刑に処せられた、という解釈を施している。

このように、イエスを政治的文脈でとらえようとする著作は、歴史家のイエス研究のなかから現れて来る。

イギリスの宗教史研究者S. G. F.ブランドン（英語版）（S. G. F. Brandon）は1967年に"Jesus and the Zealots, A study of the political Factor in Primitive Christianity"（邦題『イエスとゼーロータイー原始キリスト教における政治的要素に関する研究』）を著し、同じころ、日本の西洋史学者土井正興は『イエス・キリストーその歴史的追究』（三一書房、1966年）を著している。土井のイエス像は、当時、不浄なものとして差別され、虐げられていた「アム・ハ・アレツ」（「地の民」）と共に立ち、かれらを宗教的に救済しようとするいっぽうで、ゼーロータイ的な政治革命への志向性をも有し、その両者を統合しようとするが、有効な革命理論の定立と行動の組織化に破綻を来したため、イエスはみずからの運動に挫折した、というものである[51]。

歴史家によるイエス研究については、上述した聖書学者たちによる史料批判の成果が一顧だにされない傾向について批判があり、とくに解釈における革命家的側面の強調については、ひろくみて「1960年代現象」のひとつではなかったかとの見解もある。これら「革命家イエス」に対する、聖書学者による、より強固な反論としては、1970年のオスカル・クルマン（Oscar Cullmann）の"Jesus und die Revolutionären seiner Zeit"（邦題『イエスと当時の革命家たち』。川村輝典訳、日本基督教団出版局刊。1972年）がある。クルマンによれば、イエスは「ゼーロータイ」と称された当時の革命家たちよりもむしろ革命的であった、何となれば、イエスは「神の国」建設とその手段としての政治的行動計画さえ拒否して人びとの心の革命（「悔い改め」）をこそ問題にしたからなのであった。一方、荒井献は、イエスを政治的革命家に仕立て上げることも、政治とは関わりのない宗教的次元に押し込むことも不適當であるとし、政治と宗教が不可分であった背景において、イエスが社会的に差別の対象とされていた民衆と共に立ったことが、既にそれだけで宗教的＝政治的であったと指摘している。またエルサレム神殿は当時においてユダヤの政治的経済的拠点で

あり、神殿から商人を追い出した、あるいは、神殿を打ち壊すと言ったとすれば、それらは決定的な政治批判になるとしている。

[美術におけるイエス]

西ヨーロッパの宗教画やキリスト彫像は北方ヨーロッパ系の白人の痩せた男性のイメージで作られるのが一般である。しかし現在の欧米の研究者の間ではコーカソイドではあるが中近東から地中海沿岸一帯にかけて分布する、いわゆる地中海人種であったと想定されており、北方ヨーロッパ系の形質の身体であったとは考えにくい。

なお、北欧系白人の形質としてイエスが描かれて来たのは西方教会に限定される現象である。東方教会のイコンにおいては、古くから地中海人種の特徴をそなえたかたちでイエスは画かれてきた。

[現代の主要な研究]

ルドルフ・カール・ブルトマン

ブルトマンは多くの点でカール・バルトとは対立する新約聖書学者であるが、弁証法神学運動の初期においては、バルトの陣営に立っていた。やがて、バルトとは異なり、新約聖書の徹底したクリティカルな研究に進み、1921年の『共観福音書伝承史』では、『マタイ』、『マルコ』、『ルカ』の3福音書が複数の多様な伝承資料から成るものとして分析し、当時すでに旧約聖書学において用いられていた様式史批判の手法を用いて、各資料で伝えられてきた「生活の座」がイエスの死後発展した原始キリスト教の信仰と祭儀にあることを明らかにした。これによって、福音書は歴史報告ではないことを明証するとともに、現在残されている福音書から「史的イエス」そのものの実際の姿を再現することは歴史学的には困難であり、新約聖書の本来の性格はむしろイエスをキリストとして伝えるケリュグマ（宣教）にあるという結論を導き、当時、歴史主義に大きく依拠していた自由主義神学を批判した。

第二次世界大戦後は、『新約聖書』にあらわれた思考そのものが、全体として神話論的性格を濃厚に有するものであるとして、その「非神話化」を提唱した。ただし、「非神話化」とは神話的部分を削除しようということではなく、全体として神話論的につらぬかれた聖書の告知が内包するところの「実存理解」を学的に解明しようということであり、この点においては、ドイツの実存主義哲学者マルティン・ハイデッガーの影響を受けている。

[フックス、ブラウン、ロビンソン]

ドイツのエルンスト・フックス (Ernst Fuchs) は "Zur Frage nach dem historischen Jesus" (邦題「史的イエスの問題によせて」, "Gesammelt Aufsätze II" 所収、1960年) は「宣教のキリスト」と「史的イエス」の対応関係を、両者の実存的な「振舞」のなかに確かめようとしている。

また、ドイツの神学者ヘルベルト・ブラウン (Herbert Braun) やアメリカ合衆国の神学者ジェームズ・M. ロビンソン (James M. Robinson) も、やはり、「宣教のキリスト」と「史的イエス」とを、両者の「実存理解」においてとらえようとする (H. ブラウン "Jesus, Der Mann ans Nazareth und seine Zeit. (邦題『イエスーナザレの人とその時代』、1969年)、および、J. M. ロビンソン "Historischer Jesus und kerygmatischer Christus" (邦題『歴史のイエスと宣教のキリスト』、1960年)。

これらの見解は、いずれもかつてブルトマンが新約聖書の解釈方法としてハイデッガーより援用した実存論的解釈を「史的イエス」にまで拡大して得られた理解をもとにしていると考えられる。

[エルンスト・ケーゼマン]

ドイツのエルンスト・ケーゼマンは、福音記者たちは、十字架刑で極限に達した「イエスの生」を描くことで、イエスの歴史性を確保しようとした（ただし、ヨハネをのぞく）のに対し、他の戦線にあったパウロは、霊的熱狂主義者との書簡の交換において、熱狂主義者の掲げる「栄光のキリスト」に対峙するため、「十字架のキリスト」としての「宣教のキリスト」を打ち出したものであると主張した。ケーゼマンの問題意識にしたがうなら、原始キリスト教団の人びとにおける「宣教のキリスト」は、かれらがイエスの生と死の「事実性」のなかに救いの意味を感じた限りにおいて、それと「史的イエス」とは時間的に接続し、本質的に双方はたがいに対応関係にあることとなる[26]。

八木誠一

ケーゼマンに学んだ八木誠一は、「神の国」にじかに接して生きたイエスその人の実存理解は、「キリスト」に遭遇して生きた原始キリスト教団の人びとのうちに彼らの「復活信仰」を通じて間接的に伝えられたと説く。この点では、八木はケーゼマンよりむしろ実存主義の影響を受けたヘルベルト・ブラウンやJ. M. ロビンソンの立場に近いといえる。ただし八木は、人間実存の根底となる部分について、ケーゼマンの指摘した「事実性」に信仰の内実を委ねることは、むしろ歴史の一部を過度に絶対化する懸念がもたれるとして、そこにみられる歴史主義への傾きを批判している。八木によれば、人間実存の根底は、人間に対して歴史を越えながら人間実存をそのうちに生起せしめる「統合への規定」としてはたらくのであって、これは本来、党派のないし宗派的なものではなくて普遍的なものである。したがって、キリスト者のみならず、たとえば仏教者もまた知っていたはずであるとして、宗教の本質をそこにみようとす。八木は、イエスという人物を「統合への規定」「人間の根源的な規定の存在と働き」に即して生きたひとりの人間の例としてとらえるのである。

ブルトマン学派に批判的な諸学者

ドイツ以外のヨーロッパ大陸諸国や英語圏の新約聖書学者たちは、ブルトマン学派の学績やそのイエスの位置づけに対し、福音書の伝承批判の部分をものぞけば、否定的見解を示す場合が多い。ただし、アメリカのJ. M. ロビンソン（先述）とフランスのエティエンヌ・トロクメ（ドイツ語版）（Étienne Trocmé）は例外である。

ドイツにおいても、イェルク・イェレミアス（Jörg Jeremias）は、"Die Gleichnisse Jesu"（邦題『イエスの譬え』、1966年）において、福音書のなかのイエスのことば、とくに「たとえ話」の伝承批判によって、イエスの「語られたままのことば」を抽出し、これをむしろ基準として福音記者のイエス像・イエス理解に批判を加えている。

エテルベルト・シュタウファーは、イェレミアスとほぼ同様の手法によって取り出された「真のイエスのことば」のみならず、当時のユダヤ文献との照合によってイエスの業（処女降誕・奇跡行為・復活）にその歴史的信憑性を認め、これらイエスの業を『ヨハネによる福音書』における人物伝的枠組のなかにおさめてイエスの原像を復元し、さらにこれを「すべてのものの基準」に設定して、福音記者だけではなくパウロの「宣教のキリスト」に対しても批判を加えている。

荒井献

シュタウファーに師事した日本における新グノーシス主義研究者である荒井献は、イエス自身が決して「最下層の庶民」に属していないと主張しながら、彼の思想と行動は、徹頭徹尾この「庶民」との連帯をめざすものであったとし、イエスを革命家と把握しようとする歴史家たち、および、それに対してイエスをもっぱら精神の変革者と把握する聖書学者たちは、いずれも政治と宗教とを互いに異なった領域として分離する近代的思考の枠組み

から自由ではないと批判して、「庶民」に視座を設定することによって「史的イエス」の実像に接近しようとした、としている。すなわち荒井は（彼自身は歴史学者ではないが）、史料批判によってイエス伝承の古層にせまり、その伝承の担い手であったことが確実な庶民層に視点を置くことで、イエスの振る舞いを西洋古代史の歴史的な脈のなかでとらえ、位置づけようと試みた、と主張する。その結果、イエス受難伝承の最古層においては、のちに、イエスを「神の子」としてとらえる機縁となった「復活信仰」は未だ明瞭なかたちでは立ち現れていなかったと論述した。

田川建三

ブルトマンに批判的なフランスの聖書学界のなかでは最もブルトマンに近いエティエンヌ・トロクメに師事した田川建三は、日本に帰国後、牧師にして日本共産党へ入党宣言をした赤岩栄と出会い、大学闘争を経験し、「造反教員」として国際基督教大学から追放されている。その後、彼は「神を信じないクリスチャン」を自称するようになり、このような特異な経験と彼独自の新約聖書学、およびそのマルクス研究によって、既存のキリスト教なかんづくパウロの思想のなかに「現実と観念の逆転」を指摘し、キリスト信仰そのものの止揚をうったえた。田川は、イエスの生きた時代史と神観、律法観、終末観等の各論とのあいだに相互関係をほとんど示さない神学を批判して、イエスの言葉の神学的ないし実存論的な解釈では、イエスを正しく歴史のなかに位置づけることはできないと説き、また、ペトロを中心にエルサレムの地に形成されつつあった原始キリスト教団の主流に対し、辺境ガリラヤに生きる民衆の立場から批判を加える作業として「福音書」を編んだとしてマルコを高く評価し、イエスの言葉伝承を、奇跡物語伝承を仲立ちとしてイエスを古代の歴史的な脈のなかへ取り戻すことによって、「逆説的反抗者」として生きたイエスという男の「生と死の再現」を試みたのである。

[諸宗教におけるイエス]

ユダヤ教におけるイエス

ユダヤ教では、イエスをメシア（キリスト）と認めない。また預言者とも認めない。ただし、少数派のメシアニック・ジューダイズムのユダヤ教徒はイエスをメシアとして受け入れている。

イスラム教におけるイエス

イスラム教においてイエスは、イーサーと呼ばれる。イーサーは、ムハンマドおよびヌーフ（ノア）、イブラーヒーム（アブラハム）、ムーサー（モーセ）と共に五大預言者（ナビー）のうちの一として重んじている。しかし神アッラーフは創造主であり、アッラーフ自身「子を産みもしなければ産まれもしない」ために、イーサー（イエス）がアッラーフであることもアッラーフの子であることも否定されている。生前のイエスは「神の子」を比喩として用いており、対象も彼自身に限定されるものではなかった。ムハンマドが批判した主流派キリスト教でも「子」という言葉は霊的なものとされており、生物学的な行為によるものではないとされている。十字架刑については磔（はりつけ）にされたのは別人で、イーサーは預言者として生涯を全うしたとされる。また、イーサーは十字架を打ち壊すだろうとされ、先行するキリスト教の信仰は否定されている。

グノーシス主義におけるイエス

グノーシス主義では、仮現説（ドケティズム）の立場でイエスの存在を理解する。すなわち、人間イエスは仮の姿であり、その生涯、十字架刑も仮象（仮の姿）でしかなく、その本質は神であり、人としての地上での生涯の間もその神としての本質は変わらない

と考える。ただし、イエスの受肉に関する理解はグノーシスの各派によって異なる。

マニが啓示を受けて始めたマニ教は、キリスト教グノーシス派やゾロアスター教、仏教の要素を取り入れていて、イエスはザラスシュトラ、仏陀にならぶ預言者として高い尊敬を受けている。

シク教におけるイエス

イスラームとヒンドゥー教の影響の下に成立したシク教においては、イエスは預言者とされている。また、イスラーム教シーア派から派生したバハーイー教においても、世界の偉大な宗教を開いた預言者の一人として高い尊敬を受けている。

神智学におけるイエス

神智学の体系では、マハートマーの1人であり、かつてはテュアナのアポロニウスとして転生したとされる。

ムハンマド

(アラビア語: محمد、Muḥammad、570年頃 - 632年6月8日) は、イスラーム教の開祖、軍事指導者、政治家。アラビア半島西中部、ヒジャーズ地方の中心都市メッカの支配部族であるクライシュ族出身で、その名門ハーシム家のひとり。イスラーム教では、モーセ（ムーサー）、イエス（イーサー）その他に続く、最後にして最高の預言者（ナビー）でありかつ使徒（ラスール）とみなされている。また世俗君主・軍人としても有能であり、アラビア半島にイスラーム国家を打ち立てた。

[名前と表記]

フルネームはムハンマド・イブン＝アブドゥッラーフ・イブン＝アブドゥルムッターリブで、「アブドゥルムッターリブの息子アブドゥッラーフの息子ムハンマド」の意味。字義は「より誉め讃えられるべき人」。日本ではかつては西欧での表記（Mohammed, Mohamet, Mahomet など、ラテン語形 Machometus に由来）やトルコ語での表記（Mehmet, Muhammet）にしたがって、モハメッド、マホメットなどと呼ばれることが多かったが、近年では標準アラビア語（フスハー）の発音に近い「ムハンマド」に表記・発音がされる傾向がある。なお、「ムハンマド」はムスリムの典型的な名前でもあるため、区別のため「預言者ムハンマド」と呼ぶ場合がある。

英語圏では預言者ムハンマドの名を口にしたときに続けて「Peace be upon him（彼に平安あれ）」と唱える。文章表現では、このフレーズを省略して「Prophet Muhammad（pbuh）」とする表記がよくみられる。

[生涯]

啓示

ムハンマドはアラビア半島の商業都市マッカ（メッカ）で、クライシュ族のハーシム家に生まれた。父アブド・アッラーフ（アラビア語版）（アブドゥッラーフ）は彼の誕生する数か月前に死に、母アーミナ（アラビア語版）もムハンマドが幼い頃に没したため、ムハンマドは祖父アブドゥルムッターリブ（アラビア語版）と叔父アブー・ターリブの庇護によって成長した。

成長後は一族の者たちと同じように商人となり、シリアへの隊商交易に参加。25歳の頃、富裕な女商人ハディージャに認められ、15歳年長の寡婦であった彼女と結婚した。ムハン

マドはハディースととの間に2男4女をもうけるが、男子は2人とも成人せずに死んだ。610年8月10日、悩みを抱いてマッカ郊外のヒラー山の洞窟で瞑想にふけていたムハンマドは、そこで大天使ジブリール（ガブリエル）に出会い、唯一神（アッラーフ）の啓示（のちにクルアーンにまとめられるもの）を受けたとされる。その後も啓示は次々とムハンマドに下され、預言者としての自覚に目覚めたムハンマドは、近親の者たちに彼に下った啓示の教え、すなわちイスラーム教を説き始めた。最初に入信したのは妻のハディースで、従兄弟のアリーや友人のアブー・バクルがそれに続いた。613年頃から、ムハンマドは公然とマッカの人々に教えを説き始めるが、アラビア人伝統の多神教の聖地でもあったマッカを支配する有力市民たちは、ムハンマドとその信徒（ムスリム）たちに激しい迫害を加えた。伯父アブー・ターリブはハーシム家を代表してムハンマドを保護しつつあったが、619年頃亡くなり、同じ頃妻ハディースが亡くなったので、ムハンマドはマッカでの布教に限界を感じるようになった。

[聖遷]

622年、ムハンマドは、ヤスリブ（のちのマディーナ（メディナ））の住民からアラブ部族間の調停者として招かれた。これをきっかけに、マッカで迫害されていたムスリムは次々にヤスリブに移住した。マッカの有力者達は、ムハンマドがヤスリブで勢力を伸ばすことを恐れ、刺客を放って暗殺を試みた。これを察知したムハンマドは甥のアリーの協力を得て、新月の夜にアブー・バクルと共にマッカを脱出した。マッカは追っ手を差し向けたが、ムハンマドらは10日ほどかけてヤスリブに無事にたどり着いた。この事件をヒジュラ（元来移住という意味だが聖遷や遷都と訳されることが多い）といいのちにヒジュラ暦元年と定められた。またヤスリブの名をマディーナ（預言者の町）と改めた。マディーナではマッカからの移住者（ムハージルーン）とヤスリブの入信者（アンサール）を結合しムハンマドを長とするイスラーム共同体（ウンマ）を結成し、彼の教えやウンマの勢力増大に反発するユダヤ教徒などを排除しながらイスラーム共同体の基礎を築いた。

[敵対者との戦争]

ムハンマド率いるイスラーム共同体は周辺のベドウィン（アラブ遊牧民）の諸部族と同盟を結んだり、マッカの隊商交易を妨害したりしながら急速に勢力を拡大した。こうして両者間で睨み合いが続いたが、ある時、マディーナ側はマッカの大規模な隊商を発見し、これを襲撃しようとした。しかし、それは事前にマッカ側に察知され、阻止の為、倍以上の部隊を繰り出す。バドルの泉の近くで両者は激突、マディーナ側が勝利した。これをバドルの戦いと呼び、以後イスラーム教徒はこれを記念し、この月（9月、ラマダーン月）に断食をするようになった。

翌年、バドルの戦いで多くの戦死者を出したメッカは報復戦として大軍で再びマディーナに侵攻した。マディーナ軍は戦闘前に離反者を出して不利な戦いをしいられ、マッカ軍の別働隊に後方に回り込まれて大敗しムハンマド自身も負傷した（ウフドの戦い）。これ以後、ムハンマドは組織固めを強化し、マッカと通じていたユダヤ人らを追放した。

627年、マッカ軍と諸部族からなる1万人の大軍がムスリム勢力の殲滅を狙って侵攻してきた。ムハンマドは当時はまだアラビアにはなかった塹壕を掘って敵軍を防ぐ戦術をとりマッカ軍を翻弄した。さらに策略を持って敵軍を分断し撤退させることに成功した。塹壕のことをアラビア語でハンダクと言うため、この戦いはハンダクの戦いと呼ばれる。マッカ軍を撃退したイスラーム軍は武装を解かず、そのままマッカと通じてマディーナのイス

ラーム共同体と敵対していたマディーナ東南部のユダヤ教徒、クライザ族の集落を1軍を派遣して包囲襲撃し、この攻勢に耐えかねて無条件降服した彼らの内、戦闘に参加した成人男子を全員処刑して虐殺し、女性や子供は捕虜として奴隷身分に落とさせ、彼らの財産を没収させた（クライザ族虐殺事件）。

ムハンマドは628年にフダイビーヤの和議によってマッカと停戦した。この和議は当時の勢力差を反映してマディーナ側に不利なものであったが、ムスリムの地位は安定し以後の勢力拡大にとって有利なものとなった。この和議の後、先年マディーナから追放した同じくユダヤ教徒系のナディール部族の移住先ハイバルの二つの城塞に遠征を行い、再度の討伐によってこれを降伏させた。これによりナディール部族などの住民はそのまま居住が許されたものの、ハイバルのナツメヤシなどの耕地に対し、収穫量の半分を税として課した（ハイバル遠征）。これにともないムスリムもこれらの土地の所有権が付与されたと伝えられ、このハイバル遠征がその後のイスラーム共同体における土地政策の嚆矢、征服地における戦後処理の一基準となった言われている。しかし、ユダヤ教徒側と結んだ降伏条件の内容や、ウマルの時代に彼らが追放された後ムスリムによる土地の分配過程については、様々に伝承されているものの詳細は不明な点が多い。この遠征の後、ファダク、ワーディー・アル＝クラ、タイマーといった周辺のユダヤ教徒系の諸部族は相次いでムハンマドに服従する事になった。自信を深めたムハンマドは、ビザンツ帝国やサーサーン朝など周辺諸国に親書を送り、イスラームへの改宗を勧め、積極的に外部へ出兵するなど対外的に強気の姿勢を示した。

630年にマッカとマディーナで小競り合いがあり停戦は破れたため、ムハンマドは1万の大軍を率いてマッカに侵攻した。予想以上の勢力となっていたムスリム軍にマッカは戦わずして降伏した。ムハンマドは敵対してきた者達に当時としては極めて寛大な姿勢で臨み、ほぼ全員が許された。しかし数名の多神教徒は処刑された。カアバ神殿に祭られる数百体の神像・聖像はムハンマド自らの手で破壊された。

[晩年]

ムハンマドはマッカをイスラームの聖地と定め、異教徒を追放した。ムハンマド自身はその後マディーナに住み、イスラーム共同体の確立に努めた。さらに1万2000もの大軍を派遣して敵対的な態度を取るハワズィン、サキーフ両部族を平定した。以後、アラビアの大半の部族からイスラームへの改宗の使者が訪れアラビア半島はイスラームによって統一された。

またビザンツ帝国への大規模な遠征もおこなわれたが失敗した。

632年、マッカへの大巡礼（ハッジ）をおこなった。このときムハンマド自らの指導により五行(信仰告白、礼拝、断食、喜捨、巡礼)が定められた。大巡礼を終えてまもなくムハンマドの体調は急速に悪化した。ムハンマドはアラビア半島から異教徒を追放するように、自分の死後もコーランに従うようにと遺言しマディーナの自宅で没し、この地に葬られた。彼の自宅跡と墓の場所はマディーナの預言者のモスクになっている。

預言者ムハンマドは複数の未亡人を妻として迎え入れたが、クルアーンはこれを『戦争により夫を亡くした女性の地位を守るため』と記述している。12人目を迎え入れた際、神からの啓示が下され、迎え入れた女性に対し平等に接するため、妻は4人までと定められたとクルアーンには記されている。

[家族と子孫]

伝承よるとムハンマドが25歳のとき、15歳年長とされる福家の寡婦ハディージャと最初の結婚をしたと伝えられる。スンナ派などの伝承によれば、ムハンマドが最初の啓示を受け

た時、その言葉を聞いて彼女が最初のムスリムになったと伝えられている。彼女の死後、イスラーム共同体が拡大するにつれ、共同体内外のムスリムや他のアラブ諸部族の有力者から妻を娶っており、そのうち、アブー・バクルの娘アーイシャが最年少（結婚当時9歳）かつ最愛の妻として知られる。最初の妻ハディースの死後、ムハンマドはイスラーム共同体の有力者の間の結束を強めるため多くの夫人を持ったが、アーイシャ以外はみな寡婦や離婚経験者である。これは、マディーナ時代は戦死者が続出し寡婦が多く出たためこの救済措置として寡婦との再婚が推奨されていた事が伝えられており、ムハンマドもこれを自ら率先したものとの説もある。なお、ムハンマドと結婚し妻になった順番としては、ハディース、寡婦サウダ・ビント・ザムア、アーイシャ、ウマルの長女ハフサの順であったと伝えられ、他にマッカの指導者でムハンマドと敵対していたアブー・スフヤーンの娘ウム・ハビーバ（したがってウマイヤ朝の始祖ムアーウィヤらの姉妹にあたる）がハンダクの戦いの後、629年にムスリムとなってムハンマドのもとへ嫁いでいる。

ムハンマドは生涯で7人の子供を得たと伝えられ、うち6人は賢妻として知られるハディースとの間に生まれている。男子のカーシムとアブドゥッラーフは早逝したが、ザイナブ、ルカイヤ、ウム・クルスーム、ファーティマの4人の娘がいた。このうち、ルカイヤ、ウム・クルスームの二人はウスマーンに嫁いでいる（ムハンマドの娘二人を妻としていたため、ウスマーンはズンヌーライン『ふたつの光の持ち主』と呼ばれた）。末娘ファーティマはムハンマドの従兄弟であるアリーと結婚し、ハサン、フサインの2人の孫が生まれた。最後の子供は晩年に埃人マーリヤとの間に儲けた3男イブラーヒームであるが、これも二歳にならずに亡くなっており、他の子女たちもファーティマ以外は全員ムハンマド在世中に亡くなっている。

ムハンマドは上記のとおり男児に恵まれなかったため、娘婿で従兄弟のアリーがムハンマド家の後継者となった。ムハンマドは在世中、自身の家族について問われたとき、最愛の妻であるハディースとの間の娘ファーティマとその夫アリー、二人の間の息子ハサンとフサインを挙げ、彼らこそ自分の家族であると述べている。またほかの妻の前で何回もハディースを最高の女性であったと述べていた。そのためほかの妻、とりわけアーイシャはこのようなムハンマドの姿勢を苦々しく思っており、後にアーイシャがアリー家と対立する一因となる。

ムハンマドの血筋は、外孫のハサンとフサインを通じて現在まで数多くの家系に分かれて存続しており、サイイドやシャリーフの称号などで呼ばれている。サイイドはイスラーム世界において非常に敬意を払われており、スーフィー（イスラーム神秘主義者）やイスラーム法学者のような、民衆の尊敬を受ける社会的地位にあるサイイドも多い。現代の例で言うと、イラン革命の指導者のホメイニ師と前イラン大統領モハンマド・ハータミー、イラク・カーズィマインの名門ムハンマド・バキール・サドルやその遠縁にあたるムクタダー・サドル、ヨルダンのハーシム家やモロッコのアラウィー朝といった王家もサイイドの家系である。

[諸宗教におけるムハンマドの評価]

イスラームにおけるムハンマド

イスラーム教の公式教義におけるムハンマド

イスラーム教の教義においては、ムハンマドは唯一神（アッラーフ）からイスラーム共同体に対して遣わされた「神の使徒」とされ、最後にして最大の預言者と位置づけられている。「ムハンマドは神の使徒である」という宣誓は、シャハーダ（信仰告白）として、信徒の義務に位置付けられる。

ムハンマド自身は、自らを「預言者の封印」と称したが、それがどのような文脈で語られているかは、たびたび見逃されている。特にイスラム教徒は、その意味内容を拡大解釈する傾向がある。クルアーン「部族連合」（クルアーン33:40）において、この「預言者の封印」という言葉が登場するが、この箇所は、一般信者と預言者ムハンマドとを区別することがその主旨であり、他の預言者たちよりムハンマドが優れているということは一切言われていない。

このように「最後の預言者」は、もともと「最大の預言者」とは全く別の概念であった。これが現在のように「最後にして最大」と一体化するには、歴史の中ではかなりの変遷がみられる。クルアーン「砂丘」（クルアーン46:8(9)）では、大天使ガブリエルが、「古今未曾有の使徒」であることをムハンマドに否定させている。さらに第二聖典ハディースにおいても、「旧約の預言者であるモーセやヨナよりも、私のことを優れた預言者であると言ってはならない」というムハンマド自身による戒めが何箇所かある。形式的にはこれは現在のイスラムの信仰告白にも残されている。イスラム教徒へ改宗する際の信仰告白は「ムハンマドは預言者」であり、ムハンマドの預言者としてのスケールは告白しない。

第二聖典ハディースでは、ムハンマドの権威と偉大さを強調する文章が少なくない。

「預言者ムハンマドは完全であり、最大の預言者である」との考えがされるようになっていった。

スンナ派では、彼に使わされた啓示を集成したクルアーンによってのみ、人々は正しい神の教えを知ることができると思う。最良の預言者であるムハンマドの言行（スンナ）には神の意志が反映されているから、その伝承の記録（ハディース）も神の意思を窺い知る手がかりとして用いることができるとされる。

ムスリムの民間信仰におけるムハンマド

ムスリムの民衆にもムハンマドは非常に敬愛され、一種の聖者と見られている。ヒジュラ暦でムハンマドの誕生日とされるラビー・アル＝アウワル月の12日は、預言者生誕祭として大々的に祝われる。

ムスリムの聖者崇拝においては聖者を神の特別の恩寵を与えられた者と考え、聖者に近づくことで神の恩寵の余燼をこうむることが期待されるが、なかでもムハンマドは神に対して必ず聞き届けられる特別な請願をする権利を与えられていると考えられており、人々は宗教的な罪の許しをムハンマドに請えば、終末の日における神の裁きでも、ムハンマドのとりなしを受けることができると信じられている。かつてはマッカ、マディーナなどのムハンマドの生涯にゆかりの場所は最高の聖者としてのムハンマドに近づくための聖地のようにになっていたが、聖者崇拝のような民間信仰をイスラームの教えから逸脱した行為とみる厳格なワッハーブ派を奉じるサウジアラビアが当地を支配する現在では、聖者崇拝的要素は廃されている。

[イスラーム神秘主義におけるムハンマド]

内面を重んじるイスラーム神秘主義（スーフィズム）の流れにおいては、ムハンマドは「ムハンマドの光（ヌール・ムハンマディー）」と呼ばれる、神によって人類が創造される以前から存在した「光」として、神にまず最初に創造された被造物を受け継いで人間として生まれ出でたのだ、と観念された。

このようなムハンマド観は、イブン＝アラビーの系統を引く神秘主義思想によって、ムハンマドという存在は、人間としてこの世に生まれた普通の「人間としてのムハンマド」と、

それ以前から存在していた「『真理』あるいは『宇宙の潜在原理』としてのムハンマド」、すなわち「ムハンマドの本質（ハキーカ・ムハンマディーヤ、ムハンマド的眞實在）」とに分かれていたのだと見なされるようになった。このようなムハンマド観には仏教における仏身論との類似が指摘できる。

また、スーフィズムでは神との合一（ファナー）を成し遂げたスーフィーの聖人たちは、師資相承されてきたムハンマドの本質性、精神を継承する者として捉えられる。この点でイスラーム神秘主義におけるムハンマドは禅における釈迦如来の位置付けに似ている。

[キリスト教圏におけるムハンマド]

カトリック、プロテスタント、英国国教会、正教会の違いこそあれ、キリスト教圏では、ムハンマドは「新たな契約を結んだイエスの後に、余計なものを付け加えた者」と映ることが多かった。そのため、古来よりイスラーム教に対して敵愾心を持つことも多々あった。その最も端的な例が、ビザンツ帝国への初期イスラームの侵攻による征服以後、イスラーム教徒の支配下にあった、聖地エルサレムをキリスト教支配下に再征服する目的で編成された十字軍といえる。

イスラームについての正確な知識が乏しかった中世ヨーロッパにおいては、ムハンマドはサラセン人の信仰する神々のうちの一柱であるとも考えられていた。たとえばフランスの武勲詩『ローランの歌』においてマフム(Mahum, Mahumet)はテルヴァガン(Tervagan、語義未詳)およびアポリン(Apollin、アポロンが語源)とともにサラセン人多神教の主要三神であると歌われている。また、南ドイツの伝説的英雄ディートリヒ・フォン・ベルンは悪霊マフメット(Machmet)の子供であるという伝説も流布していた。フランソワ・ラブレールの『パンタグリユエル』では、マホン(Mahon)が悪魔のうちの一として現れている。

またムハンマドは反キリストであるという説もあった。9世紀アンダルスのアルヴァルスはダニエル書7章23節から25節の『第四の獣は地上の第四の王国であろう。これはすべての国よりも大きく、全世界を併合し、これを踏みつけ、かつ打ち砕く。十の角はこの国から起こる十人の王である。その後一人の王が起こる。彼は先のものよりも強大であり、かつ、三人の王を倒す。彼は、いと高きものに敵して言葉を出し、かつ、いと高きものの聖徒を押しつぶす。彼は又時と律法とを変えることが出来ると考え、聖徒はひと時と、ふた時と、半時の間、彼の手に渡されるであろう。』というくだりに出てくる『十一番目の王』をムハンマドと解釈した。

文学の世界でも1980年代末にイギリスの作家サルマン・ラシュディが、ムハンマドをスキャンダラスに描写した『悪魔の詩』を発表して、イランの最高指導者アーヤトッラー・ルーホッラー・ホメイニーのファトワーにより死刑宣告を受け、世界に衝撃を与えたことがあった。

[ユダヤ教におけるムハンマド]

ユダヤ教では、イエス同様ユダヤ教の内容を歪曲した新宗教を作り上げた人間とされている。

[バハーイー教におけるムハンマド]

バハーイー教ではムハンマドを預言者の一人として崇敬している。しかし彼らが従うのはバブおよびバハーウッラーの教えである。

[シーク教におけるムハンマド]

シーク教においてもムハンマドは預言者、聖者として高い尊敬を受けている。

[ムハンマドと猫]

ムハンマドは大変な猫好きであったといわれ、ムエザという猫を飼っていたと伝わっていて、猫にまつわるさまざまな逸話がある。ある日ムハンマドが外出しようとする、着ようと思っていた服の上で猫が眠っていた。ムハンマドは猫を起こすことを忍びなく思い、服の袖を切り落とし片袖のない服で外出したという。

ムハンマドが猫好きであったとされることから、イスラーム教徒には猫好きが多いといわれる。とくに額にM字の模様が入った猫は「ムハンマドの猫」と呼ばれる。これは、あるときムハンマドが可愛がっていた猫の額に触れるとムハンマドの名前の頭文字である「M」の模様が浮かび上がったという逸話をもとになっているという。

[征服者としてのムハンマド]

ムハンマドは世俗的な意味においても世界史を塗り替えた人物である。アラビア半島を統一してイスラーム帝国の礎を築いた。ムハンマドは生涯26回も自ら信徒を率いて戦い、多くの戦いで先手を取り、ときには策略を用いて、何度も不利な戦闘で勝利するなどすぐれた軍事的指導者でもあった。また情勢を客観的に分析することができ外交も得意であった。統治者としてのムハンマドは勇敢で英知ある行動をとることも少なくなかった。

[対ユダヤ教徒政策]

イスラームのアラビア制覇は征服によるものばかりではなく、他部族への宣教、懐柔によるところも大きい。イスラーム教徒はもちろん、多くの非ムスリムもムハンマドを当時としてはたいへん寛容な人物であったとしており、クルアーンの初期の啓示からもそのことが確認できる。

しかしマッカとの交戦時代にはマディーナ憲章で互いの信仰が保証されていたにもかかわらず、アラブのユダヤ教徒との宗教的・政治的対立に悩まされ続けた。特にマディーナへの移住以降、外来の自身とムスリムたちのマディーナでの地位向上を巡って内外の勢力との対立を深め、ユダヤ教徒であるカイヌカー族などはマッカ側と内通するなどしていた。624年4月、ひとりのムスリムとカイヌカー族のある男性との殺人事件をきっかけに武力対立が顕在化し、ついに同族の砦を包囲陥落。かれらはメディーナから追放された。これを機に、キブラの方向はエルサレムからマッカに変更された。

また、627年5月には同じくムハンマドの暗殺やイスラームへ改宗したマディーナのアラブ人の謀殺を行うなど、対立が続いていたユダヤ教徒のナディール族とも戦闘になり、その集落を包囲陥落し彼らも追放となった。627年3月、ムハンマドはハンダクの戦いでマッカ軍の総攻撃を撃退し勝利した。その後ハンダクの戦いで敵対的中立を保っていたユダヤ教徒のクライザ族を討伐するためサアド・ブン・ムアーズ・アル＝アウシーに軍の全権を委ねて派遣した。624年5月1日に、15日間の包囲攻撃のすえクライザ族は全面降伏したが、サアドは成人男性全員を処刑し、女性や子供は捕虜として全員奴隷身分に下し、その財産は全て没収してムスリムへ分配するという当時にしては比較的寛容な処断を行った。ムハンマドは「まさしく汝は神（アッラー）と神の使徒（ムハンマド自身）の意に適う判決を行った」とこのきわめて残虐な非人道的行為を全面的に支持したという。続くハイバル遠征でナディール族が全面降伏した結果、ファダク、ワーディー・アル＝クラ、タイマーの各ユダヤ教徒系のアラブ諸部族は相次いでムハンマドに服従する事になった。異教徒に対する態度についていえば、自発的な改宗を期待し、他教を認めて寛容であった後継者の正統カリフたちに劣るという説がある。ただし、アラビア半島からユダヤ教徒が完全に追放されたのはウマルの治世である。

[ムハンマドと女性]

イスラーム共同体（ウンマ）がヒジュラとマッカ征服によって急速に勢力を拡大すると、抗争をくり返していたアラビア半島のアラブ諸部族は共同体の首長であるムハンマドの政治交渉における誠実さを見込み、彼と同盟関係を結ぶなどした。この過程でムハンマドは共同体内部の有力家系の婦女の他に、征服した勢力や同盟・帰順関係を結んでいたアラブ諸部族などからも妻を迎えることとなった。ムハンマドの女性観、女性関係はムハンマドが非ムスリムを中心として批判される原因ともなった。

[ムハンマドの妻・妾一覧]

正妻

ハディース

サウダ・ Bint・ ザムア

アイシャ・ Bint・ アブー・バクル（アブー・バクルの娘）

ハフサ（ウマルの娘）

ウンム・サラマ・ヒンド（アブー・スフヤーンの娘）

ザイナブ・ Bint・ フザイマ

ウンム・ハリマ・ザイナブ・ Bint・ ジュフシュ

ジャワイリーヤ・ Bint・ ハーリス

ウンム・ハビーバ・ラムラ・ Bint・ アビー＝スフヤーン（アブー・スフヤーンの娘で上記のウンム・サラマの姉妹）

サフィーヤ・ Bint・ フヤイイ（ハイバル出身）

マイムーナ・ Bint・ アル＝ハーリス

コプトのマリア（マーリーヤ・アル＝キブティーヤ・ Bint・ シャムウーン）（ムハンマドの末子イブラーヒームの母。エジプト出身のコプト教徒の娘。）

側室

ライハーナ

ウンム・シャンク

クハウラ

[ムハンマドに遡る結婚規定について]

イスラーム法の法源であるクルアーン、およびハディースでは結婚に関する規定やムハンマドに由来する逸話がいくつか存在する。クルアーンによれば、男性には娶って良い女性と娶ってはならない女性があることが述べられている。

「汝らに娶ってはならぬ相手として、自分の母、娘、姉妹、父方のおばと母方のおば、兄弟の娘と姉妹の娘（ともに姪）、授乳した乳母、同乳の姉妹、妻の母、汝らが肉体的交渉をもった妻が以前に生んで連れて来た養女（継娘）、今汝らが後見している者、未だ肉体的交渉をしていないならばその連れ子を妻にしても罪はない。および汝らが生んだ息子の妻、また同時に二人の姉妹を娶ること（も禁じられる）。過ぎ去った昔のことは問わないが。アッラーは寛容にして慈悲深くあられる。」（クルアーン第4章23節）

ハディースが伝えるところによると、ムハンマドの妻のひとりでアブー・スフヤーンの娘ウンム・ハビーバからの伝承として、彼女が自分の妹もムハンマドの妻として迎えて欲しいと願い出たが、妻の姉妹とは結婚出来ないのだから「私には許されない」と答えて断った。そこで彼女は、アブー・サラマの娘ドッラをムハンマドが妻として欲しているという噂を聞いたので、ドッラとも結婚してはどうかと尋ねたが、ムハンマドはアブー・サラマとは彼の母スワイバの乳でともに育った自分の乳兄弟であり、その娘を娶る事は乳兄弟の娘を

娶る事になり、これも自分には許されないと反論して断り、「ともかく、あなた方の娘や姉妹たちを私に勧めてはいけない」と諭したという。同様の例が他にもあり、ムハンマドの叔父ハムザ・ブン・アブド・アル＝ムッタリブの娘と結婚しないのかと人から尋ねられた時、ムハンマドは「彼女は私の乳兄弟の娘だから」と言ってこれを否定している。また、本人の許諾無しに強制的に女性が親族たちによって結婚させられることは無効とされた伝承もある。例えばハンサーウ・ビント・ヒザームという女性は離婚したものの彼女の父親によって無理矢理再婚させられ、これをムハンマドに訴え出た時、ムハンマドはこの結婚を無効としたという（ただし、実際に歴史上でこれらの子女が望まない結婚を強制された場合、どれだけ無効と出来たかは裁判記録などの精査を要する）。

[ザイナブ・ビント・ジャフシュとの結婚に関して]

ムハンマドの養子であったザイド・イブン・ハーリサの妻ザイナブ・ビント・ジャフシュはムハンマドの従姉妹にあたりごく初期に改宗したひとりである。ヒジュラに同行してマディーナへ移住したが、ザイドとザイナブはこの時結婚生活が上手くいっていなかったようで、ザイドの家に訪れた時に何度もムハンマドに、離婚したいとの相談をした。しかしムハンマドは夫婦の仲を取りもち離婚を許さず、「アッラーを畏れ、妻をあなたの許に留めなさい」とたしなめて離婚を抑えるようにしたが、ザイドは、高貴な一族の出身であるザイナブが、もともと奴隷の身分であった自分を夫として認めることが難しいことに悩み、夫婦仲は難しくなるばかりだった。修復不可能な夫婦関係を解消するために、ザイドは、ザイナブとの離婚手続きを済ませた。しかし自分との離婚後、身分の高いザイナブの処遇が心配された。当時の慣習では養子であっても息子の妻を父が娶ることを禁止されていたが、イスラームにおいては、養子が実子を名乗ることは禁止され、血が繋がっていない養子の妻は離婚後であれば、父親が娶ることは問題がないとしたクルアーンの見解を、預言者自らが実際に実現し、慣習を払拭するために、クルアーン第33章37節の啓示により、「養子は本当の親子と同じものではない」、「養子の妻は養子が彼女を離婚した後は自分の妻としても問題はない」コーラン第33章37節「アッラーの恩恵を授かり、またあなたが親切を尽くした者に、こう言った時を思え。『妻をあなたの許に留め、アッラーを畏れなさい。』だがあなたは、アッラーが暴露しようとした、自分の胸の中に隠していたことを恐れていた。寧（むしろ）あなたは、アッラーを畏れるのが本当であった。それでザイドが、かの女に就いて必要なことを済ませ（離別し）たので、われはあなたをかの子と結婚させた。（これからは）信者が、必要な離婚手続きを完了した時は、自分の養子の妻でも、（結婚にも）差し支えないことにした。アッラーの命令は完遂しなければならない。」と明示された。高貴なザイナブは離婚後、その身を案ずることなく、ムハンマドの妻という最高の処遇を与えられ、627年に妻となった。ちなみに、このザイナブ・ビント・ジュフシュは結婚の後、預言者ムハンマドの寵愛を巡ってアーイシャと競った事で有名だが、上記の啓示の事を引き合いにして結婚式の当日「あなた方を嫁がせたのはあなた方の親達ですけれど、わたしをめあわせたのは七つの天の彼方にいますアッラーに他なりません」と言ってムハンマドの他の妻達に誇ったと伝えられる。ブハーリーの『真正集』「神の唯一性の書」第22節3項および4項など。

このことに対して、反イスラーム主義者は、『セックスに対する欲望のあまり養子とはいえ息子の嫁を奪った男』とムハンマドを攻撃する姿勢を見せている。またコーラン第33章37節の文言もムハンマドが自身の欲望を満たすために作り上げたものとしている。

[アーイシャとの婚姻をめぐる議論]

ハディースなどの伝承によると、最初の妻ハディージャが没した後、ムハンマドはヒジュ

ラ後のメディナ居住時代に寡婦サウダとアブー・バクルの娘アーイシャと結婚している。ムハンマドの妻たちの多くは結婚経験がある者がほとんどで、ハディースなどの記録による限り結婚時に処女だったのはアーイシャのみであり、特に当時のアラブ社会でも（現在でも中東や東欧など第三世界でもそうだが）他の地域と同じく、良家の子女にとって婚姻以前の「処女性」は非常に重要視されており、アーイシャの場合も処女で婚儀を結んだことがムスリムの女性の模範のひとつとして重要視されている。

ただ、当時の習慣により、このムハンマドの最愛の妻と呼ばれたアーイシャは、結婚時9歳（満8歳）であり、対してムハンマドは50歳代に達していた。そのため反イスラーム主義者の一部はこれを口実に『ムハンマドは9歳(満8歳)の女の子とセックス（性行為）を行ったのではないか?』とムハンマドを攻撃する姿勢を見せている。

これに対してムハンマドの擁護者などは、前近代の人類社会では有力家系の子女が10歳前後で結婚することはありふれており、このこと自体は歴史的事実として確認されている。豊臣秀吉は10歳の幼女を側室にしたことなど、歴史上の人物は、ほとんどがこの例に倣っており、ムハンマドだけを攻撃する理由が不明である。その場合は結婚してもおおよそ初潮後の適齢になるまでセックスは行わないのが通例であった。インドのイスラーム学者マウラナ・ムハンマド・アリーはアーイシャがムハンマドと結婚した年齢は15歳であったとも主張している。

ただし、ハディースにはアーイシャ自身からの伝承として、「彼女は6歳の時に預言者（ムハンマド）に嫁ぎ9歳(満8歳)の時に正式に結婚し、9年間を共に暮らした」とあり、「正式な結婚」とは婚儀の後の結婚初夜のセックス・性行為も含まれるとされる。またイスラームにおいて預言者ムハンマドの言動（ハディース）は一部の例外を除いてムスリムの言動の鑑とされていることから、イスラーム世界における児童性的虐待や幼童婚の慣習の正当化に、ムハンマドとアーイシャの事例が用いられているという批判も存在している。イスラーム法における女子の最低結婚年齢は多くの解釈では9歳であるが、これはアーイシャの結婚時の年齢を基にしたものである。

[一夫多妻に関する議論]

ムハンマドらが生きて居た当時、一定以上の財産・地位を持つ自由民男性は通常複数の女性と結婚し、当然ながら子孫を得るため彼女らとセックス・性行為を行った。これはムハンマドも同様であった。

この事自体は（現代ならばともかく）その当時の人類社会における富裕層・支配層では極当たり前の習慣であり、前近代の社会においては一般的で過度に強調すべきことではないともいえる。しかしながら、一夫多妻が女性への人権侵害であるという考えも近現代では強く、かつムハンマドの事績は現代でも規範性を有しているため、論争になっている。ただし、当然のことだがこの家族形態（一夫多妻）が前近代の社会で一定程度見られたことを事実として認めることと、この家族形態が当時さらには現代社会においても倫理的に正当性を有するとみなしこれを倫理的に是認するか否かと論じることは、また別の問題である。

[天国に対する発言]

ティルミズィーによるハディース集成書『スナン』によるとムハンマドは「天国の民への最小の報い」として八十人の召使いと七十二人の妻がおり、真珠とアクアマリンとルビーで飾られた天蓋のある、アルジャビアからサナアまでほどの広さを持つ住居をあげたという。

このような事柄はクルアーンにも記されている。コーラン第56章10節から24節には、
『（信仰の）先頭に立つ者は、（楽園においても）先頭に立ち、これらの者（先頭に立つ

者)は、(アッラーの)側近にはべり、至福の樂園の中に(住む)。昔からの者が多数で、後世の者は僅かである。(かれらは錦の織物を)敷いた寢床の上に、向い合ってそれに寄り掛かる。永遠の(若さを保つ)少年たちがかれらの間を巡り、(手に手に)高坏や(輝く)水差し、汲立の飲物盃(を捧げる)。かれらは、それで後の障を残さず、泥酔することもない。また果実は、かれらの選ぶに任せ、種々の鳥の肉は、かれらの好みのまま。大きい輝くまなざしの、美しい乙女は、丁度秘蔵の真珠のよう。(これらは)かれらの行いに対する報奨である。』と記されており、また56章27節から40節には、『右手の仲間、右手の仲間とは何であろう。(かれらは)刺のないスイドラの木、累々と実るタルフ木(の中に住み)、長く伸びる木陰の、絶え間なく流れる水の間で、豊かな果物が絶えることなく、禁じられることもなく(取り放題)。高く上げられた(位階の)臥所に(着く)。本当にわれは、かれら(の配偶として乙女)を特別に創り、かの女らを(永遠に汚れない)処女にした。愛しい、同じ年配の者。(これらは)右手の仲間のためである。昔の者が大勢いるが、後世の者も多い。』と記されている。このため反イスラーム主義者はムハンマドを『天国を売春宿のように捻じ曲げた男』として批判してきた。

[セックスに対する認識]

ムスリムの真正集によれば、ムハンマドはある日女性を見て、その足ですぐ家に戻り妻の一人ザイナブのところに行った。その後教友(サハーバ)達の所に赴き、女性を見て彼女に欲情した時はすぐに妻のところへ赴き性交することで情欲を抑えるように説教したとされる。

[女性捕虜の取り扱い]

歴史上、当時の戦争の習慣において、当然のことであった女性捕虜の扱いは、前近代において、イスラーム共同体と非ムスリム世界との戦争によって発生した女性の捕虜に対しても存在した。このことについて、ブハーリーのハディース集「真正集」には、ムハンマド在世中のヤマン遠征において既にこのような事例が存在したことが記されている。

[ムハンマドと奴隷]

ムハンマドは当時の有力者と同じく奴隷を所有したが、その扱いは当時の基準に照らせばかなり寛容なもので、奴隷解放を勧めていたとされる。クルアーンとハディースでは奴隷の所有それ自体は禁じられていないが、なるべく奴隷を解放することに徳を見出し、奴隷に対しても自分が食べるものを食べさせ、自分が着るものを着せ、無理な仕事をさせず大切に扱うべきだと説かれている。ムハンマドとアブー・バクルにより粗暴な主人のもとから解放された黒人奴隷ビラールは、初期のムスリムの一人である。

[ムハンマドと識字]

ムハンマドは字が書けず、読むこともできない文盲であった。このことに関する伝承は数多く存在する。しかし、非ムスリムの間で異論を唱える学者もいる。

[ムハンマドの絵画描写]

イスラームにおける偶像崇拜(ここでは、アッラーフ以外のものをあがめること)禁止の教義から、イスラーム世界では絵画や彫刻などの視覚芸術の発達にブレーキがかかった。とりわけ人物画は偶像崇拜につながりやすいとして回避されてきた。あえて描写する場合は「預言者になる前のムハンマド」などとして禁忌を回避する努力が見られる。しかし、これも地域差が非常に大きく、地域・時代によっては人物画を含めた絵画や彫刻

が盛んに作られた場合もあり、預言者ムハンマドの肖像画も少なからず描かれた。ムハンマドの肖像画には、顔が隠されているものと、隠されていないものの両方が存在している。

マハーヴィーラ

（サンスクリット語:Mahāvīra、महावीर、「偉大な勇者」、漢訳仏典では「大雄（大勇）」）は、ジャイナ教の開祖である。

出家以前の名はヴァルダマーナ（サンスクリット語:Vardhamāna、वर्धमान、原義は「栄える者」）であった。クシャトリア出身。仏教を開いたガウタマ・シッダールタと同時代の人であり、生存年代には異説も多い（後述「生没年について」）が、一説によれば紀元前549年生まれ、紀元前477年死没とされている。

古代インドの自由思想家であり、仏教の立場からは「六師外道」のひとり、という位置づけになる。

[マハーヴィーラの生涯]

誕生

十六大国時代のインド（紀元前600年）

マハーヴィーラは、十六大国時代のマガダ国（現ビハール州）のヴァイシャーリーの一隅クンダプラに、クシャトリア（武士階級）に属する豪族の子として生まれた。父親は高貴な氏族の族長シッダールタSiddhartha、母親はヴァイシャーリー王の妹トゥリシャラーTrisalaであった。両親ともジャイナ教の前身にあたるニガンタ派に帰依していた。ナータ族（パーリ語。サンスクリット語ではジュニヤートリ族）の出身であることからナータプッタ（「ナータ族の子」）とも呼ばれた。

ただし、伝説では、その出生は「救世主の誕生」という枠組みのなかに位置づけられる。最後の救世主となるべき彼は、地上にくんだり、パーサ（パールシュヴァ）によるニガンタ派の教えとその創設による共同体の道徳的完全さを復興しようと決意する。彼は、あるバラモンの妻デヴァーナダDevanandaの子宮のなかに化身するが、神々は将来の救世主たるにふさわしい人物として天上の聖なる乳に彼を浸し、救世主はクシャトリアの家に生まれなければならないとして胎児をマガダ国の王女である母親の体内へ移送する。偉大な人物の到来を予告する14とも16ともいわれる一連の夢によって、2人の母は、救世主・転輪聖王の誕生を告げられる。そして、ブッダやザラスシュトラにおけるのと同様、生誕のその夜空に巨大な光が輝いたのである。それは、チャイトラ白月13日のこととされ、グレゴリウス暦では4月12日に相当するとされている。

この子はヴァルダマーナ（「栄える者」）という名を授かる。その誕生日は、マハヴィール・ジャヤンティ（Mahavir Jayanti）と呼ばれ、世界中のジャイナ教徒のなかで最も重要な宗教上の休日として祝われる。この休日は、祈り、装飾、パレードおよび祭典で有名である。

[青年時代]

ヴァルダマーナは、ブッダ（ガウタマ・シッダールタ）がそうであったように王子としての生活を経験し、若くして高貴な娘と結婚して一女をもうけたという。青年時代にあっても、彼は高潔な資質を示し、瞑想にふけり、自己凝視に没頭した。彼はニガンタ派の中心となる教義に興味を持っており、世俗からはいっそう遠ざかっていった。

[修行と悟り]

沙羅樹

30歳のとき両親との死別に直面したヴァルダマーナは、兄から許可を得て全財産を分与し、出家して一切を捨て、ニガンタ派の沙門（sramana）の遊行者となって修行生活に入った。人生を苦（duḥkha）とみて、正しい信仰（正信）・正しい知識（正知）・正しい行い（正業）を通じて魂の救済を志し、13か月の瞑想を経てすべての衣服と履き物を捨てて裸形となった。これは、ニガンタ派の伝統から離脱する最初の革新であった。裸のまま「空気をまとって」世俗にかかわる所有物すべてを放棄し、12年間激しい苦行と瞑想にその身を捧げた。苦行を持続するあいだ、かれは感覚に対する典型的な統制のあり方を示し、また、人間、動植物を含むすべての生物一切に極限と呼べるほどの注意を払い、あらゆる意味でこれらを傷つけないよう努めた。リジュクラ川（リジュパーリカー川）の河畔ジュリンビカ（ジャブラカ）村での修行を完成し、2日半にわたる瞑想のあとの夏の夜、ジュリンビカの沙羅樹の下で真理を悟って「全能の力」を獲得し、「ジナ」（Jina、「勝利者」）となった。ジャイナ教とは、この「ジナの教え」に由来する。かれは弟子や信奉者によって「偉大な勇者」マハーヴィーラと称されるようになった。

[布教の旅]

以後30年間、裸体でガンジス川中流域のマガダ、アング、ヴィデアの諸国を遊行しながら、その教え（「精神の自由」という永遠の真実）を説き広め、とくにヴァイシャーリー地方には多くの信者を獲得していった。その教えはバラモンによる祭祀を認めず、ヴェーダの権威とカースト制度を否定し、当時としては合理的な世界観をとめない、サンジャヤ・ベーラッティプッタの懐疑論は実践の指針とはならないとして、実践のあり方を具体的に示した。

マハーヴィーラは、ヴァイシャーリーの豪族の出身であり、ヴァイシャーリー王とも実母を通じての縁故があったため、布教上の便宜も多く、またマガダ国の王妃もヴァイシャーリー王家の出身だという関係でしばしばマガダの王都ラージャグリハ（ラージャガハ）にも赴いた。彼の教えはいたる所で歓迎され、40万人の信奉者がいた所もあったと伝えられている。

マハーヴィーラは、気候上もっとも厳しい季節であっても素足で衣服なしで説教をした。モンスーンの間は、他の聖人たちと同様、町の周囲に滞在した。

[入滅]

エローラ石窟群のジャイナ教寺院

マハーヴィーラは、72歳でマガダ国のパータリプトラ（現パトナ市）近郊のパーヴァー村（現在のパーワープリ）で生涯を閉じた。断食を続行したままの死であったといわれる。ジャイナ教では彼は第24祖（24番目のジナ）として扱われる。

彼がその生涯を終えたことは、ジャイナ教においては、死とは見なされていない。それは涅槃（ニルヴァーナ）に到達したのであって、魂は天空の最頂に達し、そこに永久にとどまったとされている。ジャイナ教では、これをモークシュ（Moksh、解脱）と称して祝日としている。

マハーヴィーラ入滅の年はいまだ論争の的であるが、ブッダの涅槃に先だつ数年前のできごととされる。伝承によれば、マハーヴィーラが死去した際、俗人の大規模な共同体のほか、1万4,000人の僧侶（サードゥウ, sādhu）と3万6,000人の尼僧（サードゥヴィー, sādhi）がいたといわれる。

[生没年について]

ジャイナ教団の伝統説によれば、マハーヴィーラは紀元前599年（または紀元前598年）の

チャイトラ白月13日に生まれたとしており、その入滅の年を、ジャイナ教白衣派はこれを紀元前57年（もしくは紀元前56年）を起点とするヴィクラマ暦の470年前、空衣派は西暦78年を起点とするシャカ暦の605年前としている。つまりは、伝統説によるヴァルダマーナの生没年は紀元前599年-紀元前527年、または紀元前598年-紀元前526年となる。

近代の研究者は、彼がブッダと同じ時代の人物とされることから年代を推定することが多く、そのため仏滅年代と対応して各説が立てられることが多い。

パーリ語文献にもとづく「南伝」の仏滅年代によるヤコビおよびシュブリヒの説では、紀元前549年生まれ、紀元前477年死没であり、漢訳仏典にもとづく「北伝」の仏滅年代を採用する日本の仏教学者中村元によれば紀元前444年生まれ、紀元前372年死没となる。他に、紀元前539年-紀元前467年とする説、バシヤムによる紀元前540年-紀元前468年とする説がある。

[尊称・異称]

本名である「ヴァルダマーナ」は出家以前の名で、原義は「栄える者」である。ヴァルダマーナは、原始仏典では「ニガンタ・ナータプッタ」（nigaNTha nātaputta, निगणत, 漢:尼乾陀若提子）というが、それはナータ族の出身者で、古くからの宗教上の一派ニガンタ派で修行したため称されたものである。彼は、従来のバラモンの教えに満足できずニガンタ派の教義からジャイナ教を確立し、以来「マハーヴィーラ」（「偉大な勇者」）の尊称で広く知られた。

ニガンタ派は、ジャイナ教の伝説によればマハーヴィーラ生誕250年前の人と伝承されるパーサ（パールシュヴァ）が開いた宗派とされる。伝説では、マハーヴィーラ以前に23人の祖師「ティッタancar」（ティールタンカラ）がいたとしており、パーサはその23代目、マハーヴィーラ（ヴァルダマーナ）は24代目とされる。パーサはニガンタ派を率いた歴史上の人物と考えられ、その意味でマハーヴィーラは改革者であり、宣伝者でもあった。彼の改革後も「ニガンタ派」の名は用いられ、漢訳仏典においてジャイナ教徒は「尼乾子」（にげんし）と呼称される。ジャイナ教では、自分たちを過去二十四聖ことに最後の七聖の教えを受けつぐものと称し、これらの聖人を「ジナ」（勝利者、征服者、漢:耆那）と呼んだ。ジャイナ教の名はこれより起こる。

なお、彼の尊称・異称としては、以上述べたほかに「アリハンタ」（敵を倒した者）、「アルハット」（修行完成にふさわしい人）がある。

[23人のティッタancar]

ジャイナ教では、マハーヴィーラに先だって23人の祖師（ティッタancar）がいたとされるが、その最初にあたる「第1の師」アーディーシュヴァラは、カイラーサ山で涅槃に達する前、はじめは王子として、次には苦行者として10億年生きたとされ、他のティッタancarの生涯もそれぞれ概ね同様の伝説を有している。だれもが王子として生まれるが、現世を捨てて宗教的共同体を創っていく。「第23の師」パーサは歴史上の人物であることが認められており、ベナレスの王の子息であったとされるが、30歳で出家し、全能の力を獲得して8つのコミュニティを創りあげた後、100歳で山中に没したと伝承される。今日でもパーサはジャイナ教の神話と信仰のなかで独自の位置にある。

なお、カルナータカ州に所在するジャイナ教の遺跡シュラヴァナ・ベルゴラには「第2の師」ゴーマテーシュヴァラの巨大な丸彫立像があり、ジャイナ教美術史上重要なものとなっている。

[マハーヴィーラ of 思想]

バラモン教批判

バラモン教では、人びとは4つの階級に分けられ、最上位のバラモン（司祭者階級）のみが神々と交わることができるとされていた。バラモン教は、司祭者階級による神々への供儀を中心とする祭式宗教だった。これに反旗を翻したのがブッダやマハーヴィーラらの自由思想家たちであった。マハーヴィーラはカースト制度を否定するとともに、多数の動物を殺して神々への生贄とする供儀を厳しく批判した。また、彼はバラモンが抽象的にしか示さなかった業（カルマ）の過程を生き生きとしたかたちで定義しなおした。

[多元的实在論]

ジャイナ教徒の瞑想

マハーヴィーラの形而上学は、世界ないし宇宙を「生命」（靈魂、ジーヴァ）と「非生命」（非靈魂、アジーヴァ）とに分類して多元的实在論を展開したところにその特色があった。教義によれば、宇宙は、靈魂、運動の条件、静止の条件、虚空、物質の5つの実在体から構成される。靈魂は、ジャイナ教においては6種とされており、地（土）・水・火・風（空気）・植物・動物を「六生類」と総称し、通常、生物とされる範囲よりはるかに広い範囲を「生命」とみなす点を大きな特徴としている。その一方で、宇宙を世界と非世界に区分する分類もあり、その場合、非世界には虚空があるのみとした。

このようなマハーヴィーラの立場は無神論に属しており、宇宙創造神や絶対の原理を否定する点でも仏教とのあいだに共通点がある。また、彼によれば、物質は原子からなり下降性があるのに対し、靈魂には上昇性があるとしている。

[輪廻と業]

靈魂（六生類）は、生じることもなく滅することもなく、永劫に輪廻の生存を繰り返す、本来は定まった形のないものだと把握される。輪廻は、汚れたものである業が靈魂に流れ込むことによって起こる。業とは、身・口・意によってなした行為のことであり、それによって微細な物質が靈魂に流れ込んで輪廻の生存が繰り返されるのである。したがって、すでに流れ込んでしまった前世からの古い業を苦行によって滅ぼし、新しい業が流れ込まないようにすることができれば輪廻は終わり、解脱へと至る。

業とくに悪業には物理的な重さがあり、悪業を多く含んだ靈魂は、繫縛（けばく）を受けて靈魂が本来もつ上昇性が妨げられ、地獄・畜生・人間・神々の4つの世界の境をさまよう。悪業のはなはだしい場合はしたがって、死後、地獄へ墮ちる。解脱した靈魂には繫縛がなく、上昇性は妨げられない。善行や誓いを守った生活を送ることによってこの上昇性を解放すると、靈魂は世界の頂上にたどり着いて平安の境地たる極楽世界に達することができる。

[五戒]

マハーヴィーラは、パーサの「四戒」を

不殺生（アヒンサー）

真実語（不妄語、サティヤ）

不盗（不与得、アスティヤ）

不淫（ブラフマチャリヤ）

無所有（不所得、アパリグラハ）

の5つの誓戒（「五戒」）に改め、これに懺悔をともしなわせてニガンタ派の教説を改良した。

ジャイナ教の「五戒」には出家した者（ヤティ）が守る五大誓戒と在家信者（男性：シュラーヴァカ、女性：シュラーヴィカー）が守るべき五小誓戒があるが、項目上は同じであ

る。仏教の五戒とも多く重複しているが、ブッダが中道を説くのに対しマハーヴィーラは苦行主義に立つ。

不淫については、出家者は性的関係をいっさい結ばないことであるが、在家においては夫以外の男性や妻以外の女性と性的に交わらないことを意味しており、無所有については、出家者とくに空衣派では一糸まとわないことを意味するが、在家信者の場合は自ら設定した限度以上に得た財貨の全額を教団に寄付すべきであるという意味になっている。

マハーヴィーラは、「生きものが生きものによって傷つけられる」苦悩の生活について深く思慮し、苦の原因であるカルマ（業）を除去することによって、汚れのない本性的な自己を回復するため、自ら厳しい禁欲主義を実践した。倫理的な生活によって汚れから心のあり方を守るべきことを説く点では仏教と同じ傾向を示すが、ジャイナ教ではそれ以上に厳格な実践が求められる。とくに「不殺生」と「無所有」の実践は重視される。

[アヒンサー]

不殺生（アヒンサー）を説くのは、すべて生きものは苦を憎むものであり、それを殺せば必ずその憎しみは殺害者にふりかかって束縛の原因になると考えるからである。ジャイナ教における「生命」の範囲は上述のように幅広く、容器いっぱいの水は、容器いっぱいの蟻に等しいものとされ、ともに命あるものとされる。

そのためジャイナ教の不殺生戒は仏教よりも徹底しており、虫一匹殺さないものである。ジャイナ修行僧にとって、水こし袋、口を覆う布、鈴のついた杖、やわらかい箒などは生活必需品である。水こし袋は水中の微生物を除去するため、布は空中の微生物を誤って吸引することを防止するため、杖や箒は道行くときに足で踏んで殺さないよう虫たちをやさしく払いのけるために使用される。ジャイナ教徒用の店や市場では肉や魚類はいっさい扱わず、根菜類や蜂蜜なども忌避される。また、極度に小さな動物を殺してしまう危険があるため、日没後の外出は禁じられている。

[無所有]

無所有を説くのは、「無欲無一物」の清浄な世界を希求するためである。すなわち、マハーヴィーラは、所有は欲求であり、欲求は行為を誘い、行為すれば必ず殺生することになり、殺生は最大の罪で、また束縛の主要な原因であると説く。それゆえ「すべて」を捨てることが求められる。「すべて」には、物質的なものだけでなく、家族・親類などの人間関係、欲求などの精神的なもの、さらには修行に不必要なものすべてが含まれる。衣服を用いない裸形が、ことのほかジャイナ教において修行の理想とされる所以である。

また出家者の修行も仏教より厳格で、ヴァルダマーナが一貫して苦行を続けたことに倣い、ひたすら試練に耐えることが重んじられる。苦行は超自然的な験力を生み、靈魂に付着した汚れた業を払い落とす効果があるとみなされる。特に断食は重視され、最終解脱には断食により身体を放棄することが求められた。

[相対論]

マハーヴィーラは、論証に際しては、事物は相対的にのみ認識され、また真理は多様に言い表されるべきものだという見解を示し、いかなる事物に対しても一方的、断定的な判断を下すべきではなく、必ず「ある点からすれば」（スィヤート）という限定をつけるべきだと主張した。ブッダの中道説に対し、事物は多面的にみなくては真実には至らないとする不定説の立場である。ある事象に対する判断は、判断者の立場にしたがって異なるものであり、その判断数は7と考えられている。これはジャイナ教における一種の相対論（アネーカーンタ・ヴァーダ、*anekānta-vāda*）の側面である。ジャイナ教では、この7種の判断をもとに世界の成り立ちに関する原理（「七諦」）が立てられ、これにより世界の経過

が説明されている。

[補説]

男女平等

マハーヴィーラは、男性と女性が精神的に平等であること、そして、両性ともモークシュ（解脱）または涅槃の境地に達して最終的に解脱に至ることも可能であると説いた。ミルチア・エリアーデも、裸形での修行が義務づけられたマハーヴィーラ在世時の初期教団にあって、女性は容易に裸になれないはずであるのに尼僧（sādhvī）や女性信者（Śrāvikā）の多さを驚愕の念をもって指摘している。

「数」に対する情熱

ミルチア・エリアーデは、シュブリヒの「数の体系」という語を引用しながら、マハーヴィーラの教義の特徴を「自然の構造に対する関心と分類や、数に対する情熱」であるとしている。3種類の意識、4つの世界、5種の正しい知識、魂の功罪を示す6つの色、7原理、8種の「業体」、精神性の14段階などである。

視覚芸術におけるマハーヴィーラ

『カルパ・スートラ』より「マハーヴィーラの誕生」（一部分）、14世紀第4四半世紀マハーヴィーラ像は、彼の死（涅槃）の600年以上後に彫刻されるようになった。マハーヴィーラあるいはむしろすべてのティールタンカラ（ティッタンカラ、祖師）の像は、ジャイナ教徒の信者にとって奉獻の必需品であった。それゆえ、彼らの実際の肖像を発見することを目指す代わりに、第一にかれらのなかで規格化された基準のなかでの精神的・審美的な模範が主として求められたのである。祖師たちのイメージとは、大部分が石、金属または色に変換された心のイメージであった。頭の後方でみずからの肩と蛇のかぶり物にかかる髪を結び、初代アーディナータ（リシャバデーヴァ）と23代祖師パルシュヴァナータのイメージはそれぞれ異なった標識を持つが、そうした区別は、若干の地域偏差や遠方における少数の微細な特徴をのぞくと、他のティールタンカラ像ではほとんどみられない。

マハーヴィーラ像の場合も、胸のライオンの紋章と頭部のわずかに他と異なる特徴のほかは、他のティールタンカラのそれと大部分は同一である。少なくとも数千とある古代の単独像で、異なるティールタンカラの紋章を含む奉獻台には、ほとんど完全なものはないのであり、それゆえ、それぞれのティールタンカラ固有の同一性を認めるのは困難である。マハーヴィーラの像容は、主として直立（kayotsarga-mudra）または結跏趺坐

（padmasana）である。他の姿勢は、マハーヴィーラが大悟（keval gyan）に達したというときの姿勢godohana-mudraでさえ好まれなかった。空衣派（digambara）の信者によって求められる像は衣服のみならずあらゆる種類の装飾のない裸像であり、白衣派

（svetambara）によって求められる像は、衣類、宝石また冠さえ着用するものがある。君主が座すような玉座に据え付けられるものさえ見受けられる。

視覚芸術におけるマハーヴィーラ像は彼の人生のエピソードをほとんど反映していない。ただし、彫刻家も画家も、多くのメイドが付き添いベッドに横たわる彼の母トゥリシャーラを描き、母が出生の際に16の吉兆を夢みたという話にまつわる関心を示した。マハーヴィーラのトリ・ラトナ（「正信」「正知」「正業」の3つの宝）の象徴的記号表現もさまざまな彫刻パネルで見られる。同様に、かれの最初の説法（samavasarana）の図は多くの細密画や壁画の画題となった。

スティーブ・ポール・“スティーブ”・ジョブズ

(Steven Paul "Steve" Jobs、1955年2月24日 - 2011年10月5日) は、アメリカ合衆国の実業家。アップル社の共同設立者の一人。アメリカ国家技術賞を受賞している。ファミリーネームを「ジョブズ」と表記することもあるが、アップルジャパンの公式ウェブサイトでは「ジョブズ」と表記している。

[略歴]

1976年、スティーブ・ウォズニアクと共に初期のホームコンピュータ「Apple I」、その後「Apple II」を開発した。Apple IIは大成功を収め、自宅のガレージからスタートしたアップル社は、シリコンバレーを代表する企業としてサクセスストーリーを築いた。1980年の株式公開時に2億ドルもの巨額を手中にし、25歳でフォーブスの長者番付、27歳でタイムの表紙を飾った。

1984年に発売した「Macintosh」が搭載したグラフィカルユーザインターフェースは当時のあらゆるパソコンを凌駕する洗練されたもので、新たなコンピュータ像を創造した。しかし、本人の立ち居振舞いが社内を混乱させたとして、1985年にアップルから追放された。アップル退職後、ルーカスフィルムのコンピュータ・アニメーション部門を買収して、ピクサー・アニメーション・スタジオを設立。また、自ら創立したNeXT Computerで、NeXTワークステーション (NeXTcubeとNeXTstation) とオペレーティングシステム (OS) NEXTSTEPを開発した。

1996年、業績不振に陥っていたアップル社にNeXTを売却すると同時に復帰、1997年には、暫定CEOとなる。同年には、不倶戴天のライバルとさえされていたマイクロソフトとの提携と、同社からの支援を得ることに成功し、また社内ではリストラを進めてアップル社の業績を回復させた。

WWDC07でのスティーブ・ジョブズ

2000年、正式にCEOに就任。2001年から2003年にかけてMacintoshのOSをNeXTの技術を基盤としたMac OS Xへと切り替える。その後はiPod・iPhone・iPadといった一連の製品群を軸に、アップル社の業務範囲を従来のパソコンからデジタル家電とメディア配信事業へと拡大させた。

暫定CEOに就任して以来、基本給与として、年1ドルしか受け取っていなかったことで有名であり（実質的には無給与であるが、この1ドルという額は居住地の州法により、社会保障を受けるために給与証明が必要なことによる）、このため「世界で最も給与の安い最高経営責任者」とも呼ばれた。2006年に、ピクサーをディズニーが買収したことにより、ディズニーの個人筆頭株主となり、同社の役員に就任したが、ディズニーからの役員報酬は辞退していた。

2011年10月5日、アップルはジョブズが死去したと発表した。別の報道では死因は膵癌に伴う呼吸停止と報道している。56歳没。

2012年2月11日、第54回グラミー賞で、特別功労賞の一つ「トラスティーズ賞」が授与された。

[経歴]

幼少期

1955年2月24日、シリアからの留学生で政治学を専攻する大学院生アブドゥルファター・ジャンダリとアメリカ人の大学院生ジョアン・シーブルとの間に生まれる。ジョアンの父がムスリムのシリア人であるアブドゥルファターとの結婚を認めなかったため、誕生以前

から、養子に出すことに決められていた。結果、ジョブズはポール・ジョブズ、クララ・ジョブズ夫妻に引き取られることになった。ジョブズが2005年6月12日のスタンフォード大学の卒業講演で語ったところによると、母であるジョアンはジョブズ夫妻が大学卒でないことを知り養子縁組を躊躇していたが、ジョブズ夫妻がジョブズを大学に進学させることを約束したために養子縁組が成立したという。余談であるが、実の両親は後に正式に結婚して女の子をもうけ、それから離婚している。スティーブが生母と再会するのは、ジョブズが30歳を過ぎて、養母であるクララが亡くなった1986年である。ジョブズはその時に初めて自分に血を分けた妹モナ・シンプソン (en:Mona Simpson) がいることを知り、モナとも初対面を果たした。一方、なぜか実の父とは死ぬまで一度も会おうとはしなかった。父親のアブドゥルファターも、息子の成功に便乗していると思われるのを恐れ、親しい友人にも、ジョブズの事について語ることはほとんど無かったという。ちなみに、養父母はジョブズの後に女の子の養子を迎えているため、ジョブズには一緒に育った血の繋がっていない妹パティ・ジョブズもいる。

[青年期]

1968年、ジョブズが13歳のとき、あこがれのヒューレット・パッカード社のビル・ヒューレットの自宅に電話をかける。ビル・ヒューレットがパロアルトに住んでいることを知っており、電話帳で調べてみたところ、パロアルトで、彼の名前で掲載されている電話番号はひとつしかなかった。ジョブズが周波数カウンタの部品をくださいと言うと、ビル・ヒューレットは部品をくれたばかりか、夏休みにアルバイトをしないかと持ちかけた。アルバイト先はヒューレット・パッカードの支社で、周波数カウンタを作っているところだったという。

1970年、ジョブズは日本を訪問し、当時大阪で開催された日本万国博覧会において日本電信電話公社が発表したワイヤレスホンに興味を示していた。

1971年、高校生になったジョブズは、ヒューレット・パッカードの夏季インターンシップで働いていた時に、スティーブ・ウォズニアックと出会う。容姿も性格も正反対だったが、すぐに意気投合した。ある時、ウォズニアックの母親からもらった「エスクエア」誌1971年10月号に掲載されていたブルー・ボックスと呼ばれる装置を使って、無料で長距離電話をかけるというフリーキング（不正行為）の記事を読んだ2人は、スタンフォード大学の図書館に入り込み、AT&T（ベル社）の技術資料を見つけ出して、自分たちでオリジナルのブルー・ボックスを作り上げた。2人は、この装置で長距離電話をかけまくったという。ウォズニアックは装置を作ったことで満足したが、ジョブズは、当時ウォズニアックの通っていたカリフォルニア大学バークレー校の寮で、この装置を1台100ドルから150ドルで売りさばいた。装置自体は1台40ドル程度で、大いにもうかったようだが、そのうち銃で脅されるようになり、身の危険を感じたジョブズは販売を止めた。

1972年、オレゴン州のリード大学へ進学。大学時代のジョブズはユダヤ・キリスト・イスラム・アニミズム思想・坐禅・食事・ヒッピー文化に心酔し、裸足で校内を歩き、一時は風呂に入らない時期もあったという。またかなりの音楽ファンであり、ビートルズやグレイトフル・デッドなどを聴きまくっていた。ジョブズは大学に半年間通ったが、興味のない必修科目を履修することを嫌がり、「両親が一生をかけて貯めた学費を意味のない教育に使うのに罪悪感を抱いた」ために中退した。しかし中退後もリード大学のキャンパスを放浪し、コーラの空き瓶拾いや心理学科の電子装置修理で日銭を稼ぎながら、哲学やカリグラフィー（西洋書道）など興味のあるクラスだけを聴講するもぐりの学生として過ごし、合計18ヶ月をリード大学に費やした。

アタリとのかかわり

導師を求めてインドまで旅をしたいと考えたジョブズは、旅費を捻出するため働くことを決める。1974年2月にジョブズは実家に戻り、その日のうちにアタリを訪問、「雇ってくれるまで帰らない」と宣言してアタリのトップであるノーラン・ブッシュネルを引っ張り出した。ブッシュネルに気に入られたジョブズは、40人目の社員として採用され、時給5ドルのテクニシャン（下級エンジニア）として働くこととなった。入社後のジョブズは長髪で風呂に入らず、ビルケンシュトックサンダル（または裸足）でうろつく不潔な姿に加え、誰彼かまわず尊大な態度で接したため、夜勤でひとり勤務していたにもかかわらず、技術部長のアラン・アルコーンをはじめ同僚の大半から「失礼な奴」と認識された。

ジョブズはアルコーンにインドまでの旅費の援助を頼み、ミュンヘンでのゲームの修理を旅費込みで命じられて、ドイツ経由でインドへ渡ることで旅費を安く済ませる目処を立てた。ジョブズは仕事を済ませた後一度退社し、友人のダン・コトケと共にインドにたどり着いたが、すぐに赤痢にかかって苦しむことになった上、放浪の末に想像とあまりにもかけ離れたインドの実態に失望した。結局その年の秋にはロスアルトスに帰り、鈴木俊隆を導師としてサンフランシスコで禅を学び、瞑想やスタンフォード大学の授業聴講などをして自分探しを行った後、1975年初頭にアタリに復職する。

復職後の夏、ブッシュネルから直々に新製品「ブレイクアウト」の回路の部品減らしを命じられた。「減らした数だけ報酬が出る」と言われたが、ジョブズは自身ではできないことをすぐ認識した。ジョブズは、部外者のウォズニアックを毎晩こっそり社内に招き入れ（ブッシュネルはこれを予測していた）、ゲームをしたり勝手に基板を改造していたウォズニアックに対してその片手間に作業を頼んだ。ウォズニアックは、4日間徹夜して部品を20~30個も減らしたが、あまりに窮屈で難解な設計は、ウォズニアック自身にしか理解できなかったため、ジョブズは会社からやり直しを命じられ、その場で取りつくろおうとしたが当然できず、結局は、またしてもウォズニアックに泣きつくことになった。そしてウォズニアックは、多少部品は増えたものの、誰もがわかる程度に設計の変更を行った。ジョブズは、報酬の山分けをウォズニアックに提案し、アタリから受け取った「700ドル」のうち350ドルを小切手でウォズニアックに渡したが、実際には5000ドルを受け取っており、差額をオレゴン州の共同農場につぎ込んでいた。1984年頃、ウォズニアックはアルコーンに偶然出会った際、ジョブズによる報酬搾取の事実を知り、ジョブズとウォズニアックとの間にしばらく確執が生じた。ともあれウォズニアックは、後述のApple IやIIを設計する際に「ブレイクアウト」の部品減らしが、大変役に立ったと語っている。なおアルコーンはアタリを退職後、アップルコンピュータにも勤めていた時期がある。

[Apple I]

1975年、Altair 8800というコンピュータ・キットが発売され、人気を博していた。ウォズニアックは、モステクノロジー社の6502ならより安く、しかも、簡易な回路のコンピュータを作ることができると考え、10月から半年かけて設計し、ホームブリュー・コンピュータ・クラブでデモを行って称賛された。ウォズニアックは、ヒューレット・パッカーで働いていたことから、「自身の開発した物は上司に見せなければいけない」としてジョブズの反対を押し切り、ヒューレット・パッカーに商品化を持ち掛けた。しかし、当時のヒューレット・パッカーは、個人でコンピュータを所有する意味が理解できず、ウォズニアックは軽くあしらわれてしまった。アタリのアルコーンもほぼ同様の反応であったため、2人は資金を集め自分達でこのコンピュータを売り出すことを決意する。ジョブズはワーゲンバスを、ウォズニアックはHPのプログラミング電卓を250ドルで売り払い資金を集めた。そして、製造したコンピュータをアップル（正確にはApple Computer I）と名付け、1976年6月にApple Iを666.66ドルで販売開始した。

ちなみに、ウォズニアックが「アメリカン・ドリーム」（マイケル・モリッツ著）で語っているところによれば、社名選考でジョブズが「アップルというのはどうか？」と、突然言い出したとされる。それに対してウォズニアックは「2人（ウォズニアック、ジョブズ）とも音楽好きであったので、ビートルズのレコード会社として有名なアップルから思いついたのかもしれない」とのコメントを残している。

[アップルコンピュータ設立]

ジョブズは実家のガレージでアップルを創業した。

ジョブズは約8,000ドルの利益を手に、多忙で商談ができなかったブッシュネルの紹介でマイク・マークラに起業の話を持ちかける。マークラは、インテルの中級社員だったが、目先の現金が欲しい同僚や友人からストックオプションの株を買い集め、インテルの株式公開時には、巨額の富を手に入れていた。紹介されたジョブズらの話に興味を持った彼は、1976年11月にアップルに加わり、自身の個人資産の92,000ドルを投資し、1977年1月3日、3人でアップルコンピュータを法人化した。株式はジョブズ、ウォズニアック、マークラで3割ずつ持ち合うこととなった。

1977年5月、ナショナル・セミコンダクターから引き抜いたマイク・スコットが、4番目の社員となる。ウォズニアックはアップルに注力するために、ヒューレット・パッカートを退社し、Apple Iの再設計を開始した。彼は処理能力向上とディスプレイ表示のカラー化、拡張スロット、内蔵キーボード、データ記録用カセットレコーダをもつApple IIをほとんど独力で開発した。1977年6月5日、1,298ドルで発売されたApple IIは爆発的人気を呼び、1980年には10万台、1984年には200万台を超える売り上げで、莫大な利益をアップルにもたらした。1980年、アップルはIPO（株式公開）を果たし、750万株を持っていたジョブズは、2億ドルを超える資産を手にした。

[LisaとMacintosh]

1981年、IBMはIBM PCを発売し、パーソナルコンピュータ市場へ参入した。次第にApple IIはシェアを奪われてゆき、新しい製品が待望されるようになった。1978年、Apple IIを打ち破る次世代パーソナルコンピュータとして、Lisa（リサ）・プロジェクトが立ち上げられた。

1979年、ゼロックスからの出資を受け入れる交換条件として、ジョブズの要請により当時ゼロックス管轄の研究所であったパロアルト研究所見学が行われた。その際、ビットマップディスプレイとマウスを前提とする「Alto」で、GUIを実現した「暫定Dynabook環境」（開発者のアラン・ケイらは、SmalltalkをOSとして動作するAltoをこう呼称した）のデモに大きな衝撃を受けたジョブズは、開発中のLisaに、これと同じ機能を持たせることを考え、自らプロジェクトを率いて行くこととなった。

1979年、アップルに入社したジェフ・ラスキンは、Apple IIが一般向けには複雑すぎると考えていた1人だった。彼は、カリフォルニア大学サンディエゴ校での教え子であったビル・アトキンソンを雇い、Apple IIのメンテナンス担当だったビュレル・スミスなど数人で、1979年、Macintoshプロジェクトを開始する。このMacintoshは、誰にでも簡単に扱える、ノート代わりのコンピュータを目指していた。

一方ジョブズは、会社内での独断専行の立ち居振舞いから、社長のスコットによって、Lisaプロジェクトのメンバーから外されてしまう。行き場を失ったジョブズは、1981年、突如としてMacintoshプロジェクトに参画を宣言する。殴り込みを掛けるかのような展開ではあったが、数人で動いていたMacintoshプロジェクトはジョブズを迎え入れた。そして、ハード担当がジョブズ、ソフト担当がラスキンとなり、取締役だったジョブズの働き

で、予算も開発メンバーも増え、同時にLisaプロジェクトからもスタッフの引き抜きを行った。しかし、Lisaを上回るものにしようとするジョブズは、ソフト（オペレーティングシステム）に関しても口を出し始めたために、ラスキンと激しく対立し、ラスキンは役員に対して「ジョブズの首を取るか、自分を新たな場に移すか」と直談判した。最終的に役員サイドは、Macintoshプロジェクトにジョブズを押し込めておく方が、会社にとって悪影響が少ないと考え、ジョブズの考えを優先し、1982年3月、ラスキンはアップルを去った。

ジョブズは、Macintoshにはシンプルな美しさが必要だと考え、基板パターンが美しくないという理由で、設計案を幾度となく却下した。また、同じく美しくないという理由で、拡張スロットの採用を拒否したり、みすぼらしいフロッピードライブのイジェクトボタンを無くし、オートイジェクトを導入させた。筐体は、机上の電話の横に置かれる電話帳程の大きさが理想として、30cm四方のサイズに収まるように提案。初代Macintoshの筐体デザインは、よくドイツのフロッグデザインと誤解されるが、実際は、ジェリー・マノック（米アップル社員）によってデザインされたものである。以上のように、手間を惜しまなかったがゆえに開発は難航し、Macintoshがデビューしたのは1984年1月のことだった。

アップルコンピュータ解任とNeXT社設立

ジョブズと対立し、関係が悪化していたスコットが、1981年マークラに解雇された。ジョブズはスコットの後任として、マーケティングに優れた人物を連れてくる必要に迫られ、ペプシコーラの事業担当社長をしていたジョン・スカリーに白羽の矢を立て、引き抜き工作を行った。この時、スカリーを口説くために「このまま一生砂糖水売りつづけたいか? それとも世界を変えたいか?」(Do you want to sell sugar water for the rest of your life, or do you want to change the world?)と言った。熱烈なジョブズのラブコールもあり、1983年、ジョン・スカリーがアップルの社長の座に就いた。当時は、ジョブズとスカリーは強力なパートナーシップのためにDynamic Duoと呼ばれ、アップルの経営を押し進めた。

1984年後半、ジョブズはMacintoshの需要予測を大幅に誤り、アップルは過剰在庫に悩まされ、初めての赤字を計上してしまった。アップルは、従業員の1/5にあたる人数のレイオフ（人員削減）を余儀なくされた。スカリーはアップルの経営を混乱させているのはジョブズだと考えるようになり、Macintosh部門からジョブズを解任することを取締役に要求する。それを察知したジョブズは、スカリーの中国出張中にスカリーの追放を画策するが、アップル・フランスで功績を上げていたジャン＝ルイ・ガセーの密告により、スカリーはジョブズが自分をアップルから追い出そうとしていることを知る。その後、スカリーは、1985年5月24日の取締役会で、ジョブズに自分の追放を画策した事について問いただし、この結果ジョブズは会長職以外、アップルでのすべての仕事を剥奪される。

（注）スカリーは自分がジョブズを追い出したのではないと主張している。

アップルでの仕事がなくなったジョブズは、新たなプロジェクトすら立ち上げられない状況にとどまることに絶望した。ジョブズは、理想のコンピュータ像を求めて大学を歩いて回った際に、スタンフォード大学でノーベル賞受賞者の生物学者ポール・バーグと一緒に昼食を取った。その時に、DNA組み替え実験の難しさの話題が上がり、ジョブズは、バーグにコンピュータでのシミュレーションを提案し、同時に、高等教育のためのコンピュータという構想をふくらませた。同年9月12日、その構想を実現すべく、ジョブズは、新しい会社NeXTを立ち上げるために、正式にスカリー宛てに辞表を送付した。また、決算報告を受け取るため1株だけを除いて、当時所有していたアップルの株、約650万株をすべて売却した。

当初、ジョブズは700万ドルをNeXTに投資し、1987年までには新しい製品が投入できるともくろんでいたが、実際に、NeXTの製品 (NeXTcube) を発表できたのは1988年秋で、最終版の出荷は、1989年になってのことだった。ジョブズはそれでも「5年は先取りしている」と語ったが（結果的にはMac OS Xの12年の先取り）、NeXTのロゴデザイン（ポール・ランドに依頼）に10万ドルを投じたり、OS (NEXTSTEP) の凝った仕様を開発するべく膨大な時間をかけたり、NeXTcubeの筐体デザインをフロッグデザインに依頼するなどして、過剰に資金を浪費した。1987年にはゼネラル・モーターズで成功していたロス・ペローから2000万ドルの出資を、1989年には、キヤノンから1億ドルの出資を引き出した。

オリジナルのキーボード、マウス、高解像度モニターを備えたNeXTstation

発表当初からNeXTの評価は高かったものの、ジョブズの強硬な主張によって、フロッピードライブの代わりにキヤノン製の光磁気ドライブ（5インチMOドライブ）を採用したことや、加工の難しいマグネシウム合金の筐体を使うことなどによって生産コストが高かった。また、モトローラからのマイクロプロセッサ (MC68030) 供給が遅れるなどにより、思うように販売が伸びなかった。NeXTがサン・マイクロシステムズなどのワークステーション並みに高価な価格だったことや、その他のハードウェアと直接的に接続することができないなどの理由で、1992年にIBM互換機で動作するNEXTSTEPのPCバージョンが発表された。しかし、1993年2月10日には全社員530人のうち280人をレイオフし、ハードウェア部門をキヤノンに売却（FirePowerSystemsを設立）し、NeXTはソフトウェア会社へと転じることとなる（社名も、NeXTソフトウェアへと変更される）。

しかし、NeXTcubeは、開発と運用のしやすさから、世界初のウェブサーバとして用いられたという大きな功績も残している。また、WebObjectsは、世界初のウェブアプリケーションサーバ開発運用環境となった。NEXTSTEPとその開発機能は、ウェブサーバなどを比較的簡単に開発構築・運用できる利便さを兼ね備えてものであり、今日のMac OS Xにも受け継がれている。

スティーブ・ジョブズはアップルの解任後シャープ東京支社を訪れて支社長だった佐々木正に電卓についての相談をしており、これからはネットワークの時代になるから携帯IT機器が求められる様になる、との助言を受けていた。

ピクサー

NeXT社の仕事の一方で、ジョブズは、1986年2月7日に、ルーカスフィルムのコンピュータ関連部門を1000万ドルで買収し、ピクサーと名付け、そのCEOの座に就いた。ピクサーの主要商品は、レンダーマンというシリコングラフィックスのIRIX上で動くレンダリングソフトであり、約10万本のセールスを記録し『ジュラシックパーク』のコンピュータグラフィックス制作でも使われた。ジョブズは、ピクサーに対してあまり口出ししなかったが、手っ取り早く利益があげられるコンテンツ作成を、ピクサー社のメンバーに提案した。

1991年、ピクサーは、ディズニーにCGアニメーション映画作成の売り込みを行い、同年3月3日に3本の劇場用作品の契約を結んだ。この結果、4年の歳月と、70台のSGIワークステーション、117台のSUNワークステーションを使った、全編コンピュータ・グラフィックスのアニメ映画『トイ・ストーリー』が、1995年11月22日に封切られた。公開までの4年間、ジョブズはピクサーに5000万ドルを投資しており、「こんなに金がかかるとは思っていなかった」と告白している。しかし、トイ・ストーリー公開直後に、ピクサーは株式を上場、またもジョブズは多額の資産を手に入れることになった。

2006年5月5日、ディズニーはピクサーを買収し、同社はディズニーの完全子会社となった。

また、ジョブズ自身も、ディズニーの個人筆頭株主（持株率約7%）になると同時に、ディズニーの役員に就任した。

アップルコンピュータ復帰

NeXTは、ソフト事業に特化した後、世界初のウェブアプリケーション開発・運用環境であるWebObjectsを出荷、NEXTSTEPも自社内開発を行う金融機関などに受け入れられ、まずまず安定した経営をしていた。しかし、ゴールドマン・サックスを頼って株式公開を目指すなどをしてきたが、失敗に終わっている。

1995年末、ジョブズは、友人でオラクル創業者のラリー・エリソンと、共同で経営の傾いたアップルの買収を画策する。エリソンは、Windowsを打倒すべく、シンクライアントのネットワークコンピューティングを提唱しており、ジョブズと共に、これをアップルによって実現しようと考えていた。しかし、この考えはジョブズと合わず、最終的には、買収提案がなされる前に、話自体が流れてしまった。

ジョブズは、1996年の11月頃、アップルが自社内でのOS開発が暗礁に乗り上げ、次期OSの基本技術を外部に求めているという話を聞く。アップルにNEXTSTEPを売り込むべく、当時アップルのCEOだったギル・アメリオに電話をかけた。12月上旬に入ってから、1985年の退社以来、久しぶりにアップルを訪れ、アメリオやマークラ達と話し合いを持ち、簡単なプレゼンテーションを行った。アメリオは後に、この時のジョブズの対応を愛想の非常に良い、好感の持てるものだったと言っている。

アメリオとアップルCTOのエレン・ハンコックは、次世代Mac OSの候補として、Be社のBeOS、サン・マイクロシステムズ社のSolaris（ソラリス）、マイクロソフト社のWindows NT、そして、NEXTSTEPの4つを挙げていた。元々アメリオは、ワークステーションやサーバで用いられ、堅実に動作するUNIXの中でも、特に、カーネギーメロン大学で開発されたMachに目を奪われていた。そして、そのMachについて調べて行くうちに行き着いたのが、NEXTSTEPであった。NEXTSTEPの高い信頼性、先進的な機能もさることながら、特に、WebObjectsの出来に感動し、ジョブズからの売り込みがなくても、交渉は行うつもりでいたのだった。

ジョブズ同様に、話を聞きつけてやって来た、Beのジャン＝ルイ・ガセーも、アメリオに対してBeOSの簡単なデモを行った。アメリオは、BeOSの良さ（軽く動作し、扱い易い）を認識していたが、Be設立から数年経ってもBeOSには未完成部分が多く、製品版OSが発表される見込みが一向に立たない状態であった。BeOSを出荷できるようになるまで、膨大な作業が予想されることが明らかであったにもかかわらず、ガセーが法外とも言える金額を吹っかけて来たことも、懸念材料となり、その時点で、アメリオは決心していた。同年12月のある日、ガセー率いるBeOSと、ジョブズのNEXTSTEPを比較するプレゼンテーションが行われた。ジョブズは、NEXTSTEPの良い面も悪い面もすべてさらけ出し、自分の不得意な分野は同行させたエンジニアと2人で進行し、完璧なプレゼンテーションを終えた。いっぽうBe（ガセー）のプレゼンテーションは、時間をずらし午後から行われた。ガセーは、1人でアップルにやって来た。ガセーは既に「Beに決まった」と確信しており、「（プレゼンテーションは既に行っているの）BeOSは以前にご覧頂いた通りです」と述べたのみであった。

同年12月20日、アップルがNeXT社を4億ドルで買収することに合意、次期OSの基盤技術としてNEXTSTEPを採用すると発表した。ジョブズはアップルに非常勤顧問という形で復帰した。この際、アメリオからプレゼントされた20周年記念Macintosh (Spartacus。当初の販売価格7,499ドルという代物) を窓から投げ捨てたという噂があったが、真偽は定かではない。

1997年2月、正式にNeXT買収が完了した。アップルに復帰する際、買収代金の一部として、6か月先まで売却できないとの条件で150万株の株式を譲渡されていたが、アップルの復活を半ば諦めていたこともあり、期日が来るなり、またしても1株を残して即座に売却した。ジョブズは経営の実権を奪取すべく、社内で隠密に行動を開始し、アメリオを追い出すための画策を講じる。そして「アメリオはいまだにアップルの業績を向上させられない」として、すべての役員を味方につけ、彼をCEOから引きずり下ろすことに成功する。7月に、アメリオが退社すると経営陣は、ジョブズにCEO就任を要請したが、ジョブズは多忙を理由に断った。ジョブズはアップルの士気をあげるため、従業員のストックオプションの引き下げを役員に株主提案をしたが、役員ほぼ全員がこれを否定すると、当時筆頭株主であった立場を利用して役員たちに辞任を迫る。結局、マイク・マークラを含む経営陣はほとんどが辞任し、その後任としてエリソンや、ジョブズと縁のある人物が就任した。

8月に、ボストンで開催されたMacworld Conference & Expoでは、議決権のない株式譲渡と技術提携（特許裁判をしないための条件）という名目を条件に、マイクロソフトから1億5000万ドルの資金提供と、Mac版のMicrosoft OfficeとInternet Explorer for Macの提供を受けることを柱とした、業務提携を発表する。最大のライバルとされたビル・ゲイツが、エキスポのゲストとしてスクリーンに登場すると、何も知らなかった観客にはブーイングする者も多かった。しかし、この提携が一定の役割を果たしたのは事実で、その後も、PDAのニュートン事業の清算をはじめ、いくつかプロジェクトを中止、アップル社内のレイオフを進め、大規模なリストラを行った。前後して、パワー・コンピューティングを買収してインターネット直売事業への参入（Apple Online Store）を行い、Macintosh互換機メーカーへのMac OSライセンスを停止、利益率の高いPowerPC G3搭載機種を市場に独占投入。こうした矢継ぎ早の改革により、アップルの再建を軌道に乗せた。1998年には、iMacを市場に投入、それまでの「アイボリーの箱」というMacの印象から大きく離れた同シリーズは大ヒットとなり、トランスルーセント（当時は「スケルトン」と呼ばれた）のスタイリングは当時あらゆる分野に影響を及ぼした。このヒットはアップルの復活を人々に強く印象づけた。

CEO就任

2000年には、それまで拒否していたCEO就任を、正式に受諾。2001年3月、NeXTとアップルの技術を融合させ、オープンソース由来の技術を積極的に取り込んだMac OS Xを発売。従来のMac OSの後継とした。

同年、iTunesとiPodによって音楽事業に参入、音楽事業をパソコンと並ぶアップルの事業の柱にした。2007年1月9日、Macworld 初日の基調講演にてジョブズがiPhoneを発表し、アップルはNewton撤退以来9年ぶりに携帯コンピュータ事業に復帰する。iPhoneはスマートフォンを再定義する製品となり、ジョブズがCEOを退任する2011年までに、携帯電話事業はアップルの総売上高の5割を占めるまでに成長した。

病気との闘い

2003年、膵臓癌と診断されたが、幸いにも治療可能な症例（進行が穏やかである神経内分

泌腫瘍と明かしている)であった。家族はじめ周囲はジョブズにすぐに手術をうけるように忠告したがジョブズはこれを頑なに拒否し、絶対菜食、ハリ治療、ハーブ療法、心霊治療などをネットで探し、民間療法などを用いて完治を図ろうとしていたといわれる。医学的治療は遅れ、そのことから9か月後の検査で癌が大きくなっていることがわかり(この判断を当人は後に相当後悔したという)、ついに観念してごく親しい人以外には秘密にして、同年の8月に摘出手術を受け療養後復帰した。2005年6月12日、スタンフォード大学の卒業式に招かれ、「Stay hungry, stay foolish」という『全地球カタログ』最終号からの引用で締めくくられたそのスピーチは多くの共感を持って迎えられた。

2008年6月9日、第二世代iPhone(3G)発表時に痩せた姿で登場し、ジョブズの健康問題がマスメディアで取りざたされたが、同年9月10日の第四世代iPod nano発表時に健康面に触れ、「自分の死亡説を流すのはやりすぎだ」と、健康不安についての臆測を一掃した。しかし実際には2008年に肝臓への癌の転移が判明して容態は深刻な状況であった。同年12月16日に、アップルがMacworldでの基調講演を行わないとの発表を行ったことで不安は再燃し、2009年1月6日に、あらためて「体重減少はホルモン異常のため」との書簡を発表し、重病説や辞任説を否定し「アップルのCEOとしての義務遂行が継続できなくなったら、最初取締役会に話す」と宣言したが、1月14日に「6月末まで治療に専念」するためのCEO休職を発表した。6月23日の公式発表によると、Methodist Le Bonheur Healthcareにて、重度の肝疾患のために移植待機リストで最高ランクの位置づけを受け、肝移植されていたこと、良好に回復しているということであった。しかし実際には2009年3月に肝臓の移植手術を受けていて、医師からはジョブズの肝臓は4月までもたないと宣告されていたという。なお、内分泌腫瘍の治療の一環で肝移植が行われること自体は選択肢の一つである(インスリノーマの項参照)が、有効性は議論の余地がある状況という。

CEO退任

肝臓移植後、一旦体調は回復し、2010年5月にはお忍びで京都に家族旅行に出かけるなどしていたが、2010年11月以降再び体調が悪化。2011年に入り癌が再発。2011年1月18日、公式発表で病気を理由に休職することが発表された。日常業務は前同様ティム・クックCOO(最高執行責任者)に任せるが、CEOにはとどまり、大きな戦略的決定には関与するとした。癌細胞と正常な細胞の遺伝子配列を調べたり、分子標的治療などの最新の治療をうけるなどしたものの癌の進行を食い止めることはできず、癌は骨などの全身に転移し、手の施しようのない状況であった。2011年8月24日、2009年の宣言のとおり「CEOとしての職務が継続できなくなったら話すと言っていたが、残念ながらその日が来てしまった」として、取締役会に辞表を提出してCEOを辞任、後任にティム・クックを推挙し、ジョブズの意向通りにクックが後継に就任した。同時に取締役会の承認を受けて会長職へ就いた。ジョブズがCEOを退任する8月には、アップルは時価総額でエクソンモービルを抜き、世界最大の企業となっていた。すでにこの時ジョブズは自力では歩くことができず、車イスで取締役会に駆けつけた。そしてティム・クックら幹部社員を部屋から退出させた上で、社外取締役に対し上記の内容のメッセージを読み上げた。この時社外取締役の一人は涙を流していたという。

死去

2011年10月5日、膵臓腫瘍の転移による呼吸停止により妻や親族に看取られながらパロアルトの自宅で死去した。56歳没。正確な死亡時刻はアップルからは公表されなかった(クックが当日に従業員宛てで送ったメールによると、「earlier today(今日早くに)」であったという)が、当局の死亡証明書を取得したロイターやCNN等により現地時間

(PDT) 5日15時頃（日本時間の6日7時頃）と判明した。遺体は7日にパロアルトの無宗派墓地に埋葬された。

死去前日（10月4日）の午前中にiPhone 4Sの正式発表が行われていて、かろうじてその発表を見届けてからの死去となった。長年ライバル関係であったが30年来の良き友人でもあったビル・ゲイツを始めとする世界中の業界関係者からその死を惜しむ声が相次ぎ、バラク・オバマアメリカ合衆国大統領も弔意を表明した。

ArchiCADなどの建築CADソフトウェアを手がけるグラフィソフトでは、同年12月21日、ハンガリーの彫刻家であるErno Tothによって彫られたジョブズの銅像をブダペストのグラフィソフトパークに建立した。同社は創業期以来、商品の開発および販売面でジョブズ率いるアップルから支援を受けており、同社の本社があるグラフィソフトパークはジョブズの魂を追悼するのに最もふさわしい場所であるという。なお、ジョブズの銅像が建てられたのは世界初である。

[ジョブズに対する評価]

スティーブのように深い影響力を与えられる人間は、めったにいない。その影響はこれからの多くの世代にも受け継がれるだろう。

-ビル・ゲイツ, The Gates Notes, 2011年10月5日

スティーブはアメリカのイノベーターの中で最も偉大な一人でした。違う考えを持つことに勇敢で、世界を変えられるという信念に大胆で、そしてそれを成し遂げるための十分な能力がありました。この星で最も成功した会社の1つをガレージから作り上げることで、彼は米国の独創性の精神を実証しました。スティーブは毎日が最後の日であるかのように生き、私たちの生活を変え、全産業を再定義し、私たち一人一人が世界を見る方法を変えました。

-バラク・オバマ, The White House Blog, 2011年10月5日

ジョブズには1000マイル先の水平線が見えていた。しかし彼にはそこに到達するまでに通らなければならない道の詳細は見えていなかった。それが彼の天才性であり落ち度でもあった。

-ジェイ・エリオット

他人の脳みそを盗むのはジョブズにとって普通のやり方さ。まず人のアイデアを鼻であしらっておいて、その1週間後には、素晴らしいアイデアを思いついたなんていいながら戻ってくる。そのアイデアというのは、もちろん1週間前に誰かがジョブズに話したアイデアなんだ。我々はジョブズのことを現実歪曲空間と呼んでいたのさ。

-ジェフ・ラスキン

スティーブはまさに刺激的な存在だ。放漫で、暴虐で、激しく、無い物ねだりの完全主義者だ。彼はまた、未成熟で、かよわく、感じやすく、傷つきやすくもある。そして精力的で、構想力があり、カリスマ的で、さらにおおむねは強情で、譲らず、まったく我慢のならない男だ。

-ジョン・スカリー

私がイヤな奴についての本を書いていることが知れたとたん、誰もが進んでやって来てはスティーブ・ジョブズの話聞かせてくれるようになった。シリコンバレーでいかにジョブズが恐れられているか、そのレベルには驚嘆するものがある。彼は人を震え上がらせ、

悲嘆にくれさせる。だが、彼はほとんどいつも正しく、たとえ間違えている時でも、その創造性の豊かさには目を見張るものがある。

-ロバート・サットン（スタンフォード大教授）

民主主義に沿ってたんじゃ、素晴らしい商品なんて創れっこない。闘争本能の固まりのような独裁者が必要なんだよ。

-ジャン・ルイ・ガセー（Be社創業者、元アップル社員）

2009年11月には、アメリカの経済誌『フォーチュン』から「過去10年間の（最も優れた）最高経営責任者」に選出された。

[人物像]

アップル復帰当時は、上記のような解任前後のジョブズに対する人物評から、完璧主義による強引な経営を懸念する者もいた。しかし、復帰後は対立しているとされていた競合他社とも提携するなどし、ライバル企業の経営者をさえも惹き付ける人間性で知られている（オラクルのラリー・エリソンなどは彼の友人である）。また、人を引き抜く際にはその人を強く揺り動かす「魔法」を唱えることで知られ、前出のスカリーをペプシから引き抜く際の文句の他に、1982年当時ゼロックスで働いていたエンジニア、ボブ・ベルヴィールには「君は優秀だと聞いたけど、やってきた仕事は全部ガラクタだな。俺ん所で働けよ (I hear you're great, but everything you've done so far is crap. Come work for me.)」と語りかけて引き抜いている[35]。

しばしば何の予告もなしに、突然価値観を180度変えることもあり「3か月前に白が最高だと言っていたのに、今では黒が最高だと言い始め、理由はそれが今正しいからいいんだと、自身以外は納得のいくものは何も口にしない」と元社員は語っている。ソニー製品について「ソニーのHDVカメラは優秀で、高価だが一家に一台必要だ」と言う一方で、「iPodに劣る」としてウォークマンを批判するといった評価をしている。1999年10月5日のメディアイベントのスピーチ冒頭で、ソニー共同創業者盛田昭夫の死に追悼の意を表し、トランジスタラジオやトリニトロン、ウォークマンなど革新的な商品開発をアップルに大きな影響を与えたものとして称賛している。

部下に対して高い目標を提示し、精力的に優れた仕事へと導くため、理想の上司として評価されることも多い。と同時に、ジョブズの要求する水準を満たさない者に対しては放送禁止用語だらけの罵声を浴びせたり、その場で即クビにすることも知られる。前アップルPR担当チーフのローレンス・クレイヴィアはジョブズとのミーティングの前には必ず闘牛士と同じように「自分は既に死んだ」と暗示をかけてから挑むと同僚に語っていた。また、ジョブズのアップル復帰後に次々と社員がリストラされた際には「スティーブされる」(=クビになる)という隠語が生まれた。リーアンダー・ケイニーのINSIDE STEVE'S BRAINによれば、これらは部下にプライドと職を懸けさせなければ最高の仕事をしないからというのが理由であり、部下の意見を何度か却下した後に採用するのも同じ理由である。発案者が信念を持っていない意見やアイデアは無視すると決めている。例えば"iPod"という名称も採用する前に2度却下している。

また、アップルコンピュータ社の暫定CEOに就任して以来、当時赤字続きだったアップルのために自分はピクサー社の収入があるとし、一貫して給与は毎年1ドルしか受け取っていないことは有名である（しかし、慢性的赤字から経営を回復させた功績により、高額な成功報酬及びストックオプションがアップル社から与えられている）。実際、2004年には

ストックオプションのほかの成功報酬はなく、本当に1ドルしか受け取っていない。

若い頃から禅に傾倒した仏教徒であり、しばしばスピーチなどで禅の教えを引用した。禅宗の僧侶、乙川弘文を精神的指導者と慕っており、結婚式にも招待している。禅だけではなく日本の文化に深い関心を持ち、晩年まで家族旅行でしばしば京都を訪れていた。また、新版画の密かなコレクターでもあり、1983年から蒐集を開始している。翌年のMacintoshの発表セレモニーでは、自身が持っていた橋口五葉の「髪梳ける女」をスクリーンに映し出すことで、その優れた映像技術を示した。ジョブズは新版画の中で、特に川瀬巴水の風景画を好んだという。一方で、日本のビジネス界に対しては、日本のPCメーカーのことを「海岸を埋めつくす死んだ魚」と表現する（ただし、これは日本のメーカーに対してではなく、日本のメーカーが大量の商品攻勢をかけられる可能性を作ったPC/AT互換機に対する揶揄であるとも言われている）など、辛辣な一面を見せることもある。

食生活には強いこだわりを持ち（大学時代から絶対肉食主義を貫いており、癌手術後にタンパク源が必要になって魚介類を取り入れるようになった）、日本食、とりわけ蕎麦や寿司を好んだことが知られている。アップル本社の食堂Cafe Macsにはジョブズが考案したという「刺身ソバ」なるメニューがある。Cafe Macsで働く日本人スタッフの女性は、ジョブズのために築地で本格的な蕎麦打ちの修行をしたという。アップルに復帰後、社員食堂を自社運営に切り替えて、ジョブズ自身がスカウトしたシェフが腕を振っている。ジョブズのトレードマークである黒のタートルネックは、三宅一生デザインのもの。ジョブズが1980年代に盛田昭夫に案内されてソニーの工場見学をしたことがきっかけになっている。三宅デザインのソニーの制服に感心したジョブズは、三宅にユニフォームを発注して、アップル社の制服にすることを提案したが、これは受け入れられなかった。しかしこれを機にジョブズは三宅デザインの黒のタートルネックとリーバイスのジーンズ、ニューバランスのスニーカーを自分のユニフォームと位置づけ、毎日それだけを着続けるようになったという。

業界でジョブズにまつわる人物は数多いが、中でもマイクロソフトのビル・ゲイツは同じ1955年生まれということもあって、独特のライバル関係にある。世間では確執が語られることも多いが、自他ともに認める友人でもあり、ビジネスのみならずプライベートでも関係が深かったことが知られている。互いにビジネスの才覚については高く評価している。腹心の部下である、バド・トリブルが使い始めたという『現実歪曲空間』は、たとえ彼をよく知る人間がそれに備えていたとしても、抵抗できないといわれている。

ボブ・ディランとビートルズ（特にジョン・レノン）の大ファン。アップルのプレゼンテーションで、ボブ・ディランの詩を朗読したりビートルズのジャケット写真を使ったことがある。

愛読書は、パラマハンサ・ヨガナンダ著「あるヨギの自叙伝」で、自分のiPad2にダウンロードした唯一の本。ティーンエイジャー時代に初めて読み、インド旅行中にまた読み、以来年一度は読み返していた。

型破りな性格は経営だけでなく、愛車のメルセデスにはナンバープレートを付けていないことにも表れている。これについては、2001年のフォーチュン誌に「ちょっとしたゲームなんだよ」と語っている。

慈善活動について、公に語ったことはなかったが、ローレン・パウエルに関する記事で、生前に数百万ドル以上を、教育活動に寄付していたことが明るみに出ている。

ウィリアム・ヘンリー・"ビル"・ゲイツ3世

(William Henry "Bill" Gates III、1955年10月28日 -) は、アメリカ合衆国の実業家。マイ

クロソフト社の共同創業者・元会長・顧問、ビル&メリンダ・ゲイツ財団共同会長。カスケード・インベストメント最高経営責任者、コービス会長、bgC3共同創業者、マイクロソフトリサーチ共同創業者、テラパワー株主

称号はイギリス女王より名誉騎士（名誉大英勲章ナイト・コマンダー）、早稲田大学及び立教大学より名誉博士を贈られている。シルバー・バッファロー章、アメリカ国家技術賞も贈られている。

ロバート・ゲーツと同姓だが、日本語での表記は慣用的に「ゲーツ」ではなく「ゲイツ」とされることが多い。身長は178cm。

[経歴]

幼少時代

ゲイツは、1955年10月28日にシアトルでウィリアム・ヘンリー・ゲイツ・シニア（1925年-）とマリー・マクスウェル・ゲイツとの間に生まれた。ゲイツ家は裕福な家庭だったが、自分のことには一切お金を使おうとしなかったそうだ。会衆派教会の日曜学校に通い、聖歌隊で歌い、ボーイスカウトにも入っていた。また、エドガー・ライス・バローズのターザン物や火星人物を読みあさる一方、フランクリン・D・ルーズベルトやナポレオン、偉大な発明家などの伝記を耽読した。彼は小学校を優秀な成績で卒業した。IQは160。

[学生時代]

その後、シアトルの私立レイクサイド中学・高校に入学した。レイクサイド校は、1967年当時シアトルで授業料が最も高い学校だった。レイクサイド校ではDEC社のPDP-10を生徒に貸しており、そこでコンピュータに興味を持つようになった。高校生のとき、友人のポール・アレンとともにトラフォデータ社を創業し、州政府に交通量計測システムを納入したり、オレゴン州ポートランドの会社の、COBOLでの給与計算システムの作成を手伝ったりしていた。1973年に、ゲイツはハーバード大学に入学。そこで後にゲイツの後任としてマイクロソフト社CEOとなるスティーブ・バルマーと同じ寮に住むことになる。ハーバード大学では、法律を学ぶことにしたが法学に熱中することができず、何時間もポーカーをやっていたり、自室に座りこんで「残りの一生をどう使うべきか迷って落ちこんで」いたりしたという。その頃、『ライ麦畑でつかまえて』や『ア・セパレイト・ピース』などの小説を読みふけることもあったらしい。

BASICの移植

1975年、ポピュラー・エレクトロニクス誌にアルテア8800のデモが載っていたのを読んだゲイツは、アルテア8800を販売していたハードメーカーMITSに電話をかけ、実際には未だ何も作成していないBASICインタプリタについて「私は移植に成功した。購入してくれないか?」と鎌をかけた。その結果、返事が来たため、同社がBASICの販売に関心があると見抜き、それから移植を開始した。

8週間後、ゲイツとアレンの寝食を忘れたプログラミングの結果BASICの移植は完了する。いざ完了してMITSの本社のあるニューメキシコのアルバカーキに運ぶ際、アレンがBASICのブートローダの開発を忘れていたことに気がつき、移動中の飛行機中で完成させた。このときゲイツはボストンの大学寮でアレンの帰りを待っていたため同席はしていない。そしてゲイツはハーバード大学を休学し、アルバカーキに引っ越してアレンと共にマイクロソフト社（当時はMicro-Softと綴った）を創業した。

MS-DOSの開発

1980年、IBMは、Apple IIの成功を見て、パーソナルコンピュータ市場への本格参入をはかることにし、IBM PCの開発に乗り出した。短期に開発することを目指していたため、OSについては自社開発をあきらめ、既存のOSを採用・改良することにした。当時、多くのパーソナルコンピュータのOSとして普及していたのは、ゲイリー・キルドールによって創業されたデジタルリサーチ社(Digital Research Inc.)が開発したCP/Mだったが、OS採用をめぐるIBMとデジタルリサーチ社との交渉は不調に終わった。

そこで、IBMはマイクロソフト社にOSの開発を要請した。その際に、当時OSの開発を行なっていなかったマイクロソフト社は、Seattle Computer Products社から\$56,000で手に入れたCP/M互換OS、86-DOS(QDOS)をIBM PC用に改良、PC-DOSとして納入、このPC-DOSをさらにMS-DOSという名前で他のパーソナルコンピュータにもライセンスで供給することにより、現在の基礎を作った。\$56,000の価格については、破格の条件でありタダ同然の価格でだまし討ちであったと言われ、後に100万ドルを支払っている。

Windowsの開発

しかし、パロアルト研究所でAltoを見ていずれMS-DOSでは将来的に通用しなくなる事も理解していたため、Windowsの開発に乗り出した。断られたりはしたが、Mac OSのライセンス契約をしようとしたり、Macの最初のサードパーティとしてMac OS用のWordやExcelの制作も、そういった動きの一環だと見る向きもある。そして、Macintoshの発表前に、アジア圏を中心にWindowsを発表。同社が開発したオペレーティングシステムのMicrosoft Windowsは1990年代後半には世界1位の市場占有率となり、彼の名は世界に知れ渡った。結果的にApple社を出し抜いた形になったため、ここからスティーブ・ジョブズと彼との、または、Macを愛用する者とWindowsを愛用する者との確執は始まったとも言われているが間違いである。当時の、タイリングしか出来ないDOSのシェルであったWindows 1.0は初期のMacに比べても非常に貧弱でソフトもほとんどなく、米国ではWindows 3.1、日本ではWindows 95が出るまではライバルと成り得なかった。AppleとMicrosoftの訴訟合戦はジョブズがAppleを去った後のことであり、ジョブズが1997年にAppleに戻ってから全ての訴訟で和解している。

[2000年以降の活躍]

2000年1月にCEO職をバルマーに譲り、2014年2月にはマイクロソフト社の会長職をジョン・トンプソンに譲る。現在はテクノロジー・アドバイザー。

2006年6月15日、2008年7月にゲイツは第一線から身を退き、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団での活動を重視すると発表、CSA (Chief Software Architect、主席ソフトウェア設計者) 職をレイ・オジーに移譲した。そしてその発表通り、2008年6月30日をもって会長職にはとどまるものの、フルタイムの仕事からは引退、2014年2月4日、会長職から退いて「技術担当アドバイザー」となり、後任にはジョン・トンプソンが就任した。

世界長者番付

アメリカの雑誌フォーブスの世界長者番付で、1994年から2006年まで13年連続の世界一となった。2006年の個人資産は推定530億ドル(日本円で約6兆2000億円)で、2007年、ビル・ゲイツの資産は、さらに50億ドル膨らんで資産総額580億ドルとなったが、推定資産620億ドルの著名投資家のウォーレン・バフェット、推定資産600億ドルの中南米の携帯電話会社América Móvilなどを所有するメキシコの「通信王」カルロス・スリム・ヘルの後

塵を拝し、ゲイツは3位に転落した。

2008年、推定資産400億ドルと世界的な金融危機で各々の総資産が減少する中、ゲイツの資産総額も前年度より180億ドル減少したが、結果的に再び第1位に返り咲いた。2009年、ゲイツは資産総額530億ドル（約4兆7000億円）と約130億ドル増加させたが、カルロス・スリム・ヘルが資産総額535億ドルに伸ばしたため、第2位となった。資産の大半は同社株の売却益や含み益で、2010年現在でも同社株を約6億2千万株（発行済株式数の約7%）を保有している。

[家族]

テキサス州ダラス市生まれのメリнда・アン・フレンチ（旧姓）と1994年1月1日に結婚し、子供3人とシアトル郊外、キング郡マダイナに在住。

エピソード

ハーバード大学を休学し、2007年名誉学位号が授与された。立教大学から名誉博士号を授与されたときには、「大学を出ていない私が大学からこのような学位を得られて嬉しい」と語っている。

ナポレオンの研究者でもある。

世界で唯一個人でレオナルド・ダ・ヴィンチの手稿「レスター手稿」を保有している。

「レスター手稿」72枚をオークションで30億円で購入した。2005年に日本で行われた「レオナルド・ダ・ヴィンチ展」に、この「レスター手稿」が提供されたため、日本に初上陸となった。手稿は世界の美術館を巡回して展示されており、これにより、一般市民でも「レスター手稿」を閲覧する事が可能になった。

世界初の印刷聖書であるグーテンベルク聖書を個人で所有している。自著『ビル・ゲイツ 未来を語る』などでは、オペレーティングシステム・インターネット・携帯電話・テレビ電話・セットトップボックスの普及による社会的な影響力をの大きさをグーテンベルクの活版印刷になぞらえるなど、グーテンベルクの研究にも熱心である。

資産家であると同時に、儉約家としても知られている。仕事のため世界中を飛び回っているが、一般旅客機に乗る時には極力エコノミークラスに座るようにしている。来日した際に、日本法人のスタッフからファーストクラスのチケットを渡されると「日本のマイクロソフトはこんな無駄遣いをする会社なのか。何だこのファーストクラスの搭乗券ってのは。1時間ちょっとのフライトに、何故そんな無駄に会社の金を使うんだ!」と激怒したという。マスコミのインタビューで、エコノミークラスを好む理由を質問された際には「会社の金でも個人の金でも、無駄なことに金を使うことは理解できない。ファーストクラスの料金に何倍もお金を払ってみたところで、到着する時間は同じなのだから」と答えた。

自家用ジェット機も所有しているが、使用する際には、整備費や燃料代は会社側に一切請求せず、全て自前で料金を支払っている。

ホテルに泊まる際も、部下がどこのホテルで、どのような部屋を用意しても「こんな大きな部屋はもったいない、寝る場所があり、ネットにアクセスできればそれで良いのだから」と、たしなめる事が多かった。

食事の好みもかなり質素なものである。ファーストフードが好物で、食生活はマクドナルドが中心だという。マクドナルドでは、フィレオフィッシュが好みであり、幕張メッセでの講演で来日した際、モーニングメニューにフィレオフィッシュがなかったため、メディア関係者に「朝でもフィレオを食べるためには（マクドナルド社を）買収するか!」とアメリカンジョークを飛ばしたほど。

ベルギーを拠点に活動している「パイ投げスナイパー」と呼ばれる集団にパイを顔面にぶつけられたことがある（1998年2月）。

地元のMLB球団シアトル・マリナーズのファンである。セーフコ・フィールドの年間指定席を購入しており、時たま観戦に訪れる。

同じシアトルに本社を置く関係から、任天堂の米国法人（Nintendo of America、NOA）の首脳陣と交友がある。中でもNOA初代社長の荒川實とはゴルフ友達で、かつては同じ町に住んでいたこともある。

ビル&メリンダ・ゲイツ財団

ビル&メリンダ・ゲイツ財団は、マイクロソフト会長のビル・ゲイツと妻メリンダによって2000年創設された世界最大の慈善基金団体。2006年にはウォーレン・バフェットの300億ドルにのぼる寄附により規模が倍増した。世界における病気・貧困への挑戦を主な目的としているが、特にアメリカ国内においては教育やIT技術に接する機会を提供する活動を行っている。ワシントン州シアトルに本部を置き、ビル・ゲイツ、メリンダ・ゲイツ、ウィリアム・H・ゲイツ・シニア(ビルの父)の3人の共同議長により運営されている。財団の理事は、主要な寄附者であるゲイツ夫妻とバフェットの3人である。また、マイクロソフトの元幹部がCEOを務める。日本の報道機関はゲイツ財団または、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団と表記する。

[歴史]

1996年、ビル・ゲイツが創設したGates Library Foundationが前身である。その後財団はGates Learning Foundationと名前を変え、ビルの父親、ウィリアム・ゲイツ・シニアが創設したWilliam H. Gates Foundationと合併して誕生した。2000年には1.26億ドルの規模だった財団の規模はそれから2年のうちに20億ドルに達した。

[ウォーレン・バフェットによる寄附]

2006年6月25日、世界一の投資家と呼ばれ、ゲイツに次いで世界第3位の富豪であったウォーレン・バフェットは、彼の持つ個人資産のうち85%を複数の慈善財団に寄附し、その85%中83%をB&MGFに充てると発表した。この寄附は現金ではなく彼自身が率いる米投資会社バークシャー・ハサウェイのB種株式およそ1000万株によって行われ、その額は307億ドル(同年6月23日時点での評価額)にのぼる。言うまでもなくこれは史上最大の寄附であり、B&MGFの規模は一挙に倍増した。

なお、この寄附は一度に行われるものではなく、株式の5%ずつが毎年支払われる。また、ゲイツ夫妻が生存しており、財団で活動していること、寄附された額と同額が毎年助成に使われることが条件となっている。

[活動概要]

2000年に創設以来、「全ての生命の価値は等しい」との信念のもと、ゲイツ財団は全ての人々が健康で豊かな生活を送るための支援を実施してきている。具体的には国際開発プログラム、グローバルヘルスプログラム、米国プログラムの3つのプログラムを展開するほか、僅かではあるが慈善支援も実施している。

[国際開発プログラム]

国際開発プログラムは、途上国の人々が飢餓と貧困を克服する機会を与えることを目的としている。農業開発、貧困層への金融サービス、水・衛生整備支援といった、より多くの人々に対して持続可能で成果が上がる支援を中心として、パートナー機関と共に支援を実施している。また、世界の深刻な貧困根絶を促進するため政策アドボカシー支援も実施している。

[グローバルヘルスプログラム]

グローバルヘルスプログラムでは、途上国における主要な疾病に対して科学技術の進歩を活用した革新的な支援を実施することを目指している。発見・普及・政策アドボカシーを重視し、特にワクチンや医薬品、診断方法の確立と普及を通じた感染症と家族保健の改善を目指している。

直近の活動としては、2011年8月に日本政府との官民パートナーシップのもと、約50億円のパキスタンにおけるポリオ根絶支援を発表した。これは、パキスタン政府によってポリオ根絶事業が一定の成果を出すことができれば、ゲイツ財団がパキスタン政府に代わって日本政府に債務を返済するという「ローン・コンバージョン」と呼ばれる革新的手法を用いたポリオ根絶のための取組で、誰もが願う『ポリオがない世界』を達成するための一助となる。

グローバルヘルスプログラムの活動は、パートナーへの助成という形態で実施されている。日本とのポリオ根絶に係る取組に関しては、日本政府との連携のほか、地球上から3年でポリオを根絶することを目指して活動をしている日本グローバルヘルス協会との連携もある。

米国プログラム

米国プログラムでは、全ての米国国民に中等・高等教育の機会を与えることを目的として、高等教育に関係する様々な支援や図書館を通じたパソコンやインターネットの普及、太平洋岸北西部における貧困層に対する支援などをパートナー機関と共に実施している。また、世論の喚起や政策へのインプットなどのためのアドボカシーも実施している。

孫正義

(そん まさよし、1957年8月11日 -)は、日本の実業家。ソフトバンクグループの創業者として知られ、ソフトバンク株式会社代表取締役社長、ソフトバンクテレコム株式会社代表取締役社長、ソフトバンクモバイル株式会社代表執行役社長兼CEO、福岡ソフトバンクホークスのオーナーなどを務める。孫泰蔵は実弟。

創業したソフトバンク株式会社の株式21.19%を保有する筆頭株主（2011年時点）。2010年末の時点で日本第4位の富豪。フォーブスの調査に基づく世界長者番付によれば、2011年11月の時点で、日本一の富豪、総資産約75億ドルとなっている。そして2014年3月の時

点では総資産184億ドルで日本富豪ランキング1位(2013年1位はファーストリテイリングの柳井正)、世界富豪ランキング42位となった。

[来歴]

在日韓国人実業家、安本（孫）三憲・（李）玉子の二男として佐賀県鳥栖市の朝鮮人集落に出生。男ばかりの4人兄弟であった。いわゆる通名は「安本正義」。緑ヶ丘・第二幼稚園から北九州市立引野小学校に入学、福岡市立城南中学校に転入後、1973年に久留米大学附設高等学校に入学。

司馬遼太郎の小説『竜馬がゆく』を愛読し、脱藩に憧れて渡米を決意し、夏休みを利用して米国カリフォルニア州にて語学研修のため4週間の短期留学。1974年に久留米大学附設高等学校を中退し、渡米（2月）。米国ホーリー・ネームズ・カレッジの英語学校

（ESL）に入学。米国サンフランシスコセラモンテ高等学校の2年生に編入。3年生、4年生へと飛び級。高校卒業検定試験に合格したため、高等学校を3週間で退学（10月）。翌1975年に米国ホーリー・ネームズ・カレッジに入学。

1977年にカリフォルニア大学バークレー校経済学部の3年生に編入。さらに1979年、シャープに自動翻訳機を売り込んで得た資金1億円を元手に、米国でソフトウェア開発会社の「Unison World」を設立。インベーターゲーム機を日本から輸入。結婚。1980年にカリフォルニア大学バークレー校を卒業。学位は、経済学士。日本へ帰国後、会社を設立するために福岡市南区に事務所を構えた。

1981年、福岡市博多区に事務所を移し、コンピュータ卸売事業の「ユニソン・ワールド」を設立。そして福岡県大野城市に「日本ソフトバンク」を設立。1983年における慢性肝炎での入院をきっかけに社長職を退き会長へ。1986年をもって社長職に復帰した。1990年をもって日本に帰化。

1994年にソフトバンク株式会社の株式を店頭公開。1996年には米ヤフーとソフトバンクの合弁でヤフー株式会社を設立。オーストラリアのメディア王ルパート・マードックのニュース・コーポレーションと折半出資の合弁会社を設立し、テレビ朝日の株式の21%を取得するも、のちに朝日新聞の反発に遭って撤退するに至った。

1999年、証券市場の開設を企図し米国のナスダック・ストック・マーケットとソフトバンク株式会社が共同出資しナスダック・ジャパンプランニング株式会社を設立。翌2000年には大阪証券取引所とナスダック・ジャパンプランニング株式会社にてナスダック・ジャパン市場を開始。ソフトバンク株式会社が東京海上火災保険、オリックスとともに、日本債券信用銀行（現あおぞら銀行）の株式を取得。取締役就任した。

NTTドコモの第一期アドバイザリーボードのメンバーを1年程務める。

2001年からヤフー株式会社と共同でADSL接続サービスのYahoo! BBの提供を開始。以降、それまでのPCソフト卸、PC出版から通信に本業の軸足を移す。

2002年、ナスダック・ジャパン株式会社が業務を停止。大阪証券取引所によりヘラクレスとして改組された。

2003年にあおぞら銀行の株式をサーベラス・キャピタル・マネジメント社に売却。

2004年には日本テレコム株式会社を買収し、同社代表取締役会長に就任。

2006年10月には同社の代表取締役社長に就任した。さらに福岡ダイエーホークスと福岡ドームをダイエーから買収し、福岡ソフトバンクホークスのオーナーに就任。続けてボー

ダフオン株式会社（現ソフトバンクモバイル株式会社）を買収し、同社代表執行役社長兼CEOに就任した。

2011年に東日本大震災が発生すると、義援金として個人で100億円及び2011年から引退するまでソフトバンクグループ代表として受け取る報酬の全額を寄付することを表明し2011年7月14日100億円の寄付が終了した。さらに福島第一原子力発電所事故を受け、自然エネルギー財団を設立。『東日本大震災復興支援財団』を6月に設立。

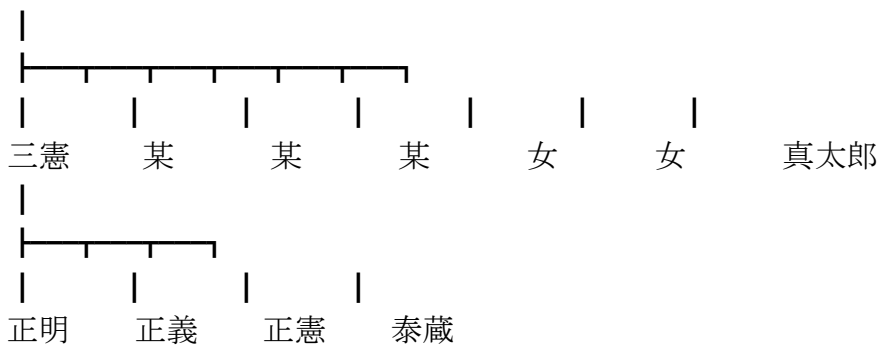
[出自・系譜]

孫氏（安本氏）

孫正義本人によると、朝鮮民族本貫の孫氏とは異なり、約1000年前に中国南朝の宋から戦乱を避け高麗へ帰化した一族の末裔とのことである。1947年に孫一族は朝鮮南部から船で日本へ渡り、正義の父である三憲によって、消費者金融、密造酒、パチンコを家業として財を築いた。

∴

鐘慶



[ソフトバンクの創業]

自分で考案した「音声機能付き他言語翻訳機」を当時シャープ専務の佐々木正に約1億円で売り込み、その資金を元に米国で事業を起し、1981年には福岡で不動産・産廃業を営む母方の親戚の在日韓国人から1億円の出資を受けて日本で起業する。佐野眞一は創業時に1億円を投じた在日韓国人の親戚が個人株主としては現在も最大の株主であるとしている。孫自身を個人株主に含めれば孫が最大の株主となっている。

電話の際に自動的に安い回線を選ぶ「NCC BOX」（いわゆるLCR）をフォーバルの大久保秀夫とともに開発した（その関係で、日本におけるLCRの基本特許は孫が保有している）。大久保秀夫との交流は以後も続き、BBフォン、おとくラインの販売など、ソフトバンクグループの法人向けの営業では常にフォーバルと協力体制を取ってきた。

1994年（平成6年）7月にソフトバンク株式会社の株式を店頭公開した。

「日本ソフトバンク」名義の会社を設立したのは1981年（昭和56年）であるが、孫自身は事あるごとに「私は、福岡の雑餉隈ざっしよのくまで、アルバイト社員二人とソフトバンクを始めました」と話している。雑餉隈の雑居ビルに存在した会社は、ソフトバンクの前身にあたる「ユニソン・ワールド」という会社であったが、孫自身はこの「ユニソン・ワールド」がソフトバンクの起業だと考えていることがこの言葉から分かる。孫は同社員の前で、立ち上げた会社を「10年で年商500億の会社にする」と豪語したが、これを聞いた二人は孫の可能性を信じる事が出来ず非現実的な法螺話と受け取り、彼の力量を見

限って辞めてしまったという話がある。

[エネルギー分野での取り組み]

上述のように福島第一原子力発電所事故後、自然エネルギーの普及と脱原発を掲げて精力的な活動を続けている。発電コストについてはアメリカにおいて補助金の助けで風力発電と原子力発電のコストが2010年に逆転したとし、自然エネルギーの方が原子力より安価であるとの立場に立っており、自家発などで生産された自然エネルギーを電力会社が買取る再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法の成立に対して期待感を示している。

しかしながら、孫の動きを震災に便乗した補助金ビジネスとして「政商」と批判するメディアもある。孫を取材し尊敬していたという堀義人も孫をツイッター上で批判し、その批判に孫が応えて討論会を実施する運びとなった。民主党の原口一博は孫の立てた大規模太陽光発電所（メガソーラー）構想に対して「太陽光か原発かという選択肢ではありません。『大規模・独占・集中・排除』か『小規模・分散・自立・共同』で選択しないとけない」と忠告したと言う。

孫の脱原発運動は日本限定の活動であり、訪韓して李明博大統領と会談した際には「脱原発は日本の話。韓国は地震が多い日本とは明らかに異なる」「安全に運営されている韓国の原発を高く評価している」と韓国の原子力発電所を高く評価していると言う。但し自然エネルギー分野では日韓協力の体制を敷くことに前向きなコメントを残している。

東日本大震災を受け孫が経営するソフトバンクは電力供給と料金面で有利な韓国にデータセンターを立ち上げることでKT社と合意した。孫は韓国にデータセンターを置く利点として、「近い」「安い」「高いICTの先進性」の3点を挙げ、「韓国は非常に『近い』外国であり、産業用電気料金が日本の半額で『安い』」ことを挙げている。堀は、上述の産経新聞記事にて、この件を原子力発電で電力を賄っている韓国に産業を移転し日本の産業を空洞化させるものとして批判している他、池田信夫はニューズウィーク日本版の連載コラムにて「メガソーラーで日本の電気代を上げて他社のコストを圧迫する一方で、ソフトバンクは韓国の原発でつくった安い電気を使ってもうけようというわけだ。」という批判を紹介し「彼の挑戦がもう少しツボにはまれば、霞ヶ関にも応援団はかなり出てくるだろう」と評している。

[エピソード]

藤田田を訪問

高校時代、藤田田の「ユダヤの商法—世界経済を動かす」という書籍を読んで感動し、藤田田に会うために藤田の会社に行く。最初は門前払いを受けるが、何度も訪れて根負けした藤田について社長室に通されたという。そこで「今度渡米するのだが、アメリカで何をすべきか」と尋ね、コンピューター関連を学ぶように助言された。その後成功した孫は藤田を食事に招待し、藤田はあの時尋ねてきた高校生が孫正義だったかと驚き、非常に感激し、孫の会社に自社パソコン300台を発注したという。

人生の目標

19歳の時に、「20代で名乗りを上げ、30代で軍資金を最低で1,000億円貯め、40代でひと勝負し、50代で事業を完成させ、60代で事業を後継者に引き継ぐ。」という人生50年計画を立て、今もその計画の実現に向けて走り続けているという。

大学の検定

カリフォルニア州での大学の検定試験の際に、「この問題は日本語ならば必ず解ける。」と言い、辞書の貸し出しと時間延長を試験官に申し出た。試験官は、自分の上司にあたる人間に相談。さらにその上司は、自分の上司に相談。そうこうしているうちに、最後は州知事にまで孫は電話で交渉して、「辞書の貸出し」と「時間延長の要求」をのませたという。

さらに、州知事との交渉において知事は「厳密な終了時間」を決めておらず、「辞書を引くのに適当な時間だけ延長する」という結論が出されたことから、無期限の時間延長と孫は独自解釈して、最後までテストを受けて合格したという。

インベーダーゲーム

自動翻訳機の売込みで得た資金（1億円）を元手に、米国でソフトウェア開発会社の「Unison World」を設立。日本で、流行していた「スペースインベーダー」を、ブームが沈静化した後に大量に安価で買い取り、アメリカで売り出して大きな利益を得た。

[成年後のエピソード]

通名ではなく本名で起業

ソフトバンクの前身であるユニソン・ワールドを起業する際、日本名である「安本」ではなく韓国名の「孫」の名前で会社を興すことを決め、そのことを一族に伝えたが、親・親戚には、在日が日常生活で差別されることはかなり減ったが、就職では間違いなく差別され、銀行も絶対金を貸さない、お前の認識は甘い、ハードルは十倍あがる、わざわざ好んでその難しい道を行くのか、と猛反対された。それに対して孫は「たとえ十倍難しい道であっても、俺は人間としてのプライドを優先したい、俺はどれだけ難しい道だって堂々と正面突破したいんだ」と答えた。一族からは「お前は青い」とも言われたが、父親は何も言わず黙って孫の話聞いていたという。孫の名前にこだわった理由はもう一つあり、それは渡米する際に心に決めた志と通名による起業が矛盾するということであった。孫は佐野真一に対して「何十万人といる在日韓国人が、日本で就職や結婚や、それこそ金を借りるとき差別を受けている。でも在日韓国人であろうが、日本人と同じだけの正義感あって、能力がある。それを自分が事業で成功して、証明しなきゃならないと思ったんです。これからの在日の若者に、それを背中で示さなきゃいけないのに、俺が本名を隠してこそそそやったんじゃないか、意味がなくなるじゃないか、アメリカに行った目的が達成できないじゃないか。あとから、あの事業を興したのは、実は孫でしたと言ったって…」（NEWS ポストセブン 2012/1/4 孫正義氏「安本」ではなく「孫」を名乗った時親戚は反対したより引用）と述べている。

将来はヤフーを子会社化

孫は2005年に雑誌の取材で「近い将来アメリカのヤフー本社も買収して子会社化しようと思う」と話している。もっとも米国のYahoo!はかつてソフトバンクが筆頭株主だった。

首相四年連続辞任時に「日本の不幸」

2010年、Twitterユーザーから首相辞任にコメントを求められた際に、「4人の首相の任期が1年程度。民間会社ですら社長任期が1年では大きな事は成し得ない。日本の不幸」と述べた。

東日本大震災復興資金の寄付

2011年4月3日、東日本大震災の被災者支援と復興資金として個人で100億円を寄付すると

発表した。また、2011年から引退するまでソフトバンクグループ代表として受け取る報酬の全額も、震災で両親を亡くした孤児の支援として寄付するとも発表した。ソフトバンクも企業として東日本大震災に対し10億円の寄付を決定している。孫は3月22日福島県の避難所を訪れ、被災者数万人への携帯電話の無償貸与に加えて、震災孤児対象に18歳までの通信料の完全無料化を表明している。

2011年5月16日、寄付金の配分を発表した。内訳は、日本赤十字社・中央共同募金会・岩手県・宮城県・福島県に各10億円、日本ユニセフ協会などの「震災遺児への支援を行う公益法人」に6億円、茨城県・千葉県に各2億円。40億円は、孫と自治体が共同で設立、孫自身が会長を務める東日本大震災復興支援財団に託す。

2011年6月11日までに、財団分を除く60億円の寄付が各所に行われた。

2011年7月14日に、東日本大震災復興支援財団に残りの40億円が寄付として渡され、全100億円分の寄付が完了した。この寄付金は、10年以上の継続支援ができるよう、被災地の子どもたちを中心とした支援のみに100%使われていくという。

人種差別問題

2010年7月19日、週刊新潮に取り上げられていた「在日割引」の存在について、一般ユーザーからの「ソフトバンクがそのような割引をしているのはデマか?」との質問に対し、直接の返答と詳細な経緯の説明を行った。これによれば、「この割引プランはデマ。2008年に代理店がソフトバンクの許可無く販売したが、ソフトバンク側が認知した後に書面で通知し、当該の割引営業行為を停止させた」と発言した。ソフトバンクモバイル広報室は「この割引プランは、弊社の代理店が民団と勝手に取りまとめたもので、弊社サービスではありません」と発言した。

ウェブサイト

(website) は、World Wide Web (WWW) 上にあり、一般に特定のドメイン名の下にある複数のウェブページの集まりのこと。サイトと呼ばれることもある。企業などの団体が自身を紹介するため自ら構築したサイトを、その団体の公式サイトなどと呼ぶ。ホームページと呼ばれることもあるが、この用法は誤用とされる場合もある。また、ウェブサイトのトップページのみをさしてホームページと呼ぶ場合もある。

[歴史]

WWWの黎明期は試行錯誤の暗中模索時代であり、前時代の集中型を引きずった、総合的な情報を掲載したウェブサイトであるポータルサイトを企業などが立ち上げる例が多かった。しかし、検索エンジンとウェブディレクトリの分業化など、次第にインターネットの基本的な考え方である分散型へ移行しつつある。

イギリスのネットクラフト社の調査によると、1995年8月にはインターネット上のサイト数は約1万8000件だった。2006年11月2日の時点でサイト数は1億件を突破した。また、インターネット統計サイトのインターネット・ライブ・スタッツのリアルタイム統計では、2014年9月16日に世界のサイト数が10億件を突破した。WWWの考察者とされるティム・バーナーズリーは、ブログのツイッターでこの様子を喜んでいる。

[ウェブサイト構成の例]

ここでは美術館の公式サイトを例示する。

トップページ、メインページ、ホームページ：そのウェブサイトの「顔」になる部分

概要：画家の紹介や、美術館の沿革など。

施設案内：施設の平面図、交通アクセスなど。

催し案内：企画展のお知らせなど。

作品紹介：作品のデータベースが公開されていることもある。

電子掲示板：ウェブサイトを閲覧した人が感想などを書けるようにしていることがある。

リンク集：関連する外部団体などのリンク集。

[管理者を失ったウェブサイトの扱い]

個人が製作したウェブサイトやブログなどが、その個人の没後、どのように管理・保存されるべきかという問題がある。この問題を「関心空間」では「ネット墓守（ネットはかもり）」というキーワードとして登録した。インターネット上の個人の墓標といった、慰霊や追憶といったものとは別物である。あくまで、これは個人が生前活動していたかたちをそのままに残すというものである。

現在まだ日本国内では、直接個人のウェブサイトを本人の没後維持していくサービスのよなもの商品サービス化されていないが、難病で闘病生活をおくって亡くなった個人のウェブサイトを担当医、もしくはボランティアが故人の意図を尊重しつつ管理、維持しているものがいくつか存在する。

こうした動きの中で、例えば山形浩生のサイトにおける[『遺言状』や、[「まるまる記」におけるWeb遺書など、管理者自身が急死にそなえて没後の方針をサイト上で意思表示する活動もおこなわれている。ソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）のmixi内でのWeb遺書コミュニティでも情報交換がおこなわれている。

この問題に対する社会的関心は徐々に高まっており、日本経済新聞2006年4月21日付の夕刊「ホームページよ永遠に」でも取り上げられている。

もっとも管理者が死去する以前に、管理者が自身のウェブサイトの管理・運営に飽きてしまい、途中で放置してしまう事例、若しくはサーバー管理会社が管理システムへのアクセス方法を変更し、管理者が切り替えに対応しなかったために管理不能となった例などは数多くある。韓国では2006年に韓国政府情報通信部と韓国情報保護振興院(KISA)により、放置されたサイトが悪用されるのを防ぐ為、長い間更新されていないサイトの大掃除が行われた。

ブログ

(blog)は、狭義にはWorld Wide Web上のウェブページのURLとともに覚え書きや論評などを加えログ（記録）しているウェブサイトの一種である。「WebをLogする」という意味でWeblog（ウェブログ）と名付けられ、それが略されてBlog（ブログ）と呼ばれるようになった。

[概要]

ブログの始まりは、自分が気になったニュースやサイトなどのURLを、寸評つきで紹介した英語のウェブサイトとされる。その後、Blogger、Movable Typeなどのブログ用のツールが出現し、本格的な拡大が始まった。イラク戦争の際にはバグダッド在住のイラク人女性

リヴァーベンドが発するブログ『Baghdad Burning』（バグダッド炎上）が話題となり、その知名度を大きく引き上げる結果となった。

現在、より頻繁に用いられている広義には作者の個人的な体験や日記、特定のトピックに関する必ずしもウェブに限定されない話題などのような、時系列で比較的頻繁に記録される情報についてのウェブサイト全般を含めてブログと呼称する。このようなウェブサイトの作成機能を提供するソフトウェアやサービスなどを指して呼ぶ場合もある。また、ブログの他にもSNSやロコミサイトを総称してCGMと呼ぶこともある。

ウェブサイトとしての体裁は主として管理者が記事を投稿する私的ニュースサイト、あるいは日記である。ブログを投稿する特定の方法に限定されないが、ブログ向けのソフトウェアやwebスペースがあり、それをダウンロードやレンタルして使えば、HTMLを知らなくても自身のブログとしてウェブブラウザから手軽に情報の発信・更新ができる。レンタルのものにはパソコン以外に携帯電話などモバイル通信端末のインターネット機能を用いた外出先などからの手軽な更新が可能な仕様のものも多い。それぞれの項目にはタイトルの付与が可能で、時間軸やカテゴリで投稿を整理、分類する構造となっている。用途は幅広く、個人の日記的なものから、手軽な意見表明の場として、時事問題などについて論説するものがある。また、企業やクリエイター集団が、対外的な活動日誌などという位置づけで自社公式サイト内でブログを公開している事も多い。

[ブログの分類]

ミニブログ、マイクロブログ、つぶやきブログ
短文の投稿を中心としたブログ

モブログ (moblog)

主に携帯電話などのモバイル通信端末を使用しメールを送信して更新する

フォトログ (photolog、fotolog)

写真画像を主体として更新される

ブイログ（ないしヴログもしくはビデオログとも）(Vlog)

ビデオコンテンツの配信を主体とする

エログ (elog、erog)

アダルトコンテンツを扱う

ノベログ (novelog)

自作の小説を話数ごとに分けて更新するもの

ブログメディア

おもに法人が、ビジネス目的に複数人で組織として運営するもの。ブログの特性である「双方向性」を利用しつつ、専門性に特化した内容を発信する。ブログのように時系列を逆順に記事が並ぶサイトを指し、雑誌メディアをも置換しうる新メディアとも捉えられている。

[ブログとRSS]

多くのブログシステム（サービス）はRSSフィードやAtom（以降、特に断りがなければRSSとはこれら2つを指す）を使って更新を自動通知したり、トラックバック機能を使用して、他のブログからの引用やリンクを自動で行えるなどの充実した編集機能が備わっている。RSSによるXMLを使った定型での情報配信は、それぞれのブログから配信されるRSSを自動巡回サービスで取りまとめて、更新があったときにユーザに通知するサービスを生み出した。また、データ配信の形が定まっているため、ニュース配信も容易で、大手のマスコミがニュースをRSSで配信し始めるようになった。

[日本におけるブログ]

日本ではブログよりも先に、「2ちゃんねる」や、「スラッシュドット日本語版」などといったウェブサイトがコミュニケーションの目的で浸透していたほか、Web日記、個人ニュースサイトといったウェブサイト、さらにそれらに付随するコミュニティも存在したことから、当初は日本でのブログの普及には懐疑的な見方もあった。

しかしながら、実際にはサービスツールの日本語化などによって2002年（平成14年）頃から急速に普及し、2006年（平成18年）3月末の時点においては日本国内でのブログ利用者が2,539万人に達していることが総務省から発表された。また、2005年（平成17年）から翌年にかけての利用者数の増加が特に顕著であり、この間に2倍以上に増加したことによって2,000万人を超えたという調査報道もなされた。

日本におけるブログは、各ブログの投稿数が多いことを特徴としており、その結果として、2006年（平成18年）の第4四半期には全世界のブログ投稿の約37%を日本語によるものが占め、英語や中国語を上回る第1位となっていた。また、日本独自のブログ形態として、携帯電話からの写真付投稿等に対応したブログ、「モブログ」がある。

日本で市民権を得たブログは、個人のほか、人気タレントや政治家、その他著名人などによっても作成されるようになり、角界においてもブログ開設が盛んである。

Twitter

（ツイッター）は、140文字以内の「ツイート」と称される短文を投稿できる情報サービスで、Twitter社によって提供されている。「ミニブログ」「マイクロブログ」といったカテゴリーに分類される。

サービス名の「twitter」は英語で「さえずり・興奮」「無駄話」、または「なじる人・嘲る人」の意味である。Twitterでの発言を指す「tweet」は「鳥のさえずり」の意味で、日本では「つぶやき」と意識され定着している。

ゆるいつながりが発生し、広い意味でのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の1つといわれることもあるが、Twitter社自身は、「社会的な要素を備えたコミュニケーションネットワーク」と規定し、SNSではないとしている。

Twitterは2006年7月に元オブビアウス社（現Twitter社）が開始したサービスで、同社の登録商標（日本:第5188811号）である。

[概要]

アメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコに本社がある。Twitterに発言を投稿するにはパソコンや携帯電話、スマートフォンで自身のアカウントにログインし、画面上部のボックスに140文字以内で内容を入力し「ツイート」ボタンを押すことで投稿が完了する。また携帯メールでの投稿も可能である。この投稿はインターネットに接続できる環境

であれば誰でも見ることができる。

またTwitterにログインした際自分専用のページ「ホーム」のタイムラインには、自分の投稿とあらかじめ「フォロー」したユーザーの投稿が時系列順に表示され、各ユーザーが自分の近況や感じたことなどを投稿し、時に他のユーザーがそれに対して話しかけたりすることで、メールやIMに比べて「ゆるい」コミュニケーションが生まれる。

一方「キーワード検索」をすると「キーワードを含んだ投稿」のタイムラインが生成され、「キーワードを含んだ投稿」でつながったグループが自然発生する。同じキーワードを含んだ投稿をすれば、グループに参加することもできる。「トレンド」により、いま多く投稿されている「キーワード」を知ることができる。トレンドの範囲を国別に、または主要都市別に絞り込む機能もある。

投稿や閲覧は公式サイト上で行うほか、便利な機能を備えた各種のクライアント・クライアントウェブサービスや、iPhoneやAndroidといったスマートフォン用のアプリも多数公開されており、またUbuntu 10.04以降では標準でマイクロブログクライアントのGwibberが搭載され、デスクトップ環境に統合されるなど、さまざまな環境で使うことができる。

コミュニケーション・メディア（通信媒体）の分類方法として、情報の送信されるタイミングと受信側に届くタイミングのギャップの有無により「同期型（ギャップなし）」「非同期型（ギャップあり）」に分けるものがあるが、Twitterの場合は原則として非同期的（ある利用者のツイートが別の利用者に読まれるまでにタイムラグがある）に使用されているものの、一時的に同期的に（つまりチャットのようにほぼリアルタイムで）通信が行われることがあり、同期型と非同期型が混在した媒体であるといえる。利用者が必要に応じて同期的な通信することを選択できるという意味で「選択同期」と表現されることもある。

2013年に入り、利用者数の伸びが「鈍っている」ことが確認されている。

[用語・機能]

プロフィール・アカウント関連

自分のプロフィールおよびアカウントに関する設定は公式サイトの設定ページから行う。携帯電話向けサイトは一部機能が制限されている。

アカウント

登録にはメールアドレスとパスワードが必要。アカウント名は半角英数字とアンダースコアのみ使用可能で15文字以内。使用時にはアカウント名の前にアットマーク (@) が付加される。アカウント名は登録後に設定から変更することもできる。登録したアカウントに対し <http://twitter.com/>(アカウント名) というページが割り当てられる。

プロフィール

アカウント名の他に表示名（スクリーンネーム）を自由に設定でき、アイコンとして好みの画像ファイルを指定できる。公式サイトや各クライアントソフトウェアでは正方形にトリミングして表示される。画像ファイルを指定しない場合は卵のアイコンが使用される（2010年以前は別のデザインだった）。

他に最大160文字の自己紹介文を掲載できるほか、ウェブサイトへのリンクを設定でき、各アカウントの個別ページに表示される。また個別ページではフォロワー数とフォロー数

が表示され、これらはプロテクトユーザーでも必ず公開される。個別ページの背景画像などのデザインは用意されたテンプレートから選ぶか、画像ファイルをアップロードするなどしてカスタマイズできる。

プロテクト (protect)

自分の投稿を限定公開（一般非公開）にすること。この設定をしているユーザー（プロテクトユーザー）は鍵（南京錠）のアイコンが表示されるため、俗に「鍵付きユーザー」とも呼ばれる。プロテクトを設定しているユーザーの投稿を読むには、そのユーザーにフォローをリクエストし、許可されることが必要となる。

[投稿関連]

ツイート (tweet)

ユーザーから投稿される140字以内の文章のことで、それぞれに固有のURLが割り当てられる。文字数に半角・全角の区別はない。以前は日本版公式サイトで「つぶやき」として表記されていたが、「ツイート」に統一された。元々は字数制限は無かったのだが、携帯電話のSMS機能を利用した投稿が多かったため、そのSMS機能の字数制限160字から利用者名分の20文字を引いた字数を上限とする様に仕様変更された。

Twitterのウェブサイトからツイートを閲覧する場合は、直近の3200件迄しか閲覧できない。個別のツイートのURLに直接接続するなど手間をかければ3200件以前のツイートも閲覧できる場合がある。Twitter, Inc.の登録商標である。（日本第5332541号）

リツイート (retweet)

他のユーザーの投稿を再投稿すること。自身のフォロワーにそのツイートを見せることができる。RTと略すことが多い。

リツイート機能は2009年11月に英語版の一部ユーザーを対象に試験的に実装され、2010年1月22日より日本語版Twitterにも追加されている。元のツイートが削除されると公式リツイートも削除される。プロテクトユーザーのツイートはリツイートできない。

自分がフォローしている人のうち誰かがリツイートした場合、自分がフォローしていない人の投稿であっても、その投稿が自分のタイムラインに表示される。

後述する非公式リツイートと区別する目的で、公式リツイートとも呼ばれる。

タイムライン (timeline)

フォローしている人の投稿やリツイートが時系列に並べて表示される画面。TLと略す。

最新の投稿が一番上に表示され、古い投稿は下に流れていく。リストや検索機能を使うと別のタイムラインが表示される。

ユーザーストリーム (userstream)

常にTwitterサーバーと接続し、リアルタイムでツイートが更新されるタイムラインのこと。そのためユーザーがタイムラインを更新するアクションをしなくても自動でタイムラインが更新される。公式以外のクライアントでこの機能に対応している場合がある。

リプライ (reply)

他のユーザーに宛てた投稿のこと。「@ユーザー名 (投稿したい内容)」の書式で投稿すると、そのユーザー宛の返信扱いとなる。自分宛の投稿は一覧ページで確認することができる。ツイートの最初に@ユーザー名を入力して投稿すると、投稿をしたユーザーとされたユーザーのどちらか片方のみをフォローしている第三者ユーザーのタイムラインには表示

されないが、双方をフォローしているユーザーのタイムラインには表示される。一方@ユーザー名をツイートの途中に入れて投稿すると、さらに投稿をしたユーザーをフォローしている第三者ユーザーのタイムラインにも表示されるため、あえて@ユーザー名の前に"."をいれたり"@@"を2つ重ねたりする場合もある。リプライはその投稿を行なったユーザーのページを開けば誰でも見ることができるので、ダイレクトメッセージと違いプライバシー性は低い。

リプライには返信元ツイートの情報が付加されるin-reply-toといった機能がある。これを利用して会話の流れをスレッド形式で表示することもできる。

非公式リツイート

他のユーザーの投稿をコピー・ペーストし、「RT @ユーザー名 (元のユーザーが投稿した内容)」の書式で投稿すること。公式リツイートだと、リツイート元がそのツイートを消した場合、リツイートも消去されてしまうが非公式リツイートは通常のツイートとして認識され、消されない。「RT」の前にリツイートしたユーザーの独自のコメントを入れたり、元のツイートにないハッシュタグを付けたりする場合もある。複数のユーザーが同じツイートを公式リツイートした場合、タイムラインには同じツイートは1つしか表示されないようになっているが、非公式リツイートの場合はツイートが重複して表示される。これにより重要な情報が埋もれやすくなる弊害があるため、Twitter社としては非推奨で、公式リツイートの使用が推奨されている。

パクリツイート

他のユーザーの投稿をコピーペーストし、元の投稿者名を表示せずにそのまま投稿することを示す俗語。パクツイと略す。非公式リツイートは元の投稿者名を表示するのに対して、パクリツイートはあたかも自分自身の言葉で投稿したように見せかける、すなわち盗用（パクリ）となるのが相違点である。

[フォロー関連]

フォロー (follow)

他のユーザーのツイートを自分のタイムラインに表示できるようにユーザーを自分のフォローリストに登録すること。相手のユーザーのフォロワーになるということ。相手の設定によってはフォローされたことが通知される。ツイートを公開にしているユーザーの場合は設定した時点ですぐにフォローとなるが、ツイートを非公開にしているユーザーをフォローする場合は、設定すると相手にリクエストを送ることになり、相手が承認した時点でフォローとなる。自分をフォローしているプロテクトユーザーをフォローする場合でも相手の承認が必要。

フォローイング (following)

自分がフォローしている他のユーザー。英語のまま「フォローイング」(Following)と呼ばれることもある。

フォロワー (follower)

自分のことをフォローしている他のユーザー。著名人は立場上フォロワーの数が増えやすい傾向にある。

フォロー解除 (unfollow)

特定のユーザーのフォローを解除すること。フォロー前の状態に戻るため、フォロー解除したユーザーの投稿が自分のタイムラインに表示されなくなる。日本では「リムーブ」

(remove) もしくは略して「リム」とも呼ばれるが、正式な呼称ではない。

ブロック (block)

特定のユーザーからのフォローを拒否すること。ブロックされたユーザーは、ブロックしたユーザーをフォローすること、お気に入り登録、リツイートなどの操作ができなくなる。またブロックされる前にフォローしていた場合でもブロックされた時点でフォローが強制的に解除される（「ブロックされているのでこのユーザーをフォローすることができません」「この操作は許可されていない可能性があります。」などと表示される。）

ミュート (mute)

2014年5月13日より実装。自分がフォローしている特定のユーザーのツイートを自分のタイムラインに表示させなくする。リプが来ても通知が届かない。そのユーザーへのフォローは解除されず、対象の相手にはミュートを設定したことは知らされず、リムーブとは違うため、自分自身からは相手にミュートされたことを確認するのは難しい。ミュート状態を解除することも可能。

[グルーピング]

サーチ (search)

検索することで、キーワードを含んだ投稿がリアルタイムで、タイムラインに表示される。検索ワードは保存でき、いつでも更新できる。

トレンド (trends)

今、数多く投稿されている単語が地域別に表示される。当初は欧文のワードしか表示されなかったが、現在は日本語にも対応している。対象地域として「日本」「東京」、2012年2月2日より「札幌」「京都」「福岡」「大阪」「仙台」「名古屋」の6都市が加わり、2012年6月現在では「高松」「沖縄」も加わっている。2012年6月からトレンド表示のパーソナライズ化（フォローしているユーザーを分析して興味がありそうなワードを表示する）が行われるようになった（無効にすることも可能）。

ハッシュタグ (hashtag)

特定のトピックに関する投稿を、公式のTwitter検索から一覧して見るができるように、キーワードの前に#を置いて投稿する。以前は、日本語を含むマルチバイト文字に対応していなかったが、2011年7月13日から利用できるようになった。

リスト (list)

ユーザーを名前付けたリストで分類する。公開または非公開が設定できて、自分だけしか見られないリストとしても設定できる。ただし、1つのアカウントで作成できるのは1000件（過去20件）までで、1つのリストに登録できるのは5000ユーザー（過去500ユーザー）までである。

その他条件としてリスト名は25文字以下の英数字である必要があり、数字で始まるものにはできない。

過去、自分自身を自分が作成したリストに追加ができたが、現在公式ではできなくなっている。

お気に入り (favorites)

気に入った投稿をブックマークしたい場合などに星マーク（☆）を付けてお気に入りに登

録する。一部の日本ユーザーは英語表記の「Favorites」をローマ字読みし、『ふぁぼ』と呼ぶ場合もある。お気に入り登録後に一覧表示したりすることができる。

検索メモ

何度も見たい検索をメモとして保存する機能。Twitter内で検索すると右上に表示される「この検索を保存」から登録できる。

その他

ホーム (home)

自分のホームページ。自分の投稿や、フォローしているユーザーの投稿がタイムラインとして表示される。

ダイレクトメッセージ (direct message)

フォローされている特定のユーザーに、第三者から見ることができないメッセージを送る機能。DMと呼ばれることが多い。自分がメッセージを送る相手をフォローしている必要はないが、相手が自分をフォローしていないとメッセージは送信できない。一般的な電子メールとの違いとして、送信者側がメッセージを削除した場合には受信者側も閲覧できなくなるという特徴がある。(ただし、DMが送られたときに登録に使用したメールアドレスにその旨を通知する設定にしてある場合は送信者が削除しても受信者はメールボックスより閲覧することができる。)

ビア情報 (via情報)

利用したクライアントに関する情報。「via ***」と言う形式(公式であれば「via web」)でアプリケーションの名前とそのアプリケーションの情報が書かれたページへのリンクを提供する。Twitter公式から投稿した場合のみ、リンクが提供されない。

ボット (bot)

定期的にニュースや情報などを投稿したり、遊びを目的として著名人や漫画・アニメ・小説などのキャラクターの台詞を模倣して投稿、または独自のキャラクターとして本物の人間を模したような投稿を行う自動プログラムのこと。中には投稿の自動検索により捕捉した特定のキーワードに反応して、リプライや非公式リツイートを返してくるボットもある。

フェイル・ホエール (fail whale)

Twitterにアクセスが集中しサイトの機能が停止した時、「Twitter is over capacity.」

(「Twitterは容量を超えた状態にある」を意味する)というエラーメッセージと共に表示されるクジラのキャラクター。オーストラリアの女性イラストレーター、イーイン・ルー (Yiyin Lu) がデザインを担当した[49]。Tシャツやマグカップなどの公式グッズも登場している。

アクティビティ (activity)

2011年11月に追加された機能。フォロー相手のリツイート、お気に入りへの追加、誰をフォローしたかが可視化されるシステム。自分の行動も筒抜けとなるため、一部には批判の声もある。

スパム報告 (Report for spam)

後述の迷惑ツイートに対応するための機能。「スパム報告する」をクリックすると、当該

ユーザーをブロックすると同時に、Twitterのスパム調査チームに通報される。利用規約に照らし悪質と判断された場合、アカウント凍結（強制利用停止）となりそのアカウントは使えなくなる。

コナミコマンド

キーボードでコナミコマンド（上上下下左右左右BA）を入力すると青い鳥のロゴが回る。

関連サービス

Twitterの特徴として、ほぼ全ての機能に対応するAPIがある。これを利用した多くの関連サービスが公開されており、Twitter普及の一因となっている。

URL短縮サービス

ツイートにURLを含めて140文字に抑えるのは難しいため、20文字程度の短いURLから本来のURLへと自動転送を行う、URL短縮サービスが各所で利用されている[55]。元々「TinyURL」「bit.ly」などの外部サービスが利用されてきた。一部のクライアントにはURL短縮サービスと連携し、クライアント上でURL短縮を行ったり、投稿時にURLを自動的に短縮したりする機能を備えるものがある。

2011年よりTwitter公式の短縮サービス「t.co」が全URLを対象に用いられるようになった。クライアントやユーザー自身が設定しなくても自動的に短縮され、タイムライン上では自動的に伸長されて元のURLが表示される（一部のクライアント等を除く）。外部サービスを使用すると二重に短縮されることになる。

ロコミ広告

ブログ広告のようにTwitterでもロコミ広告のようなサービスがあり、つぶやくことによって5円-上限で990円の収入を得られるシステムがある。堀江貴文もそれを利用しておりTwitterでは特定のキーワードでつぶやくスポンサーからお金をもらえることがあると西村ひろゆきとの対談で明らかとなった。

画像投稿サービスなど

個々のURLを短くするなどTwitterに適応させた外部の画像投稿サービス

（TwitPic、Lockerz、Yfrog、フォト蔵、ついつぶるフォトなど）が盛んに利用されている。クライアントによっては画像を自動表示できる。2011年よりTwitter公式の画像投稿サービスであるTwitter Photo（Photobucketがホスティング）が開始された。

動画の共有は既存のYouTubeが使われることが多い。他にTwitter連動で手軽にストリーミング動画生放送ができるTwitCastingなどもある。

その他の主な関連サービス

以下はいずれも非公式の関連サービスである。

TwitLonger - 140字を超える文字列を投稿できる。投稿された内容は別のページとして作成され、Twitter側にはそのページのURLが表示される。

favstar - 人気ツイートを表示する。

ふぁぼったー - 人気ツイートを表示する。

togetter - ツイートのまとめサイト。様々な人のツイートを選び出して並べ、1画面にまと

めて表示させることができる。

OnSay - Twitterアカウント同士で無料通話ができる。

アカウントの形態

公式アカウント

その影響力の大きさに注目した企業や団体などの「公式アカウント」が存在する。なりすましを防ぐためTwitter側で本物であることが確認できた著名ユーザーに認証バッジと呼ばれる特別なバッジ（水色の地に白色のチェックマーク）を付与し、「認証済みアカウント」とする。この認証バッジはユーザーのプロフィールページに表示される。しかしそのマークを自身のプロフィール画像に埋め込んで公式アカウントに見せかける悪質なユーザーも出てきている。

「認証済みアカウント」機能以外に、ユーザーアカウントの真正性をオンラインで確認する手段として、Twitterは自身の公式ウェブサイトからTwitterのプロフィールページにリンクを張ることがもっとも簡単だとしている。

団体や個人になりすましたアカウントによるなりすまし発言[注 6]が問題となっている。

問題

位置情報付きツイート

スマートフォンの急激な利用者増加に伴い、安易に位置情報付きツイートを投稿してしまうユーザーが増加している。現在までに位置情報投稿による大きな事件は報告されていないが、利用者に対し注意喚起を求めるソフトウェアが公開されており、大きな社会問題となりつつある[61]。また、位置情報を付けていなくても、「（場所名）なう」「帰宅なう」などのツイートを投稿している場合、投稿件数が多いと、日常生活習慣や行動スタイルなどが明るみになり、空き巣などの犯罪に巻き込まれる恐れがある。

社内文書漏洩問題

2009年7月15日、Twitter社が「Google Apps」上で管理していた社内文書が、複数のブログ運営者とメディアに送られるという事件が発生した。この件ではTwitterのユーザー情報は漏洩しなかったが、後に漏洩の原因がグーグル・アップスのパスワードが「password」だったため、容易に推測され、盗まれたのだと判った。

迷惑ツイート

迷惑メール同様、無差別かつ大量に個々のアカウントDMに広告が送信されることがある。

「スパム報告する(Report for spam)」機能で通報することで少なからず迷惑ツイートは減っているものの対応が後手に回っていることは事実である。また自己紹介の写真の更新が可能であることから、フォロワー者による、嫌な相手を傷つけるための写真の更新がされることが多い。加えて、「つぶやく」側も同様、嫌な相手を傷つけるための写真の紹介も多い。その場合の紹介文は事実と無関係なことが多い。

ハッシュタグの乱用

前述のとおり、「ハッシュタグ」により、特定のトピックに関する投稿の一覧を検索して見ることができるが、中にはその機能を悪用し、特定のトピックと無関係のツイートにハッシュタグを乱用する悪質なユーザーもいる。なお、Twitter社による「Twitterルール」では、上記の行為は「スパム行為」とみなされているのでスパム報告が可能。

デマの拡散

出所の不確かな情報を流したり、なりすましのユーザーが故意に嘘を流したり、エイプリルフールなどのネタのツイートを真に受けたユーザーがツイート・リツイートしたりすることによって、チェーンメールと同様に誤った情報が拡散するケースがある。

日本においては、2013年7月にLINE公式アカウントを装ったアカウントにより「LINEがサービスを終了する」という内容をツイートしてこれが広まり、公式アカウントが否定するに至った事例などがある。また同年7月の韓国では、ロッテ七星飲料の一部代理店が「他社の焼酎に軽油が混入していた」との記事をリツイートするなどして広めたとの告発を受け、警察の家宅捜索を受けている。2013年7月には、「パーナ」と呼ばれる利用者らの間で大量のデマゴークが拡散され、それを鵜呑みにしたユーザが各地で問題行動を起こす「パーナさん事件」と呼ばれる騒動が発生した。

犯罪告白問題[編集]

Twitter上において飲酒運転や無免許運転、未成年飲酒、窃盗、有償ソフトウェアの違法ダウンロードといった犯罪行為、また犯罪と呼ぶには至らない悪乗りを自ら暴露するツイートが後を絶たず、さらにこうしたツイートをした人物が本名あるいは学校などの個人情報をそのまま載せていたり、もしくは別の場所に載せているか簡単に特定が可能な情報を載せていたりする場合がある。こうしたツイートを見つけた2ちゃんねらーなどのネット自警団とも呼ばれる存在が、同一人物と見られるmixiやFacebookなどのページを探し、個人情報を特定した上で就業先の企業や学校、警察に通報および抗議を行うと言う事例が後を絶たない。また有名人を名指しした殺害予告や無差別殺人、「〇〇でサリンを撒く」などとツイートして他人に影響を与える犯罪予告のツイートも増えており、警察が出動し逮捕者も出ている。そのため、日本のネット上ではTwitterがバカ発見器やバカッターと揶揄されることもある。

なお、学生の1割が俗に「バイトテロ」とも呼ばれるアルバイト従業員による悪ふざけのような投稿を容認していることが日経MJの調査で明らかになり、ツイートが全世界につながっているという重大性を認識できていないことが背景にあるとみられている。

ツイート広告サービス問題

ユーザーがとある商品をロコミを装って広告代金がもらえるステルスマーケティングに類似した広告制度がある。つぶやき一つで中には数千円、毎日3回つぶやけば年収ベースで1000万円にもなる。つぶやく内容は広告会社と詳しく打ち合わせて決められている。とあるフォロワー数が23000人いるユーザーはつぶやき1回で5578円もらえるというがユーザーの信頼を失いたくないのでその程度の金額ではやらない、とても怖い感じがしたと述べている。

アカウントの乗っ取り問題

悪意のあるURLに接続すると、アクセストークンといったTwitterアカウントを自由に操作できる権限を他人にも奪われる場合がある。そのURLは『Did you see this pic of you? lol』といった英文に添えてDMで送られてくる場合が殆どで、乗っ取られたアカウントのフォロワーに同様のDMを送り蔓延する、チェーンメールと同じような仕組みになっている。また最近では、日本語に添えてURLが送られてきたりなど手段が巧妙化してきている。そのためTwitterはOAuth認証の方法を改善する対策を行なっているが、対応が後手に回っていることも事実である。

芸能人成り済まし問題

芸能人に成り済ましてTwitterを開設しファンなどがだまされるケースが増えている。一応ファンを楽しませようとするのもあれば、芸能人の品位を落とすかのような悪質なものもある。対策として事務所が公式サイトにて偽者と注意を促したり、本人がTwitterを開設するなどしている。

芸能人、有名人に誹謗中傷問題

Twitterでは簡単にやり取りが行えてしまうため芸能人に対する誹謗中傷が問題化している。ひどい場合には本人のアカウントが炎上してしまうケースもある。またTwitterに書いた内容は基本的に全世界に公開していることになるのだが、誹謗中傷を書かれた人が、書いた人に反論をするとエゴサーチと呼ばれ叩かれてしまうケースもある。

芸能人、有名人の盗撮被害問題

Twitterは写真を乗せることも簡単なため街で見かけた芸能人、有名人を無断で盗撮し写真を乗せるというケースが後を絶たない。被害にあった芸能人はマナーを守ってほしいと苦言をすることが多くなっている。

利用状況

黎明期の2007年はTwitterの1日のツイート数は約5000回ほどだったが、2008年に入ると一気に1日30万回に増加し、2009年には1日のツイート数が250万回を超えるようになる。さらに2010年に入ると前年比1,400%の伸びとなる1日3500万回を記録、2010年6月には2010 FIFAワールドカップ開催の影響により全世界でのツイート数が1日6500万回を突破した。これは毎秒750回のツイートがあったことを示している。

2009年6月時点で日本国内からTwitterにアクセスしている実際の人数は約320万人（全世界では約1.1億人）。男女比は男性が72%、女性が28%で、年齢層は最も多い層が35 - 44歳の42%、そして45 - 54歳の18%、25 - 34歳の17%と続いている（Googleの統計から）。なお、ビル・ゲイツやティム・オライリーなどIT関係者や有名テレビホストのオプラ・ウィンフリーなどの多くの著名人や、マイクロソフトなどの大企業が広報活動として利用している。また、Twitter議員というTwitterを利用する海外および日本の議員・政治家の総称まで生まれた。

2009年6月17日の報道によれば、イラン大統領選挙(2009年)の抗議活動の参加者たちは規制から漏れた数少ない通信手段として、Twitterで連絡を取り合っていた。なお、同年12月18日にDNSレコードが一時的に侵害され、イランのサイバー軍を名乗るクラッカーがTwitterを改ざんし、Twitterは一時利用できない状態になった。

2010年5月末に総投稿数が150億回の突破、150億番目の投稿は日本の利用者によるものだった。その後の2カ月間でさらに50億回の投稿があり、日本時間の8月1日午前0時44分、再び日本の利用者による投稿で200億番目を記録した。

2011年現在、TPS（1秒間あたりのツイート数）の最高記録は2011年12月9日に日本で放送された金曜ロードショー（日本テレビ）『天空の城ラピュタ』の終盤の山場に登場するセリフ「バルス」の瞬間で25,088TPSとなっている。2位は2011年8月31日にビヨンセの妊娠が発表されたときの8,868TPSで、スポーツイベントにおける最高記録は2011年7月18日に行なわれた2011 FIFA女子ワールドカップ決勝で日本が優勝を決めた瞬間の7,196TPS（全体の3位）となっている。

2010年7月1日、フランスの調査会社SemioCastが世界の地域におけるTwitterの投稿件数をまとめた調査結果を公表した。2010年6月の投稿数は国別で世界全体の25%を占めたアメリ

カ合衆国が1位となり、2位は全体の18%を占めた日本であった（3位以降はインドネシア、ブラジル、イギリスと続いている）。また、ネットレイティングスが2010年6月末にまとめた調査で日本のTwitter利用者数は2010年時点で前年の19倍に達しており、実利用者数に限ればすでにアメリカ合衆国を追い抜いているとのこと。

初めてフォロワーが100万件を突破したのは俳優のアシュトン・カッチャーで2009年4月のことである。初めて1000万件を突破したのは歌手のレディー・ガガ。日本ではソフトバンク社長の孫正義が2011年4月に初めて100万件を突破した。

ブランド名のTPD（1日あたりのツイート数）記録は2012年11月11日に記録した江崎グリコの菓子商品「ポッキー」。184,3733TPDを記録し、ギネス・ワールドレコーズによって記録認定されている。

2013年8月2日日本テレビ系列で放送された天空の城ラピュタで「バルス」した瞬間のツイート数は14万3199件であった。

Facebook

（フェイスブック）は、フェイスブック株式会社が提供するインターネット上のソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）である。「FB」と略されることもある。

Facebookという名前は、アメリカ合衆国の一部の大学が学生間の交流を促すために入学した年に提供している本の通称である「Face book」に由来している。

概説

2004年にマーク・ザッカーバーグと、ザッカーバーグのハーバード大学のルームメイトまたは同級生だったエドゥアルド・サベリン、アンドリュー・マッコーラム、ダスティン・モスコヴィッツ、クリス・ヒューズによって創業された。当初は、会員はハーバード大学の学生に限定されていたが、ボストン地域の大学、アイビーリーグの大学、スタンフォード大学へと対象が拡大されていった。徐々に様々な大学の学生も対象に加わり、やがて高校生にも開放され、最終的には13歳以上のすべての人に開放された。現在のFacebookでは、ユーザー登録時に13歳以上であることを宣言すれば誰でも会員になれる。

サイトの利用前に必要なユーザー登録を行うと、個人プロフィールの作成、他のユーザーをフレンドに追加、メッセージの交換、プロフィール更新時の自動通知の受信を行うことができる。加えて、ユーザーは共通の関心を持つユーザーグループへ参加することができるようになる。ユーザーグループは、会社、学校・大学、他の属性で分類されている。フレンドを「職場の同僚」、「親しい友人」といったリストに入れて分類することができる。

2012年9月に、Facebookのアクティブユーザー数は10億人を超えた。そのうち、8.7%は偽物である。2011年5月のコンシューマー・レポートの調査によると、サービスの利用規約に違反する13歳未満の子供のユーザーが750万人、10歳未満の子供のユーザーが500万人いる[8]。2012年において、Facebookは180ペタバイトのデータを持ち、24時間毎に0.5ペタバイトのデータが増加している。

2005年5月に、Accel Partnersは1,270万ドルをFacebookに投資し、Jim Breyerは個人資金から100万ドルをAccel Partnersの投資資金に追加した。2009年1月のCompete.comによる調査は、ワールドワイドな月間アクティブユーザー数によるランキングで、Facebookを最も利用されているソーシャル・ネットワーキング・サービスにランクした[11]。Entertainment Weeklyは、過去10年間の"ベスト"リストにFacebookを選び、「Facebookが存在する前の世

界は、どうやって元カノをこっそりつきまったり、会社の同僚の誕生日を忘れないようにしたり、友人をむかつかせたり、Scrabulousみたいな熱狂的なゲームをプレイしていたんだろう？」と述べている。2012年2月1日にFacebookは最初の株式公開を行い、カリフォルニア州メンローパークに本部を移転した。Facebookは、2012年5月18日からNASDAQ市場で株式の売却を開始した。2012年の売り上げ51億ドルによって、Facebookは2013年5月に発行されたフォーチュン500で462位にランクされ、初めてフォーチュン500に選ばれた。

概要

2004年にアメリカ合衆国の学生向けにサービスを開始した。当初は学生のみ限定していたが、2006年9月26日以降は一般にも開放された。日本語版は2008年に公開。13歳以上であれば無料で参加できる。実名登録制となっており、個人情報の登録も必要となっている。

公開後、急速にユーザー数を増やし、2010年にサイトのアクセス数がGoogleを抜き話題になる。2011年9月、世界中に8億人のユーザーを持つ世界最大のSNSになった。2012年10月に、10億人を突破。

アイコン

カスタマイズ性の点においては、基本的にプレーンテキストのみに対応しているが、Ajaxに対応していたり、自分の好きなアプリケーション（アプリ）を選択して追加できたりするなど、最新の技術に対応している。これらアプリケーションは、Facebookが開発したものよりも、一般のユーザーが開発したものが多く。一般ユーザーが様々なアプリケーションを開発し、Facebookのツールとして公開できることで、Facebookはそれ自身が持ち備えている性能を超えてサービスを提供することができる。

また、モバイル端末にも対応しており、BlackBerryやAndroidなどでは専用ウィジェットが用意され、iPhoneやiPod touchに搭載されたSafariでアクセスすると、専用画面でサービスを提供している。iPhone、iPadなどのiOS搭載端末や、Android用のアプリも別途用意されている。

中古品売却や住宅・求人など様々な募集広告を出せる「Facebook Marketplace」、他のユーザーに直接メッセージを送ることのできる機能もある。また、写真や動画のアップロード（Facebook Video）にも対応している。容量制限はない。604ピクセルを超える写真に関しては、長辺が604ピクセルになるよう縮小される。Facebook内の専用ページや外部サイトでの購買活動と連動して、自分の友人が何を買ったか、どの映画や音楽を高評価したかなどの形で広告が出る「Social Ads」もある。

歴史

ハーバード大学の学生だったマーク・ザッカーバーグはハッキングして得た女子学生の身分証明写真をインターネット上に公開し、公開した女子学生の顔を比べて勝ち抜き投票させる「フェイスマッシュ」というゲームを考案した。これは大学内で問題になり、ザッカーバーグはハーバード大学の半年間の保護観察処分を受けるに至った。

2004年、ザッカーバーグはハーバード大学の学生が交流を図るための「ザ・フェイスブック」というサービスを開始した（本人の登録制）。その数日後、スタンフォード大学やコロンビア大学、イェール大学などの学生からの「同じようなサイトが欲しい」との要望に応え、いわゆるアイビー・リーグの学生にも開放した。その後、徐々に全米の学生に開放され、学生生活に欠かせないツールとなった。大学のメールアドレス（.eduドメイン）を

所有する大学生のみに参加が限られていたが、2006年初頭には全米の高校生に開放し、2006年9月までには一般に開放され、有効なメールアドレスさえあれば、世界中の誰もが利用できるようになった。

2004年4月、正式にフロリダ州に、有限会社として登録。パートナーは、ザッカーバーグ、モスコヴィッツ、サベリンの3人。

顧問のマット・コーラーにより、最初に採用されたエンジニアとしてスティーブ・チェンが働く。しかし、数週間でPayPal時代の友達と「ビデオサイトを作る」と言って辞めようとする。マット・コーラーには、「一生、後悔するぞ。フェイスブックはすぐに大きい会社になるんだ。ビデオサイトなんて掃いて捨てる程あるじゃないか」と説得されるも聞かず、ビデオサイト(YouTube)を作る為に去る。

ケビン・エフルシーが、ザッカーバーグに、運営に関する知識が極めて豊富な者が必要と、ジェフ・ロスチャイルドを推薦する。彼は、VERITASをシマンテックに売却し悠々自適な身なので、何週間かはコンサルティングに応じるつもりだったが、ザッカーバーグとFacebookの虜になり、フルタイムの社員となることで、会社の信用が上がった。ジェフ・ロスチャイルド曰く「私は、連中がデートサイトを作っていると思った。しかし、彼らのビジョンを理解すると、今までのサイトとは全く別物だった。大学内限定で友達との情報を交換する最も効果的なチャンネルを作ろうとしている」

日本

2008年5月、日本語化されたインターフェイスを公開。これは運営側が翻訳を行った訳ではなく、ボランティア利用者がサードパーティの翻訳アプリケーションを使っての無償作業の成果であった。5月19日、CEOのマーク・ザッカーバーグが日本で記者会見を開き、翻訳に関わったすべての利用者に感謝を示した[24]。同日夜にはFacebookの開発者向けイベント「Facebook Developer Garage Tokyo」が東京渋谷区で開催された。

進出当時の日本ではmixi、Mobage、GREEなどの既存SNSやTwitterに押されて、普及が進まず「フェイスブック後進国」とも呼ばれていた。前田邦宏（関心空間創業者、玉川大学経営学部非常勤講師、東京大学大学院情報学環客員研究員）は、これらの要因として、「日本人と海外との人間関係の数」がそもそも少ないこと、既存SNSがユーザーを押さえていること、「グローバルなネットワークというメリットが日本人にとって弱い」ことを挙げている。前田はさらに、Facebookのアカウントは実名と本人の顔写真、実社会でのプロフィールの登録が義務づけられているが、「それらを誇れる人にとっては有効なのですが、コンプレックスを感じる人にとっては見えない壁を感じる」と指摘している。さらに「英語でのコミュニケーションができなければ、メインとなるネットワークの中に全く入っていきません」とも指摘している。

2010年2月、アメリカ以外では初となる海外法人を日本に設立。代表にはYahoo! JAPAN出身の児玉太郎が就任（役職はカントリー・グロス・マネージャー）。

日本国内の利用者数は2010年12月で約308万人。2011年9月末に1000万人を超えた。2012年に大きく報道され、日本発のSNSよりも人気が高くなったことが多くのメディアで報道され始めた。

フェイスブック・インコーポレイテッドは日本国内で「Facebook」（称呼はフェースブック）を2007年11月21日に、「フェースブック」と「顔本」（称呼はカオホン、ガンホン、

ガンポン)を2010年5月25日に商標出願した。日本がフェイスブック後進地域であったのは当初日本語のサービスが極端に少なかったこと、英語版のレイアウトを日本語版がリアルタイムで反映しなかったことなどの問題点が、即急には直らないことが挙げられた。

中華人民共和国

中国（香港特別行政区、マカオ特別行政区を除く）では、Facebookへの接続規制がされており、類似サービスの人人網が多くユーザを集めている。

2011年2月現在のFacebook利用者は70万人となっている。抜け道は確実に存在しているようである。

台湾

アジア圏では中国や日本ではなく、台湾がほとんどのユーザーを獲得するなど勢いが非常に強い。

政治的影響

フェイスブックと「#jan25」のハッシュタグの使用を呼びかけるプラカードを掲げるエジプトのデモ参加者。（2011年2月1日撮影）

2010年から2011年にかけてチュニジアで発生したジャスミン革命では、情報交換のためにFacebookが大きな役割を果たしている。また、2011年エジプト騒乱では4月6日運動と呼ばれるグループが大規模デモやストライキを呼びかけた。ホスニー・ムバーラク大統領は辞任に追い込まれたことから、「フェイスブック革命」と評価した者もいた。

一方では、Facebookは実名（2012年より、広く通用している芸名、ペンネームなどであれば通称も可能になった）登録制なので、政府の追及から逃れるため仮名で登録した活動家に実名を要求し、あるいは実名公開を余儀なくされた活動家が当局に逮捕されるなど、活動に水を差す事態も起こった。こうした制約から、実際の運動では従来の口コミやビラが主力であり、FacebookやTwitterだけが「デモを組織したわけではない」という指摘もされている。

YouTube

（ユーチューブ）は、アメリカ合衆国・カリフォルニア州サンブルノのYouTube, LLCが運営する動画共有サービスである。Youは「君」、Tubeは「テレビジョン（ブラウン管）」という意味である。

歴史

PayPalの従業員であったチャド・ハーリー、スティーブ・チェン、ジョード・カリムらが2005年2月15日にカリフォルニア州サンマテオで設立した。初めて動画が投稿されたのは同年4月23日である。設立のきっかけはハーリーらが友人にパーティーのビデオを配る方法として考えた結果に作った技術を使い、「皆で簡単にビデオ映像を共有できれば」と思いついたことによる。

11月7日、ベンチャーキャピタルのSequoia Capitalから350万ドルの投資を受け12月より公式にサービスを開始した。

2006年

2月16日 - NBCが著作権の侵害として、テレビ番組『サタデー・ナイト・ライブ』の映像を削除。大手のテレビ局からの要請による動画削除はこの件が初めてであった。

3月27日 - 10分を超える動画ファイルのアップロードを制限。

4月5日 - Sequoia Capitalから800万ドルの投資を受ける（2度目）。

4月10日 - Director制度開始。

6月15日 - 大規模な違法コンテンツ（アニメなど）の削除活動が始まる。

6月24日 - 音楽家専用のアカウントを作れるMusicians制度が始まる。

6月27日 - かつて否定的な立場をとっていたNBCユニバーサルが一転し、提携を発表。自局番組の宣伝動画などの配信を始める。

7月14日 - ニュース記者のロバート・ターが著作権侵害でYouTubeに対し米連邦地裁で訴訟を起こす。

8月4日 - メンテナンスを行いデザインをリニューアル、新機能が追加された。

9月中旬 - プレイヤーのデザインを再びリニューアル。

10月 - QuickList機能が追加される。

10月上旬 - 会社をカリフォルニア州サンブルノに移転。

10月2-6日 - 日本の著作権関係権利者団体・事業者（テレビ局など）が集中的に削除要請を行い、約3万件のファイルが削除される。

10月9日 - Googleが16億5000万ドルでYouTubeを株式交換で買収した。但しブランド名やサービスなどは既存のままであり、Googleのグループ会社になる。ちなみにこのうちの2億ドルが訴訟対策費用となる予定。

11月6日 - Time誌の「Invention of the Year for 2006」に選ばれる[14]。

12月7日 - 新サービスの実験用サイトとしてTestTube（テストチューブ）を開設。最初の実験としてチャットルームで同じ動画を鑑賞、感想を書き込むなどが可能な「Stream」を公開した[15]。

12月17日 - Time誌の表紙として、YouTubeの動画メニューの画面が飾った。これは、この年の「パーソン・オブ・ザ・イヤー」に選ばれた「You」の意味の1つに「YouTube」も含まれることからである。

2007年

2月6日 - YouTubeチャド・ハーリーCEOと親会社のGoogleの幹部が来日し、日本の著作権団体と協議。

3月19～25日 - ユーザ投票で2006年の最優秀動画を決定する「YouTube VIDEO AWARDS」が行われた。

3月22日 - 民間調査会社のネットレイティングスの発表で日本国内家庭からの利用者が1000万人を超えた。

5月1日 - 第11回Webby賞を受賞。

5月21日 - サーバがダウンし、動画が再生しにくい状態が続く。

6月19日 - 日本語を含め新たに9カ国語に対応する。その他接続元とのドメインによって各言語のページへ飛ばしている訳ではないので英語ページへの接続も可能。

2008年

1月24日 - GoogleとNTTドコモの提携により、FOMA 904iシリーズ以降の端末で「YouTube」の視聴が可能となった。

3月14日 - MP4（H.264+HE-AAC）でエンコードされた高画質な動画の再生とアップロードが可能になる。これに伴いファイルサイズの最大値が1,024MBまで引き上げられる。

8月28日 - 字幕付与サービス開始（公式ブログ[22]）。

11月 - 再生画面がワイド化され、1280×720（720p）サイズのアップロードと再生に対応した。

2009年

1月 - バラク・オバマアメリカ大統領の公式チャンネル「ChangeDotGov」で、動画をダウンロードができるようになった。

1月16日 - テレビ画面視聴に最適化した専用サービス「YouTube for Television」の提供を開始（WiiやPlayStation 3等のブラウザ機能から「www.youtube.com/tv」（現在は、www.youtube.com/xl）にアクセスすると、WiiやPS3の操作に最適化されたYouTubeの画面が表示される）。

7月 - Internet Explorer 6のサポート終了についてアナウンスを開始。

7月2日 - ファイルサイズの最大値が2,048MBまで引き上げられる。

7月21日 - 3D動画をYouTubeがアップロード。

11月12日 - 1920×1080（1080p）サイズの再生に対応することを発表。11月17日ごろから対応した。

2010年

1月22日 - YouTubeのプレーヤーで画質が選択できるようになる。

3月13日 - Internet Explorer 6を含む旧バージョンのサポート終了。

3月25日 - 一時的に「Http/1.1 Service Unavailable」と表示されトップページ、マイページが開けない状態（検索、動画視聴は可能）となった。21:30（JST）ごろに正常に開けるように回復した。また同日、キャプションサービス（β版）が開始される。

4月1日 - 朝（JST）から一時的に「Http/1.1 Service Unavailable」と表示されトップページ、マイページが開けない状態（検索、動画視聴は可能）だがすべて接続が不安定な状態。原因はサイトのメンテナンス作業中に起きたエラーと推測された。

4月6日 - 民間の気象予報会社ウェザーニューズがYouTubeを利用し、同社の24時間生放送番組SOLiVE24の時差配信を開始した。

4月15日 - Operaで動画を再生すると「Old Flash? Go Upgrade!」と表示され、再生できない状態になっている。マイページから再生するか、Opera Turboを有効にするか、ユーザーJavaScriptの設定をするかなどで解決されるが設定を何もしないで通常に再生する場合はエラーメッセージが出てきてできない状態だった。その後、16日 10:00 - 11:00（JST）に設定しなくてもエラー表示なしで通常に再生できるようになった。同じような現象は、Internet ExplorerやOperaブラウザを採用しているWiiでも起きていた。

6月16日 - 専用のソフト（Windows Live ムービーメーカーなど）を使わなくてもYouTubeにアップロードした動画の編集ができる「YouTube Video Editor」の提供を開始した。

7月9日 - 4K 映像(最大4096×2304/30fps) のアップロード・再生に対応した。

7月30日 - 投稿できる動画の長さが10分から15分に延長された。

11月5日 - 尖閣諸島沖での中国船衝突映像計44分が、Sengoku38と名乗るユーザーによって、6本に分割（15分以下）してアップロードされていたことが分かった。このことは、報道番組やワイドショーなど多くの番組で取り上げられた（詳細は「尖閣諸島中国漁船衝突映像流出事件」を参照）。

11月9日 - 東京地方検察庁が差押さえ令状を取り、Google日本法人から尖閣諸島沖での中国船衝突映像の投稿者に関する記録（IPアドレスなど）を強制押収した。

12月11日 - YouTubeのコミュニティガイドラインや著作権についてのルールを順守しているユーザーの中の一部で投稿できる動画の長さ15分のリミッターが解除された。

2011年

1月22日 - ユーザーページなどのインターフェースが変更され、操作性なども若干変わっている。

2月1日 - 日本国内で初めてとなるモデレーター機能を使用したコンテンツ配信（日本の音

楽グループAAAの公式チャンネルのオープンを記念したもの)が行われる。

4月 - ライブストリーミングサービス「YouTube Live」を開始。

11月上旬 - ページの背景が白からグレーを基調としたものに変更となった。

2012年

1月上旬 - トップページを大幅にリニューアルした。

12月上旬 - サイトのレイアウトが大幅にリニューアルされた。白を基調としたデザインに変更になり、動画の投稿日順に並び替えるフィルタ機能がなくなる。しかしその後翌1月にフィルタ機能は復活している。

2013年

3月上旬 - トップページを大幅にリニューアルした。どのデバイスでも、どの画面でも、美しく表示出来るように、YouTube One Channelと呼ばれる新デザインとなる。3月16日現在では、新デザインでの強制移行はされておらず、希望する者だけが先行で新デザインを使用できる。完全移行の日は未定。

6月上旬-11月上旬 - YouTubeのコメント欄が仕様変更となり、Google+アカウントが必須となった。

12月 - 「YouTube Live」を全てのユーザーへ開放すると発表。

2014年

1月下旬 - アルゼンチンリオネグロ州のアルベルト・ウレティルネック（スペイン語版）州知事が、州職員に解雇を直接通告せずにYouTube上の投稿動画で突然の発表をして物議を醸した。

10月29日 最大60fps動画のアップロード・再生に対応。

[概要]

ウェブサイトは多言語で構成されており、サービスは基本無料（一部有料）で利用できる。Ajaxと呼ばれる技術が用いられており、YouTubeを利用するにはJavaScriptを有効にする必要がある。

Web 2.0の代表的なサイトの1つとされる。SNSに分類されるのは、動画や利用者にコメントを付けられるためである。アップロードできるのは動画ファイルのみで、音声ファイルなどはそのままではアップロードできない。

アップロードされた動画はすべて必ず再圧縮され、元動画は視聴者はダウンロードできない。また、幅広い動画形式を受け付けるので、元動画はそのままアップロードすると視聴者に最もきれいな動画を届けることができる。

[話題性]

2006年初期の段階で、動画ファイルを容量・本数無制限に無料でアップロードできるという仕組みが注目を集めた。しかし同時に大量のアダルト動画がアップロードされはじめたことが問題となった。人的リソースの問題から厳密な処理ができず削除対応がゆるやかであり、それが視聴者を増やすこととなった。

アメリカでは2005年12月頃にNBCの人気テレビ番組『サタデー・ナイト・ライブ』がアップロードされていたことからブログなどで話題になり[38]、2006年上旬にはYouTubeの映像をブログなどに貼り付け簡単に見られるAPIも公開され爆発的に普及した。日本ではこの頃からブログなどで紹介され人気上昇、2006年3月頃からニュースサイトで取り上げ

られるようになった。それに応じてネットの一部でYouTubeをローマ字読みにした「ようつべ」やそれを当て字に直した「用津辺」という呼称が用いられるようになり、ネットスラングとして定着する。また、YouTubeAPIを利用したサイトなどのアグリゲーターサービスが数多く開始された。

[コンテンツとビジネス]

著作権問題はあるものの手軽に動画が楽しめることから、コンテンツ業界に注目されている。

2006年4月にアメリカの映画制作会社・The Weinstein CompanyとDimension Filmsが提携し、映画の予告編がYouTubeで配信された。2006年6月28日にNBCと提携[10]、NBCのコメディドラマ『The Office』のPVを配信したりプロモーションページを設けた。またNHLはYouTubeと契約し、試合のダイジェスト版の提供を開始した。

CBSも2006年10月に契約し、「CBS Brand Channel」をYouTube上で立ち上げた。CBSは2007年1月12日に行われた講演内でCBS社長兼CEOであるレズリー・ムーンバスが「今後、アメリカのテレビ局はYouTubeと提携し、テレビ番組や番組宣伝などをYouTubeに流すことになるだろう」と答えた。だが2007年2月22日になると、CBSとの提携は決裂したと報道された。翌月の3月3日にはBBCと提携し、「BBC Channel」を立ち上げることとなった[43]。

またNintendo of Americaはゲーム機「Wii」のCMを、ナイキはシューズの日本向けCMをYouTube上で公開した。さらにレコード会社などが自前のページを立ち上げて配信を始める例も見られ、新たな活用法が模索され続けている。

日本のテレビ局はYouTubeとの提携に慎重な姿勢を持っていたがYouTubeが日本語に正式対応したのを受けて2007年6月19日にスカパーフェクト・コミュニケーションズ（現・スカパーJSAT）がGoogleと提携し日本の放送局としては初めてスカパーフェクトTV!（スカパー!）のパートナーページを開設し、さらに同年7月12日には東京メトロポリタンテレビジョン（TOKYO MX）が日本の地上波放送局としては初めて提携を結びブランドチャンネルを開設、2007年12月25日にはFMラジオ局・Kiss-FM KOBEが動画でプレミアムパートナーページを開設した。2009年9月末にはTBSとテレビ朝日がパートナー契約を締結、公式チャンネルを設けた。2010年4月5日にはテレビ東京もパートナー契約を締結、公式チャンネルを開設している。在京キー局で最後まで公式チャンネルを開設していなかった日本テレビも、2011年11月1日にパートナー契約を締結して公式チャンネルを開設している[50]。ただしアメリカと異なり、日本の放送局はテレビ放映後のコンテンツ活用まで含めて出演者と契約しておらず権利処理が複雑なためドラマやバラエティー等の配信が困難であり活用しきれしていない。

その一方で東映は2011年8月にYouTubeとパートナー契約を結び、特撮の公式チャンネルを開設してYouTube上で仮面ライダーシリーズ・スーパー戦隊シリーズ・メタルヒーローシリーズなどの一部の特撮作品の動画配信を開始している。

このほかの日本企業との提携事例ではGONZOと吉本興業がそれぞれブランドチャンネルを設置しYouTube上で動画配信を始めた他、mixiがYouTubeの動画を日記上に表示できる機能を実装、カシオ計算機がYouTubeに最適化された動画を撮影し簡単にアップロードできるデジタルカメラを発売している。また角川グループの角川デジックスはYouTube向けの動画識別技術の実証実験に参加、これによる著作権対策が有効だと判断できたとして2008

年2月より公式チャンネルを開設、角川グループとしてYouTubeのプロモーション活用を行うほか角川グループの映像作品を使った投稿動画についても各権利者の許諾が得られた場合公認動画として認定マークと広告を付加、広告収入を権利者に分配を行う事になっている。さらに公認動画の広告枠の販売や、投稿された動画の優秀作の作者を角川グループの作品の監督や脚本家に起用するクリエイター発掘企画も展開する予定となっている[54]。

[世論への影響]

動画共有サービス以外の活用例としてはイーホームズの藤田東吾がYouTubeを通じ構造計算書偽造問題に対する告発を行ったり、ロサンゼルス市警察の警官が無抵抗な被疑者に対し暴力を振るっている姿を捕らえた映像がYouTubeで匿名で公開されたりと告発の場となっている。他には、カナダの警察が犯人逮捕の為に殺人事件が発生した際に映った犯人らしき人物のビデオ映像をYouTube上で流している。

政治面としてはYouTube側が「You Choose '08」を用意し、2008年アメリカ合衆国大統領選挙の為に候補者と有権者が直接映像で意見交換する場を設置。そこには民主党・共和党の大統領候補者数名が既に自ら登録を済ませている。登録者のひとりである大統領候補者ヒラリー・クリントンは「YouTubeを利用することで、アメリカ国民に自分の意志を動画で共有出来るから」とコメントしている。日本でも2007年12月に自由民主党、社会民主党、日本共産党が相次いで公式チャンネルを開設、政策発信や党の活動状況の情報配信を実施し若い有権者へのアピールを行っている。またコメント欄には多くの侮辱や悪口が書かれている。こういったコメントから特定の人物に関する検索を行い、適切な文をリスト表示できるジェネレーターも開発されている。

2007年6月1日、ベネズエラにて反政府的としてウゴ・チャベス大統領によって閉鎖させられた民間放送局ラジオ・カラカス・テレビ（RCTV）は閉鎖に抗議する形として、YouTubeでの番組の公開を開始した。

2007年の後半にはオーストラリアのカトリック司祭・ジェフ・バロンの言動を隠し撮りした映像がアップロードされ、これがマスメディアを通して世界中に伝えられる事態となりやがては同司祭の解任にまで至った。

2010年11月4日、日本政府によってひた隠しにされていた尖閣諸島中国漁船衝突事件の映像が、sengoku38こと当時海上保安官であった一色正春により、神戸市のネットカフェからアップロードされ、事件の状況が明らかになり世間に衝撃を与えた。これは尖閣諸島中国漁船衝突映像流出事件と呼ばれ日本では社会現象ともなった。

その他

2006年当時から機能追加も活発に行われている。メンテナンス画面は机を組み立てる説明書を読んでいる男性の写真や帝都高速度交通営団（現・東京地下鉄）の電車に貼られていたドアステッカーの写真や東京消防庁の消火器具に描かれている消防士のキャラクターの画像などユーモラスで意味深長なフレーズと画像が使われるが、2006年6月2日のメンテナンスでトップページが「ALL YOUR VIDEO ARE BELONG TO US.」と書かれたものになりインターネット上で騒動となった。これは「All your base are belong to us.」をもじったものと思われるが海外（特に日本）からのアクセス増加をよく思っていないと取れるため、「海外からのアクセスが規制されるのでは」「クラッキングされた」などといった推測が

飛びかった。のちにYouTubeのブログでユーザーに心配かけたことを謝罪し、機能追加を発表した。しかし2007年5月21日にサーバがダウンし以降ロードが遅く再生しにくい状態である。

2006年YouTubeはサーバの回線コストだけで月間100万ドルに達すると言われていたためサービス開始からしばらくはどういった部分で収益を上げていくかが注目されていたが、同年10月に入るとGoogleに買収されるのではないかとの報道が入り（ちなみにYouTubeは主にGoogle AdSenseの広告を利用していた）10月9日にGoogleが16億5000万ドルで買収に同意したとの発表を行った。この買収について一般ユーザーからアップロードされた動画に対し厳しい規制が取られてしまうのではという危惧が持たれていたが、ハーリーCEOはこれに対し「YouTubeはGoogleに買収されたが、今後もYouTubeとしたブランドで独立したサービスを提供し続ける」と述べた。またGoogle側もYouTubeの類似サービスであるGoogle Videoは続行してサービスを提供すると述べ、Google Videoの検索窓を通じてYouTube内の動画を検索するサービスを開始した。また動画の違法投稿をしないよう呼びかける文を英語ではなく日本語で表示することを約束し、2007年2月頃から表示が始まった。

2008年1月4日にBS11で放送されたテレブリッドで日本版の関係者が初めてテレビに登場した。

大画面テレビでの視聴向け（家庭用ゲーム機含む）の「YouTube XL」（終了）や「YouTube Leanback」も公開されている。

[会員登録]

ほとんどの動画は会員登録をしなくても閲覧できるが、会員しか見ることができない動画もある。

会員登録すると主に以下のサービスを利用できる。

自分の「チャンネル」ができ、自由にカスタマイズできる。ホームページのようなもので、アップロードした動画やお気に入り動画のリストのほか、ユーザーのプロフィール、コメント欄、自分のチャンネルを「登録」した他のユーザーのリストなども表示できる。

基本は容量2GB、長さ15分29秒までの動画ファイルをアップロード、投稿できる。ガイドライン違反がない会員の場合、申請および認証により容量20GB、長さ無制限の動画ファイルをアップロード、投稿できるようになる。なお、過去にガイドライン違反があった会員（投稿した動画が著作権侵害で削除または全世界ブロックされた会員）は容量2GB、長さ15分29秒までの動画ファイルのみであり、この上限を引き上げる申請すらできない。投稿された動画を「評価する」と「評価しない」の2択（以前の仕様では5段階で評価を決められていた）で評価したり、動画やメンバーにコメントを付けられる。

動画をまとめたプレイリストを作成・公開する機能、お気に入り機能がある。

再生履歴、共有動画などの情報から、ユーザーに「おすすめ動画」が表示される。

自分が登録したユーザーがアップロードした動画や「お気に入り」に登録した動画が表示される。

クローズド・キャプション用のファイルを追加することができる。

2010年12月1日までは特定のユーザーで「グループ」を作ることができ、動画を共有できた。

希望者・希望作品は動画作品をスポンサー協賛広告付で収益化できる。この場合、本編の始まる前に動画CMを流すことができる（一部のスポンサーはそれを一定時間映してからスキップして本編を見ることができる）他、バナー（アイコンリンク）での静止画広告も挿入することができる。

ただし、収益化をするにあたっては申請後に審査を受ける必要がある。また収益を受け取るには本人名義の銀行口座と現住所の通知が必要とされている。

YouTube パートナー プログラム

YouTube パートナー プログラムとは、Googleが、YouTubeで動画を配信しているユーザ向けに実施しているプログラムである。YouTube パートナーになることによって、動画再生時に表示される広告表示などで発生する収益の一部を受け取ることができる。

ニコニコ動画

(ニコニコ動画)は、ドワンゴが設立し、子会社であるニワンゴが提供している動画共有サービス。愛称は「ニコ動」、「ニコニコ」。「ニコニコ動画モバイル」として携帯電話端末向けにもサービスを提供している。

事業の拡大につれ、ニコニコ生放送やニコニコ静画など、ニコニコの名を冠し、動画共有サービスの枠を超えた多くの派生サービスが展開されている。従来「ニコニコ動画」という名称はこれらのサービスの総称でもあったが、2012年5月1日に新しい総称であるniconico が発表されて以降、ニコニコ動画は niconico のサービスのひとつである動画共有サイトという位置づけとなっている。2014年10月1日よりドワンゴとKADOKAWAが経営統合し統合持株会社へ運営が移管された。

[概要]

ニコニコ動画は、日本の代表的な動画共有サイトの1つであり、多くのネットカルチャーを生み出している。ニコニコ動画の特徴は、配信される動画の再生時間軸上に対しユーザーがコメントを投稿できる独自のコメント機能であり、その他にもユーザーやアップロード者同士が交流できる機能を数多く備えている。

ほかの動画配信・共有サイトと同様に、配信されている動画の中には著作権者に無断でアップロードされたものもしばしば見られ、ときにそれが問題となる。権利者の訴えにより動画は削除できるが、権利者側が全ての違反動画を把握することは困難である（著作権侵害は、権利者たる「企業」が通報しないと削除されず、ファンなどの個人が「代理」で通報しても、削除されることがない）。しかし、その一方で趣向を凝らして自主制作された動画が高い人気を得るなど、独特のコメントシステムもあいまって、独自の文化を築いている。

2007年度グッドデザイン賞受賞。日本オタク大賞2007オタク大賞受賞。2008年にはアルス・エレクトロニカよりプリ・アルス・エレクトロニカ・デジタルコミュニティ部門荣誉賞を授与されている。

[名称の由来]

2006年12月12日に実験サービスとしてプレオープンサービスが開始、2007年1月15日にβバージョンに移行するとともに、初めて運営元がニワンゴであることが明かされた。実質的な開発や運営はドワンゴが行っている。2007年6月1日にニコニコ普及委員会が発表した「ニコニコ宣言（仮）」において、基本理念が明らかにされている。

「ニコニコ動画」という独特の名称は、サービスの立ち上げ以前に（動画サービスは著作権問題による訴訟が発生していたことから）「カッコいい言葉ではなく、なるべく怒られにくい言いにくい気が抜ける名前」にすることが考えられ、ドワンゴ会長の川上量生の

「明らかにブラックぽいのに、表面だけ取り繕ったようなふざけた名前があるじゃん。ニコニコローンとかニコニコ金融とか。だからニコニコ動画とかさ」という言葉に、西村博之が「それおもしろい! 絶対それ!」と同意したことから決定したという。

「利用者数」

一般会員登録者数が約3215万人、有料会員は約200万人、モバイル会員は623万人（2013年6月現在）。ただし、アカウントはメールアドレスごとに発行されるため、1人で一般会員のアカウントを複数持つことは容易である（プレミアム会員用のアカウントを複数持つことも不可能ではないが、費用面の都合上、あまり現実的ではない）。

サービス開始から1年に満たない2007年11月の時点で、すでに日本全体のトラフィックの約12分の1を占めていたといわれており、その急成長ぶりが窺える。

この急成長に対応するため、ユーザー登録制を導入した当初は、負荷対策のためにサイトに常時アクセスできるユーザー数をID番号によって制限し、サーバ増強に応じて少しずつその制限を緩和してきた。土日祝日のアクセス増などによる負荷対策など、場合によっては一時的に常時アクセス可能なID数を減らす対策がとられることもあった（規制中でも、ニワニュース読者限定で配布された特別なIDを持つ5000名に関しては、常時アクセスが可能となっていた）。現在では、全てのIDで常時ログイン・動画の視聴ができる。

しかし、一方では音楽・映像といったマルチメディアを共有するサイトの性質上、サーバへの負担は尋常ではないことにより、時間帯によっては、動画の検索や閲覧はおろか、サイト内の移動すら困難な状態になってしまう障害が多発する時期もあった。サイトの増強が追いつかなかった原因は「赤字続きによる資金的な問題」という憶測もあったが、2009年4月の公式コラムによると、当時はデータセンターのサーバ設置スペースに限界があり、足りなかったのが原因としている。

2008年7月までに台湾（中国語）・スペイン語・ドイツ語版が公開された一方で、英語版は長らく公開されることがなかった。これは、トラフィックの急増を懸念してのものだったが、2011年4月17日から英語版の「Niconico β」が正式に稼働した。別サイトとして展開されていた台湾版、英語版は2012年10月19日時点で日本版と同一サイトに統一され、全てのページで日本、台湾、アメリカ合衆国の視聴地域、言語の切り替えに対応している。

「プレミアム会員数の推移」

導入 - 2007年6月18日

10万人 - 2007年9月 - 10月

20万人 - 2008年5月24日

30万人 - 2009年3月16日

40万人 - 2009年7月25日

50万人 - 2009年9月19日

60万人 - 2009年12月12日

70万人 - 2010年3月5日

80万人 - 2010年5月14日

90万人 - 2010年8月3日

100万人 - 2010年10月13日

110万人 - 2011年1月[12]

120万人 - 2011年4月

130万人 - 2011年7月12日

150万人 - 2012年1月3日

170万人 - 2012年7月

200万人 - 2013年6月22日

[主な動画]

ニコニコ動画では主にアニメやゲームといったサブカルチャー系の動画が多いが、その他にも幅広い分野の動画が投稿されており、マイナーバンドのPVや深夜番組（特にアニメ番組）などが公開後すぐに投稿されていたり、様々な動画をネタとする動画は勿論のこと、ネタではないスポーツやCM、科学番組の動画が投稿されていたりと、「動画共有サービス」としての成長を見せた。

膨大な数の動画の中で特定の動画が脚光を浴びることが度々ある。多くは一過性の流行であるが、中には継続的な人気となるものもあり、例えば2007年2月上旬には、『新・豪血寺一族-煩悩開放- レッツゴー!陰陽師 PV』『True My Heart』『あいつこそがテニスの王子様』の人気上位動画3つの合計で、わずか一晩で30万回再生・10万コメントを超える「祭り」状態が続いた。さらにその人気から『レッツゴー!陰陽師』と『魔理沙は大変なものを盗んでいきました』のdwango.jpにおける着うた独占配信が始まり広告を掲載した。

N次創作

ニコニコ動画上の動画作品は、ある作品が派生作品（二次創作）を生み出し、さらにそれが次の派生作品（三次創作）を生み、それが連鎖的に繋がっていくという「N次創作」ともいべき現象がみられる。これはニコニコ動画と同じ動画サービスであるYouTubeではみられない傾向である。批評家の濱野智史は、その理由を日本とアメリカ合衆国

（Youtubeはアメリカの会社のサービスである）の同人文化の浸透の度合いの違いだけでは説明として不十分であるとし、その理由を両サービスの「タグ機能」の仕様の違いによって説明する。すなわち、「N次創作」が発生するにはYouTubeのように単に動画が共有財として多数存在するだけでは不十分であり、それらの相互作用を促す触媒的な存在が必要であるとした上で、「淘汰」と「拡散」を促すアーキテクチャとして設計されたニコニコ動画のタグ機能がその触媒として役割を担っているのだと分析している。

[ゲーム]

稼動当初から、特にRPGやアクションゲームのスーパープレイ動画が人気を集めてきた。スーパープレイとは逆に稚拙なプレイ動画やいわゆるクソゲーのプレイ動画（チーターマンなど）がネタ動画として人気を得ることがあるほか、恋愛ゲームのプレイ動画が人気を呼ぶこともあった。近年では一般人によるゲームの実況プレイも人気がある。

『THE IDOLM@STER』のPV風動画も(β)サービス時より同ゲームユーザーからの根強い人気があり、プレイ画面のほか、PVをゲーム以外の様々な音楽に合わせるMADムービーなども大量に投稿されている。同人ゲーム「東方Project」の作品も人気が高く、ゲームの実況だけでなく、ゲーム音楽を基にした二次創作音楽・動画、音楽やキャラクターを使ったMAD動画なども非常に多い。

音楽、空耳

人気を集める音楽としては、一般的なPVムービーのほか、アニメソングや電波ソングが

多く見受けられる。VOCALOIDに様々な音楽を歌わせる動画も人気があり、初音ミクが話題となるきっかけの一つとなった。VOCALOIDのオリジナル曲をプロの作曲家が制作したり、そのオリジナル曲をプロの歌手が歌唱する動画も存在する。また、MikuMikuDanceと呼ばれる3Dで初音ミクを動かせるツールが提供され、やがてVOCALOID以外のキャラクターのモデルデータも制作されるようになり、それらを活用した3D動画が投稿されている。音楽（原曲やアレンジなど）をメドレー方式で聴かせる作品もみられ、ニコニコ動画で話題となった曲を繋ぎ合わせた組曲『ニコニコ動画』は特に人気である。音楽を投稿者自身が歌ってみたいり演奏してみたいりした動画も多く、一定の人気を集める歌手もいる。

またコメント機能で誰でも気軽にネタが書き込めるため、アニメやゲームなどの音楽（『あいつこそがテニスの王子様』、『Nursery Rhyme -ナーサリィ☆ライム- OP』など）や外国曲、日本国外版アニメ（英語版『るろうに剣心-明治剣客浪漫譚-』の「フタエノキワミ、アッー!」など）など、様々な空耳ネタが作られて人気を博している。

その他

「漢字テスト」「タイピング」「アンケート」などといったニコニコ動画の特色であるコメント機能を有効に使った動画も投稿されている。一枚絵をスライドショーのように流す画像集や、イラスト講座的な動画（「描いてみた」など）もある。

動画制作能力の高いユーザーによる巧妙なMADムービーやCMのMADムービーが高い人気を博す一方で、日常風景を映したもの（ペット撮影動画、料理動画、車載動画など）や投稿者本人が何らかの形で出演する動画もある。

他の動画投稿サイトであまり見られないものとしては、企業や個人がプログラムや工作物などを自作し、その過程や完成品を披露するという動画がある。そうした投稿動画は「ニコニコ技術部」のタグを自ら付けるけることが出来、図画工作の延長線的なものから十二分に実用的な「製品」（マウスやPCカバー、動画製作ソフトなど）まで、幅広い投稿に支えられ親しまれている[69]。「ニコニコ技術部」という名称は単なる分類上の便宜的な名称に過ぎないが、2008年4月20日には有志によってオライリー・ジャパン主催の企画展「Make:Tokyo Meeting」（MTM）に出展し、以後もMTMに連続出展するなど、単なる動画の題材を超えた積極的活動も行われている。

2008年5月30日にBSデジタル11ch「BSイレブン」で放送された「テレブリッド」で司会の金剛地武志が生放送中にニコニコ動画用のVTRを作った（6月1日現在「テレブリッド」で検索しても動画は出てこない）。

[コメント機能]

閲覧者は、再生中の動画に対して再生画面上にコメントを書き込むことができる。コメントは、現在再生しているタイミング（時間軸）に対して投稿することができ、それ以降に動画が再生された際は、そのタイミングから画面の右から左に3秒間横切る形で表示される（後述のコマンド機能により画面の上下に字幕のように表示させることも可能）。この独特のコメント機能が、ニコニコ動画の最大の特徴であり特許が出願されている。

コメントの表示タイミングは、書き込まれた現在時刻に関係なく、すべて「動画内の時間軸」で扱われる。そのため、コメント投稿そのものに時間差があっても、動画上では書き込まれた時と同じタイミングで表示される（自分の投稿とそれ以前・以後に書き込まれたコメントが並存する）ことになる。その結果、閲覧者はチャットや掲示板のような時系列

とは異なり実時間を超越して擬似的に時間を共有することができる（運営側はこれを「非同期ライブ」と名づけている）。メディアの分類方法として、情報の送信されるタイミングと受信側に届くタイミングのギャップの有無により「同期型（ギャップなし）」「非同期型（ギャップあり）」に分けるものがあるが、ニコニコ動画のコメントの場合は「実際にはコメントが投稿される時刻とそれが別の利用者に読まれる時刻は異なる（非同期）が、動画の再生時間上では同一のタイミングでそのコメントが投稿される／読まれることになるため同期的であるかのように錯覚する」という意味で、「擬似同期」の性質を持っていると論じられることがある。コメントに時間の概念を導入したことで、ニコニコ動画は従来の動画投稿には無い「利用者同士の一体感」を獲得することに成功している。コメントを駆使して作成したアスキーアートで投稿動画を彩ったり、「歌ってみた」カテゴリ動画に歌詞を表示したりといった職人と呼ばれる存在もある。動画の中でも特に盛り上がる場面では、画面を覆い尽くすほど大量のコメントが一斉に書き込まれることもあり、これらを弹幕と呼ぶ。

コメントは動画上にかぶさって表示されるため、邪魔に感じる場合は「コメント非表示」をチェックすることにより、その動画に関するコメントを非表示にすることができる。標準設定は「表示する」であり、コメント非表示設定は記憶されない（プレイヤー上では「忘れっぽいです」と注意書きされている）。

書き込まれたコメントが一定件数を超えると、古いコメントから順に表示されなくなるが、「マイメモリー」に動画を登録することで、その時点のコメントを保存できる。保存したマイメモリーの閲覧時には、任意のコメントの表示・非表示を設定することも可能である。

（γ）まではコメントに投稿者の名前を付加することができたが、匿名掲示板のような感覚で気軽にコメントするユーザーが大半であったため、ハンドルネームを付加するユーザーはごくわずかであった。そのため、この名前欄は、「ニコニコ動画 (RC)」サービス開始と同時に廃止された。

コマンド機能

通常のコメントは白色の文字が動画上を右から左へと流れていく。コマンド機能を併用することで文字色や文字の大きさ・表示方法などを数種類から選び、その動画の好きな位置に自由にコメントを行うことができる。コマンドはコメント入力欄の左側にあるボックスに入力（「big」「red」「ue」など）し、位置や色といった異なる属性同士であれば併用もできる。一般会員が使える色は8色だが、プレミアム会員（有料会員。詳細は後述）はHTMLカラーコードにより全色使える。

これを応用することで、コメントを利用して動画に字幕をつけることができる。また、コマンドと特殊文字（Unicode）などを複雑に組み合わせでイラストや巨大な文字が作られることもあり、これはアスキーアート (AA) にちなみ「コメントアート」 (CA) と呼ばれる。

[コメントの表示件数]

動画上のコメントは、サービス開始以来に書き込まれた全てのコメントが保存されており、動画の削除や時間の経過、件数によって消えることはない。ただし、一度に表示される件数は動画の長さによって制限されており、それを超えると、古いコメントから順に表示されなくなる。プレミアム会員であれば「過去ログ」機能により、任意の日時を指定することで古いコメントの閲覧が可能である（一度に表示されるコメント数は通常と同じ）。

コメントの最大表示件数は、何度か仕様変更が行われている。

サービス開始当初は、書き込まれたすべてのコメントを表示していた。

2006年12月19日より、表示されるコメントが最新250件までに制限された。

2007年1月5日より、表示されるコメント数が動画の長さで段階的に切り替わるようになった。1つの動画につき、5分未満で最新250件、5分以上10分未満で最新500件、10分以上で最新1000件のコメントまでが表示されるようになった。

2008年2月1日15時より、2分半未満の動画において、表示されるコメントが最新100件までに制限された。この仕様変更については、ユーザーから「厳しすぎる」という意見が多く挙ったため、3日後に緩和されることとなった。

2008年2月4日17時より、コメントが最新100件に制限される動画の長さが1分未満に緩和され、1分以上2分半未満の動画は、これまでの250件に戻された。

2010年12月22日より、表示されるコメントが「1分ごとに最新100件」に変更された。従来の「動画全体で最新〇件」とは異なり、動画の時間軸を1分ごとに区切り、その中でそれぞれの最新100件が取得される。そのため、特定の時間帯にコメントが集中し偏ってしまうことがなくなったうえに、4分、9分といった中途半端な長さの動画や、10分を大幅に超える長い動画でも、一定のコメント密度が保たれるようになった。この仕様変更が行われて以降でも、動画プレイヤー上のメニューで「コメントを減らす」のチェックを入れておくことで、以前と同じ仕様でコメントを取得することが可能である。

2011年2月3日より、新仕様の「1分ごとの最新100件」とそれ以前の仕様「動画全体の最新100 - 1000件」の両方のコメントを混ぜたものが表示されるようになった。これにより、たとえば10分ちょうどの動画では、状況により最大1900件のコメントが表示されるようになり、新仕様で逆に消えていたコメントも全て仕様変更以前通りに表示されるようになった。

[コメントの傾向]

投稿されるコメントの内容には、インターネット掲示板「2ちゃんねる」でも用いられるスラングがしばしば見られる。サービス開始当初、2ちゃんねるの管理人である西村博之のブログで紹介されたことが利用者大幅増の要因となったことの影響を大きく受けている。

[コメントの削除]

運営者が運営上問題があると判断した場合、コメントの削除が行われる場合がある。悪質なユーザーには、動画の下に設けられた「不適切なコメントを通報する」というリンクから「削除依頼掲示板」にアクセスすることができ、問題のあるコメントの削除を依頼することができる。削除依頼掲示板には原則として、コメント削除などの権限を持った「ひっそり削除人」というハンドルネームのスタッフが常駐しており、早ければ掲示板への書き込みから5分程度の短時間で対処される。また、特定のユーザーへの処分などを要請すれば運営の手によってコメント機能を一時的にあるいは長期的に停止させることができる。この機能は荒らし行為ばかりでなく「死ね」等といった誹謗中傷コメントや不適切なタグにも対応することができる。

また、動画の投稿者は「コメント編集」の権限を持っており、任意のコメントを非表示（事実上の削除）にすることができる。ただし、運営者による削除とは違い、コメントデータに非表示のフラグが立つだけなので、あくまで動画プレイヤー上において非表示になるだけである。そのため、一度非表示にしたコメントを元に戻したり、サーバから受け取る生のテキストデータを見ることで非表示にされたコメントの内容を参照したりすることができる。

[マイリスト機能]

マイリスト機能は、お気に入りの動画などを複数登録してリスト化できる機能である。マ

イリストは、他の利用者に公開することも可能。ブックマークとしての個人利用のほか、動画投稿者が自分の投稿作品をリストアップする目的で公開する使われ方も多い。RSS機能を搭載している。また、閲覧している動画に登録されている公開マイリストを検索する機能や、特定のマイリストが更新された際にメールで通知する機能（メール通知機能は2009年10月1日にサービス終了）もある。

タグ機能・カテゴリ機能

各動画には説明文のほか、タグと呼ばれる動画の内容を指し示す検索用キーワードを10個まで登録することができる。タグの導入により似たような動画を容易に探せるような仕組みになっている。タグは2008年5月より導入された「ニコニコ大百科」と連動しており、そのタグに関する解説や経緯、そのタグをつけられた代表的な動画などを知ることができる。

ニコニコ動画では動画投稿者だけではなく閲覧者も自由にタグを登録することができるのが特色である。本来は検索機能として用いられるタグだが、動画の内容に絡めたタグ付けやニコニコ特有のタグ付け（「才能の無駄遣い」や「孔明の罠」など）も多く見られ、独自の異彩を放っている。利用の実態としては、検索のための分類というより、その動画の見所をユーザーに教える役割を果たすこともあり、タグ同士でユーザーのコミュニケーションに使われることもあり（会話するタグ）、同じ素材（例えば「歌ってみた」「アイドルマスター」などの人気ジャンルに属する無数のサブジャンル）を扱った動画や同じ投稿者による動画に対して閲覧者の間で自発的にタグが発明され、より深い検索のニーズに答えている側面もある。

しかし、この仕組みが災いし、タグ付けが検索の妨げとなってしまいうメタ・ノイズや、タグを用いた他者の誹謗中傷などの荒らしの発生にしばしばつながってしまう。特に注目を集める動画やランキング上位の動画においては、閲覧者らが自分のふさわしいと信じるタグ付けとタグ削除を相互に争うように行う「タグ戦争」と呼ばれる現象も発生する。これはオンライン百科事典のウィキペディア上で起こる「編集合戦」と類似した現象である。荒らし回避のため、あるいは著作権上問題のある（もしくは規約に抵触するおそれのある）動画が削除されるのを防ぐため、意図的にタグを付けない事もある。情報工学者の伊藤聖修は、有限個（最大10個）のタグしかつけられないがゆえに、時間の経過にしたがってタグ戦争による「淘汰」が起こり、より優秀なタグが生き残るようになるのだと指摘する。濱野智史はタグ戦争の過激化で他の既存の動画にも当該タグがばらまかれ、それら新たなタグを付与された動画に対する解釈の可能性が増大することを指摘している。

閲覧者によるタグ削除（削除荒らしなど）への対処として、動画投稿者の設定により最大5個のタグをユーザーによる削除を不可能にするタグロック機能がある。

特定ワードのタグ（「ゲーム」「エンターテイメント」「料理」「音楽」など）は「カテゴリタグ」と呼ばれ、動画のカテゴリとして扱われる。メインのカテゴリは動画投稿者がそのタグをロックすることのみ設定可能で、カテゴリ別ランキングの集計対象となる。当初はメインカテゴリ1つのみ登録可能だったが、「アイドルマスター」「東方」「VOCALOID」などのカテゴリが新設された際に、「アイドルマスター」「ゲーム」や「VOCALOID」「音楽」など、従来行われていたタグの組み合わせ登録が不可能となってしまったため、検索専用としてサブのカテゴリタグを最大2つ指定可能となり、合計3つのカテゴリタグを登録できるようになった。

動画のタグは、「続き→sm123456」のように、しばしばユーザーが他の動画へ案内するの

にも用いられる。このような動画IDを含むタグをクリックした場合、タグの検索ページにその動画へのリンクが「もしかして」として表示される機能も備わっている。

また、タグは各言語版それぞれに異なるものを持っており、日本語版から見た海外版のタグを「海外タグ」と呼ぶ。他言語版のサイトが出来た当初は海外タグの閲覧も可能だったが、現在は日本語版からの閲覧は出来ない仕様になっている（ニコニコ大百科の動画記事ページ、およびそのほかの言語間では閲覧可能）。他言語版のタグはその言語のサイトにアクセスしない限り編集出来ない。

検索機能

検索機能では、動画につけられているタイトルや説明文中のキーワード、およびタグを元に動画の検索ができる。検索結果は投稿日時、再生回数、最新コメント日時などのそれぞれで昇順、降順にソートすることが可能である。（夏）バージョンまでは、「きまぐれ検索」というニコニコ動画に登録されている動画を任意に抽出して検索する機能もあった。

ランキング機能

毎時/デイリー/週間/月間/合計の5つの期間のマイリスト登録人数、再生回数およびコメント数のそれぞれでランキングがつけられており、人気のある動画が一目で分かるようになっている。毎時ランキングは前の1時間の、デイリーは前日の、週間は前週、月間は前月、合計ランキングについては動画が投稿されてからのマイリスト登録人数、再生数、コメント数でランク付けされる。カテゴリ（音楽、エンターテインメント、アニメ、ゲームなど）ごとのランキングでは毎時ランキングがなかったが、2014年9月現在はすべてのカテゴリで毎時ランキングが利用できる。リロードを繰り返すことでランキング上位を狙うユーザーが多く見られるようになったため、一時的に再生数を基準にしたランキングを除外した時期もあったが、現在は再び利用可能になっている。

ニコニコ市場

ニコニコ市場（いちば）は、ニコニコ動画独自のサイト内広告であり、2007年7月12日より開始された。Amazon.co.jpやYahoo! ショッピングなどの商品、およびドワンゴの携帯電話向けコンテンツを動画の下のスペースに表示するだけのものであるが、最大の特長は、動画閲覧者が、動画に関連する商品を自由に市場に登録できることである。また、「動画ごと、およびニコニコ市場全体で商品をクリックした人数」「ニコニコ市場から商品を購入した人数」が表示されており、「この動画を見た人がこの商品を購入した」ことが分かるのも特長である。

単純に関連のある商品のみならず、ウケ狙いで商品が登録される（例：歌詞の空耳「ごま

えー」→胡麻和えの素）こともあり、しばしばコメント欄に、市場に登録されている商品

や、実際に買った人への反応が投稿されることもある。さらに、商品から関連する動画を検索することも可能である。これにより、「広告の存在感」を大幅に向上させることに成功している。もともと2ちゃんねるのまとめブログなどで行われていた、広告を記事のオ

チとしてネタにする、「アマゾン芸」と呼ばれる文化をうまく発展させ取り込んだシステムと言える。

市場には、Amazon.co.jpやYahoo! ショッピングなどの商品を最大10個まで、dwango.jpの携帯電話向けコンテンツを最大3個まで登録できる。そのうち5個までは商品のサムネイルが表示される。

また、市場が15個全て同じ商品で登録されると「市場制圧」というタグがつけられることがある。

当初はAmazon.co.jpの商品のみサポートしており、さらにAmazon.co.jp側への負荷を軽減するため、プレミアム会員のみサービスであったが、2007年7月14日より誰でも商品を登録できるようになり（ただし他人が登録した商品を削除できるのはプレミアム会員のみ）、後日にはdwango.jpの携帯コンテンツの対応を開始、2008年5月9日からはYahoo! ショッピングへの対応を開始した。

2009年2月14日に開設された専用のショッピングサイト「ニコニコ直販」の商品も登録可能。ここではニコニコ動画に関連するグッズやfigma「ビリー・ヘリントン」やねんどろいど「博麗霊夢」といった流通が限定された商品の購入が可能である。ニコニコ直販自体はニコニコ動画アカウントを所持していなくても利用できる。

2010年10月28日からはiTunes Storeが新たに追加され、歌手のネット限定配信楽曲などの販売などが可能になった。

[ニコニコプレミアム]

ニコニコ動画を快適に利用できる有料サービス。2007年6月18日の（RC）バージョンと同時に提供を開始した。プレミアム会員は、以下の特典がある。

一般会員の使用できる帯域より大きい帯域幅をサーバーより割り当てられるため、サイトが混雑しても動画を快適に視聴できる。時間帯によってはプレミアムでも重いときがある。（プレミアム会員も自分から動画のURL最後に?lo=1を付け加えるか動画下の「一般回線で視聴」をクリックすることで一般会員用の回線で視聴できる）

一般会員の場合、故意に動画の画質を落とし（エコノミー）再生されるのに対して、プレミアム会員は常時本来の画質のまま視聴できる（一般会員の場合、平日の深夜[91]でない）と高画質の視聴ができない）。

マイリスト、マイメモリーの拡大や過去ログ閲覧機能、プレミアム会員専用コメントカラーの追加などの特典がある。

後述のニコニコ動画モバイルでは、混雑時に動画を視聴する際にプレミアム会員が優先される。

アップロードできる動画のビットレートと解像度が無制限に、容量制限が100MBに上がる（一般会員は600kbps・800x600以内、40MBまで）。

投稿した動画の説明文において、一部のHTMLタグが使用可能になる（改行、色付き、フォントサイズの拡大など）。

動画再生ページを開いた際、再生ボタンを押さなくても自動再生させる設定が可能になる。ニコ割（時報）や冒頭の広告を再生させない設定が可能になる（一般会員の場合、冒頭で10秒以上の広告が強制的に表示されるうえ、スキップすることができない）。

携帯電話向けのニコニコ動画モバイルにおいて、黄色信号（モバイル向けに変換されており、一般会員は閲覧不可）の動画を変換し、青信号（誰でもモバイルで閲覧できる）にすることが可能になる。

ニコニコ市場で、他のユーザーが登録した商品の削除が可能になる。

ニコニコ生放送で、一般会員に割り込む形で視聴席を確保できるうえ、生放送を視聴でき

る会員数の上限がない。

ニコニコ生放送で、ライブカメラなどを用いたユーザー生放送の発信が可能になる。

ニコニコ大百科の記事編集が可能になる。

[一般会員の低画質モード]

無料の一般会員は、一定条件（サーバー負荷や時刻など）で動画の画質を強制的に下げる「低画質モード」になるが、前述通り「平日の深夜」であれば低画質にならない場合もある。

2010年9月現在、低画質モードになる時間帯は、平日が18:00 - 翌2:00、学校の休日・祝日・夏休みや年末・正月の一定期間が12:00 - 翌2:00と、ほぼ終日にわたり低画質となる。

[政治との関わり]

政党・政治家による動画配信

多くの政党や政治家個人がニコニコチャンネルを開設し、動画配信形式での情宣活動を展開している。

政党では民主党・自由民主党・みんなの党・日本維新の会・日本共産党・社会民主党・国民新党・新党日本・幸福実現党が公式チャンネルを開設しており、太陽の党を経て日本維新の会に合流したたちあがれ日本も独自のチャンネルを持っていた。政治家では石破茂・猪瀬直樹・小沢一郎・小池百合子・河野太郎・高橋昭一・田中康夫・原口一博・福島瑞穂・松岡広隆・松沢成文・森喜朗・山本一太らが個人としてチャンネルを開設している。またニコニコ動画側が政党関係者や政治家を招いての討論会・トークショーなどを主催し、その模様を配信する試みも行われている。

政治的傾向

ニコニコ動画では特定の時間に動画を閲覧しているユーザーを対象とした内閣支持率・政党支持率調査を毎月行っているほか、国政選挙の当日に動画を閲覧したユーザーを対象とした「ネット出口調査」と称する投票先調査を実施している。

違反動画の通報項目

以下の項目に該当する動画が「違反」として扱われ、通報すれば削除されることがある。

性的な内容が含まれている

暴力的な内容が含まれている

グロテスクな内容が含まれている

残酷な内容が含まれている

法令に違反する内容が含まれている

保有する権利（著作権、商標権など）が侵害されている（権利者の企業などによる通報のみ有効）

競合する動画共有サイト『YouTube』では違反对象としている「保護対象グループに対する悪意のある表現」（いわゆる差別発言、ヘイトスピーチなど）の動画は違反とみなされず、ほとんど容認されている。

[政治的宣伝動画の配信と検閲]

2007年7月9日に運営により公式コンテンツとしてアップロードされた民主党の小沢一郎代表（当時）提供によるメッセージ動画では、運営側によるコメントの検閲が行われ、コメントの全削除、コメントを行ったユーザーへのコメント送信禁止措置（全ての動画に適

用) やアカウントの剥奪などが運営側によって行われた。誹謗中傷・荒らし行為だけではなく、否定的な発言にもこうした措置が適用されたという声も挙がり、ニコニコ動画上や各種掲示板などで運営側への批判が非常に強まった。

[警察沙汰、補導、逮捕問題]

ニコニコ動画では検閲が追いつかず違法動画投稿、ニコニコ生放送で不適切な配信、コメントでの誹謗中傷が後を絶えないため補導、逮捕事件も起きている。2008年にはニコニコ動画で犯行予告をしたとして埼玉県警が小学4年生を補導する事件があった。2009年には人気ロックバンドの「DIRENGREY」発売前の曲をニコニコ動画にアップロードし著作権法違反で会社員の男を書類送検している。他にもガンダム最新作を無断アップロードし逮捕されたり、40作品以上の映画を無断アップロードして逮捕、人気総合格闘技「UFC」の動画を無断アップロードして逮捕、AKBの曲を無断アップロードして逮捕等の事件が起きた。ニコニコ生放送においても犯行予告した男が逮捕された事件がある。またニコニコ生放送は無法地帯となっており度々常識を越えた行動を取り警察沙汰になるケースや、出会い系化でニコニコ生放送で出会い、未成年者淫行で逮捕される事件も起きている。ロンドンブーツ1号2号の田村淳もツイキャスとニコニコ生放送でプライベート外配信をした際、駐車違反で警察官ともめ警官に暴言を吐いて大騒動になり一部のレギュラー番組を自粛するという事件が起きた。ニコニコ動画で歌手として活動している人が、未成年のファンに手を出し逮捕される事件も起きた。ニコニコ生放送で東京ディズニーランドに許可なく無断で動画配信し迷惑行為をしたとしてガジェット通信の記者が出入り禁止になった。

[ビジネスモデル]

バナー広告および冒頭での広告の表示や、映画配給会社と提携して映画の短編ムービーを流すなどの手法で、広告収入を得ている。2007年11月6日からは時報も広告枠として販売を開始、第1号として同月26日より午前0時の時報にグッドスマイルカンパニー（初音ミクのねんどろいど予約受付開始CM）がスポンサーとなった。

その他、プレミアム会員料やアマゾンアフィリエイト広告による収入も、ニコニコ動画の収入源となっている。なお、アフィリエイト収入は運営者たるニコニコ動画のみで、（プレミアム会員も含めた）投稿者には1銭も還元されていない。これは、金銭として還元した場合に、アフィリエイト収入を目的にスパム的なニコニコ市場書き換えが頻発することを懸念してのことである。

また、投稿された動画で人気があるものを公式コンテンツとして取り込んでいる。ダウンゴでの、『レッツゴー! 陰陽師』の着うたや待ち受け画像の配信、外山恒一の着信ボイス配信がその一例である。

2007年3月時点で黒字経営には至っておらず、親会社のダウンゴは2007年9月期の中間決算においてニコニコ動画への新規設備投資のため営業利益が減少したと発表した。

その後、プレミアム会員と呼ばれる有料会員の獲得や、広告の募集に注力した結果、2009年12月には単月での黒字化を達成した。2010年05月13日の決算発表会で取締役の夏野剛は、2010年1-3月期に初めて黒字化を達成したと発表した。夏野は、「ユーザー投稿型の動画サービスで黒字化というのは、世界でも聞いたことがない。世界初に近いのではと考えている」と語っている。

世界

(せかい、梵: loka-dhaatu、羅: Mundus ムンドゥス、英: World) とは、

(loka-dhaatu) 宇宙の中のひとつの区域で、一仏の教化する領域。例:「三千大千世界

[1] 「娑婆世界」 (仏教用語)

地球上の人間社会のすべて。人間の社会全体。限定された社会ではなく、全ての社会の集合、全人類の社会を指す。地球上の全ての国。万国の意。特定の一国ではなく全ての国々ということ。報道・政治等で多用される用法。例：「世界政治」「世界経済」「世界の歴史」「世界人口」「世界の地理」。類義語に「国際」や「グローバル」。

人の住むところ。

世の中。類義語に「世間」。

同類の者の集まり、またその社会。例：「学者の世界」「役者の世界」「芸術家の世界」特定の文化・文明を共有する人々の社会やそのまとまりを指す。「キリスト教世界」「イスラム世界」。また「第一世界」「第二世界」「第三世界」のように冷戦体制下で見られた陣営ごとの国々のまとまりを指すこともある。

すべての有限な事物や事象の全体。宇宙。

特定の範囲。例：「勝負の世界」

歌舞伎や浄瑠璃で、特定の時代・人物による類型。例：「義経記の世界」。

フィクション文学において、上項の「世界」概念を拡大解釈し、ある生物が活動する社会・空間・天体など。

[概説]

「世界」という言葉には上述のように多義的に用いられている。主として何らかの社会と関連のある空間を意味する多義的な言葉である。人間など命あるものと関連づけられた、社会的、政治的、経済的ないし人文地理的概念として用いられることが多い。

類義語にあたる「社会」では、集団や共同体に焦点が当てられており、縁故等の対人関係までが連想される。「世界」は空間概念としては現代では（人々の活動範囲が広がったため）「地球上の全地域」を意味することが多いが、「地球」は日本語では人類の活動の場という意味合いをあまり含めず、自然科学的側面からみた物体や物理的空間としての用例が多い。

世界、および、世界における人間のありかたについての、まとまった考え方のことを「世界観」と呼んでいる。人生観とも部分的に重なるが、人生観よりも広い範囲を指し、人生観同様、多分に情緒的な評価づけを含んでいる。なお、「世界像」は世界観とは異なり、世界を外から眺めるような態度であり、そこでは、世界はあくまでも知的、客観的な分析の対象である。ただし、世界像はしばしばその時代に応じた検証を受け、伝統的な世界観を突き崩し、新しい世界観の知的基盤となることがある。言い換えれば、世界観とは各時代の各地に住む人びとの生活体験や伝統的な観念を基礎とし、知的体系としての世界像とむすびついて、各人の生き方や行動の指針となる考え方という意味である。

人間界の個人や集団が所属ないし活動する、物理的・社会的・心理的な領域を指して用いられることが多いが、人間以外の生物のそれ、あるいは非生物や抽象的事象の領域等に対して用いられることもある。本稿においては、主に人間界のそれについて述べる。

[語の由来と歴史]

日本語の「世界」は、インドから中国を経て漢語として日本に伝来した来歴を有している。源流となっているサンスクリットはローカダートゥ (*loka-dhaatu*) である。"loka"は、「空間」や「(林の中の)木の無い場所」「空き地」のようなものを意味していた。"dhaatu"は界を意味する。"loka-dhaatu"は仏教用語として用いられた歴史があり、「命あるものが生存し輪廻する空間で、そこにおいて一仏が教えを広める空間」を意味する。

このサンスクリットが漢語訳されたとき「世界」となった。「世」には時間の観念に重きをおいた字であり、「界」は空間に重きをおいた字であり、「世界」とは、時間と空間の両方に配慮した訳語である。ある経典では、東西南北上下が界であり、過去・現在・未来の三世が世である、といった主旨のことが述べられている。

中国においては、当初は仏教用語であった「世界」であったが、詩歌の分野において（特に唐詩において）次第に「世の中」や「世間」といった意味で使用されるようになった。これらの歴史が積み重なった状態で日本にももたらされ、『竹取物語』などでも「世の中」「世間」の意味で「世界」の語が用いられている。

西洋に目を向けてみると、古代ギリシア語では「kosmos」コスモス という言葉が用いられ、この語は《世界》を意味しつつ、《美しい飾り》や《秩序》という意味も備えていた。つまり、《カオス》という概念と対比されつつ、《美しい秩序をそなえた世界》を意味していた。このようにギリシア～西洋においては、世界の概念は、秩序と関連づけられる面がことさら重視されたらしい。『ヨハネによる福音書』においても、「言葉は世（コスモス）にあった。世は言葉によって成ったが、世は言葉を認めなかった」とある。最初の二つの「世」（コスモス）は、神によって創造され神的秩序をそなえた世のことを指しており、3番目の「世」は人間によって秩序を与えられた世間を指している、という。そしてアウグスティヌスはこのくだりに基づいて、mundus（ラテン語で「世界」）を、被造物の全体としての世界と、世俗的な世間としての世界を区別して考えたという。

『世界図屏風』のもととなったマテオ・リッチの『坤輿万国全図』江戸時代になって、当時の世界地図をもとにした『世界図屏風』が広く流布したが、ここにおける「世界」は今日の用例と同じ、「地球」「万国」の意味である。1867年（慶応2年）初版のジェームス・カーティス・ヘボンの『和英語林集成』では、これを踏襲して、地球、万国の意としての「世界」の語がみえる。また、井上哲次郎らの編集による『哲学字彙』（1912）には、world、cosmosの訳語として、「宇宙」とともに「世界」をもあてている。

堺屋太一は、チンギス・ハーンによって「世界」がはじめて意識されるようになったとしている。堺屋によれば、チンギス・ハーン自身が「東洋と西洋は1つ」という世界観をもっており、大量報復思想、信仰の自由とともに「ジンギスカンの三大発明」と呼んでいる。

なお、世界にかかわりの深い用語である「国際化（Internationalization）」は、17世紀ヨーロッパで成立し、その後世界的に拡大した主権国家体制の存在を前提にしている。それに対し、「グローバル化（Globalization）」は政治や文化、経済上の国境にとらわれない動きである。すなわち、前者では国境の役割は依然大きく、たとえば文物が国境を通過することは監視すべきものとされるが、後者ではそもそも監視すべきではなく、秘匿性が重要な価値観のひとつとして考慮されている。国際化あるいはグローバル化の進展によって、各領域、各分野においてトランスナショナルな関係も広がっている。現代においては、経済におけるグローバル化の進展とともに、とくに政治領域における地域化

（Regionalization）の進展も顕著である。なお、歴史的には、地域相互の間の関係を称するのに「域際（Interregional）」の語も多用されてきた。17世紀のオランダは域際貿易や域際交流において重要な役割を果たしてきたといわれる。

[国際機関・組織]

現在活動中の主な国際機関・国際組織・非政府組織。

国際連合 (UN)
国際連合児童基金 (UNICEF)
国際労働機関 (ILO)
国際連合教育科学文化機関 (UNESCO)
国際通貨基金 (IMF)
世界銀行 (WB)
世界保健機関 (WHO)
世界気象機関 (WMO)
国際司法裁判所 (ICJ)
世界貿易機関 (WTO)
経済協力開発機構 (OECD)
国際原子力機関 (IAEA)
国際連合世界食糧計画 (WFP)
G8 (主要国首脳会議)
G20 (20ヶ国・地域首脳会合および20ヶ国・地域財務大臣・中央銀行総裁会議)
欧州連合 (EU)
欧州評議会 (CE)
欧州安全保障協力機構 (OSCE)
北大西洋条約機構 (NATO)
アジア太平洋経済協力 (APEC)
石油輸出国機構 (OPEC)
アラブ石油輸出国機構 (OAPEC)
アフリカ連合 (AU)
アラブ連盟 (AL)
イスラム諸国会議機構 (OIC)
東南アジア諸国連合 (ASEAN)
独立国家共同体 (CIS)
イギリス連邦 (UK)
朝鮮半島エネルギー開発機構 (KEDO)
米州機構 (OAS)
南アジア地域協力連合 (SAARC)
中部アフリカ諸国経済共同体 (CEEAC)
中部アフリカ経済通貨共同体 (CEMAC)
南部アフリカ開発共同体 (SADC)
インド洋地域協力会議
NGO (非政府組織) [編集]
赤十字社・国際赤十字赤新月社連盟・赤十字国際委員会
国際標準化機構
アムネスティ・インターナショナル
国境なき医師団
地雷禁止国際キャンペーン
難民を助ける会
グリーンピース

国際連合

活動開始 1945年10月24日

本部 アメリカ合衆国の旗アメリカ合衆国ニューヨーク市マンハッタン

活動地域 加盟国：世界193か国

公式サイト <http://www.un.org/>

コモンズ [United Nations](#)

国際連合（こくさいれんごう、英語: **United Nations**、略称は国連（こくれん）、UN）は、国際連合憲章の下、1945年に設立された国際組織である。主たる活動目的は国際平和の維持（安全保障）、そして経済や社会などに関する国際協力の実現である。なお、英語表記の「**United Nations**」は第二次世界大戦中の枢軸国に対していた連合国が自陣営を指す言葉として使用していたものが、継続して使用されたものであるが、日本語においては戦時中の連合国と区別して「国際連合」と呼ばれる。

2011年7月現在の加盟国は193か国であり、現在国際社会に存在する国際組織の中で最も広範・一般的な権限と、普遍性を有する組織である。

[概要]

加盟国

国際連合は、第二次世界大戦を防ぐことができなかった国際連盟（1919年-1946年）の反省を踏まえ、アメリカ合衆国、イギリス、ソビエト連邦、中華民国などの第二次世界大戦における連合国(the united nations)が中心となって設立した。1945年4月から6月にかけてアメリカ・サンフランシスコで開かれたサンフランシスコ会議で国連憲章が署名され、同年10月24日に正式に発足した。

発足時の原加盟国はイギリス帝国やソビエト連邦の構成国であった一部の国を含めた51か国であった。2011年7月現在、国際連合の加盟国数は193か国で、世界のほとんど全地域を網羅している。最も新しい加盟国は、南スーダン（2011年7月14日加盟）である。

国連の目的は、次の三つである（国連憲章1条）。

- ・ 国際平和・安全の維持
- ・ 諸国間の友好関係の発展
- ・ 経済的・社会的・文化的・人道的な国際問題の解決のため、および人権・基本的自由の助長のための国際協力

ニューヨークにある国連本部。

これらの目的を達成するため、総会、安全保障理事会、経済社会理事会、信託統治理事会、国際司法裁判所、事務局という6つの主要機関と、多くの附属機関・補助機関が置かれている。加えて、数多くの専門機関・関連機関が国連と連携して活動しており、全体として巨大かつ複雑な国連システム（国連ファミリー）を形成している。

国際連合の本部は、アメリカ合衆国のニューヨーク・マンハッタン島にある。本部ビルは、オスカー・ニーマイヤーを中心とした建築家国際委員会が設計したが、現在老朽化しており、新館を建築家・槇文彦が設計予定である（ただし、国際連合の資金難により計画は滞っている）。そのほか、ジュネーヴなど世界各地に事務所が置かれている。

国際連盟との間には法的な継続性がないものの、国際司法裁判所や国際労働機関(ILO)等の機関を連盟から引き継いでいる。また、旧連盟本部施設も連盟から移管されていて、部

分的には継続した組織といえる。

[歴史]

設立に至る経緯

公称では、国連の前身は国際連盟である。国際連盟は、1919年、国際協力を促進し、平和と安寧を完成することを目的として設立された。しかし、アメリカが参加せず、ソビエト連邦も1934年まで加盟せず、一方、日本、ドイツ、イタリアが脱退するなど、有力国の参加を欠いたこともあって、十分な力を発揮することができず、第二次世界大戦を防ぐことができなかった。

1941年8月、カナダ東海岸ニューファンドランド島沖のプリンス・オブ・ウェールズの艦上で、アメリカのフランクリン・ルーズベルト大統領とイギリスのウィンストン・チャーチル首相が会談し、大西洋憲章を提唱した。そこでは、第二次世界大戦後の世界に国際連盟に代わる国際平和機構を創設するとの構想が、抽象的にではあるが既に示されていた。

その後、コーデル・ハル国務長官率いるアメリカ国務省の内部で、戦後国際機構の構想が急速に進んだ。サムナー・ウェルズ国務次官の下に国際機構小委員会が設置され、1942年10月作業を開始して1943年3月には「国際機構憲章草案 (英語: Draft Constitution of International Organization)」がほぼ完成していた。ハル長官がこれを練り直して、同年8月「国際連合憲章 (英語: The Charter of the United Nations) 草案」を完成させた。同年7月、イギリスもヨーロッパの安全保障に力点を置いた構想を策定してアメリカに提示したが、アメリカの案は、より世界的な機構とし、安全保障だけでなく経済社会問題も扱うべきだとの考えに基づいたものであった。そして、同年8月にケベックで米英首脳会談が開かれたが、その時点で、米英ソ中の4国が「すべての国の主権平等に基礎を置き、大国小国を問わずすべての国の加盟のために開放される、国際の平和と安全の維持のための一般的国際機構」を創設する必要があるとの、後のモスクワ宣言の草案が既に作成されていた。

1943年10月にモスクワで開かれたアメリカ、イギリス、ソ連による外相会議で「一般的安全保障に関する4か国宣言」が出され、ほぼ草案どおりの文言で、第二次世界大戦後に国際的な平和機構を再建する必要性が訴えられた。こうして、アメリカ案に沿った国際機構の創設が連合側として公式に示されることになった。同年のカイロ宣言（米英中）、テヘラン宣言（米英ソ）でも、米英ソ中の4大国が「世界の警察官」（「四人の警察官」と呼ぶ事もある。）としての役割を果たすことが合意された。

これを受けて、1944年8月～10月、ワシントンD.C.のジョージタウンにあるダンバートン・オークス・ガーデンにおいて、アメリカ合衆国、イギリス、ソビエト連邦、中華民国の代表が会議を開き、国際連合憲章の原案（「一般的国際機構設立に関する提案」）を作成した（ダンバートン・オークス会議）。ここでは、加盟国全部を含む総会と、大国中心に構成される安全保障理事会の二つを主体とする普遍的国際機構を作ることが合意された。

その後、安保理常任理事国の拒否権をどの範囲で認めるかについて、米英とソ連との交渉が続いたが、1945年2月に開催されたヤルタ会談において、大国の拒否権は実質事項のみで、手続事項には適用されないこと、紛争の平和的解決が試みられている間は当事国は表決に加わらないとの妥協が成立した。すなわち、米英ソ中に、イギリスの希望によりフランスを加えた5か国が拒否権を有する安保理常任理事国となるという「5大国一致の原則」が合意された。

サンフランシスコ会議の様。

1945年4月25日から6月26日にかけて、日本またはドイツ（なお同国は会議中の5月7日に降伏した）に宣戦している連合50か国の代表がサンフランシスコに集まり、国際連合設立のためのサンフランシスコ会議を開いた。ダンバートン・オークス会議で作成された憲章原案に基づき審議が行われ、6月26日、50か国が国際連合憲章に署名して会議は集結した。ポーランドは会議に代表を送っていなかったが、その後国連憲章に署名し、原加盟国51か国の一つとなった。そして、アメリカ、イギリス、フランス、ソ連、中華民国およびその他の署名国の過半数が批准した1945年10月24日に、国際連合が正式に発足した。10月24日は国連デーとして各国で記念されている。

名称

「the united nations」（連合）という言葉が初めて用いられたのは、第二次世界大戦中、日独伊の枢軸国と対戦していた26か国がワシントンD.C.に集まり、1942年1月1日、枢軸国への対決を明らかにした「連合共同宣言（ワシントン宣言）」においてである。この名称は、前日の1941年12月31日、ルーズベルト米大統領がチャーチル英首相に提案して同意を得たとされる。戦後の国際的な平和組織の名称としては、前述のとおり1943年8月に作成されたアメリカ国務省の案の中で既に使用されていたが、その後、連合側側の構想の中で使用されるようになった。一方のソ連は「世界連邦」という名称を提案していた。国際連合の設立に尽力したルーズベルト大統領は、サンフランシスコ会議開幕直前である1945年4月12日に死去した。会議では、「United Nations」という英語は複数形であり国際機構を意味するものとしては不適當ではないかとの意見もあったが、彼に対する敬意を表してこの名称を採用することが合意された。しばらくは文法上の理由からUnited Nations Organization (UNO)という名称も使われたが、次第に使われなくなった。

一方、フランス語では「機構」を示す「Organisation」を付してOrganisation des Nations uniesから、「ONU」との略称を用いている。スペイン語も同様である（Organización de las Naciones Unidas）。ドイツとイタリアでは「連合」と直訳している。

日本においては、戦争中の国家連合の名称としては「連合」、国際機構に対しては「国際連合」との訳語が一般に用いられてきた。後者を軍事同盟の連合と区別するために「国際連合」と意識したのは外務官僚であるとされる。ただし、連合側も日本の占領時には連合について"the Allied Powers"と表記しており、"the United Nations"という用語を軍事的な意味で継続して使用する意思はなかった。1944年（昭和19年）10月にダンバートン・オークス会議で発表された「国際連合憲章の原案（「一般的国際機構設立に関する提案）」を同年12月に外務省が翻訳した際には、既に「国際連合」という訳語が用いられており、その後も国際機構を指す言葉としては戦中から戦後、現在に至るまで使用されている。朝日新聞は、駐英大使の森治樹が名付け親だとする話を報じている。

日本と同様に漢字を使用している中華民国や中華人民共和国では「聯合國／联合国」（戦前の諸国連合の名称としては「盟國」）が主に用いられている。「第二次世界大戦の連合」については「同盟國」と訳されている。大韓民国では、日本と同じく「國際聯合（국제연합）」であるが、英音短縮であるUN（「ユーエン」と発音、表記は「유엔」）が用いられる場合が一般的である。

[設立後の歴史]

1946年から1953年までの間、初代事務総長を務めたのはトリグブ・リー（ノルウェー出身）であった。その任期中にはパレスチナ問題が顕在化し、1947年11月29日の総会でパレ

スチナ分割決議がなされたが、翌1948年から第一次中東戦争に至った。国際連合休戦監視機構 (UNTSO) が派遣され、事実上初の国連平和維持活動 (PKO) となった。また1950年には朝鮮戦争が勃発し、安全保障理事会でのソ連不在の間に米国を中心に「国連軍」が派遣される事態となった。国連の目指した集団安全保障は、東西冷戦のはざままで、機能不全に陥った。一方、1948年に世界人権宣言が総会で採択され、1951年には難民条約が採択されて国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) が発足するなど、安全保障以外の面での活動も始まっていった。

1953年から1961年までの第2代事務総長ダグ・ハマーショルド (スウェーデン出身) の任期中にも、パレスチナ問題は再燃し、1956年の停戦違反を機にスエズ危機 (第二次中東戦争) に至った。安保理は英仏の拒否権により機能停止に陥ったが、事務総長のリーダーシップにより、総会決議に基づいて第一次国連緊急軍 (UNEF I) が派遣され、これが初の正式なPKOとなった。他方、1953年のアイゼンハワー米大統領による国連総会での平和のための原子力演説を契機として、1957年国際原子力機関 (IAEA) が発足した。1956年には、日本も国連加盟を果たした。ハマーショルド事務総長の手腕はソ連圏を除く加盟国から絶大な信頼を得、1958年のレバノン事件、タイとカンボジアの紛争、ラオス問題などで緊張緩和に努め、「国連のプレゼンス」という言葉が国際外交で常用語となった。1960年のコンゴ動乱ではPKOとして国連コンゴ活動が展開され、事務総長も調停に努めたが、1961年9月、事務総長は任務遂行中に北ローデシア (現ザンビア) の飛行機事故で死亡した。

1961年から1971年まで第3代事務総長を務めたのはウ・タント (ビルマ出身) である。これに先立つ1960年の植民地独立付与宣言 (総会決議) に象徴されるように、1960年代には多くの植民地が独立を果たし、次々と国連に加盟した。1961年、第1回非同盟諸国会議が開かれ、米ソいずれの陣営にも属しない非同盟諸国が国連の多数派として出現し、1965年には加盟国の約7割に達した。1964年、第1回国連貿易開発会議 (UNCTAD) が開かれ、そこで途上国による77ヶ国グループ (G77) が結成された。77ヶ国グループは、その後も構成国を増やし、国連での投票等で一致した行動をとることによって先進国に対抗する大きな力を有するに至っている。ウ・タント事務総長も、非同盟主義に共鳴する立場から、冷戦下において共産主義と西欧民主主義の双方が持つイデオロギー性を批判し、ベトナム戦争をめぐってリンドン・ジョンソン米大統領と距離を置くとともに、途上国の開発の問題を訴えた。なおベトナム戦争と中ソ対立のさなかで、常任理事国である中華民国が追放され、同国と対立する中華人民共和国が代わりに加盟する。また、彼の任期中には、1963年に初の核軍縮条約である部分的核実験禁止条約 (PTBT) が署名され (同年発効)、1968年に核不拡散条約 (NPT) が総会で採択される (1970年発効) など、核軍縮への取組みも始まった。1972年から1981年までの第4代事務総長クルト・ヴァルトハイム (オーストリア出身) の任期中には、1973年の第四次中東戦争とそれに対する第二次国連緊急軍 (UNEF II) の派遣、キプロス問題の再燃などがあった。また、社会経済開発分野では、1972年、ストックホルムで国連人間環境会議が開かれ、国連環境計画 (UNEP) が設立されるなど、国連は新しい任務を負うこととなった。南北問題も深刻化し、石油輸出国機構 (OPEC) による石油禁輸 (オイルショック)、1974年の国連資源特別総会の開催に見られるように資源ナショナリズムが高揚した。1981年のカンクンでの南北サミットでは事務総長の努力にもかかわらず南北関係が好転しなかった。

1982年から1991年までの第5代事務総長ハビエル・デクエヤル (ペルー出身) の任期中には、イラン・イラク戦争、アフガニスタン紛争、ナミビア内戦、アンゴラ内戦などがあり、国連のあっせん・仲介で停戦など一定の成果が上がった。1990年代に入ると、冷戦の終結

に伴って、安保理の平和維持機能が復活し、1991年の湾岸戦争では安保理の武力行使容認決議に基づき多国籍軍が派遣された。

1992年から1996年までの第6代事務総長ブトロス・ガリ（エジプト出身）の任期中には、カンボジア、ソマリア、ルワンダ、ボスニア（旧ユーゴスラビア）、モザンビークなどに次々PKOが派遣され、ガリ事務総長が1992年の『平和への課題』と題する報告書で訴えたとおり、PKOに平和執行部隊としての機能も期待された。しかし、一定の成果を上げたカンボジアやモザンビークと異なり、ソマリア、ルワンダ、ボスニアではPKOは十分な役割を果たすことができなかった。社会経済開発の分野では、1992年、リオデジャネイロで環境と開発に関する国際連合会議（地球サミット）が開かれ、「持続可能な開発」の理念が普及した。1994年、国連開発計画 (UNDP) が年次報告書で「人間の安全保障」という理念を提唱した。

[ノーベル賞]

受賞年：2001年

受賞部門：ノーベル平和賞

受賞理由：より良く組織され、より平和な世界のための取り組み

1997年から2006年まで第7代事務総長を務めたコフィー・アナン（ガーナ出身）は、国連の行政改革に取り組み、縦割りを是正するため執行委員会の設置などを行った。彼の任期中には、1998年に国際刑事裁判所 (ICC) 設立のためのローマ規程が採択されたり（2003年発足）、2000年のミレニアム記念総会で途上国の開発目標などを定める国連ミレニアム宣言が採択されたりした。2001年、国連はアナン事務総長とともにノーベル平和賞を受賞した。もともと、イラク民衆救済のための石油食料交換プログラム（1995年-2003年）に関し、国連事務局幹部の不祥事が後に発覚し、アナンの息子が勤めていた会社と国連との不透明な関係も指摘されるなど、事務総長自身の廉潔性も問われることとなった。安全保障理事会の承認がない対外的な軍事力の行使は常に批判されるが、安全保障理事会の常任理事国であるアメリカ、イギリス、フランス、ロシア、中国の五大国の軍事力の行使は、国際社会や国際連合はそれを抑止する力がないので、だれにも抑止できない状態である。2007年、第8代事務総長潘基文（韓国出身）が就任した。就任後露骨に出身国寄りの言動を取る潘に対しては、その手腕を含めて批判も多い。

[組織]

国際連合は、6つの主要機関と、その下に置かれた付属機関・補助機関から成る。また、国際連合と連携関係を持ち、独立した専門機関、関連機関もある。こうした諸機関を総称して国連システム（国連ファミリー）という。

[主要機関]

国連憲章は、国連の主要機関として、総会、安全保障理事会、経済社会理事会、信託統治理事会、国際司法裁判所、事務局の6つの主要機関を設けている[39]。

[総会]

総会は、全加盟国で構成され、国連の関与するすべての問題を討議する。各国が1票の表決権を有し、重要問題については3分の2、一般問題については過半数で決する多数決制が取られている。総会の決議は加盟国または安全保障理事会に対する勧告をすることができるにとどまり、法的拘束力を持たない。しかし、重要な国際問題に対する世界の世論を示

すものであり、国際社会の道徳的な権威を備えている。

総会の通常会期は、毎年9月第3週目の火曜日に始まり、翌年の9月上旬まで続く。議長は、会期ごとに、5つの地域グループから持ち回りで選ばれる。会期の始めには、全体会議（プレナリー）が開かれ、そこで各国の国家元首・政府の長による一般討論が行われる。その後、ほとんどの議題は分野別に次の6つの主要委員会で審議される。全体会議は決議・決定を採択した後、12月に休会に入るが、主要委員会や他の下位機関での活動は様々な形で翌年の7月ころまで続く。

第1委員会：軍縮と国際安全保障

第2委員会：経済と金融

第3委員会：社会、人道と文化

第4委員会：特別政治問題と非植民地化

第5委員会：行政と予算

第6委員会：法律

[安全保障理事会]

安全保障理事会（安保理）は、国連において国際の平和と安全に主要な責任を負う機関である。15か国で構成され、アメリカ合衆国、イギリス、フランス、ロシア（1991年まではソビエト連邦）、中華人民共和国（1971年までは中華民国）の5か国が常任理事国、それ以外の10か国は総会で2年の任期で選ばれる非常任理事国である。

各理事国は1票を有し、手続事項に関する決定は15理事国のうち少なくとも9理事国の賛成投票によって行われるが、実質事項に関する決定は、5常任理事国の同意投票を含む9理事国の賛成投票によって行われる（国連憲章27条）。すなわち、常任理事国の1か国でも反対投票を投じれば決議は否決されるため、常任理事国は拒否権を有していることになる。常任理事国の拒否権行使により、安全保障理事会は国際社会の平和の維持や回復のためには機能していない。すべての国連加盟国は、安保理の決定を受諾・履行することに同意しており（憲章25条）、国連の中でこのように履行義務を伴う決定をなし得るのは安保理のみである（総会等の決議は勧告的効力にとどまる）。なお、安保理の構成や拒否権の扱いについては改革の議論がなされている（後出国際連合改革）。

平和への脅威が生じると、安保理は、通常、平和的手段による合意を当事者に勧告する。自ら調査・仲介を行ったり、使節団を派遣したり、特別代表を任命したり、事務総長にあっせんを要請したりすることもある。紛争が激化すると、戦闘の拡大を防ぐため停戦命令を発することがある。さらに、平和維持軍を派遣したり、国連憲章第7章に基づき、経済制裁、武器禁輸、渡航禁止、集団的軍事行動などの強制措置を発動することもあり、安保理の重要な権限の一つである（後出平和と安全の維持）。

安全保障理事会の目的は国際社会の平和の維持と回復なのだが、国際連合設立後の現実としては、安全保障理事会の常任理事国である、アメリカ合衆国、イギリス、フランス、ロシア連邦、中華人民共和国の五大国と、アメリカ合衆国が常に擁護しているイスラエルの六国こそが、世界における軍事力行使の大部分を行っていて、安全の保障に反して軍事力が行使されている。

安保理の補助機関として、人道に対する罪を訴追するために設けられた旧ユーゴスラビア国際刑事裁判所(ICTY)、ルワンダ国際刑事裁判所(ICTR)、またアメリカ同時多発テロ事件を受けて設けられた反テロリズム委員会がある。

[経済社会理事会]

経済社会理事会（経社理、ECOSOC）は、経済・社会・文化・教育・保健の分野で、専門機関等を含む国連ファミリーの活動を調整するために設置された機関である。54か国で構成され、理事国は3年の任期で総会で選ばれる。各国が1票を有し、決定は過半数で行われる。

経社理は、年間を通じて多くの準備会議、円卓会議、市民社会メンバーとのパネル・ディスカッションなどを開催するほか、毎年7月、ニューヨークとジュネーヴで交互に4週間の実質的な会期を開く。もっとも、経済社会分野の実質的な活動は、諸計画・基金、専門機関、関連機関によって担われており、これらの機関は経社理に報告を行ったり、勧告を行ったりする。経社理のあり方については、形骸化しており決定に実効性がない、総会討議と重複している、世界銀行グループのような専門機関に対する指導力がないといった批判がある。

また、経社理は、資格を有する非政府組織(NGO)と協議をすることができる（国連憲章71条）。2870以上のNGOが経社理と協議する地位を与えられている。NGOは特別の経験や専門知識を持ち、国連と市民社会とを結びつける貴重な存在であると考えられており、国連と提携NGOとの関係は、時代の進展とともに増大している。

[信託統治理事会]

信託統治理事会は、未独立の信託統治地域が自治・独立に向けた準備をすることができるようにすることを目的に設立された。1994年までに、すべての信託統治地域が自治または独立を達成したことから、その任務をほぼ完了したとして活動を停止した。

[国際司法裁判所]

国際司法裁判所(ICJ)は、国連の主要な司法機関である（国連憲章92条）。所在地はオランダのハーグである。15名の裁判官で構成され、そのうちのいずれの2人も同一の国籍であってはならない（国際司法裁判所規程3条）。実際には、西欧・北米5名、東欧2名、中南米2名、アジア3名、アフリカ3名という地理的配分の原則がとられている。任期は9年で、3年ごとに5名が改選される（規程13条）。

すべての国連加盟国は自動的に国際司法裁判所規程の当事国となり（憲章93条）、ICJは同規程当事国のすべてに開放されている。国際組織や個人は当事者となることができない。もっとも、ICJが事案を審理し、判決を下すのに必要な管轄権を有するためには、当事国の同意がなければならない（規程36条）。判決は、出席した裁判官の過半数により決定される（規程55条）。判決は、当該紛争の当事国間において、かつ当該事件についてのみ拘束力を持つ（規程59条）。当事国は判決に従う義務がある。国際司法裁判所は判決を執行する能力が無いので、当事国の政府が判決に従わなければ、判決は履行されない。

そのほか、総会と安保理、また総会の許可を受けたその他の国連機関（経社理およびほとんどの専門機関など）は、いかなる法律問題についても、ICJに勧告的意見を求めることができる（憲章96条、規程65条）。国家は勧告的意見を求めることはできない。勧告的意見は、国連憲章の解釈や権限の行使の適法性などについて述べられるものが多い。勧告的意見は法的拘束力がないので、紛争を解決できた実績はない。

[事務局]

事務局は、国連の日常業務を遂行する機関であり、他の主要機関に役務を提供するとともに、それらの機関が決定した計画・政策を実施する。事務総長が統括する。1年以上の契約を持つ事務局職員は約2万5530人、短期契約職員は約3万0500人である。事務総長および事務局職員は、いかなる国の政府からも、国連以外のいかなる当局からも指示を受けない（国連憲章100条）。

事務総長は、国連の行政職員の長であるとともに（国連憲章97条）、総会、安保理、経社理、信託統治理事会から委託される任務を遂行する（同98条）。また、国際の平和・安全の維持への脅威について、安保理の注意を促すことができる権限が与えられている（同99条）。事務総長が公的または私的に行う国際紛争の「あっせん」は、最も重要な役割の一つであり、キプロス、東ティモール、イラク、リビア、中東、ナイジェリア、西サハラなどの紛争に際して行われてきた。

国連事務局には次のような部局が置かれている。

事務総長室(OSG)

内部監査部(OIOS)

法務部(OLA)

政治局(DPA)

軍縮部(DDA)

平和維持活動局(DPKO)

フィールド支援局(DFS)

人道問題調整事務所(OCHA)

経済社会局(DESA)

総会・会議管理局(DGACM)

広報局(DPI)

管理局(DM)

安全保安局(DSS)

後発開発途上国、内陸開発途上国、

小島嶼開発途上国担当上級代表事務所(UN-OHR-LLS)

国連の本部ビルはニューヨークにあるが、世界各地に事務所があり、その中で中心的な役割を担うのはジュネーブ事務局(UNOG)、ウィーン事務局(UNOV)、ナイロビ事務局(UNON)である。

[諸計画・基金]

国連システムには、次のような計画・基金が含まれる。これらは国連憲章7条2に基づいて設置された総会の補助機関であるが、それぞれ個別の予算を持っている。1960年代から1970年代にかけて第三世界から多数加盟した国々が総会で多数派となった結果、総会決議によりUNDPをはじめとする開発関係の補助機関が設置された（そのうちUNIDOなど、いくつかは専門機関に移行した）。他の国連機関と活動内容が重複するものもあるが、統廃合は進んでいない。

国際連合貿易開発会議(UNCTAD)

国連薬物犯罪事務所(UNODC)

国際連合環境計画(UNEP)

国連児童基金(UNICEF)

国際連合開発計画(UNDP)

国連人口基金(UNFPA)

国際連合難民高等弁務官事務所(UNHCR)

世界食糧計画(WFP)

国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)

国連人間居住計画(UN-HABITAT)

このほか、総会の補助機関として、いくつかの調査訓練機関や国連大学(UNU)などの機関がある。

[専門機関]

専門機関は、政府間の協定によって設けられ、経済・社会等の各分野において国際的責任を有する国際組織で、かつ国連との間で連携協定を締結しているものをいう（国連憲章57条、63条）。国連ファミリーに含まれるが、国連とは別個の国際法主体性を有する、独立した国際組織である。中でも、国際金融機関である世界銀行グループとIMFは最も独立色が強く、規模も国連本体に並び、次いでWHO、FAO、ILO、UNESCOの4機関の規模が大きい。これらの専門機関が力を持つ余り、経社理が形骸化して経済社会分野の国連改革が進まないとの批判もある。

現在存在する専門機関は、次のとおりである。

国際労働機関 (ILO)

国際連合食糧農業機関 (FAO)

国際連合教育科学文化機関 (UNESCO)

世界保健機関 (WHO)

世界銀行グループ

国際復興開発銀行 (IBRD)

国際開発協会 (IDA)

国際金融公社 (IFC)

多国間投資保証機関 (MIGA)

国際投資紛争解決センター (ICSID)

国際通貨基金 (IMF)

国際民間航空機関 (ICAO)

国際海事機関 (IMO)

国際電気通信連合 (ITU)

万国郵便連合 (UPU)

世界気象機関 (WMO)

世界知的所有権機関 (WIPO)

国際農業開発基金 (IFAD)

国際連合工業開発機関 (UNIDO)

世界観光機関 (UNWTO)

[関連機関]

関連機関は、国連と関係を有するが、専門機関としての連携協定を結んでいない国際組織である。国連には次の関連機関がある。

世界貿易機関 (WTO)

国際原子力機関 (IAEA)

包括的核実験禁止条約機関準備委員会 (CTBTO Prep. com)

化学兵器禁止機関 (OPCW)

[言語]

国連事務局の作業言語は、英語とフランス語である。実質的には英語が使用されることが多い。国連の公用語は、英語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、アラビア語の6言語である。公式文書と公式会合での発言は、最小限これらの公用語に翻訳される。国連発足時からの公用語は、英語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語の5言語であった。アラビア語が公用語に追加されたのは、1973年の第30回総会においてである。国際連合本部は米国ニューヨーク市に置かれているが、国際連合で用いられている英語はイギリス英語である。日付が「24 October 1945」と表記されたり（米英語では「October 24, 1945」）、単語のつづりが「organisation」など英国式になったりする（アメリカ英語: organization）。

[財政]

2013年の分担率上位10か国

国	分担率 (%)
1	アメリカ合衆国の旗 アメリカ合衆国 22.000
2	日本の旗 日本 10.833
3	ドイツの旗 ドイツ 7.141
4	フランスの旗 フランス 5.593
5	イギリスの旗 イギリス 5.179
6	中華人民共和国の旗 中国 5.148
7	イタリアの旗 イタリア 4.448
8	カナダの旗 カナダ 2.984
9	スペインの旗 スペイン 2.973
10	ブラジルの旗 ブラジル 2.934

国連の予算は、主に通常予算とPKO予算に分かれている[68]。

通常予算は、2年が単位である。事務総長が提出し、専門家から成る行政予算問題諮問委員会が審査する。そして、総会で承認される（国連憲章17条）。2006年-07年の予算は38億ドルであった。通常予算の主な財源は加盟国からの分担金であり、分担率は専門家から成る分担金委員会の勧告に基づいて、総会が承認する。分担率は基本的に加盟国の支払能力（全世界のGNPに占める加盟国の割合等）を考慮して決められるが、2000年、いかなる国も分担率の上限を22%とすることが総会で決定された（なお、上限にかかるのはアメリカのみである）。2010年における上位10か国の分担率は右表のとおりである。しかし、多くの加盟国が分担金を滞納しており、国連の財政状況は不安定である。2006年末現在、財政的義務を負う191加盟国のうち分担金を全額支払った国は134か国にとどまり、滞納額は3億6200万ドルに達した。例えば、アメリカは、国連の組織と業務に無駄が多いとして、分担金の支払を制限している[70]。

PKO予算は、毎年7月1日から1年間を単位とし、総会が承認する。これも加盟国の分担金によってまかなわれるが、通常予算よりも安保理常任理事国の分担率が高く設定されている。額は1990年代以降増加傾向にあり、2009年7月から2010年6月までの1年間の平和維持活動予算は約79億ドルであった。PKO予算の滞納額も、2006年末で19億ドルに達している。なお、国連児童基金（ユニセフ）、国連開発計画（UNDP）、国連難民高等弁務官（UNHCR）といった諸計画・基金や、専門機関は、それぞれ独立した予算を持っており、各国や個人

からの拠出金によって財政をまかなっている。

[活動内容]

平和と安全の維持

国際の平和と安全の維持は、国連の主要な目的の一つである。国連憲章は、国際の平和及び安全の維持に関する責任を安保理に負わせている（24条）。

国連は、ある国家が侵略等の重大な国際法違反を犯した場合に、国連加盟国が団結して終了させるという集団安全保障の理念の下に設立され、その手段として後述の国連軍を想定していた。しかし、米ソ冷戦の下、安保理常任理事国の拒否権に阻まれて国連軍の規定は発動されなかった。それに代わるものとして、北大西洋条約機構 (NATO) やワルシャワ条約機構という地域的防衛機構が、国連憲章51条により認められた集団的自衛権を行使するという集団防衛体制が生まれた。他方で、国連総会は、1950年11月3日、安保理が「その主要な責任」を果たせない場合に、総会が軍隊の使用を含む集団的措置を勧告でき、24時間以内に緊急特別総会を招集できるとする平和のための結集決議を採択した。総会決議には安保理決議と異なり法的拘束力はないものの、今まで度々同決議に基づいて紛争地域における平和維持活動 (PKO) が展開されてきた。

冷戦が終結した1990年代以降は、後述のとおり、PKOの役割が拡大するとともに、安保理の武力行使容認決議により多国籍軍が結成されることも多く、近年では両者の役割分担・協力関係も見られる。

[強制措置]

安保理は、「平和に対する脅威、平和の破壊、侵略行為」に対し、経済制裁等の勧告をすることができるほか（39条）、国連憲章第7章の下における非軍事的強制措置として、包括的な経済制裁や禁輸措置（武器禁輸、渡航禁止、金融規制）、外交関係の断絶などの制裁をとることができる（41条）。今まで、独立紛争に関する対南ローデシア輸出入禁止

（1966年、1968年）、アパルトヘイトに関する対南アフリカ共和国武器禁輸（1977年）、クウェート侵攻に関する対イラク経済輸出入禁止（1990年）、内戦における非人道的行為に関する対ユーゴスラビア輸出入禁止（1992年）、テロ防止への非協力を理由とする対リビア航空機乗入れ禁止・武器禁輸（1992年）、民主政権移行の不履行を理由とする対ハイチ輸出入禁止（1993年）などが行われてきた。もっとも、経済制裁は被制裁国の弱者に大きな経済的打撃を与えるという問題があることから、個人資産の凍結や政府関係者の入国禁止など、エリート層への打撃に的を絞った「スマートな制裁」が提唱されている。

国連憲章第7章は、非軍事的強制措置では不十分である場合に、安保理は「必要な空軍、海軍または陸軍の行動」をとることができるとしている（42条）。すなわち、国連軍の名の下での軍事的行動をとることができる。国連軍は軍事参謀委員会の指揮下に置かれ（47条）、国連軍創設には、加盟国と国連との間に兵力提供に関する「特別協定」が締結されなければならない（43条）。しかし、現在まで特別協定が締結されたことはないため、本来の意味の国連軍が創設されたことはないといえる。朝鮮戦争の際、米国軍を中心とした「国連軍」が創設されたが、これは本来の意味の国連軍ではない[79]。

現在まで、国連軍が創設されなかった代わりに、安保理による武力行使容認決議が行われてきた。1990年11月、イラクのクウェート侵攻に対し、安保理は、国連憲章第7章の下、イラクが関連諸決議を完全に履行しない場合に「クウェート政府に協力している加盟国に対して……あらゆる必要な手段を行使することを容認する」とする決議（安保理決議678）を採択した。同決議に基づいて米国軍を中心に多国籍軍が編成され、1991年1月から

戦闘に入った（湾岸戦争）。その後も、1994年にハイチ軍政問題に関して、1997年にアルバニア暴動問題に関して、1999年にコソボ紛争に、同年と2006年に東ティモール紛争に、それぞれ多国籍軍の派遣が認められた。一方、2003年3月のアメリカおよびイギリスを始めとする有志連合による対イラク武力行使（イラク戦争）については、一連の安保理決議によって正当化されるかどうかについて各国の意見が分かれた。なお、こうした軍事行動は、参加国の管理の下に置かれるものであり、安保理が設立し事務総長の指揮の下に置かれるPKOとは異なる。

[平和維持活動]

国連が行う平和維持活動 (PKO) は、地域的な紛争の悪化を防ぐため、国連の権威の下になされる軍事的活動である。主に安保理決議に基づいて行われるが、総会決議（平和のための結集決議）の勧告に基づいて行われることもある。国連憲章上、PKOについて明文の規定はないが、憲章に違反するものではなく、国際司法裁判所は、1962年の「ある種の経費に関する事件」勧告的意見において、第一次国連緊急軍 (UNEF I) および国連コンゴ活動 (ONUC) の活動経費を国連憲章17条2項にいう「この機構の経費」に該当すると判断した上で、両活動は憲章第7章の強制行動とは性格を異にするとした。PKOは「6章半」であるという言い方をされることもある。

1948年、第一次中東戦争の際、パレスチナへ国連休戦監視機構 (UNTSO) が派遣されて国境や停戦ラインの監視を行い、これがPKOの先駆けとなった。続いて1956年、スエズ危機（第二次中東戦争）に際して、国連総会決議に基づいて第一次国連緊急軍 (UNEF I) が派遣されたのが、初の正式なPKOであった。その後もいくつものPKOが紛争地域に派遣されたが、1980年代までの冷戦下における伝統的なPKOは、軍人による軍事情勢の安定と停戦の監視を目的とするものであり、(1)当事者の合意により設立されること、(2)当事者に対して不偏性と中立を守ること、(3)武力の行使は自衛のために必要な最小限に留めること、というPKO3原則が守られてきた。

1990年前後に米ソ冷戦が終わったころから、PKOは、和平合意が結ばれた後の暫定的期間に、治安の維持、選挙の組織・監視、難民の帰還、戦後の復旧・復興などを行うという新しい任務を負わされるようになった。軍人以外に、専門の異なる文民（軍事監視員、文民警察官、行政官、選挙専門家、難民担当官、人権専門家、復旧支援担当官、国連ボランティアなど）が多数参加するようになった。1992年-93年に派遣された国連カンボジア暫定統治機構 (UNTAC アンタック) や1992年-94年の国連モザンビーク活動 (ONUMOZ) は、このような第二世代PKOの代表例であり、十分な成果を挙げた。

ブトロス・ガリ事務総長は、1992年の『平和への課題』でPKOを「平和執行部隊」として事実上の軍事的強制措置を担わせようとする構想を提案した。これを受けて、1993年-95年の第二次国連ソマリア活動 (UNOSOM II)、1992年-95年旧ユーゴスラビアに展開した国連保護軍 (UNPROFOR)、1993年-96年の国連ルワンダ支援団 (UNAMIR) は、いずれも違法行為停止のため自衛を超えて武力行使を行う「戦うPKO」としての任務を負わされた（第三世代PKO）。しかし、任務に見合う予算や兵力が与えられず、また有力国の協力が得られなかった結果、ジェノサイドなどの人道的惨劇を前にしながら、実効的に対処することができなかった。これに対して国連内部や加盟国からの反省があり、ガリ事務総長も、1995年の『平和への課題——追補』において、現状ではこうした平和執行型PKOを意図すべきではないと軌道修正した。1990年代後半からは、PKOは紛争後の後始末という本来の任務を担当し、違法行為の停止は国連憲章第7章の下の多国籍軍が担当するという役割分

担が行われるようになり、PKOと多国籍軍との間で協力や任務の引き継ぎなども行われている。

その後もPKOのあり方については様々な改革が提案されている。事務総長特別代表のラフダール・ブラヒミは、2000年8月の報告において、PKOが十分な抑止能力を備えるために必要な予算・兵力・装備を承認すべきこと、紛争や戦争の後の平和構築活動のために、必要な予算が含まれるべきことなど、PKOの見直しを提言した（ブラヒミ報告）。また、潘基文事務総長の改革提案により、2007年6月事務局にフィールド支援局（DFS）が設置され、PKOミッションの策定、展開、持続に責任を持つこととなった。同じ事務局にある平和維持活動局（DPKO）は、戦略的監視や作戦上の政治的指針のような問題に集中することとなった。

[軍備管理・軍縮]

国連は、設立当初は、集団安全保障体制の強化に重点を置いており、軍備管理と軍縮には消極的であった。しかし、核兵器の時代が国連創設とほぼ同時に到来したこと、集団安全保障体制が機能しなかったこともあって、否応なく対応を迫られてきた。実際、1946年に総会が最初に採択した決議は、核軍縮に関するものであった。国連憲章は、「軍備縮小及び軍備規制を律する原則」等を審議する主な責任を総会に与えている（11条）。毎年、総会の第一委員会においてすべての議題が審議され、数多くの決議が採択されているほか、その下部機関である国連軍縮委員会（UNDC）が特定の問題を取り上げて審議している。多国間軍縮交渉の常設機関であり、後述のCWCやCTBTの交渉を成功に導いてきたジュネーブ軍縮会議（CD）は、国連の枠組みの外にあるが、国連総会の勧告を考慮し、また毎年総会に報告を行う。このほか、国連事務局の軍縮部は、軍縮問題に関する総会の決定を実施する。

国連が特に優先的な課題としてきたのは、大量破壊兵器の問題、すなわち(1)核兵器の削減と究極的な廃絶、(2)化学兵器の廃棄、(3)生物兵器禁止の強化であった[90]。(1)核兵器の封じ込めの努力は米ソの二国間条約でもある程度進展したが、1968年に核拡散防止条約（NPT）が国連総会で採択され、最も普遍的な軍縮条約となった。締約国は、国連の関連機関である国際原子力機関（IAEA）の保障措置を受け入れるよう求められる。しかし、非締約国であるイスラエル、インド、パキスタンによる核開発問題や、締約国でも核開発疑惑のあるイラン、脱退を表明した北朝鮮の問題など、条約の実効性が問題となっている。1996年には包括的核実験禁止条約（CTBT）が加盟国の圧倒的多数により採択され、署名のために開放されたが、まだ発効の目処が立っていない。(2)化学兵器に関しては、1997年に化学兵器禁止条約（CWC）が発効し、国連の関連機関である化学兵器禁止機関（OCPW）が査察を行っている。(3)生物兵器については、生物兵器禁止条約（BWC）が1972年に署名され、1975年に発効した。同条約には検証機構についての規定がなく、検証や履行確保の方法が課題となっている。2006年の再検討会議で、実施支援班を設置することが決められた。近年、2001年9月11日のアメリカ同時多発テロ事件を受けて、大量破壊兵器が、テロリストなど非国家主体の手に落ちた場合の危険が認識されるようになり、総会は2002年、テロリストが大量破壊兵器とその運搬方法を取得することを防止する措置に関する決議を採択した。また、安保理は、2004年、大量破壊兵器を開発、所有、利用等しようとする非国家主体に対していかなる支援も控えることを全加盟国に義務付けた（安保理決議1540）。

一方、通常兵器に関しては、特定通常兵器使用禁止制限条約（残忍兵器禁止条約）が国連で採択され1983年に発効したが、さらに交渉が続けられた結果、対人地雷の使用、貯蔵、

生産及び移譲の禁止並びに廃棄に関する条約が1997年に採択され、1999年に発効した。これにより、対人地雷の破壊・除去が進んでいる。このほか、国連では、小型武器非合法取引の規制に向けた取組みや、国連通常兵器移転登録制度の設立を行っている。

[経済社会開発]

世界の人々の経済的・社会的福祉の実現は、国連の主要な目的の一つである。そのための開発の必要性、特に先進工業国と開発途上国との格差を埋めることの重要性は、1961年に始まった数次の国連開発の十年を機に強く表明されるようになった。1995年にコペンハーゲンで行われた世界社会開発サミットで、国際社会が貧困、失業、社会の崩壊といった問題と戦う必要性が訴えられたのをはじめとして、1990年代には多くの開発関係の世界会議が開催された。2000年9月の特別総会（ミレニアム・サミット）で採択された国連ミレニアム宣言は、開発の問題に重点を置き、具体的な開発目標を設定した。同宣言と、1990年代の国際会議やサミットで採択された国際開発目標とを統合し、2015年までに達成すべき目標としてまとめたのがミレニアム開発目標 (MDGs) である。すなわち、(1)極度の貧困と飢餓を撲滅すること、(2)普遍的な初等教育を達成すること、(3)ジェンダーの平等を推進し、女性の地位向上を図ること、(4)乳幼児死亡率を下げること、(5)妊産婦の健康を改善すること、(6)HIV/エイズ、マラリア、その他の病気と戦うこと、(7)環境の持続可能性を確保すること、(8)開発のためのグローバル・パートナーシップを推進することが目標とされた。

国連機関の経済社会活動を調整する主要な機関は経済社会理事会であり、その諮問機関として、専門家から成る開発政策委員会が置かれている。事務局では、経済社会局が経済社会政策の分析・調整等を行っている。国連開発計画 (UNDP) は、開発途上国の開発を担当する機関であり、2005年に国連システムが開発援助活動に費やした金額は137億ドルであった。

経済開発

貧困の削減については、特に後発開発途上国 (LDC) 50か国への経済的支援が重要な課題である。1970年、総会は政府開発援助 (ODA) の目標をGNP（後にGNI）の0.7%と定めたが、1990年代にODAは急減し、2002年メキシコのモンテレイで開かれた国連開発資金国際会議でこれを増加することが合意された。2006年、開発援助委員会 (DAC) 加盟国におけるODA額は、GNI合計額の0.3%に当たる1039億ドルとなっている。国連機関の中では、国連開発計画 (UNDP) がミレニアム開発目標の達成のため各国への政策助言等を行っているほか、世界銀行グループ、国際通貨基金 (IMF)、国連貿易開発会議 (UNCTAD) といった諸機関が、政策アドバイス、技術提供、資金提供（融資等）を行っている。

社会開発

国連は健康、教育、家族計画、住宅、衛生に関する各国政府の努力を支援してきた。飢餓との戦いでは国連食糧農業機関 (FAO) や世界食糧計画 (WFP)、教育に関しては国連教育科学文化機関（ユネスコ）、健康に関しては国連児童基金（ユニセフ）、国際連合人口基金 (UNFPA)、世界保健機関 (WHO) など、多くの機関がこの分野に関わっている。

持続可能な開発

国連は開発によってもたらされる環境問題にも取り組んでいる。1972年にストックホルムで開かれた国連人間環境会議の終了後、国連環境計画 (UNEP) が設立された。UNEPは、世界の環境状況を評価し、1983年、総会は世界環境開発委員会を設置し、同委員会は1987

年の報告の中で持続可能な開発という概念を提唱した。それを踏まえた総会の要請により、1992年、リオデジャネイロで環境と開発に関する国際連合会議（地球サミット）が開かれ、地球規模の行動計画としてアジェンダ21が採択された。それを受けて、総会は、同年、持続可能な開発委員会を設置した。2002年には、アジェンダの実施状況を点検するためヨハネスブルクで持続可能な開発に関する世界首脳会議が開かれ、持続可能な開発に関するヨハネスブルク宣言が採択された。国連機関の中では、UNEPのほか、世界気象機関(WMO)、両機関が設立した気候変動に関する政府間パネル(IPCC)などが、地球温暖化、砂漠化、生物多様性、酸性雨、有害廃棄物・化学物質、海洋汚染、水資源、エネルギー、放射能など、数々の環境問題に携わっている。

[人権]

人権の国際的な保障は、国連の主要な使命の一つである。国連憲章においては、前文で「基本的人権と人間の尊厳及び価値と男女……の同権とに関する信念」をうたっており、第1条でも「人種、性、言語または宗教による差別なくすべての者のために人権及び基本的自由を尊重するように助長奨励すること」を国連の設立目的の一つとしている。この目的を達成するため、加盟国は国連と協力して「共同及び個別の行動をとることを誓約」するものとされた（55条c、56条）。また、経済社会理事会の補助機関として「人権の伸長に関する委員会」を設けることとされた（68条）。これは、ナチスドイツをはじめとする全体主義国家による人権弾圧を踏まえて、人権の国際的な保障が必要と考えられたことなどによる[104]。

1946年、国連憲章68条に基づいて、経社理の補助機関として国連人権委員会が設立され、憲章の人権規定を具体化する作業に着手した。その結果、1948年12月10日、国連総会は、「すべての人民にとって達成すべき共通の基準」として、世界人権宣言を採択した。同宣言は30条から成り、「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利において平等である」と述べた上（1条）、各種の自由権、社会権について規定している。ただし、総会決議であるため、国家に対する法的拘束力を持たないことを前提としていたことから、国連人権委員会は続いて条約化の作業を進めた。

1966年、総会は、社会権規約、自由権規約、自由権規約の選択議定書という三つの条約から成る国際人権規約を採択した。社会権規約は1976年に発効し、現在160か国が締約国となっている。自由権規約も同じ年に発効し、現在167か国が締約国となっている。両規約は、民族自決権、天然の富及び資源に対する権利について規定しており（両規約1条1項、2項）、個人の人権だけを規定した世界人権宣言と異なる。また、個人の人権についても、世界人権宣言より詳細な規定を設けており、人権の国際的保障の仕組みにおいて、最も重要な役割を果たしている。1989年には、自由権規約の第2選択議定書（死刑廃止条約）が採択され、73か国が締約国となっている。

そのほか、国連の枠組みの中で、個別的人権の保障を目的として、以下のものを含め約80件の条約・宣言が採択されている。

集団殺害罪の防止および処罰に関する条約（ジェノサイド条約、1948年）

難民の地位に関する条約（1951年）

あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約（1966年）

女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約（1979年）

拷問およびその他の残虐な、非人道的なまたは品位を傷つける取扱いまたは刑罰を禁止する条約（1984年）

全ての移住労働者及びその家族の権利の保護に関する国際条約（1990年）

すべての人の強制的失踪からの保護に関する国際条約（2006年）

障害者の権利に関する条約（2006年）

1993年、ウィーンで開かれた世界人権会議が契機となって、長年提唱されていた国連人権高等弁務官の設置が実現した。その任務は、人権の促進・保護、助言的サービスの提供、人権侵害に対する緊急の対応、侵害予防など、広範にわたる。人権高等弁務官事務所 (OHCHR) は、後述の人権理事会などの人権機関の事務局を務める。

また、2006年、国連人権委員会を発展させる形で国連人権理事会が設置された。理事会は、総合的な政策ガイダンスを提供するとともに、人権問題に関する研究、新しい国際規範の発展、人権順守の監視などを行う。

[人道援助]

自然災害や、紛争を含む人為的災害により大規模な被害が生じた場合、国連機関は緊急援助や長期援助を提供してきた。

人道援助の主体となるのは、主に国連児童基金（ユニセフ）、世界食糧計画 (WFP)、国連難民高等弁務官 (UNHCR) の3機関である。ユニセフは、水と衛生施設のような基礎サービスの再建や、学校の再開を支援し、また予防接種・医薬品の提供などを行う。2006年にユニセフは53件の緊急事態に関して人道援助を行い、その額は5億300万ドルを超えた。

WFPは、国内避難民、難民、エイズ孤児、紛争や自然災害（洪水、旱魃など）の犠牲者らに対して食糧等の援助を行っている。2006年には78か国で約8800万人に食糧援助を行った。

UNHCRは、難民の地位に関する条約（1951年）、同議定書（1967年）に基づき、難民の基本的人権が尊重されるようにし、いかなる者も強制的に送還されないようにする。また、大量の難民の移動に伴う緊急事態の際の援助や、教育・保健・住居の援助、帰還・統合・第三国での再定住などの支援を行う。さらに、近年は条約に定められた難民だけでなく、国内避難民、元難民、無国籍者、庇護請求者（難民の認定を申請したがまだ結論が出ていない人々）など、広義の難民に対する緊急人道支援も行っている。なお、パレスチナ難民については国連パレスチナ救済事業機関 (UNRWA) が支援を行っている。

このほか、国連食糧農業機関 (FAO) は、防災情報や世界の食料情勢に関する最新の情報を提供し、また、農業生産の回復と復興の支援を行う。世界保健機関 (WHO) は、栄養・伝染病の監視、エイズを含む感染症の予防、予防接種、薬品や医療器具の管理、性と生殖の健康、精神の健康など、被災者の保健に関する情報を収集・提供し、緊急援助計画を実施する。国連人口基金 (UNFPA) は、混乱時にしばしば発生する妊娠に関する死亡、性的暴力などに対応し、リプロダクティブ・ヘルスを保護する。国連開発計画 (UNDP) は、自然災害の緩和、予防、事前対策などの活動を調整するほか、元戦闘員の動員解除、地雷除去、難民・国内避難民の帰還と再統合、政府機関の復旧などの計画も支援する。

複雑な緊急事態に対しては、政府や非政府組織 (NGO)、国連の諸機関が同時に対応を図ることから、これらの主体が行う援助活動を調整し、一貫した救援の仕組みを作るため、国連事務局に国連緊急援助調整官が率いる国連人道問題調整事務所 (OCHA) が置かれている。24時間の監視警戒態勢を有し、自然災害等の緊急事態が発生すると12時間から24時間以内に国連災害評価調整チームを派遣することができる。また、OCHAは2006年、緊急事態に対する融資機構として国連中央緊急対応基金（英語版）(CERF) を発足させた。

[国際法の発達]

国際連合は、国際法の発達への貢献という役割を果たしてきた。国際人権法、国際人道法、国際環境法、軍縮など様々な領域で多数国間条約の締結を手助けしており、国連の関与の

下に成立した多数国間協定（批准する国家を法的に拘束するもの）は500件以上に上る。

また、紛争の司法的解決を担う機関もある。

国連憲章は、総会が「国際法の漸進的発達と法典化を奨励すること」などの目的のために研究を発議し、勧告をすることとしている（13条）。そのために1947年に総会の附属機関として設けられたのが国際法委員会である。同委員会は、各種条約の草案作成作業を行っており、今まで、国際水路の非航行利用に関する条約（1997年総会採択）、条約法に関するウィーン条約（1969年）、外交関係に関するウィーン条約（1961年）、領事関係に関するウィーン条約（1963年）などの草案作成を行ってきた。1966年に総会によって設置された国際連合国際商取引法委員会（UNCITRAL）は、仲裁規則（1976年）、商事調停規則（1980年）、国際物品売買契約に関する国際連合条約（1980年）、各種のモデル法を作成してきた。また、「海の憲法」と呼ばれる海洋法に関する国際連合条約は、最も包括的な国際法の文書の一つである。そのほか、環境法、国際人道法、国際テロリズム対策の分野でも国連の条約が大きな役割を果たしている。

また、紛争の司法的解決に関しては、主要機関である国際司法裁判所（ICJ）が責任を負っている。1946年の設立から2007年10月までの間に、93件の判決と25件の勧告的意見を出した[121]。国際人道法の分野では、国際刑事裁判所は国連の組織ではないが、国際刑事裁判所ローマ規程（1998年）を採択したのは国連総会が開催した外交官会議であった。このほか、安保理の補助機関として旧ユーゴスラビア国際刑事裁判所（1993年-）、ルワンダ国際刑事裁判所（1994年-）が置かれている。シエラレオネ特別法廷（2002年-）はシエラレオネ政府と国連との協定に基づいて設置された独立の司法機関、カンボジア特別法廷（2006年-）はカンボジア国内裁判所に国連の関与の下置かれた特別法廷である。

[国際連合改革]

国連は、1945年の設立から半世紀を経過したころから、新たな時代状況に対応した国連組織の抜本的改革を求める動きが強まってきた。その中でも(1)安全保障理事会改革が最大の争点であり、そのほか(2)敵国条項の削除問題、(3)信託統治理事会の改編問題などがある。さらに国連総会を含めた国家を単位としその利害に影響される現在の意思決定方法から脱却し、世界の市民、立法者の意思が直接反映される国際連合議会会議の創設が構想されている。これらの改革には国連憲章の改正が必要である。

安保理は、現在、常任理事国5か国、非常任理事国10か国（発足時は6か国、1965年に増加）の合計15か国から成り、常任理事国のみ拒否権を有する。しかし、国連加盟国数が設立時の51か国から190か国以上まで増大したこと、日本の国連分担率が常任理事国である英仏口中の4か国合計の分担率を上回るなど財政負担の偏りが生じていることから、安保理の拡大を求める声が高まった[124]。1995年、有識者から成る「グローバル・ガバナンス委員会」がダボス会議で国連改革の提言をまとめた報告書を発表した。そこでは、5か国（先進国から2か国、発展途上国から3か国）を拒否権なしの「常勤理事国」とし、非常任理事国を3か国程度増やし、合計23か国で安保理を構成するとの案が示された。

1997年3月、総会議長ラザリ・イスマイルは、同委員会案を下敷きにしながらか、常任理事国を5か国（先進国2か国、途上国3か国）、非常任理事国4か国増やし、新規の常任理事国には拒否権を与えない、敵国条項は廃棄するといった内容の改革案を各国に提示した（ラザリ案）。その新規常任理事国は、先進国からは日本とドイツ、途上国からはインド、ブラジル及びアフリカの1国となることが暗黙の了解であった。

しかし、イタリアのフルチ国連大使が、ドイツの常任理事国入りを阻止するため、韓国、パキスタン、インドネシア、メキシコ、アルゼンチンなどを集めて「フルチ・コーヒークラブ」と呼ばれるグループを結成し、これに非同盟諸国も加えて、1997年12月ラザリ案を棚上げに持ち込んだ。2000年9月のミレニウム宣言では、安保理改革実現のための努力の強化が記されるにとどまった。

その後、アナン事務総長が2003年9月に安保理改革の再開を提唱したことによりハイレベル委員会が設置された。同委員会が2004年12月に提出した報告書では、次の2案が提示された。

常任理事国を6か国、非常任理事国を3か国増員して安保理構成国を24か国とする案（モデルA）

任期4年で再選可能な準常任理事国を8議席新設し、非常任理事国を1か国増やす案（モデルB）

しかし、中国・韓国がモデルAに反対し、日本とアフリカ諸国との連携・調整も順調に進まなかった結果、2005年9月の総会では、安保理改革の具体案の決定は先送りされた。敵国条項については、「国連憲章第53条、第77条および第107条における『敵国』への言及を削除することを決意する」との総会決議が採択された。また、アナン事務総長は、そのほかに総会改革、人権委員会の人権理事会への格上げ、平和構築委員会（英語版）（PBC）の設置などの機構改革を提言していたが、そのうち人権委員会と平和構築委員会の設置が2005年の総会で決定された。

[加盟国]

国連への加盟は、国連憲章に掲げる義務を受諾し、かつ国連によってこの義務を履行する意思と能力があると認められるすべての平和愛好国に解放されている。加盟は、安保理の勧告に基づいて総会が承認する（憲章4条）。憲章には加盟国の資格停止・除名の規定があるが、これまでこれらが発動されたことはない。

ほとんどの加盟国が、国連における意思決定に参加するため、ニューヨークに国連代表部を置いている。その長である外交官を常駐代表（英語版）といい、それに次ぐ者を次席代表という。なお、国連大使は常駐代表と同義ではなく、次席代表を含め複数の外交官が大使として任命されている場合がある。アメリカは5名、日本・韓国は3名、イギリスは2名の国連大使を派遣している。

[現在までの加盟国]

加盟国の変遷

2011年現在、国連加盟国は193か国である。設立から現在までの加盟国は以下のとおりである（常任理事国は太字）。

年 加盟国 備考 国数

1945年

（原加盟国） アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、ボリビア、ブラジル、ベラルーシ（白ロシア・ソビエト社会主義共和国）、カナダ、チリ、中華民国、コロンビア、コスタリカ、キューバ、チェコスロバキア（1993年解体消滅）、デンマーク、ドミニカ共和国、エクアドル、エジプト、エルサルバドル、エチオピア、フランス、ギリシャ、グアテマラ、ハイチ、ホンジュラス、インド、イラン、イラク、レバノン、リベリア、ルクセンブルク、メキシコ、オランダ、ニュージーランド、ニカラグア、ノルウェー、パナマ、パラグアイ、ペルー、フィリピン、ポーランド、ロシア（ソビエト連邦）、サウジアラビア、南アフリカ共和国、シリア、トルコ、ウクライナ（ウクライナ・ソビエト社会主義共

和国)、イギリス、アメリカ合衆国、ウルグアイ、ベネズエラ、ユーゴスラビア (2003年消滅)	51	
1946年	アフガニスタン、アイスランド、スウェーデン、タイ	55
1947年	パキスタン、イエメン	57
1948年	ミャンマー (当時の呼称はビルマ)	58
1949年	イスラエル	59
1950年	インドネシア	60
1955年	アルバニア、オーストリア、ブルガリア、カンボジア、フィンランド、ハンガリー、アイルランド、イタリア、ヨルダン、ラオス、リビア、ネパール、ポルトガル、ルーマニア、スペイン、スリランカ	76
1956年	日本、モロッコ、スーダン、チュニジア	80
1957年	ガーナ、マレーシア	82
1958年	ギニア	シリアとエジプト合併。 82
1960年	ベナン、ブルキナファソ、カメルーン、中央アフリカ、チャド、コンゴ共和国、コートジボワール、キプロス、ガボン、マダガスカル、マリ、ニジェール、ナイジェリア、セネガル、ソマリア、トーゴ、コンゴ民主共和国	99
1961年	モーリタニア、モンゴル、シエラレオネ、タンザニア	シリア再び独立国に。 104
1962年	アルジェリア、ブルンジ、ジャマイカ、ルワンダ、トリニダード・トバゴ、ウガンダ	110
1963年	ケニア、クウェート	112
1964年	マラウイ、マルタ、ザンビア	115
1965年	ガンビア、モルディブ、シンガポール	インドネシア脱退。 117
1966年	バルバドス、ボツワナ、ガイアナ、レソト	インドネシア再加盟。 122
1967年	南イエメン (1990年消滅)	123
1968年	赤道ギニア、モーリシャス、スワジランド	126
1970年	フィジー	127
1971年	バーレーン、ブータン、オマーン、カタール、アラブ首長国連邦、中華人民	
共和国	中華民国脱退。	132
1973年	バハマ、東ドイツ (1990年消滅)、ドイツ (当時は西ドイツ)	135
1974年	バングラデシュ、グレナダ、ギニアビサウ	138
1975年	カーボベルデ、コモロ、モザンビーク、パプアニューギニア、サントメ・プリンシペ、スリナム	144
1976年	アンゴラ、サモア、セーシェル	147
1977年	ジブチ、ベトナム	149
1978年	ドミニカ国、ソロモン諸島	151
1979年	セントルシア	152
1980年	セントビンセント・グレナディーン、ジンバブエ	154
1981年	アンティグア・バーブーダ、ベリーズ、バヌアツ	157
1983年	セントクリストファー・ネイビス	158
1984年	ブルネイ	159
1990年	リヒテンシュタイン、ナミビア	東西ドイツ統一。イエメン統合。 159
1991年	エストニア、ラトビア、リトアニア、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島、大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国	ソ連はロシアが承継。 166

1992年	アルメニア、アゼルバイジャン、ボスニア・ヘルツェゴビナ、クロアチア、グルジア、カザフスタン、キルギス、モルドバ、サンマリノ、スロベニア、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン	179
1993年	アンドラ、エリトリア、モナコ、チェコ、スロバキア（「ビロード離婚」により国家分立で単一加盟）、マケドニア	184
1994年	パラオ	185
1999年	キリバス、ナウル、トンガ	188
2000年	ツバル、セルビア	189
2002年	スイス、東ティモール	191
2006年	モンテネグロ	192
2011年	南スーダン	193

[加盟していない国等]

中華民国（台湾）

中国については、国連設立時には中華民国（国民党）政府が代表権を有していた。しかし、冷戦下の東西両陣営における微妙な政治バランスの下で、1971年10月25日に国連総会において「北京の中華人民共和国（共産党）政府が国連に対する唯一かつ正統な代表権を有する」との決議がされ、同国と対立する中華民国政府の代表は追放された（A/RES/2758 (XXVI)、アルバニア決議）。

中華民国は1993年以降、国連に対し毎年加盟復活を求め続けており、2007年からは「中華民国」ではなく「台湾」の名称での新規加盟を求め、陳水扁総統が潘基文事務総長に申請書を提出したが、1971年の総会決議を理由として申請は受理されなかった。同国は、近年は各種の国連機関への加盟を優先する方針を見せている。

バチカン市国

バチカン市国は、伝統的に国家としての法主体性を認められているが、国際的な中立を維持するためとしてオブザーバー参加を選択している。

マルタ騎士団

マルタ騎士団は、国際法上特別の法主体性を認められ、104か国と外交関係を有する団体であるが、1994年8月24日、オブザーバー参加を認められた。

パレスチナ

パレスチナ解放機構 (PLO) は、1974年11月22日、国連総会決議でオブザーバー参加を認められた。イスラエルとの和平プロセスが行き詰まる中、2011年5月にはアラブ連盟がパレスチナの国家としての正式加盟を求める方針を決めた。2012年11月29日には国連総会決議で国連における資格をオブザーバー組織からオブザーバー国家に格上げすることが承認された。

クック諸島、ニウエ

ニュージーランドとの自由連合国であるクック諸島とニウエは、国連には加盟していないが、専門機関であるWHOやユネスコに加盟しており、国連事務局の文書においては「国連非加盟国」として取り扱われている。

事実上独立した地域

コソボは、2008年2月にセルビアからの独立を宣言したが、独立の経緯から常任理事国のロシアが強く国連加盟に反対しているため、加盟の目処は立っていない。ソマリランド共和国や北キプロス・トルコ共和国などは、現在のところ国家承認をしている国が皆無または極めて少ないことから加盟には至っておらず、国家としての存在自体も認められていない。サハラ・アラブ民主共和国は、アフリカ連合諸国や中南米諸国を中心に多くの国が国家承認をしているが、正式加盟はもちろんオブザーバー参加も認められていない。

[問題点]

敵国条項の問題

国際連合は元々、第二次世界大戦の連合国が母体となってスタートしたものである。そのため国連憲章の53条には、第二次世界大戦で枢軸国側に立った国（特にドイツと日本）が侵略行動を行った場合には、安全保障理事会の議決に基づかずに強制行動がとれるという規定があり、また107条では旧敵国に対する行動については国連憲章に拘束されないという規定がある。この2条と敵国という語を含む77条については、1995年には国際連合総会決議50/52において敵国条項はすでに「死文化（英語: **become obsolete**）」しているとされ、憲章改正の際には削除するという内容を含む決議案が三か国のみ棄権という圧倒的な賛成多数で採択されている。また2005年9月15日には国連総会特別首脳会合で採択された「成果文書」には「敵国条項の削除を決意する」という決議が採択されている。ただし、国連憲章改正には総会での3分の2以上の賛成および、常任理事国すべてをふくむ安全保障理事会3分の2以上の賛成、そして3分の2以上の加盟国による批准措置が必要であり、また常任理事国の追加問題なども絡んでいるために削除には至っていない。

[拒否権の問題]

国際連合の採決には常任理事国5カ国と非常任理事国10カ国との合同での採決で決定するが、常任理事国が拒否権を発動した場合、採決は全て否決される。今まで、東西冷戦時代等を中心に採決で常任理事国が拒否権を発動し否決されたケースが数多くあり国連で拒否権の在り方が問題になっている。

[不祥事]

2004年にはイラクに対する石油食料交換プログラムを利用したベノン・セバン事務次長やアナン事務総長・ガリ前事務総長の縁者が関与した大規模な不正事件が発覚した。また2006年1月には国連調達をめぐる3億ドルにのぼる汚職事件が発生。国連は、関与したとされる8人の職員を勤務を一時停止にした。監査した国連内部監理室調達タスクフォースでは報告書において、「犯罪となるような誤った行動」はなかったが、「2000年にまでさかのぼり3件の調達の事例において、職権濫用と管理不行き届きがあった」としている。また、2008年には東京にある国連広報センター（UNIC）が不正経理をしていたとして国連から内部監査を受けていたことが明らかになった。しかし、日本は国連大学の建物を無償で提供しているが、その建物に入っているUNIC東京の家賃を、日本政府が国民の税金を使い国連大学に払っていることが判明した。

[国連と名のついた賞の存在]

国際連合は1968年に国連人権賞を制定している。またそれ以外にも国連が制定した賞は多く存在する。しかし、中には国連と名が付いているが、調査をしたところ国連が賞を制定しておらず、国連とは全くの無関係の賞も存在する。日本人の受賞が多い事で知られる国連平和賞は、この名前から国連が制定しているように見えるが、実際は国連では同賞を制定していない。

また国連平和賞以外にも国連と名が付いているが、実際は国連とは無関係の賞が多く存在する。補足として国連が賞を制定する場合は基本的に人名を使うことで知られている。

赤十字社

赤十字社（せきじゅうじしゃ）とは、戦争や天災時における傷病者救護活動を中心とした人道支援団体である。スイス人実業家アンリ・デュナンの提唱により創立された。世界各国に存在し、それらは国際的な協力関係を持っている。国によっては赤新月社（せきしんげつしゃ）、赤十字会（せきじゅうじかい）を名乗る。

[概要]

国の内外を問わず、戦争や大規模な事故や災害の際に敵味方区別なく中立な立場で人道的支援を行う。「ジュネーブ条約」とこれに基づく国内法によって特殊な法人格と権限を与えられている。活動に当たっては以下の7原則を掲げこれに基づく行動をしている。

人道：赤十字の根本。

公平：国籍や人種などに基づく差別はしない。

中立：戦地や紛争地では友軍敵軍どちらにも与しない。

独立：政府の圧力に屈さず、また活動への干渉を許さない。受けるのは補助のみ。

奉仕：報酬を求めない。

単一：一国一社。国内に複数の赤十字社・赤新月社があってはならない。

世界性：全世界で同様に活動する。世界の赤十字・赤新月は互いに支援し合う。

多くの国では、識別マークはデュナンの母国スイスの国旗の色を反転した、白地に赤い十字（赤十字）を採用している。呼称については「赤十字社」が一般的だが、中華人民共和国では「紅十字会」（赤は中国語では「紅」）、また朝鮮民主主義人民共和国では「赤十字会」と呼んでいる。また、イスラム諸国では、「十字はキリスト教を意味し、十字軍を連想する」として嫌われたため、白地に赤色の新月を識別マークとし、「赤新月社」（せきしんげつしゃ）と呼んでいる（インドネシアはイスラム教国であるが例外的に「赤十字社」である。またパキスタン、マレーシア、バングラデシュなどは設立当初は「赤十字社」であったが、のちに「赤新月社」に変更した）。2011年12月1日現在、152か国に赤十字社、34か国に赤新月社が設立され活動を行っている（十字でも新月でもない“ダビデの赤盾”を用いるイスラエルのマーゲン・ダビド公社を含めると計187か国）。

赤十字・赤新月の他にも「ダビデの赤盾」、「赤獅子太陽」など種々の標章が乱立し混乱を招くことから、赤十字・赤新月に代わる共通の（=第三の）標章採用が提案された。これには加盟国の合意に基づくジュネーブ条約の改訂を要する為に議論は紛糾したが、2005年12月8日の赤十字・赤新月国際会議総会において、全会一致原則の総会では異例である投票による賛成多数により、赤の菱形を象った宗教的に中立な第三の標章「Red Crystal」（レッドクリスタル、赤水晶、赤菱形、赤菱）が正式に承認された。「Red Crystal」の標章の意味や法的効力は従来の赤十字・赤新月と完全に同一である。このため「Red Crystal」用いることで、イスラエルの赤盾社は国際赤十字への加盟が出来る事となり、赤十字国際委員会は同社を正式に承認した。ただし、「ダビデの赤盾」の標章は、イスラエル国内(国境紛争中のウエストバンクと東エルサレム地域を除く)のみで用いる「表示標章」であり、ジュネーブ条約の「保護標章」としては認められていない。同様に国内での宗教勢力のバランスから赤十字・赤新月の標章を併用したいと主張しているエリトリア等

の国や地域でも、「Red Crystal」を使用することで国際赤十字への加盟を期待している。また、この「Red Crystal」の標章は単独で用いる以外に、国際活動を行う際にホストとなる国の了承があれば、中の白地の部分に独自のマークを入れても構わない。

[主要任務]

紛争や災害時における、傷病者への救護活動
戦争捕虜に対する人道的救援（捕虜名簿作成、捕虜待遇の監視、中立国経由による慰問品配布や捕虜家族との通信の仲介など）
赤十字の基本原則や国際人道法の普及・促進
平時における災害対策、医療保健、青少年の育成等の業務
など、非常に多岐にわたる。

[歴史]

1859年 - アンリ・デュナン、北イタリアでソルフェリーノの戦いに遭遇
1863年 - 「国際負傷軍人救護常置委員会」（五人委員会。現・赤十字国際委員会）が発足。赤十字標章等を定めた赤十字規約を採択。
1864年 - スイスなど16カ国が参加した外交会議で、最初のジュネーブ条約採択（陸戦に適用）
1867年 - 第一回赤十字国際会議
1876年 - 赤十字国際委員会結成、イスラム圏で赤新月の使用始まる
1877年 - 日本赤十字社の前身、博愛社結成（10年後の1887年に改称）
1881年 - アメリカ赤十字社結成
1888年 - 従来は戦時救護だけだったのが、磐梯山の噴火で世界初の平時救護活動を行なう。日赤初の災害救護活動でもある。
1899年 - ハーグ陸戦条約締結。ジュネーブ条約の適用を海戦にも拡大
1901年 - アンリ・デュナン、第1回のノーベル平和賞を受賞
1907年 - ハーグ陸戦条約改定、中国紅十字会結成
1914年 - 第一次世界大戦勃発
1917年 - 赤十字国際委員会がノーベル平和賞受賞
1919年 - 赤十字社連盟（LRCS）結成（本部：パリ）
1928年 - 赤十字国際規約採択
1929年 - 捕虜の待遇に関する条約を追加したジュネーブ条約に約50カ国が批准、加盟。イスラム圏における赤新月マークの公認
1939年 - 第二次世界大戦勃発、赤十字社連盟本部パリからジュネーブに移転
1944年 - 赤十字国際委員会が2回目のノーベル平和賞を受賞
1949年 - ジュネーブ四条約を採択
1963年 - 赤十字国際委員会、赤十字社連盟とともにノーベル平和賞受賞
1977年 - 四条約に追加される2つの議定書を採択
1983年 - 赤十字社連盟、赤十字赤新月社連盟と改称（レッドクロスとレッドクレセントの頭文字が共通なので略称は変わらず）
1991年 - 赤十字赤新月社連盟、国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC 存在しなかった「国際」の名が追加され、「リーグ」から「フェデレーション」に変わる）と改称
2005年 - 新たな標章（レッドクリスタル）を定めた第3追加議定書を採択
戦場での効果と実際[編集]
ジュネーブ条約などにより、標章を掲げた施設やスタッフは攻撃を受けないこととなって

いるが、戦場では必ずしも守られるとは限らない。また、その特別な立場を悪用するケースも見られる。

アメリカ軍により、第二次世界大戦時には、病院船のぶゑのすあいれす丸の撃沈事件や、大山口列車空襲事件のような機銃掃射事件も発生した。また、橘丸事件のように、違法に軍事輸送に加担し、拿捕された例もある。

アフガニスタンでは赤十字旗のある救援拠点が米国軍により攻撃され、2006年に発生したイスラエル軍のレバノン侵攻におけるレバノン政党ヒズボラとの戦闘の際には、レバノンの赤十字スタッフが執拗な攻撃を受けている。また、2008年から2009年にかけては、ガザ地区で11台以上の救急車がイスラエル軍の攻撃により破壊され多くの医療スタッフが犠牲となっている。

2003年10月27日、イラクのバグダード市内に存在した国際赤十字事務所が「自爆テロ」の犠牲となった。非正規の軍事組織は、捕虜などの扱いでジュネーブ条約の庇護を受けないこともあり、赤十字の組織の有効性に一石が投じられる事件となった。

シリア騒乱により市街地戦の舞台となったホムス旧市街地では、2012年以降、孤立した住民に対して赤新月社による救援物資の輸送ができないほど治安が悪化した。2年後の2014年2月、政府軍と反政府軍との間で結ばれた限定的な停戦状態の下、赤新月社の救援物資輸送が行われたが、輸送中のトラックの一部が銃撃を受け、スタッフが負傷する事件も発生した。

国境なき医師団

(仏: Médecins sans frontières)

略称 MSF

前身 医師や医療従事者および医療に関心を寄せる者ら

設立年 1971年12月20日[1]

種類 NGO[1]

目的 中立・独立・公平な立場での医療・人道援助活動

本部 スイスの旗 スイス ジュネーヴ

位置 ローザンヌ通り 78

座標 北緯46度12分58.9秒 東経6度8分52.7秒座標: 北緯46度12分58.9秒 東経6度8分52.7秒

貢献地域・分野 主にアフリカ・アジア・南米における医療活動

メンバー 世界各地に28事務局

公用語 フランス語

ウェブサイト <http://www.msf.org/>

国境なき医師団（こっきょうなきいしだん、仏: Médecins sans frontières、略称: MSF）は、1971年にフランスの医師のグループによって作られた非政府組織 (NGO) である。国際援助分野における功績によって、1999年にノーベル平和賞を受賞した。

[歴史]

国境なき医師団は、1968年から1970年にかけて赤十字の医療支援活動のためにナイジェリア内戦中のビアフラに派遣されたフランス人医師たちを中心に設立された。ビアフラでの活動から戻った彼らは各国政府の中立的態度や、沈黙を守る赤十字の活動に限界を感じ、人道援助およびメディアや政府に対して議論の喚起を行う組織を作る必要があると考えた。そして全ての人が医療を受ける権利があり、また医療の必要性は国境よりも重要だという

信念に基づき1971年12月20日、「国境なき医師団」を創設した。

1979年の「ベトナムの船」の活動では、創設者の1人ベルナール・クシュネルがチャーターした船「光の島」号に医師たちだけでなくジャーナリストたちも同乗させ、同国での人権侵害を告発した。この活動があまりに宣伝的ではないかとの論争に発展、クシュネルは国境なき医師団を離れ、新たに「世界の医療団」（Médecins du Monde）を1980年にフランスで設立した。彼はその後同団の活動も離れフランス政界へ転進、2007年5月から2010年11月までフランス外務大臣を務め上げた。なお、「国境なき記者団」のロベール・メナール代表によると、「一記者団」は国境なき医師団関係者がメディアで「第三世界の人々の窮状に関する報道が少ない」と訴え、これを受けたフランスのジャーナリストらに設立されたものであり、クシュネルとメナールは互いに親交を保っている。

[活動]

国境なき医師団は貧困地域や第三世界、紛争地域を中心に、年間約4,700人の医療スタッフが世界各地70か国以上で活動している。災害や紛争に際し、どこよりも早く現地入りする緊急医療援助を得意とし、マラリアのような地域特有の疾病の撲滅にも力を入れている。チェチェンやコソボ住民のような公式な代表のいない人々に代わり、非人道的行為を国際社会に対し告発している。時には国連の手法を非難することもあるが、実際には活動現場で国連や他NGOと連携していることが多い。メディアなどを通し、現地で見えてきたことを伝える「証言活動」も重要な活動の1つと位置づけている。日本人も多く活躍しており、最初に加盟したのは貫戸朋子である。

[日本]

日本では、1992年（平成4年）に支部結成。1995年（平成7年）の兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）、2004年（平成16年）の新潟県中越地震では調査チームを派遣し、被災地での診療や情報収集にあたっている。2011年（平成23年）の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）では、翌3月12日に現地入りし医療救援活動を行っている。

2000年（平成12年）頃より、寄付を依頼するダイレクトメールを名簿業者から購入した個人の住所宛に大量に発送している。日本では、NPO法人格を得て、特定非営利活動法人国境なき医師団日本として活動している。

[10の原則]

国境なき医師団はその活動において、10の原則を掲げている。

第一に医療援助活動

証言活動

医療倫理の遵守

人権の擁護

独立性への配慮

基本原則：公平性

中立性の精神

義務と透明性

ボランティアからなる組織

メンバー一人ひとりが参加し動かす組織

[構成]

ボランティアと常勤職員で構成されている。活動資金の多くは、一般個人・非営利組織・

企業・欧米政府からの寄付で賄われている。資金の8割は一般個人からの寄付となっている。活動は5カ国のオペレーション支部が担当し、他に14カ国のパートナー支部がある。

[オペレーション支部]

活動の運営を担当し実際の医療チームを編成、派遣する。
オランダ、スイス、スペイン、フランス、ベルギー

[パートナー支部]

活動に参加するボランティアを募集、派遣する。広報、募金活動を行う。
イギリス、イタリア、オーストリア、スウェーデン、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、ルクセンブルク、オーストラリア、日本、香港、カナダ、アメリカ合衆国、ギリシャ
(日本支部はフランス支部の傘下)

[MSFインターナショナル]

支部間の調整を行う。(スイス)
附属組織[編集]

[MSFロジスティック]

物資の調達管理を行う。(フランス、ベルギー)
エピセンター[編集]
疫学研究組織。(フランス)

[評価]

国境なき医師団の活動は広く評価され、多くの賞を受賞している。その中でも著名なものは、1999年のノーベル平和賞受賞である。1996年にはインディラ・ガンディー賞を受賞している。

[参加資格]

ボランティアとして参加するには、臨床経験・実務経験が必要である。

[求められる資質と能力]

国境なき医師団 (MSF) の活動理念への賛同

MSF憲章へ賛同することが求められる。

異文化の環境に適応し、チームの一員として活動する能力

MSFの海外派遣スタッフは共同で生活し、活動を行う。活動が忙しく、生活環境が厳しい地域もあり、プライバシーが確保できない時もあり得る。そのような環境の中で、さまざまな国籍・文化のチームメイトと人間関係をうまく築いていく能力が求められる。

指導・管理業務の能力

海外派遣スタッフの職種のほとんどは、現地スタッフの指導・監督業務を伴う。自らの業務を行うだけでなく、適切な指導力も求められる。

ストレスに対処できる能力

援助プログラムの多くは、紛争地域またはその近隣で展開している。厳しい状況の下、援助を必要とする人々も多く、活動地ではさまざまな問題が生じている。海外派遣スタッフは、困難かつ予測のつかない環境の中で、うまく自分のストレスに対処していくことが求められる。

柔軟性

活動地の状況は急変することがあり、それに伴ってチーム編成や各自の業務内容も変える必要がある。現場のニーズに対応した活動を行う、極めて高い柔軟性と適応力が求められる。

語学力

基本的にMSFが活動を行う上では英語を用いる。しかし、フランス語またはスペイン語で活動を行う国もある。これらの国への派遣を希望する場合、該当する言語の能力も不可欠である。いずれの職種においても、少なくとも使用する言語でコミュニケーションが支障なくとれることが大切だが、職種によっては、より高い語学レベルが求められる。

独立して働く能力

海外派遣スタッフは一人一人が責任を担う。各自がプロフェッショナルとして、必要最小限の指示のもとで、自分の業務内容を整理し優先順位をつけながら率先して行動していくことが求められる。

自信を持って取り組む姿勢

新しいことに挑戦する姿勢と、今まで直面したことがないような問題に対しても自信を持って解決していく姿勢が求められる。

その他

年齢制限は特に無い。派遣期間は原則として6か月。外科医と麻酔科医については、短期の派遣も可能だが、アドミニストレーターの派遣期間は12か月と長期にわたる。また、派遣地によっては生活環境が厳しい地域もあり、十分な体力と環境への適応力が求められる。

[望ましい経歴、知識]

以下の知識や経歴があれば望ましいが、必須ではない。

開発途上国での経験

国境なき医師団（MSF）のプログラムの大半は開発途上国で展開している。過去に他の非政府組織（NGO）の人道援助活動に参加し、類似した役割で現地活動を行った経験がある場合、その経験はMSFの活動においても大変役立つ。また、カナダやオーストラリアなどの遠隔地で働いた経験、バックパッカーとして途上国を長期旅行した経験も役立つと考えられる。

他言語の知識

派遣地域によっては他の言語の知識も役立つ。（ポルトガル語、アラビア語、ロシア語、中国語など）

[募集職種]

国境なき医師団（MSF）は以下の医療従事者、非医療従事者を募集している。なお、欠員の有無は活動地のニーズによる。

[医療従事者]

医師

内科医、小児科医、産婦人科医

外科医、整形外科医、形成外科医、麻酔科医
精神科医
パラメディカルスタッフ
薬剤師
看護師、手術室看護師
助産師
臨床心理士
臨床検査技師
疫学専門家など

[非医療従事者]

国境なき医師団（MSF）の活動は、医療従事者のみならず非医療従事者の仕事にも支えられている。非医療従事者との連携やサポートなしに医療活動を円滑に実施することは不可能である。非医療従事者は全派遣者の約40%を占めている。

非医療スタッフ
ロジスティシャン（物資調達管理調整員）
アドミニストレーター（財務・人事管理責任者）
メカニック（車両保守専門家）
建築、建設専門家など

・革命の教科書は、
オープンライセンス文書を元に作成されたものです。

この革命の教科書は、
江川剛史から情報商材を購入した人のみ、
アフィリエイト用の特典として一次配布することが可能です。

もし、貴方が、江川剛史以外から、
この教材を配布された場合は、
江川剛史から情報商材を購入しない限り、
一次配布は行えません。

貴方も、この教材を配布したい場合は、

こちらから新世界アフィリエイトを購入してください。
<http://egawa-takeshi.com/shinsekaiafirieito/>

その他、江川剛史は、
高額塾レベルのアフィリエイトノウハウを、
無料で教えるメール講座、
『アフィリエイト専業で自由になる方法』を配信しています。

アフィリエイトでは、
稼いでいる人は、年間2億2000万円以上稼いでいますし、
年間数百万稼いでいる人は、無数にいます。

ぜひ、私の無料メール講座にて、
アフィリエイトノウハウを学んでみて下さい。

メール講座の読者解除は、
いつでも無料でメール内にて行えます。
<http://egawa-takeshi.com/lp/landingpage.html>

・ネットビジネスで脱サラする情報商材アフィリエイト講座
こちらでは、ネットビジネスのノウハウを、
完全公開している、江川剛史の 파워ブログです。
ぜひ、ビジネスの学習にご利用ください。
<http://egawa-takeshi.com/>

『1700個以上の特典付き』情報商材レビューランキング
<http://egawa-takeshi.com/rebyu/>

それでは、お読み頂き、ありがとうございました。
ぜひ、学んだ知識を活かして、実践してみてください。

クリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンス
(CC-BY-SA)

この教材は、暴力的な革命を推奨していません。
生命を重んじる革命を推奨しています。